新潟県埋蔵文化財調査報告書　第123集

磐越自動車道関係発掘調査報告書

沖ノ羽遺跡Ⅲ（C地区）

２００３

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

磐越自動車道関係発掘調査報告書

沖ノ羽遺跡Ⅲ（Ｃ地区）

２００３

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

新潟県教育委員会では、道路建設などの開発事業に伴う発掘を行っており、その成果を発掘調査報告書として公表してまいりました。

本書は磐越自動車道建設工事に伴い実施した、新津市沖ノ羽遺跡Ｃ地区の発掘調査報告書です。

磐越自動車道は、福島県いわき市と新潟市を結ぶ総延長123kmの高速道路で、平成９年に全線開通し、太平洋側と日本海側が結ばれるとともに常磐・東北・北陸自動車道とも連結され、それぞれの地域の発展に寄与しています。

地域の発展に貢献する開発事業と発掘調査を円滑に調整しながら、調査を実施することは難しい面もあります。しかし、発掘調査により明らかにされた結果は、その地域の歴史について多くを語り、これらの調査成果が地域社会の歴史や文化を見直す契機になることも少なくありません。

調査の結果、沖ノ羽遺跡Ｃ地区は、古代から中世にわたる遺跡であることが明らかになり、当時の建物跡や井戸・畑の跡とともに多くの土器が発見されました。土器は大半の遺跡で発見される最も一般的な考古資料であり、各遺跡の土器を詳細に分析することにより、当時の物流や手工業の様子を垣間見ることができます。たかが「焼き物」ですが、そこには新津地域の古代・中世史を考える上で重要なヒントが隠されています。

今回の報告が今後の古代・中世史研究に資すると共に、県民の皆様の埋蔵文化財に対する理解と認識を深める一助となれば幸いです。

最後に、この発掘調査に際し多大な御協力と御援助を賜りました新津市教育委員会並びに地元の方々、また調査から報告書刊行に至るまで格別の御配慮を賜った日本道路公団新潟建設局・同新潟工事事務所に対し、深甚なる敬意と感謝を表します。

平成15年３月

新潟県教育委員会

教育長　板屋越　麟一

例　　言

1　本報告書は、新潟県新津市大字七日町字沖ノ羽3255他に所在する沖ノ羽遺跡調査報告の第３冊である。

2　発掘調査は磐越自動車道いわき～新潟線の建設に伴い、新潟県教育委員会（以下、県教委）が日本道路公団から委託を受け実施したものである。

3　本書は沖ノ羽遺跡の西端（C地区）の発掘調査報告書である。沖ノ羽遺跡は東より、A地区・B地区・C地区に大別し、調査面積が膨大であることから調査区別に順次報告することとなった。今回はC地区について報告する。A地区の調査報告書は『新潟県埋蔵文化財調査報告第58集　沖ノ羽遺跡Ⅰ（A地区）』、『新潟県埋蔵文化財調査報告第80集　沖ノ羽遺跡Ⅱ（B地区）』として既に刊行されている。

4　発掘調査は新潟県教育委員会が調査主体となり、平成２年度から４年度にかけて実施した。ただし、平成４年度の発掘調査については、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）が新潟県教育委員会より委託し、調査にあたった。

5　遺構航空写真は、国際航業株式会社に撮影を委託した。

6　整理作業は県教委から依頼を受けて、平成14年度に埋文事業団で実施した。

7　出土遺物及び記録類については、県教委が新潟県埋蔵文化財センターにおいて保管・管理している。遺物の注記記号は「沖」とし、土器位置・層位・取り上げ日などを併記した。

8　本書で示す方位はすべて真北である。ここでいう真北とは、国家座標軸のX軸方向を表す。

9　既成の図面を挿図・図版で用いた場合はその出典を記した。

10　引用文献は筆者及び発行年（西暦）を文中に［　］で示し、巻末に一括して掲載した。ただし第Ⅵ章　自然科学分析は引用文献を章末に掲載した。

11　本書の作成は、北村亮（埋文事業団整理担当課長代理）の指導のもとに、春日真実（埋文事業団主任調査員）が担当し、嘱託員が遺物接合・復元・実測・トレース・写真撮影などを行った。遺構図と挿図の製図、図面図版・写真図版の版組み及び全体のデジタル編集・データ化は、株式会社セビアスに委託した。

12　本文中の敬称は省略した。

13　自然科学分析（樹種同定）とそれに係わる第Ⅵ章の記述は、株式会社パレオ・ラボに委託した。

14　12に示す以外の本書の記述・編集は、春日があたった。ただし、第Ⅰ章は既存の沖ノ羽遺跡の報告書を、また第Ⅱ章１・2Aと2Cの一部は既存の沖ノ羽遺跡の報告書、田中一穂・立木宏明［2002］「2　周辺の遺跡」『内野遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会、田中一穂［2002］「3　歴史的環境」同前を基礎とした。

15　本遺跡については、埋文事業団1993「沖ノ羽遺跡」『年報』に概要が報告されているが、これらの間に齟齬が生じた場合は本報告をもって正とする。

16　発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々並びに機関から多大な御教示と御協力を賜った。記して厚くお礼申し上げる。（敬称略　五十音順）

浅井勝利　朝岡政康　伊藤秀和　宇野隆夫　柿田祐司　川畑　誠　川村　尚　北野博司

坂井秀弥　笹沢正史　立木宏明　戸根与八郎　新津土地改良区　野水晃子　藤森健太郎

山崎　天　渡邊朋和

目　　次

第Ⅰ章　序　　説 …… 1

1　調査に至る経緯 …… 1

2　調査と整理作業 …… 1

A　一　次　調　査 …… 1

B　二　次　調　査 …… 1

C　調　査　体　制 …… 2

D　整　理　作　業 …… 3

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 4

1　位置と地理的環境 …… 4

A　周 辺 の 地 形 …… 4

B　遺 跡 の 位 置 …… 4

2　歴 史 的 環 境 …… 7

A　周 辺 の 遺 跡 …… 7

1）古　　代 …… 7　　2）中　　世 …… 7

B　新潟平野の前期古墳 …… 11

C　文献史料からみた新津市周辺 …… 12

第Ⅲ章　調 査 の 概 要 …… 14

1　調　査　方　法 …… 14

A　地 区 の 名 称 …… 14

B　グリッドの設定 …… 14

2　基　本　層　序 …… 15

3　遺構・遺物の概要 …… 15

A　上　　層（中世） …… 15

B　下　　層（古代） …… 16

第Ⅳ章　遺　　構 …… 17

1　記 述 の 方 法 …… 17

2　上 層 の 遺 構 …… 18

3　下 層 の 遺 構 …… 20

第Ⅴ章　遺　　物 …… 22

1　基　本　方　針 …… 22

2　上層の土器・陶磁器 …… 22

A　概　　要 …… 22

B　器　種　分　類 …… 23

C 観 察 表 …… 24
D 遺 物 各 説 …… 25
3 下 層 の 土 器 …… 26
A 概 要 …… 26
B 分 類 …… 26
C 観 察 表 …… 30
D 遺 物 各 説 …… 30
4 土製品・石器・木器・金属器 …… 37
第Ⅵ章 木製品の樹種 …… 38
1 方 法 …… 38
2 結 果 …… 38
3 考 察 …… 39
第Ⅶ章 ま と め …… 43
1 土 器 編 年 …… 43
A 上 層（中世） …… 43
B 下 層（古代） …… 44
2 古代の土器類の観察結果 …… 47
A 回 転 方 向 …… 47
B 降 灰（黒化） …… 49
C 須恵器食膳具の使用痕跡 …… 50
3 西川流域の古代土器様相との比較 …… 50
A 食 膳 具 …… 51
B 煮 炊 具 …… 53
《要 約》 …… 54
《引用・参考文献》 …… 55
《観 察 表》 …… 58

挿図目次

第 1 図 沖ノ羽遺跡一次調査試掘坑位置図 …… 2
第 2 図 沖ノ羽遺跡周辺の地形 …… 5
第 3 図 沖ノ羽遺跡周辺の旧地割り …… 6
第 4 図 周辺の遺跡（古代） …… 8
第 5 図 周辺の遺跡（中世） …… 9
第 6 図 新津丘陵窯跡群を中心とした７世紀末～９世紀の須恵器 …… 11
第 7 図 新潟平野南西部の前期古墳（群） …… 12
第 8 図 グリッドと地区の名称 …… 14
第 9 図 基本層序 …… 15
第10図 土器・陶磁器の出土状況（破片数） …… 16
第11図 遺構の分類 …… 17
第12図 縦板組み井戸の分類 …… 21
第13図 中世土器・陶磁器器種分類 …… 23
第14図 古代土器器種分類（1） …… 28
第15図 古代土器器種分類（2） …… 29
第16図 杯蓋・有台杯の重ね焼分類 …… 31
第17図 木製品切片の光学顕微鏡写真（1） …… 41
第18図 木製品切片の光学顕微鏡写真（2） …… 42
第19図 上層遺構出土の主な遺物 …… 43

第20図　関連遺物 …… 43
第21図　沖ノ羽遺跡Ｃ地区出土土師器皿の変遷案　44
第22図　下層土器の変遷（1）　…… 45
第23図　下層土器の変遷（2）　…… 46
第24図　下層土器の変遷（3）　…… 47
第25図　黒色土器の焼成方法　…… 49
第26図　底部外面の棒状黒斑　…… 49
第27図　口縁部外面の黒化 …… 49
第28図　磨耗部位 …… 50
第29図　杯類の収納方法 …… 50
第30図　食膳具の構成比率 …… 51
第31図　各遺跡出土の煮炊具　…… 52

表　目　次

第 1 表　沖ノ羽遺跡発掘調査実施状況 …… 2
第 2 表　新津市周辺の古代遺跡　…… 10
第 3 表　新津市周辺の中世遺跡　…… 10
第 4 表　基本層序 …… 15
第 5 表　主な遺構の略称 …… 17
第 6 表　上層の土器・陶磁器　…… 23
第 7 表　土器の一生　……24
第 8 表　生産段階と生産痕跡　…… 24
第 9 表　土器に見られる使用段階以降の痕跡　…… 25
第10表　下層の土器 …… 26
第11表　7区下層の土器 …… 27
第12表　8区下層の土器 …… 27
第13表　下層の食膳具　…… 27
第14表　須恵器胎土の特徴 …… 30
第15表　7下SK134出土土器の器種構成比率 …… 31
第16表　7下SK134食膳具構成比率　…… 31
第17表　8下SK43出土土器の器種構成比率　…… 32
第18表　8下SK43食膳具構成比率　…… 32
第19表　8下SD40出土土器の器種構成比率　…… 32
第20表　8下SD40食膳具構成比率　…… 32
第21表　8下SE205出土土器の器種構成比率 …… 32
第22表　8下SE205食膳具構成比率　…… 33
第23表　8下SD31出土土器の器種構成比率　…… 33
第24表　8下SD31食膳具構成比率　…… 33
第25表　8下SK36出土土器の器種構成比率　…… 33
第26表　8下SK36食膳具構成比率　…… 33
第27表　8下SK17出土土器の器種構成比率　…… 34
第28表　8下SK17食膳具構成比率　…… 34
第29表　8下SD21出土土器の器種構成比率　…… 34
第30表　8下SD21食膳具構成比率　…… 34
第31表　8下SK44出土土器の器種構成比率　…… 35
第32表　8下SK44食膳具構成比率　…… 35
第33表　8下SE27出土土器の器種構成比率　…… 35
第34表　8下SE27食膳具構成比率　…… 35
第35表　8下SK100出土土器の器種構成比率 …… 35
第36表　8下SK100食膳具構成比率　…… 36
第37表　8下SK14出土土器の器種構成比率　…… 36
第38表　8下SK14食膳具構成比率　…… 36
第39表　沖ノ羽遺跡Ｃ地区出土木製品の樹種同定結果　…… 39
第40表　器種別の樹種構成 …… 40
第41表　水挽き成形器種のロクロ回転方向 …… 48
第42表　叩き成形の回転方向　…… 48
第43表　杯蓋の重ね焼き …… 49

図 版 目 次

［図面図版］

図版　1　上・下層全体図
図版　2　上層遺構平面図（1）
図版　3　上層断面図（1）
図版　4　上層断面図（2）
図版　5　上層遺構平面図（2）
図版　6　上層遺構平面図（3）
図版　7　上層断面図（3）
図版　8　下層遺構平面図（1）
図版　9　下層断面図（1）
図版10　下層遺構平面図（2）
図版11　下層断面図（2）
図版12　下層遺構平面図（3）
図版13　下層断面図（3）
図版14　下層遺構平面図（4）
図版15　下層断面図（4）
図版16　掘立柱建物（1）
図版17　掘立柱建物（2）
図版18　掘立柱建物（3）
図版19　掘立柱建物（4）
図版20　井戸（下層）
図版21　中・近世の土器・陶磁器
図版22　古代の土器（1）
図版23　古代の土器（2）
図版24　古代の土器（3）
図版25　古代の土器（4）
図版26　古代の土器（5）
図版27　古代の土器（6）
図版28　古代の土器（7）

図版29　古代の土器（8）
図版30　古代の土器（9）
図版31　古代の土器（10）
図版32　古代の土器（11）
図版33　古代の土器（12）
図版34　古代の土器（13）
図版35　古代の土器（14）
図版36　古代の土器（15）
図版37　古代の土器（16）
図版38　土製品・石器（1）
図版39　石器（2）・木器（1）
図版40　木器（2）
図版41　木器（3）
図版42　木器（4）
図版43　木器（5）・金属器・追加土器

［図面図版］

図版44　上層完掘
図版45　上層掘立柱建物・井戸（1）
図版46　上層井戸（2）
図版47　上層土坑（1）
図版48　上層土坑（2）
図版49　上層土坑（3）
図版50　上層土坑（4）・溝（1）
図版51　上層溝（2）
図版52　下層完掘（1）
図版53　下層完掘（2）
図版54　下層井戸（1）
図版55　下層井戸（2）
図版56　下層土坑（1）
図版57　下層土坑（2）
図版58　下層土坑（3）
図版59　下層土坑（4）・溝（1）
図版60　下層溝（2）
図版61　中・近世の土器・陶磁器、古代の土器（1）
図版62　古代の土器（2）
図版63　古代の土器（3）
図版64　古代の土器（4）
図版65　古代の土器（5）
図版66　古代の土器（6）
図版67　古代の土器（7）
図版68　古代の土器（8）
図版69　古代の土器（9）
図版70　古代の土器（10）
図版71　古代の土器（11）
図版72　古代の土器（12）
図版73　古代の土器（13）・土製品・石器
図版74　木器（1）
図版75　木器（2）・金属器・追加土器

第Ⅰ章　序　　説

1　調査に至る経緯

磐越自動車道のうち沖ノ羽遺跡にかかる区間（新潟～津川）は、昭和53年12月に基本計画路線が決定され、また昭和56年12月には建設省北陸地方建設局により、新潟～津川間の路線概要・環境影響評価の説明が新潟県教育委員会（以下、県教委）及び関係６市町村に行われ、昭和57年１月には整備計画に格上げされた。昭和59年８月には日本道路公団新潟建設局（以下、公団）は、県教委に新潟～津川間の計画路線内及びその周辺の埋蔵文化財包蔵地の分布調査依頼を行った。同年10月、県教委は分布調査を周知の遺跡の確認にとどめるが、平野部や段丘上には未周知の遺跡の存在する可能性があり、今後とも分布調査及び一次調査を実地する必要性がある旨を回答した。

昭和60年２月、公団に新潟～津川間（約46km）の工事施工命令が出され、昭和61年８月には最後の路線発表を行った。昭和62年４月、県教委は新潟市～北蒲原郡安田町間の遺跡分布調査の依頼を受け、法線内の第１回遺跡分布調査を実施した。その結果、沖ノ羽遺跡を含めた計16か所の一次調査必要地点があることと、その調査面積を回答し、昭和63年１月には公団との間で新潟～安田間の文化財発掘工程打ち合せ会議を開催した。また同年２月、県教委は一次調査の各地点の調査面積を回答した。

昭和63年８月、県教委は「昭和63年度上半期発掘調査結果」の協議で、第２回分布調査の結果と今後の調査必要地点を示した。平成元年１月、公団と県教委は協議を行い、ここで沖ノ羽遺跡は発掘調査の対象地点とされた。平成２年１月、公団から沖ノ羽遺跡の第一次調査希望が提示され、同年４月の調査の決定に基づいて、県教委は４月から６月末までの間に計４回、延30日間、沖ノ羽遺跡の第一次調査を実地した。

平成３年１月、「磐越自動車道埋蔵文化財調査工程会議」では沖ノ羽遺跡の第二次調査必要面積61,600m^{2}を公団側へ示し、平成３年度・４年度に第二次調査を実施した。

2　調査と整理作業

A　一　次　調　査

一次調査は、県教育委員会により平成２年４月12日～13日・５月14日～24日・５月30日～６月２日・６月18日～30日の４回行われた。方法は、対象地域全体に任意にトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認するものである。トレンチ数は190基（2,048m^2）で、調査範囲面積73,020m^{2}に占める割合は約３％である。結果、STA（センター杭）867付近からSTA870＋80付近、及びSTA872＋20付近からSTA877＋30付近の範囲に遺物包含層が認められた。遺構として、溝・土坑・ピットなどが検出され、９～10世紀の土師器・須恵器が多く出土した。西側（７・８区に相当）には遺物包含層が２枚存在した。この調査結果により、遺物包含層の確認された範囲に次年度第二次調査を実施する必要が生じた。

B　二　次　調　査

平成３年は４月15日～12月19日まで調査を行った。当年度の調査予定地区を８調査区に分割し、

１・２区、３・４区、５・６区、７・８区上層の順に調査に入る予定であったが、公団との協議の結果、７・８区を優先して公団に引き渡すため、調査順序を変更し、３・４区と７・８区（次年度調査予定であった下層も含む）を並行して調査する事になった。しかし天候不順と、７・８区から予想以上の遺構・遺物が検出されたため、調査途中の７区下層を残し、撤収せざるを得なかった。７区下層の残りは次年度の調査に回すことになった。

平成４年は４月９日～12月10日まで調査を行った。７区の調査は５月末に終了し９区・５区・６区・10～13区の順で調査を行った。

C　調　査　体　制

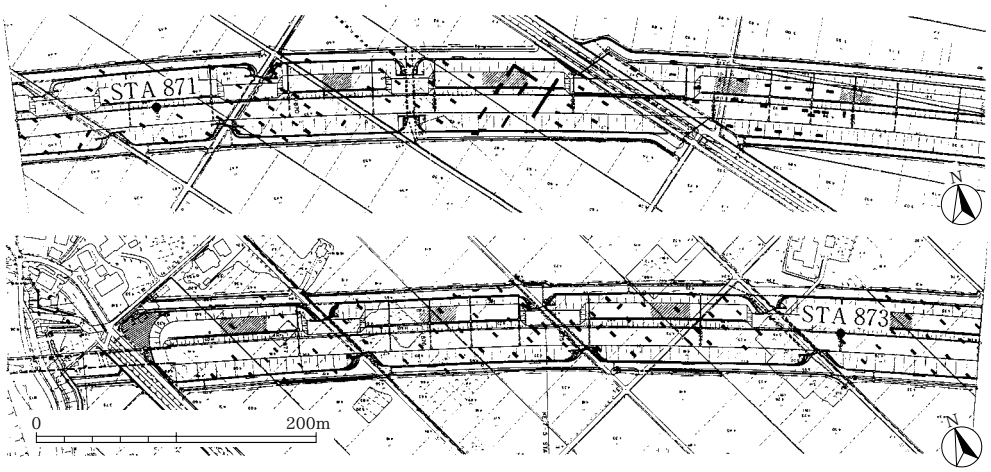
発掘調査は新潟県教育委員会が主体となり、下記の体制で実施した。

平成２年度［一次調査］

調査期間　平成２年４月12・13日、５月14～24日、５月30日～６月２日、６月18日～30日

主　　体　新潟県教育委員会（教育長　堀川徹夫）

総　　括	大嶋　圭己（新潟県教育庁文化行政課長）
管　　理	吉倉　長幸（　　同　　課長補佐）
庶　　務	境原　信夫（　　同　　埋蔵文化財第一係主事）
調査指導	本間　信昭（　　同　　埋蔵文化財第二係長）
調査担当	北村　　亮（　　同　　埋蔵文化財第二係主任）
調査職員	小野塚徹夫（　　同　　埋蔵文化財第二係文化財専門員）



第１図　沖ノ羽遺跡一次調査試掘坑位置図　（［石川ほか1994］より転載）

第１表　沖ノ羽遺跡発掘調査実施状況　（［石川ほか1994］より作成）

平成３年度［二次調査］

調査期間　平成３年４月15日～12月19日

主　　体　新潟県教育委員会（教育長　堀川徹夫）

総　　括	大嶋　圭己（新潟県教育庁文化行政課長）
管　　理	吉倉　長幸（　　同　　課長補佐）
庶　　務	藤田　守彦（　　同　　埋蔵文化財第一係主事）
調査指導	横山　勝栄（　　同　　埋蔵文化財第一係長） 本間　信昭（　　同　　埋蔵文化財第二係長）
調査担当	伊與部倫夫（　　同　　埋蔵文化財第二係文化財専門員）
調査職員	亀井　　功（　　同　　埋蔵文化財第二係文化財主事） 望月　正樹（　　同　　埋蔵文化財第二係文化財主事） 沢田　　敦（　　同　　埋蔵文化財第二係文化財文化財専門員） 上田　順二　　木村　孝一　　春日　真実（　　同　　埋蔵文化財第二係嘱託員）

平成４年度

調査期間　平成４月９日～12月10日

調査主体　新潟県教育委員会（教育長　本間栄三郎）

調　　査　財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団

総　　括	藍原　直木（事務局長）
管　　理	渡辺　耕吉（総務課長）
庶　　務	藤田　守彦（総務課主事）
調査総括	茂田井信彦（調査課長）
調査指導	戸根与八郎（調査第一係長）
調査担当	高橋　保雄（　同　主任）
調査職員	亀井　　功（　同　主任）　佐藤　正知（　同　主任）　須藤　高志（　同　専門員）
	木村　康裕（　同　専門員）　石川　智紀（　同　専門員）　星野　信明（　同　専門員）
	塩路　真澄（　同　嘱託員）　上田　順二（　同　嘱託員）　佐藤　　恒（　同　嘱託員）

Ｄ　整　理　作　業

二次調査を行った平成３・４年度の冬季（12～３月）にかけて基礎整理を行った。本格的な整理作業は、平成14年度に実施した。県教委が公団から受託し、埋文事業団が整理作業に当たった。平成14年度の整理の体制は以下のとおりである。

整理期間　平成14年４月１日～平成15年３月31日

整理主体　新潟県教育委員会（教育長　板屋越麟一）

整　　理　財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団

総　　括	黒井　幸一（事務局長）
管　　理	長谷川司郎（総務課長）
庶　　務	高野　正司（総務課主任）
整理指導	北村　　亮（調査課整理担当課長代理）
整理担当	春日　真実（調査課主任調査員）
作　　業	小熊　洋子　　小倉　睦子　　加藤　祐子　　小山　たか子　　笹川　陽子（以上、調査課嘱託員）

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　位置と地理的環境

A　周 辺 の 地 形

沖ノ羽遺跡の所在する新津市は、新潟平野を東西に二分するように突出する第三系からなる新津丘陵を南端に、東は阿賀野川、西は信濃川、北は小阿賀野川に囲まれた地域に位置している。

平野と砂丘　新津市の低地を含む新潟平野は、平野の出口を砂州の形成でさえぎられて発達してきたいわゆる潟湖充填平野であり、信濃川・阿賀野川等の流入河川で運搬・堆積された土砂が被覆している［永田・神田ほか1973］。この新潟平野には北東から南西方向に約80kmにわたって新潟砂丘が発達している。新潟平野の形成と深い関わりをもつこの砂丘は、その配列により内陸側から第Ⅰ（亀田砂丘を含む）、第Ⅱ（沼垂砂丘）、第Ⅲ（狭義の新潟砂丘）砂丘列に大別できる。この砂丘列の存在によって新潟平野の海岸線の移動がとらえることができ、埋没する遺物からⅠ列は縄文時代前期以前、Ⅱ列は古墳時代以前、Ⅲ列は室町時代以前に形成されたものと推定されていたが［新潟古砂丘グループ1974］、近年の考古学的調査の進展により上記の形成年代をより古くする傾向にある［加藤ほか2001、加藤・尾崎2002］。なお沖ノ羽遺跡はこの第Ⅰ砂丘列の約5km南方に位置している。

新潟平野は以上のような砂丘地を除けば低平な湿地帯であり、いたるところに堆積の変遷を示す旧河道の氾濫原・蛇行跡・島畑・自然堤防等が見られる［永田・神田ほか1973］。

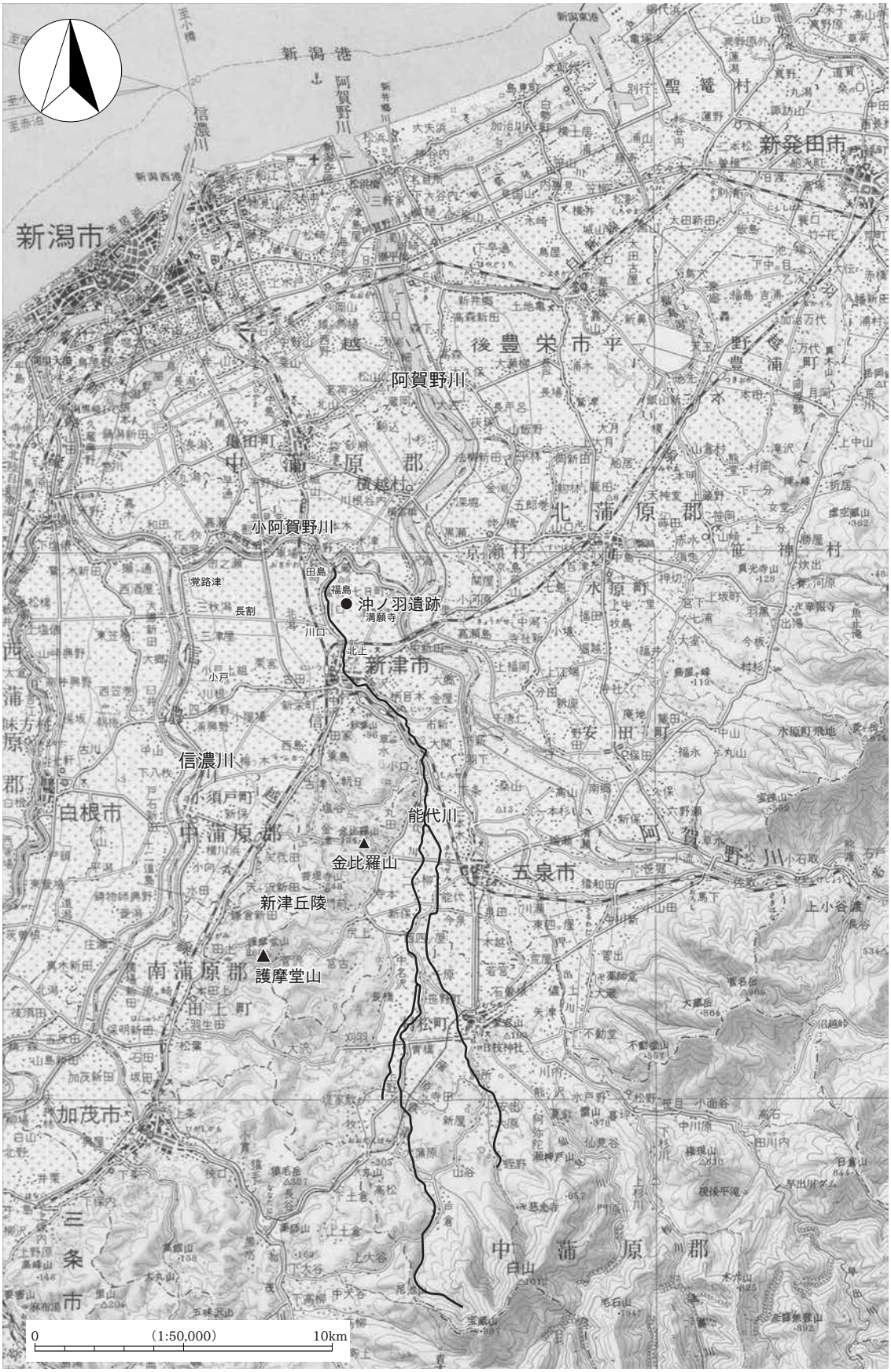
阿賀野川・信濃川・小阿賀野川・新津丘陵に囲まれた沖積地にも地形起伏の小さな微高地や自然堤防が存在している。①新津市街地から西方の小合まで続くもの、②新津市街地から北西方向の長割・覚路津までほぼ連続するもの、③能代川左岸で新津市街地から北上・川口・福島・田島へと続くもの、④結の東方から満願寺へと断続的に追えるもの等が認められる。これらはかつて阿賀野川が形成した自然堤防と考えられ、阿賀野川が西から東へ流路を変化させてきた結果と推測されている［鈴木1989］。なお、沖ノ羽遺跡は④の自然堤防上に位置している。

丘　陵　新津丘陵は新津市の南端に位置し南南西―北北東に走る。加茂川を南限とし、北に行くに従い標高を下げ、金比羅山（134m）以北は標高70～80mとなり、この周囲には標高10～70mの間に段丘面が4段みられる。

B　遺 跡 の 位 置

沖ノ羽遺跡は、能代川・阿賀野川・小阿賀野川に囲まれた沖積平野に立地し、付近の標高は4.0～5.0mを測る。現在は耕地整理が進み、地形の起伏がほとんど認められず一面の水田地帯となっている。この景観は、昭和15年～25年に行われた土地改良事業によって形成されたものである。水田の中にわずかに残る畑は島状に分布しており、その比高は水田面より50～80cm前後高い。この比高差は、旧河川の作り出した自然堤防や微高地の一部が部分的に残存したことにより、生じているものと考えられる。

土地改良以前の状況については、『新津町東部整理組合現景図』などから知ることができる。第3図が示すように、遺跡の南西方には方形に区画された水田が広がり、遺跡が立地している地域やその周縁には、



第２図　沖ノ羽遺跡周辺の地形

国土地理院発行　1:200,000「新潟」　昭和53年編集　昭和57年要部修正

第３図　沖ノ羽遺跡周辺の旧地割
新津市東部整理組合現景図　同組合作成　1：1,800　昭和15年

畑地一枚一枚を取り囲むように作られている「掘田」と呼ばれる水田が分布する。

土地改良以前の沖ノ羽遺跡周辺の土地には微高地が散在し、現在のような平坦な地形ではなかったと考えられる。自然地形を生かし、平坦部は水田に、微高地は畑に、微高地周縁は堀田と畑が混在するといった土地利用がなされたものと推察できる。以上のことから、沖ノ羽遺跡は、河川が形成した自然堤防・微高地上または、微高地の周縁部に立地していたものと理解される（註1）。

2　歴史的環境

新津市域の主な古代・中世遺跡の分布は第４図のとおりである。なお、旧石器～弥生時代については数例であるが、新津丘陵周縁部の台地で確認されている。古墳時代の遺跡としては、古津八幡山古墳を初めとして古津地域に集中している。

A　周辺の遺跡

1）古　　代（第４図、第２表）

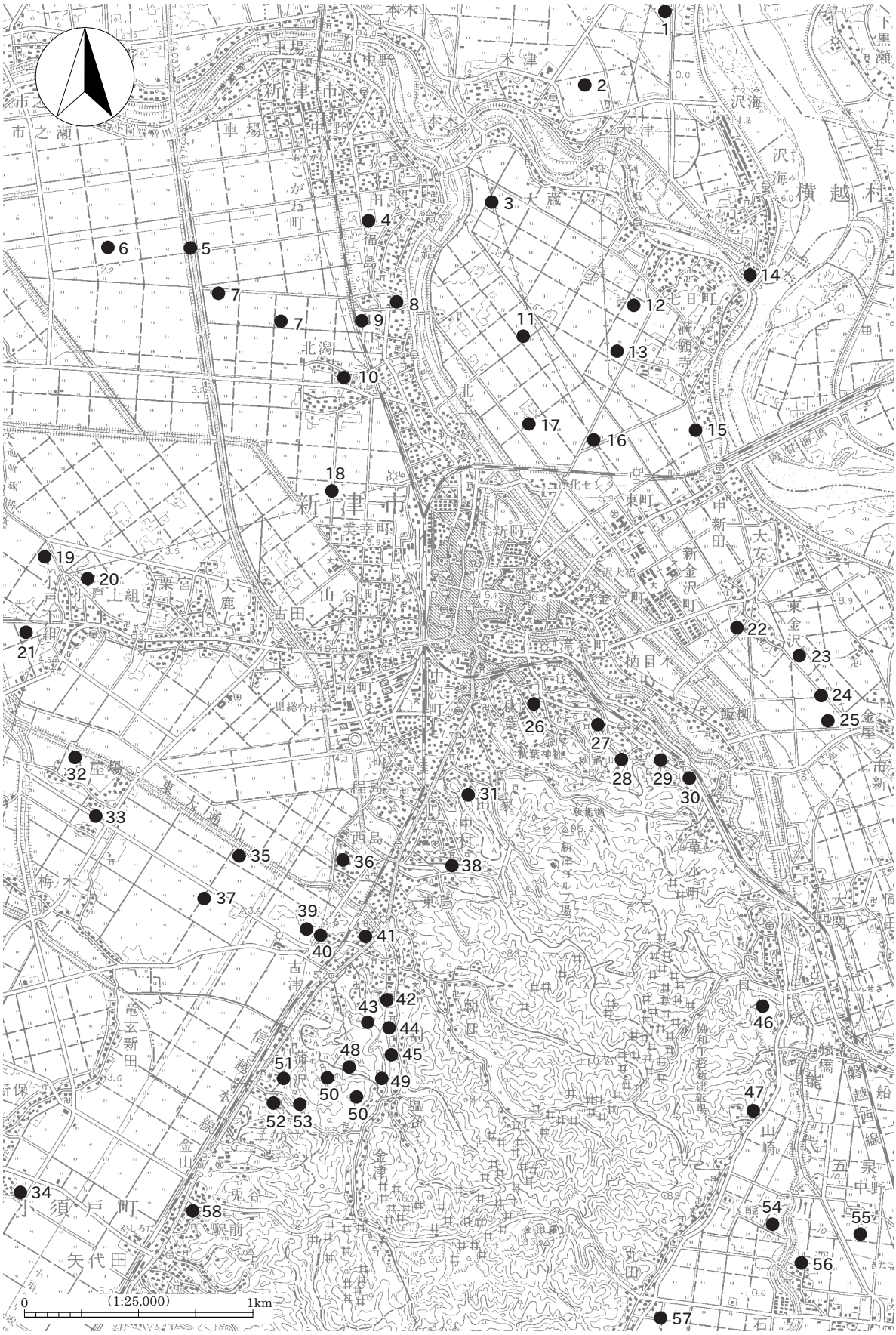
丘陵周辺や沖積地上の微高地上に多くの遺跡が確認でき、近年の大規模開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査により、広大な範囲を持つ遺跡の存在も明らかになってきている（第４図）。

生産遺跡　新津丘陵上には手工業生産に関連する遺跡がみられ、須恵器窯跡群（以下では総称して新津丘陵窯跡群とする）は丘陵東側に、製鉄遺跡群（以下、総称して金津丘陵製鉄遺跡群とする）は丘陵西側に分布している。須恵器窯には47五泉市山崎窯跡［川上1981］、27新津市七本松窯跡［中川ほか1956、川上ほか1989］、30同市草水町２丁目窯跡［新津市教育委員会1993］、28滝谷窯跡［川上ほか1989］などがあり、早ければ７世紀後半に始まった可能性があり、８世紀後半～９世紀中頃が主な操業時期である（第６図）。これは越後国内の他地域の須恵器生産動向とほぼ一致する。また草水２丁目窯跡では土師器焼成遺構も検出されており、遅くとも９世紀中葉には土師器生産を行っていたとされる。一方金津丘陵製鉄遺跡群には、居村遺跡群・大入Ｃ遺跡などがあり、９世紀代２四半期以降とされる［渡邊1997］。

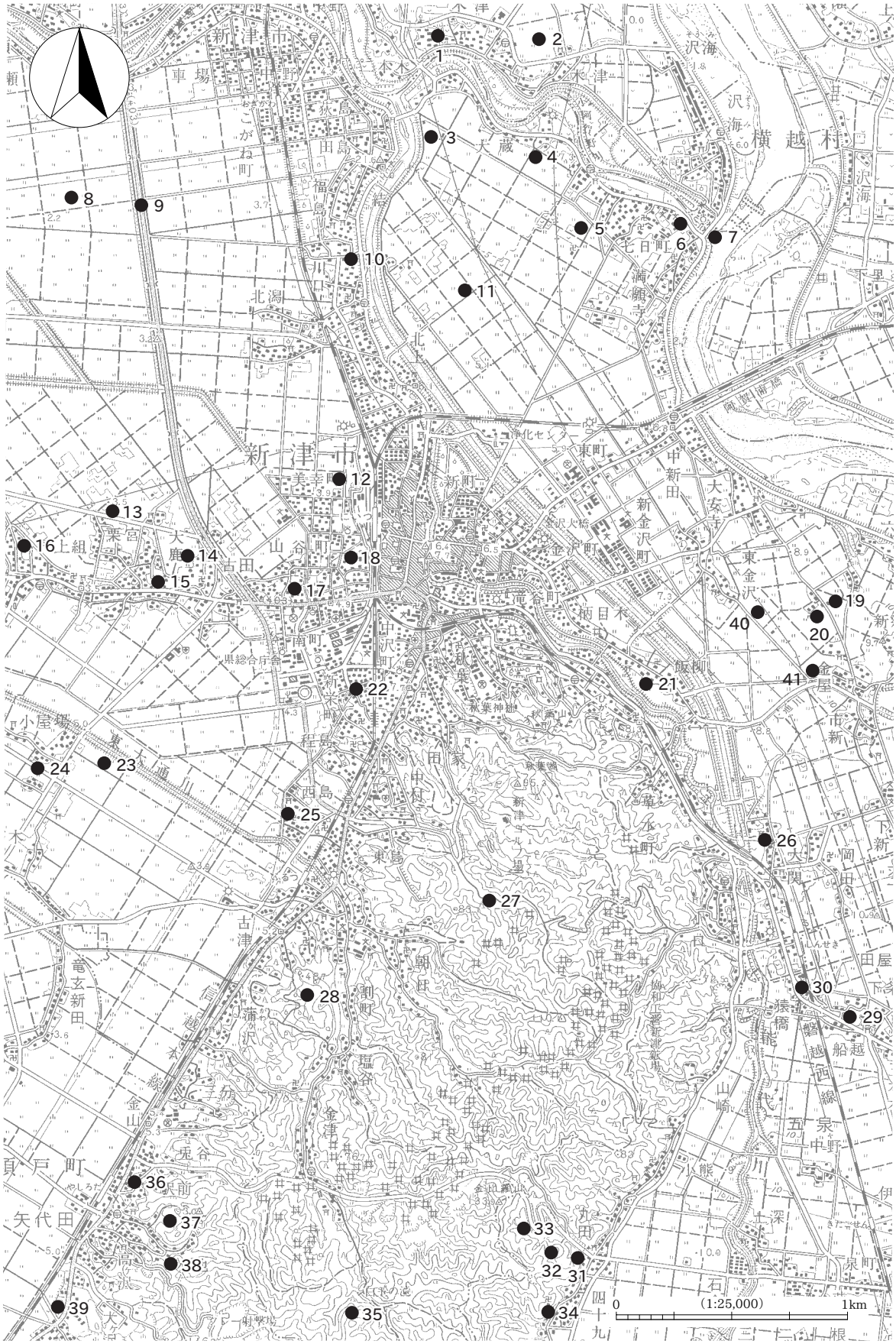
集落遺跡　平野部に位置する集落遺跡では７上浦遺跡［川上1997、渡辺1992］、３中谷内遺跡［立木ほか1999］、川根遺跡［立木ほか2000］、25細池遺跡［小池ほか1994、立木ほか1998］、23寺道上遺跡［小池ほか1994、渡邊ほか2001］などが調査されている。いずれも９世紀前半から10世紀初頭頃の遺跡である。上浦遺跡では掘立柱建物が発見され、円面硯や銅製帯金具・分銅型石製品・三彩小壺・無文鏡や墨書土器が、川根遺跡からは緑釉陶器や墨書土器が出土している。これらの調査を基に、新津丘陵に近接した遺跡（細池遺跡・寺道上遺跡）では他の遺跡に比べ土師器食膳具の比率が高いことが指摘されており［春日1999］、これについては土師器生産地に近いことがこのような組成を生じさせているという解釈がある［渡邊2001］。

2）中　　世（第５図、第３表）

中世の遺跡には城館跡が新津市内８か所、山城として東島城・金津城など［横山・竹田ほか1987］が知られる（第５図）。集落跡は奈良・平安時代同様平野部微高地に立地する。10江内遺跡［春日ほか1996］、５内野遺跡［立木・高野ほか2002］の発掘に伴い、14～15世紀の集落が発見された。また40細池遺跡［小池ほか1994］では中世以降の圃場の各単位施設と思われる遺構が検出されている。このほか大正５年



第４図　周辺の遺跡（古代）　（国土地理院「新津」1:50,000原図 平成3年発行）



第５図　周辺の遺跡（中世）　（国土地理院「新津」1:50,000原図 平成3年発行）

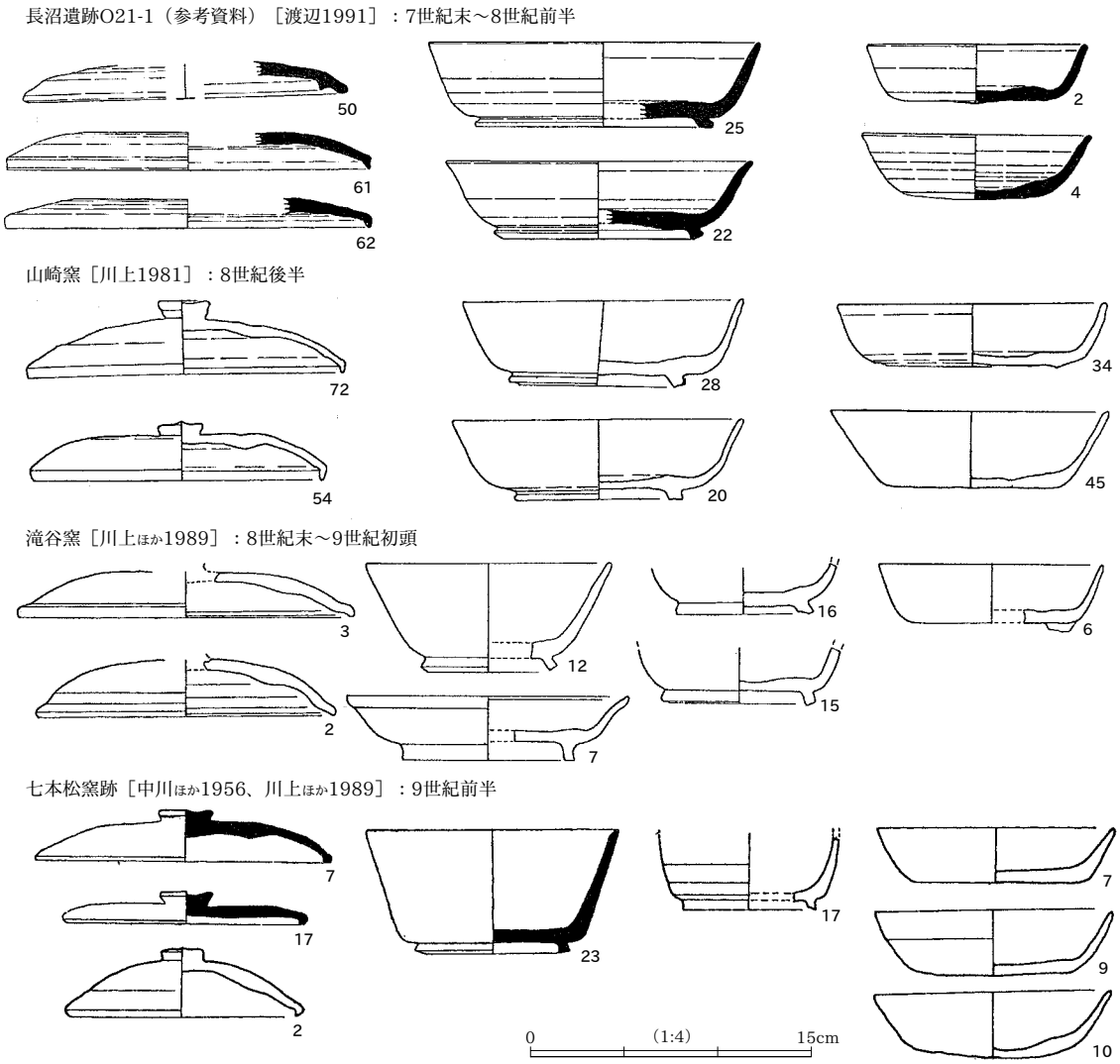
No	遺跡名	時代	種別	No	遺跡名	時代	種別
1	横越町上郷Ｂ	奈良・平安	遺物包含地	30	草水町２丁目	平安	窯跡
2	天王杉	平安	遺物包含地	31	城見山	縄文・古代・中世	遺物包含地
3	新津市中谷内	平安	遺物包含地	32	下梅ノ木	平安・鎌倉・室町	遺物包含地
4	結七島	平安	遺物包含地	33	曽根	平安・鎌倉	遺物包含地
5	結	奈良	遺物包含地	34	小須戸町東腰村	平安	遺物包含地
6	長沼	奈良～平安	遺物包含地	35	新津市古通	平安	遺物包含地
7	上浦	平安	集落跡	36	桜大門	平安	遺物包含地
8	江内	平安・中世・近世	遺物包含地	37	大坪	奈良～平安	遺物包含地
9	川口甲	平安	遺物包含地	38	中郷	平安	遺物包含地
10	川口乙	平安	遺物包含地	39	北郷	奈良～平安	遺物包含地
11	沖ノ羽	奈良～平安	遺物包含地	40	船戸	古墳・古代・中世	集落跡
12	内野	平安	遺物包含地	41	塩辛	奈良～平安	遺物包含地
13	無頭	平安	遺物包含地	42	古津初越Ｂ	奈良～平安	製鉄跡
14	寺嶋	平安・鎌倉	遺物包含地	43	八幡山	弥生・古墳・平安	遺物包含地
15	久保	平安	遺物包含地	44	古津初越Ａ	奈良・平安	製鉄跡
16	大下	平安	遺物包含地	45	金津初越Ｂ	奈良～平安	遺物包含地
17	山王浦	平安	遺物包含地	46	五泉市小実山	縄文・弥生・古代	遺物包含地
18	山谷北	古代	遺物包含地	47	山崎窯跡	奈良	窯跡
19	西沼	平安	遺物包含地	48	新津市大入	平安	製鉄跡
20	小戸下組	平安・鎌倉・室町	遺物包含地	49	金津初越Ａ	奈良～平安	製鉄跡
21	長左ェ門沼	平安	遺物包含地	50	居村Ｃ	縄文・弥生・平安	製鉄跡
22	西江浦	平安	遺物包含地・生産跡	51	神田	縄文・奈良・平安	遺物包含地
23	寺道上	平安・中世	遺物包含地・生産跡	52	居村Ａ	平安	製鉄跡
24	木津橋	平安	遺物包含地	53	新津市居村Ｂ	平安	製鉄跡
25	細池	平安・中世	遺物包含地	54	五泉市筧下	奈良・平安	遺物包含地
26	秋葉ブドウ園	縄文中期（古代を含む）	遺物包含地	55	中野	奈良・平安	遺物包含地
27	七本松窯跡群	平安	窯跡	56	村付	奈良・平安	遺物包含地
28	滝谷窯跡	平安	窯跡	57	丸田	平安	遺物包含地
29	草水町１丁目	旧石器・縄文・平安	窯跡	58	小須戸町三沢Ｂ	奈良・平安・中世	遺物包含地

第２表　新津市周辺の古代遺跡

No	遺跡名	時代	種別	No	遺跡名	時代	種別
1	横越町円通寺石仏	室町	石造物	22	程島館	戦国	城館跡
2	天王杉	鎌倉・南北朝	遺物包含地	23	下梅ノ木	鎌倉～室町	遺物包含地
3	新津市中谷内	平安・中世	遺物包含地	24	曽根	平安・鎌倉	遺物包含地
4	新久免の塚	室町～江戸	塚	25	西島館	中世	城館跡
5	内野	平安・中世	遺物包含地	26	大関館	中世	城館跡
6	寺嶋	平安・鎌倉	遺物包含地	27	東島館	室町	城館跡
7	長崎（城跡）	室町	遺物包含地	28	金津城	中世	遺物包含地
8	長沼	平安・鎌倉	遺物包含地	29	五泉市船越古銭出土その２	中世	遺物包含地
9	結	室町	遺物包含地	30	船越古銭出土その１	中世	石仏
10	江内	中世・江戸	遺物包含地	31	丸田館	室町	城館跡
11	沖ノ羽	古代～中世	遺物包含地	32	堤	室町	遺物包含地
12	埋掘	中世	遺物包含地	33	城之内宝篋印搭	中世	石仏
13	浄楽	室町	遺物包含地	34	延命寺石仏群	中世	石仏
14	腰廻	室町・安土桃山	遺物包含地	35	新津市金津城	南北朝	城館跡
15	諏訪神社	中世	石仏	36	小須戸町三沢	室町	製鉄跡
16	小戸下組	鎌倉～室町	遺物包含地	37	了専寺館	中世	寺院跡
17	新津城跡	室町	城館跡	38	西善寺石仏	中世	石造物
18	本町石仏	中世	石造物	39	五本田館	室町	城館跡
19	土手外	鎌倉	遺物包含地	40	新津市寺道上	平安・中世	遺物包含地・生産跡
20	盛岩寺石仏	中世	石造物	41	細池	平安・中世	遺物包含地・生産跡
21	池尻の塚	室町	塚				

第３表　新津市周辺の中世遺跡

（1916）の阿賀野川改修工事で河中に没して遺構は確認できないが、大字満願寺に７長崎城があったという［『温古の栞』34篇1893］。



第６図　新津丘陵窯跡群を中心とした７世紀末～９世紀の須恵器

B　新潟平野の前期古墳（第７図）

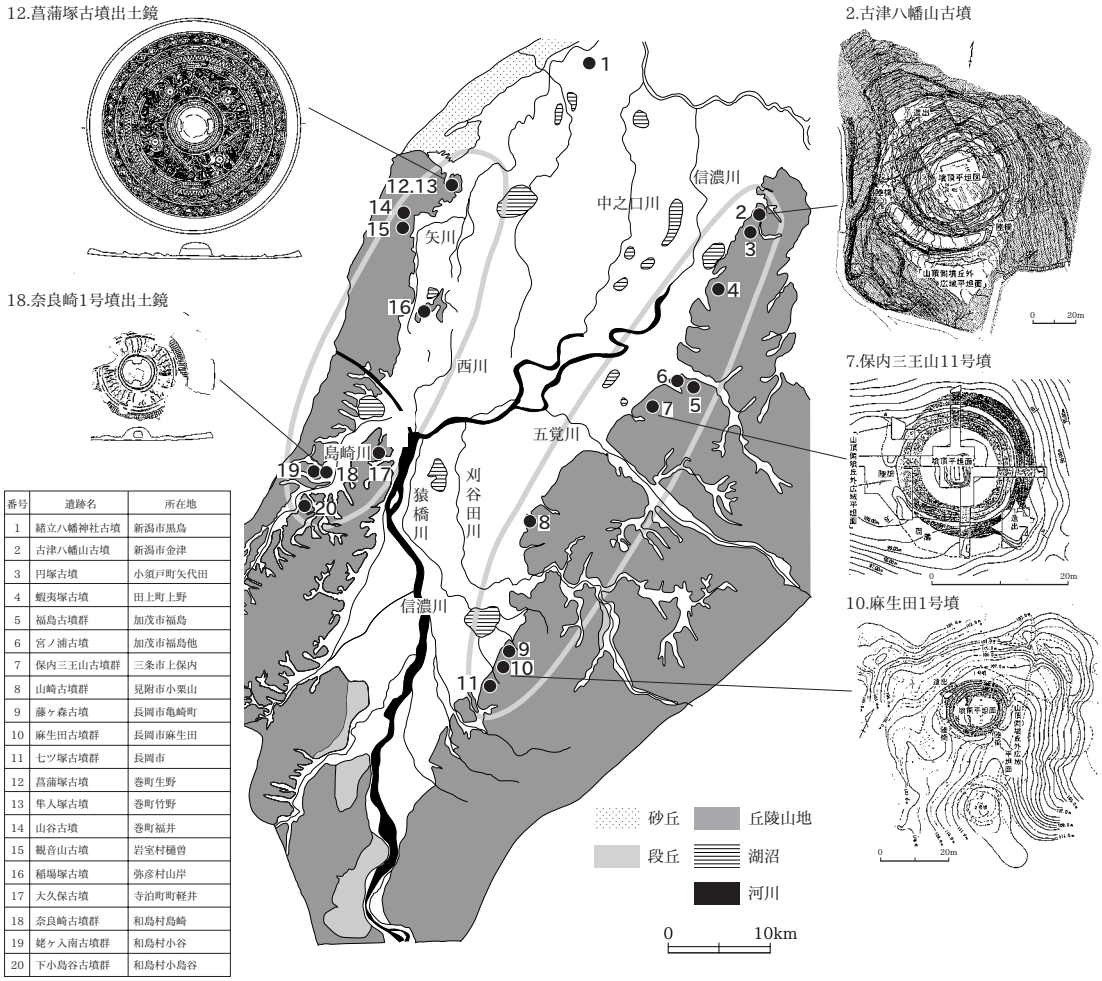
信濃川右岸に位置する２新津市古津八幡山古墳（円墳、墳長56m）［甘粕ほか1992］、７三条市保内三王山11号墳（円墳、墳長22m）［甘粕ほか1994］、10長岡市麻生田１号墳（円墳、墳長18.6m）［小野ほか1990］は①造出付円墳という墳形、②丘陵上に位置し、かつ平野よりに築造している、③造出を平野側に設けている、④丘陵の頂部側に位置し、墳頂平坦面よりも標高が低く、墳頂平坦面と遜色のない広さを持つ平坦面（以下、山頂側墳丘外広域平坦面とする）を持つ、⑤丘陵頂部側（造出の対面、山頂側墳丘外広域平坦面に接する地点）に陸橋部が存在するなどの点において共通し相互に関連する古墳であることが指摘されている［広井1996、川村2000］。

一方、信濃川の対岸となる矢川流域には16弥彦村稲場塚古墳（前方後円墳、墳長26m）［稲場塚古墳測量調査団1993］、14巻町山谷古墳（前方後方墳、墳長38m）［甘粕ほか1994］、12同町菖蒲塚古墳（前方後円墳、墳長53m）［甘粕1994］、15岩室村観音山古墳（円墳、径26m）［甘粕ほか1989］などがあり、これらは同一の首長墓系列の古墳である可能性が指摘されている［広井1996、川村2000］。

また、和島村奈良崎遺跡の調査により、18奈良崎１号墳（円墳、直径16ｍ？）から捩文鏡が出土した［春日ほか2002］。捩文鏡は鼉龍鏡の文様の一部を主文として用いており、近年では大型鏡の多い鼉龍鏡と小型鏡の多い捩文鏡が、文様の一部を共有しながら作り分けられたものと考えられている。また、これらの鏡の大小がそれを分け与えられる地方首長に対する「信任の程度の象徴」を表すとする考えもある［車崎1993］。巻町菖蒲塚古墳からは、鼉龍鏡が出土しており、森下章司はこのような鏡の分布状況を「大型鼉龍鏡－前方後円墳、小型捩文鏡－小古墳という組合せが一定の地域内で成り立つことになる」［森下2002］と評価し両古墳の関連を示唆する。このような古墳（群）の関係は古代の行政区分（蒲原郡・古志郡）と一致しておらず、こうした古墳時代前期の政治勢力の動向を念頭におきつつ、蒲原・古志郡の古代遺跡の検討を行うことが今後必要であろう。

C　文献史料からみた新津市周辺

古代越後国の領域　古代の新津市域は、蒲原郡に属していた。現在の蒲原郡は北・中・西・東・南蒲原の５郡に分かれているが、古代における範囲は、およそ近代の中・西・南蒲原を含むものであったと考えられる。７世紀後半（690年頃）、蒲原郡は、頸城・古志・魚沼とともに越中国に属していた。なお、沼垂・磐船の２郡は越後国に属し、阿賀野川が両国の境となっていた。その後、８世紀初頭に越中国４郡の



番号	遺跡名	所在地
1	緒立八幡神社古墳	新潟市黒鳥
2	古津八幡山古墳	新潟市金津
3	円塚古墳	小須戸町矢代田
4	蝦夷塚古墳	田上町上野
5	福島古墳群	加茂市福島
6	宮ノ浦古墳	加茂市福島他
7	保内三王山古墳群	三条市上保内
8	山崎古墳群	見附市小栗山
9	藤ヶ森古墳	長岡市亀崎町
10	麻生田古墳群	長岡市麻生田
11	七ツ塚古墳群	長岡市
12	菖蒲塚古墳	巻町生野
13	隼人塚古墳	巻町竹野
14	山谷古墳	巻町福井
15	観音山古墳	岩室村樋曽
16	稲場塚古墳	弥彦村山岸
17	大久保古墳	寺泊町町軽井
18	奈良崎古墳群	和島村島崎
19	姥ヶ入南古墳群	和島村小谷
20	下小島谷古墳群	和島村小島谷

第７図　新潟平野南西部の前期古墳（群）

越後国併合（702年）、出羽国の分立（712年）により、後世の越後国の領域が定まる。

郷と式内社　10世紀に成立した『倭名類袖聚抄』によれば、蒲原郡には「日置・桜井・勇礼・青海・小伏」の５郷が存在している。また、延長５年（927）の『延喜式』神名帳には、「青海（２座）・宇都良波志・伊久礼・槻田・小布施・伊加良志・伊夜比古・長瀬・中山・旦飯野・船江・土生田」の蒲原郡の式内社（12社13座）が記されている。これらの所在については、地名や遺跡の分布を手掛かりとして検討されているが、諸説一致をみていない。その中で、『大日本地名辞書』は日置郷を新津市あるいは中蒲原郡村松町付近に比定している。また旦飯野神社の論社には、新津市朝日の旦飯野神社、北蒲原郡笹神村の旦飯野神社の２つあるが、北蒲原郡は古代には、沼垂郡であったと考えられることから、笹神村説は成立し得ない。古津八幡山古墳や弥生時代の高地性集落などを考慮すると、新津市周辺に日置郷・旦飯野神社が存在した可能性が考えられる［木村宗1988］。

蒲原郡衙　八幡林１号木簡［坂井ほか1991］の記載より、８世紀前半の蒲原郡司の一人（小丁）が青海郷に存在したことが知られる。青海郷は加茂市周辺と考えられ、近年加茂市では鬼倉遺跡［伊藤2001b］、馬越遺跡［伊藤2000］、中沢遺跡［伊藤2001a］などの官衙関連遺跡が調査されており、蒲原郡衙との関連が注目される。なお、古墳（群）との関連では、上述の加茂市の遺跡（群）は立地から加茂市福島古墳群、同市宮ノ浦古墳群、三条市保内三王山古墳群との関連が推測できるが、新津市周辺（新津市古津八幡山古墳・小須戸町円塚古墳）、矢川流域にも古墳分布のまとまりが見られ（本章Ｂ参照）、古代にも複数の政治勢力が並存していた可能性がある。一極集中型の郡衙が存在しなかった可能性もあろう。

金 津 保　古代末から中世にかけて、新津市域は金津保の保域であった。金津保の地頭職を最初に得たのは、信濃源氏平賀氏であり、史料の初見は、『吾妻鏡』承久３年（1221）６月８日条に見える「金津（平賀）蔵人資義」であるが、地頭職を得たのはそれ以前にさかのぼる可能性があり、保の成立は越後の諸保と同様に、11世紀後半から12世紀の院政期であろう。建武３年（1336）11月18日「羽黒義成軍忠状写」で「同二日、引籠干金津保新津城、対干小国正光以下御敵等、到散々合戦畢、」（『新潟県史』資料編４－1935）とあり、北朝方である三浦和田（羽黒）義成は金津保にあった新津城に籠り、南朝方の小国正光らと戦ったとある。この史料によって金津保には新津城が含まれていたとわかり、この新津城とは新津城・程島館・東島城のいずれであろうとされる［田村1993］。また天正５年（1577）「三条衆給分帳」に「金津保之内遊川」（『新潟県史』資料編５－2704）とあり、遊川は田上町湯川と見られ、さらに天文13年（1544）10月10日「上杉玄清定実知行宛行状」・同「長尾晴景副状」（『新潟県史』資料編４－1495・1496）に「金津保下条村」とあるのは、五泉市下条と考えられる。以上のことから金津保の領域は年代によって若干の違いがあった可能性はあるが、新津市から田上町北部と五泉市の一部を含む範囲と推定される。

第Ⅲ章　調 査 の 概 要

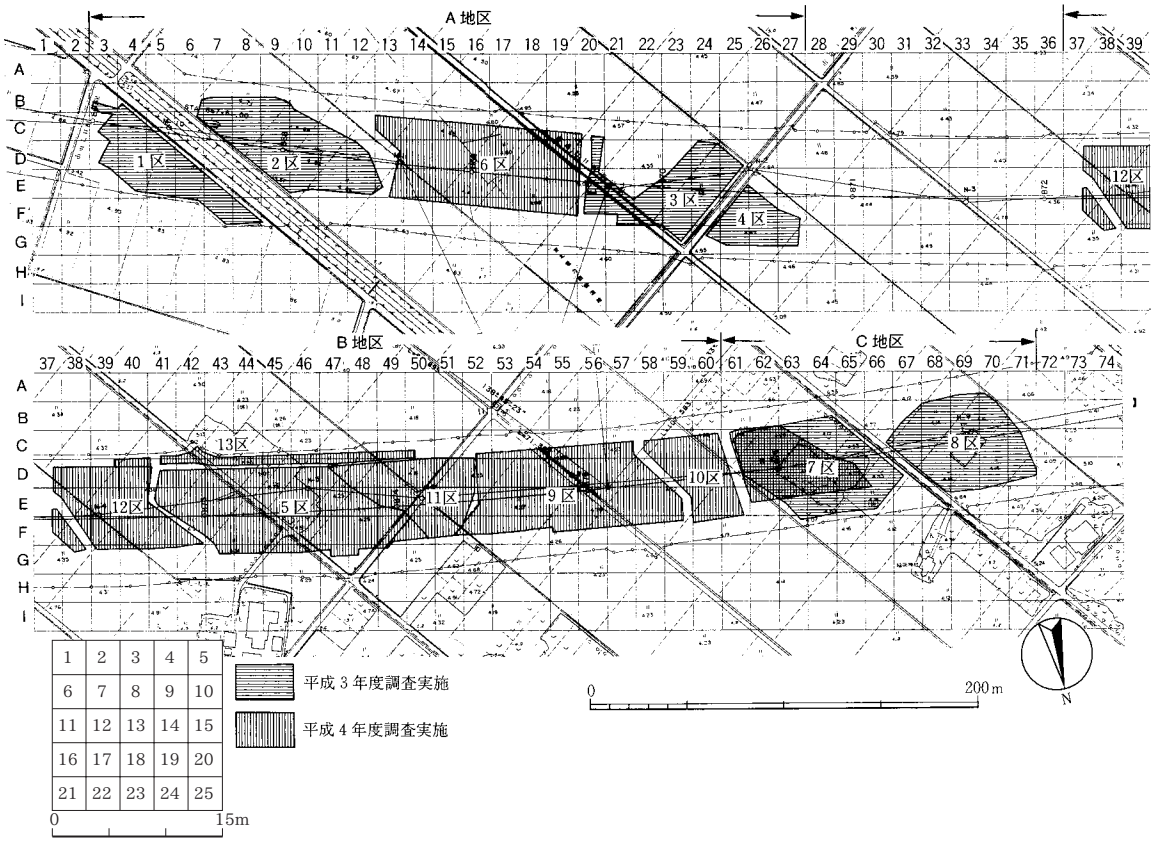
1　調　査　方　法

A　地 区 の 名 称

調査区割りの番号は、調査範囲全体の通し番号とした。カルバートーボックス工事や橋脚など公団側の工事が優先される区域から先に調査に入り、基本的にはその順番を区の番号とした。全体を13区に分けたが、C地区は東西に長く延びる沖ノ羽遺跡の西側にあたり東側から7区・8区が位置する。7区と8区は農道により分けられる（第8図）。

B　グリッドの設定

グリッドは調査範囲全体に共通したものである。グリッドは大・小の2種類あり、大グリッドは15m四方を単位とし、小グリッドは大グリッドを3m四方に25等分したものである。大グリッドの方向と区割りは、センター杭を基準にした。STA871（X＝201,670.2251、Y＝55,802.8850旧座標）とSTA873（X＝201,711.6923、Y＝55,607.2689旧座標）を結んだ線を横軸とした。横軸は真西より11度58分07秒北偏しているものの、ほぼ東西を示すといえよう。横軸は南から順にアルファベットを付した。STA873



第8図　グリッドと地区の名称

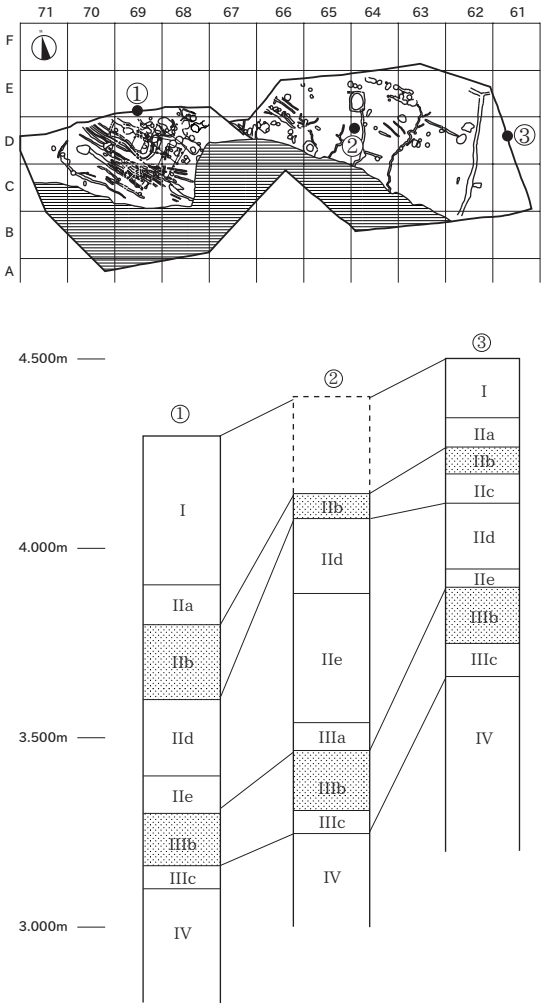
を中心に横軸と直交する線を縦軸とした。これはほぼ南北を示し、東から順に算用数字を付した。両者の交点に杭を打ち「1A」などと組み合わせて呼称した。大グリッドは南東側の杭番号優位で呼称した。小グリッドは、1～25の算用数字を「1A25」などと大グリッド表示の後の付けて呼称した（第8図）。大グリッド及び調査区端のグリッド境界への杭打ちは業者に依頼して行った。

2　基　本　層　序

4層に大別し、2層は5、3層は3に細分した。各層の色調・土質などについては第4表に示した。Ⅱb・Ⅱc層が中世（上層）の包含層、Ⅱd層が中世（上層）の遺構検出面、Ⅲb層が古代（下層）の包含層、Ⅲc層がⅢb層とⅣ層の漸移層、Ⅳ層が古代（下層）の遺構検出面である。現地形は東から西に向かって標高が低くなるが、古代・中世もこうした傾向は見られる（第9図）。

3　遺構・遺物の概要

中世・古代の遺構・遺物が層位的に検出された。以下、時代別に概要を記す。



第9図　基本層序

A　上　　層（中世）

遺　　構　調査区南半は近世～近代の旧河道に切られる。掘立柱建物・井戸・土坑・溝などが確認でき、63DE・64Dと68D・69CDに集中する。61CD・62CDEには幅広で浅い溝状の遺構（SD4･11）が検出された。稲など低地で栽培する作物と関連する遺構の可能性が考えられる（図版1）。

遺　　物　青磁碗･皿、珠洲壺･甕･すり鉢、土

層位	土質・色調ほか
Ⅰ層	茶褐色土。水田・畑地の耕作土。
Ⅱa層	明褐色シルト。粘性弱い
Ⅱb層	褐色シルト。Ⅱa層に似るが色調がやや暗い。炭化物片含む。上層包含層。
Ⅱc層	褐色シルト。Ⅱb層に比べ色調がやや明るい。Ⅱb層とⅡd層との漸移層。
Ⅱd層	黄褐色シルト。粘性弱い。上層遺構検出面。
Ⅱe層	青灰色シルト質粘土。Ⅱd層に似るが、やや粒子が細かく、グライ化し青灰色を呈する。
Ⅲa層	褐色シルト質粘土。マンガン粒多量に含む。
Ⅲb層	暗褐色粘土。炭化物片多く含む。調査区東側ではシルト質となる。下層包含層。
Ⅲc層	暗青灰色粘土。Ⅲb層とⅣ層の漸移層。
Ⅳ層	青灰色粘土と青灰色シルトの互層。上部には灰色粘土が混じる。下層遺構検出面。

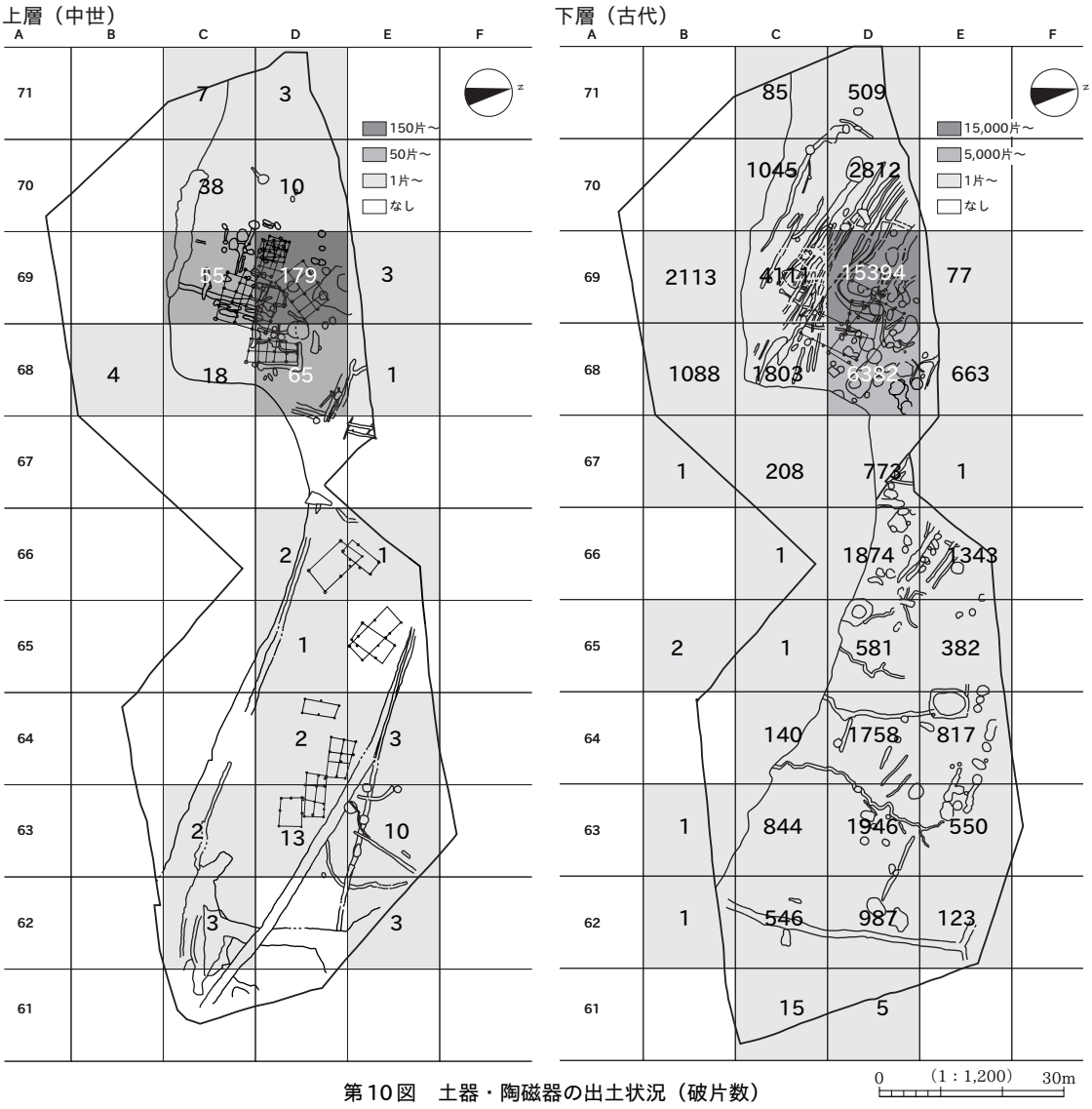
第4表　基本層序

師器皿・小皿、鉄器（刀子・鎌など）、砥石、鉄滓･羽口などが出土している。土器・陶磁器類の出土量が最も多く、平箱（54×34×10cm内法）換算で約４箱、鉄器･砥石・鉄滓･羽口などは合わせて平箱１箱程度である。珠洲にはⅠ期（12世紀後半）～Ⅳ期（14世紀）のものが見られ、他の遺物も概ねこの時期幅には収まるものと考えられる。土器・陶磁器類の出土状況は68D・69CDに集中する（第10図）。

B 下　　層（古代）

遺　構　上層と同様に調査区南半は近世～近代の旧河道に切られる。掘立柱建物・井戸・土坑・溝などが確認でき、68D・69CDには畝状遺構が見られ、68･69Dには掘立柱建物・井戸・土坑がある。また69C・70CD63～67Eには土坑が集中する。

遺　物　土師器・黒色土器・須恵器などの土器類、木器・砥石・鉄器・鉄滓･羽口などが出土している。遺物の大半を占めるのは土器類で平箱（54×34×10cm内法）換算で約106箱、土製品１箱、木器は約15箱、石器３箱、鉄器・鉄滓・羽口は合わせて１箱である。土器類は『新潟県の考古学』の編年［春日1999］では、Ⅴ～Ⅵ期（9世紀前半～末）のものと考えている。木器の大半は井戸側の部材である。土器類の出土状況は、各地区から出土しているが、特に68･69Dに集中する（第10図）。



第10図　土器・陶磁器の出土状況（破片数）

第Ⅳ章　遺　　構

1　記 述 の 方 法

遺構説明には観察表・本文（挿図含む）・図面図版・写真図版を用いる。遺構の種類には掘立柱建物・井戸・溝・土坑などがあり、これらについては、大半のものについて観察表を作成し、位置・規模・形状・出土遺物切り合い関係などを記載した。遺構個々の形状・規模・切り合い関係・特徴などに関しては、図面図版と観察表の記載に譲り、本文中では特別な場合を除き触れない。またピットについては、建物跡などと関連するもの以外は観察表も含め基本的に触れない。

遺 構 番 号

個々の遺構の名称は、地区と層位・遺構種類・（遺構の）番号の順に表記した遺構番号で表す。遺構種類は略称を用いた。主な略称は第５表に示した。

遺構の番号は地区・層位に、種別・グリッドに関係なく１から通し番号とすることを基本とした。ただし掘立柱建物については、調査終了後の整理の過程で認識したものも定量存在することと、誤解をまねきかねないことから、年度に関係なく別途に通し番号を付した。

遺構名の表記例

8下	SK	102
地区と層位	遺構種類	遺構番号

略称	遺構種類	略称	遺構種類
SA	柵	SE	井戸
SB	掘立柱建物	SI	竪穴建物
SD	溝	SX	不明遺構
SK	土坑・地下式坑		

第５表　主な遺構の略称

図　　版

遺構の図面図版は1/600の全体図と1/200の分割平面図、1/50のセクション図、1/100のエレベーション図、個別図から構成され、個別図は建物跡・井戸側を持つ井戸以外は作成していない。平面図は、遺構の切り合い（新旧）関係を表現することを基本としたが、統一は取れていない。現場での記録が充分でなかったため、新旧に関係なくより深い遺構が浅い遺構を切っているように表現された場合もある。遺構の新旧関係については観察表を参照していただきたい。遺構の写真は、観察表を作成したすべての遺構を網羅していない。重要な遺構・遺存状態の良好な遺構・遺構の特徴が良く捉えられているカットなどを選択して掲載した。

遺構の形態分類（第11図）

遺構の平面形態・断面形態の分類は、和泉Ａ遺跡［荒川・加藤ほか1999］の分類に基づいた（第11図）。

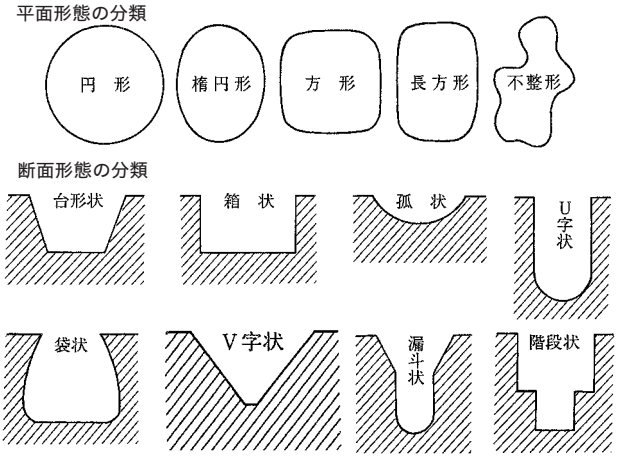
a.平面形態

円　　形：長径が短径の1.2倍未満のもの

楕 円 形：長径が短径の1.2倍以上３倍未満のもの

長楕円形：長径が短径の３倍以上のもの

方　　形：長軸が短軸の1.2倍未満のもの



第11図　遺構の分類

長 方 形：長軸が短軸の1.2倍以上のもの

不 整 形：凸凹で一定の平面形を持たないもの

b.断面形態

台形状：底部に平坦面を持ち、緩やか～急傾斜に立ち上がるもの

箱　状：底部に平坦面を持ち、ほぼ垂直に立ち上がるもの

弧　状：底部に平坦面を持たない皿状で、緩やかに立ち上がるもの

U字状：確認面の長径よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの

袋　状：確認面の径よりも底部の径が大きく、内傾して立ち上がるもの

V字状：点的な底部を持ち、急傾斜に立ち上がるもの

漏斗状：下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの

階段状：階段状の立ち上がりを持つもの

掘立柱建物

掘立柱建物の各数値の計測方法や部位の名称は、以下のものである。

①　柱間の多い方向を「桁行」（長軸）、少ない方向を「梁間」（短軸）として、個別図版の左側を桁行1、右側を桁行2、上方を梁間1、下方を梁間2とした。

②　「柱掘形」は確認面での形状、「柱痕」は平面・断面及び底面で確認できる柱が位置した部分、「柱根」は残存した柱材である。

③　方向は「桁行」（長軸）方向が、北を中心に東西に偏する角度で表した。

④　面積は基本的に長軸×短軸である。

井戸・土坑・ピット

井戸・土坑・ピットの区分及び各数値の計測方法は、以下のものである。

①　規模は最大径を計っているが、部分的に極端な張り出しがある場合は、全体の形状をよく残していると思われる位置で計測している。長軸方向の計測は平面形態を考慮して計測し、短軸は長軸と直交する方向の最長部で計測した。

②　深度（深さ）は確認面からの最深部を計測した。

③　長軸（長径）及び短軸（短径）が80cm以上の掘り込みを井戸・土坑に分類し、それに満たない大きさの掘り込みをピットに分類することを基本としたが、そうでないものもある。

④　井戸と土坑の分類については、深度が長軸に比して1.2倍を超えるものを基本的に井戸としたが、覆土の堆積状況や遺物出土状況を考慮して井戸に分類したものもある。

2　上 層 の 遺 構

掘立柱建物12・井戸6・土坑39のほか多数の溝・ピットが検出されている。個々の遺構の細かな年代比定はできないが、出土遺物から考え大半の遺構が吉岡編年［吉岡1994］珠洲Ⅰ～Ⅳ期（12世紀後半～14世紀）の中に収まるものと考えられる。

掘立柱建物

SB1（図版16）　69Dに位置する2×3間の総柱建物。主軸方向は西偏64°、面積は18.0m^2、ピットの平面形は円形である。SB2・3、8上SD52と重複する。

SB2（図面16）　69Dに位置する２×３間の総柱建物。主軸方向は西偏60°、面積は18.0m²、ピットの平面形は円形である。SK36に切られる。SB1・3、8上SD52・SK56と重複する。

SB3（図面17）　69Dに位置する２×２間の総柱建物。主軸方向は東偏16°、面積は8.8m²、ピットの平面形は円形である。SB2・3と重複する。

SB4（図面16）　69Dに位置する２×４間の総柱建物。主軸方向は東偏45°、面積は41.0m²、ピットの平面形は円形である。8上SD64を切り、8上SK1に切られる。また8上SD49・61・62・63、SE48・60と重複する。

SB5（図面17）　68CDに位置する２×５間の総柱建物。主軸方向は東偏18°、面積は26.9m²、ピットの平面形は円形である。8上SK12に切られ、8上SD21・44と重複する。また、8上SD10が近接して存在する。

SB6（図面18）　68CD・69CDに位置する３×３間の総柱建物。主軸方向は西偏29°、面積は66.9m²、ピットの平面形は円形である。8上SD42・SK41を切り、8上SD29・31・32・33・44・49、8上SK30・37、SB7などと重複する。

SB7（図面17）　68CDに位置する２×３間の総柱建物。主軸方向は西偏60°、面積は27.0m²、ピットの平面形は円形である。8上SD34・SK36を切り、8上SD42・44・49などと重複する。また、8上SD32・52が近接して存在する。

SB8（図面16）　65Eに位置する１×３間の側柱建物。主軸方向は西偏31°、面積は28.1m²、ピットの平面形は円形である。ほかの遺構との重複は見られない。

SB9（図面17）　65Eに位置する１×３間の側柱建物。主軸方向は東偏21°、面積は11.9m²、ピットの平面形は円形である。ほかの遺構との重複は見られない。

SB10（図面18）　63・64Dに位置する２×３間の総柱建物。主軸方向は西偏68°、面積は22.7m²、ピットの平面形は円形である。SB12と重複する。

SB11（図面17）　63Dに位置する２×２間の側柱建物。主軸方向は西偏72°、面積は16.1m²、ピットの平面形は円形である。ほかの遺構との重複は見られない。

SB12（図面18）　63・64Dに位置する２×３間の総柱建物。主軸方向は西偏74°、面積は22.1m²、ピットの平面形は円形と方形がある。SB12と重複する。

井　　戸

68・69Dで６基（8上SE5・23・24・48・59・60）、64Eで１基（7上SE11）確認でき、いずれも素掘りの井戸である。平面形は円形もしくは楕円形で、断面形はSE48・11が階段状となる以外は、台形状もしくはU字状である。SE23・24からは遺物が定量出土した。

土　　坑

69C20・25周辺69D16～20周辺、69E1～5周辺に多く確認できる。平面形は円もしくは楕円形で、断面形は弧状もしくは台形状のものが多い。大半が廃棄穴と考えられる。ただし平面形が長楕円形となるSK3からは釘（図版43　629～631）、SK32からは環状の鉄製品（図版58）が出土しており、墓坑となる可能性がある。同様の形態の土坑には8上SK2・38があり、これらも墓坑の可能性が考えられる。

また土坑に含めたが平面形がやや歪な方形となる大型の土坑8上SK1は竪穴状遺構とすべきものかもしれない。覆土は暗茶褐色シルトの単層で8上SK67に切られ、8上SE60を切る。遺物が定量出土した。

溝

略称はSDとしたが、SD4・11は浅く幅広で底面には耕作に起用すると思われる凹凸がある。低地で栽培する作物と関連する遺構と考えられる。類例は細池遺跡・寺道上遺跡［小池ほか1994］にある。

7上SD8・10は7上SD4・11に接することから農業用水路の可能性が考えられる。なお、SD8は7下SK1・3・4・5に切られ、上層の遺構の中では比較的古いものの可能性が高い。8上SD500・501・502は位置と方位から考え、SD10と一連の溝の可能性が高く、同様な機能が想定できる。68CD・69CDに分布する小規模な溝は、施設の区画などを行う溝の可能性が考えられる。また、8下SD1・SD34からは遺物が定量出土した。

3 下 層 の 遺 構

掘立柱建物4・井戸11・土坑79、畝状遺構のほか、溝・ピットが検出されている。個々の遺構の細かな年代比定はできないが、出土遺物から考え大半の遺構が、「新潟県の考古学」での古代の土器編年［春日1999］のⅤ・Ⅵ期（9世紀前半～10世紀初頭）の中に収まるものと考えられる。

掘立柱建物

SB13（図版19）　68・69C、68・69Dに位置する1×5間ないし1×6間の側柱建物。主軸方向は東偏32°、面積は44.9m^2、ピットの平面形は円形である。8下SD201に切られ、8下SK8、SE27、SD119・126、SB14・16などと重複する。

SB14（図版19）　68・69Dに位置する2×4間の側柱建物。主軸方向は西偏45°、面積は69.5m^2、ピットの平面形は円形・楕円形である。8下SK14・SE26に切られ、SD21を切る。また、8下SK6・8・11・12・SE27、SD24、SB13・16などと重複する。

SB15（図版19）　69Dに位置する1×2間の側柱建物。主軸方向は東偏30°、面積は20.3m^2、ピットの平面形は円形である。8下SD38・131、SK57に切られる可能性が高い。また、8下SD21・54、SK76などと重複する。

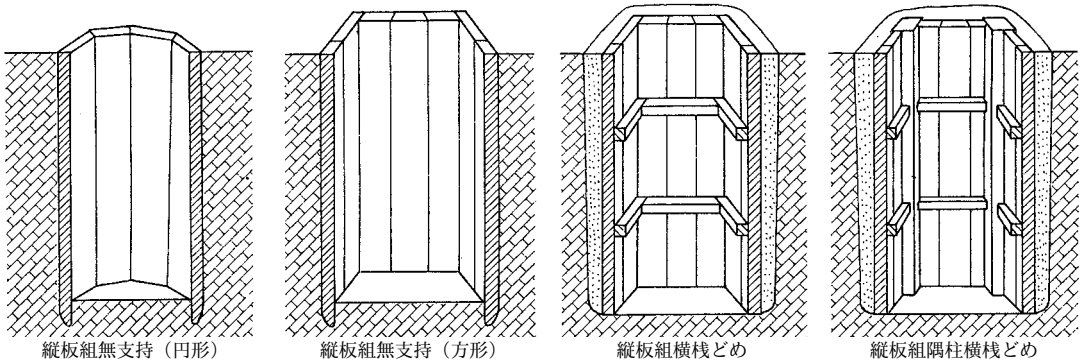
SB16（図版19）　69Dに位置する2×4間の側柱建物。主軸方向は西偏71°、面積は24.0m^2、ピットの平面形は円形である。8下SK12・57・SD12を切り、8下SE27・SD24、SB13・14などと重複する。ピットから土師器無台碗（409・410）が出土している。

井　　戸

68・69Dで7基（8下SE18・26・27・50・201・205・207）、62～64Dで4基（7下SE126・135・137・142）確認できる。平面形は円形もしくは楕円形で、断面形には漏斗状・U字状・台形状など多様なものがある。井戸側を持つものはSE18・205・206の3基で、ほかは素掘りである。8下SE27（344～370）・205（159～171・609～621・640～644）は覆土上層を中心に遺物が定量出土した。以下、井戸側を持つ井戸3基について記述する。なお井戸側については宇野隆夫の分類［宇野1982］を用いる。

8下SE18（図版20）　68D3に位置する縦板組横桟どめ井戸。検出時の井戸側は一辺40cm前後の方形を呈していたが、縦板の構成などを考えるとこれは土圧などによって縮んだためと考えられ、本来は一辺50～60cm前後の方形であったと考えられる。水溜めには径約33cmの円形曲物側板を用いる。

8下SE205（図版20）　遺存状態は良好ではないが、縦板一辺（約60cm）と、桟木と思われる部材



第12図　縦板組み井戸の分類　　（［宇野1982］より転載）

（614・615）が出土している。縦板組横桟どめ井戸となる可能性が高い。

8下SE206（図版20）　井戸検出時の平面形は円形にも見えるが、桟木と思われる部材（598・599）が出土しており、一辺50～60cmの縦板組横桟どめ井戸であった可能性が高い。縦板には丸木船を分割・加工し、転用している。

土　　坑

ほとんどのグリッドで確認できるが、68・69D、66DE、63DEに多く確認できる。平面形は円もしくは楕円形で、断面形は弧状もしくは台形状のものが多いが、不整形のものや長さ5mを越える長大な土坑（8下SK14・43、7下SK80・60）もある。大半が廃棄穴と考えられる。8下SK14・31・36・43・100、7下SK134からは多くの遺物が出土した。

畝 状 遺 構

68～70C、69・70Dで確認できる。西偏45°前後の溝（8下SD38・42・44～47・102・109・110・114～117・129・130・132・180・181など）で構成されるもの（A群）と、西偏75°前後の溝（8下SD101・118・218・219）で構成されるもの（B群）に分類できる。8下SD118（B群）が8下SD102・129・130（A群）を切ることからA群がB群に先行するものと思われる。

その他の溝

南南西－北北東方向の溝7下SD66・101・102・136・139は何らかの区画溝の可能性が考えられる。7下SD16・17・21・75も区画溝の可能性があろう。7下SD118・129・130・144は畝状遺構の一部であった可能性が考えられる。

遺構の変遷

前節で、切り合い関係から西偏45°前後の畝状遺構A群が古く、西偏75°前後の畝状遺構B群が新しいことを指摘したが、掘立柱建物にも西偏45°のSB14と、西偏71°のSB16があり、畝状遺構の変遷を当てはめれば、SB14→SB16という変遷が考えられる。このことは、SB16のピットから、Ⅵ2期（第Ⅴ章参照）の遺物が出土していることや、畝状遺構A群を切り、畝状遺構B群と重複しない8下SK100からⅥ2期の遺物が出土していることと矛盾しない。

なお、このほかに主軸方位が東偏30°ないし西偏60°前後の遺構（SB13・15、7下SD1・4・117・128・130・144など）があるが、これについては時期は不明である。ただし、7区には西偏45°前後の遺構と東偏30°ないし西偏60°の遺構は定量見られるが、西偏75°前後の遺構はほとんど確認できず、Ⅴ期（第Ⅴ章参照）の遺物が主体であることから、西偏45°前後の遺構に近い時期を考えたい。

第Ⅴ章　遺　　物

1　基　本　方　針

遺物の実測　出土した遺物の種類には土器・陶磁器、土製品、石器、木器、金属器があり、遺物量は整理終了後で平箱（54×34×10cm内法）約130箱、内訳は土器・陶磁器類110箱、土製品１箱、石器３箱、木器15箱、金属器１箱である。実測にあたっては遺構出土のもの、残りのよいもの、出土例の少ないものを任意に抽出し図化した。また、鉄滓類は図化せずに写真のみで示した。各遺物の実測数と１箱あたりの実測数の平均（小数点２桁以下四捨五入）は、土器・陶磁器570点で5.18点、土製品16点で16点、石器17点で5.67点、木器35点で2.33点、金属器11点で11点、実測図総数は649点で4.99点ある。

記述の方法　遺物の説明については本文・観察表・図面図版・写真図版を用いる。遺物個々の特徴については観察表に譲り、本文は各種遺物の概要や、主要な一括遺物の概要・組成などを記述する。

観察表・計測表　図面図版で示した遺物全ての観察表・計測表を作成し、遺物の種類（土器・陶磁器、土製品、石器、木器、金属器）毎に作成した。遺物番号・出土地点・層位などとともに遺物の特徴を記載した。ライフヒストリー的な観察が必要と考えたが、土器・陶磁器以外はできなかった。また、土器・陶磁器も力量不測から不十分なものとなった。項目毎の観察・計測方法は遺物種類により異なるため２～４節で後述する。

図版　図版は図面図版と写真図版からなり、図面図版と写真図版の遺物番号は一致する。図面図版は個々の遺物を種別毎に大別し、出土量の多い土器・陶磁器は出土層位により細分し、上層のものは種類毎、下層のものは遺構毎にレイアウトすることを基本とした。遺物の縮尺は、土師器・須恵器・施釉陶磁器・土製品・石器・金属器は1/3、珠洲・瓷器系陶器は1/4を基本としたが、小型の金属器（釘）・土製品（土錘）は1/2、大型の須恵器（甕）・金属器（鍋?）は1/6のものもある。また、木器は大きさに応じ1/3・1/4・1/6・1/8のものがある。同一プレートに複数の縮尺がある場合は、複数のスケールを併記し、各縮尺に対応する遺物番号を記入した。写真図版は実測図で示した大半の遺物を掲載したが、小片のため省略したものもある。レイアウトは図面図版に準じている。写真図版の縮尺は図面図版と概ね一致するが、レイアウトの都合で異なった縮尺となっているものもある。

2　上層の土器・陶磁器

Ａ　概　　要

上層からは中世～近世の土器・陶磁器が出土しており、中世の土器・陶磁器には土師器皿・小皿、青磁碗・皿、珠洲（系陶器）すり鉢・壺Ｔ種・壺Ｒ種・甕、瓷器陶器壺か甕が確認でき、近世の土器・陶磁器には肥前系磁器碗・皿が確認できる。

中世の土器・陶磁器類の組成は、第６表に示した。種類別の比率は破片数で土師器75.3％、珠洲20.7％、青磁3.3％、瓷器陶磁器0.4％であり、土師器が大半を占める、次いで珠洲（系陶器）が多く、青磁・白磁などの施釉陶磁器は少ない。

青磁碗５点、同皿１点、土師器皿18点、同小皿18点、珠洲すり鉢10点、同壺Ｔ種３点、壺Ｒ種１点、甕１点、瓷器陶器壺か甕１点、肥前系磁器碗１点、同小皿１点を図示した。青磁は図化し得るほとんどの個体を図化している。また、珠洲も、個体の異なる口縁部・底部破片の大半を図化した。

Ｂ　器　種　分　類

土器・陶磁器の種類（土師器・青磁・珠洲（系陶器）・瓷器陶器）・器形により大別した。珠洲（系陶器）は、吉岡康暢氏の分類［吉岡1994］に従った。土師器皿、小皿については成形技法・細部の形態などにより細分した。口径12cm前後のものを皿、口径８～９cmのものを小皿とし、ロクロ成形のものをＡ類、手づくね成形のものをＢ類とし以下のように細分した。

皿Ａ1類：Ａ類のうち底径が小さく、身が深いもの。

皿Ａ2類：Ａ類のうち底径が大きく、身が浅いもの。

皿Ｂ1類：Ｂ類のうち器壁が薄手のもの。口径端部に面取りを行うものが多い。

皿Ｂ2類：Ｂ類のうち器壁が厚手のもの。

小皿Ａ1類：Ａ類のうち底径が小さく身が深いもの。

小皿Ａ2類：Ａ類のうち底径が大きく身が浅いもの。

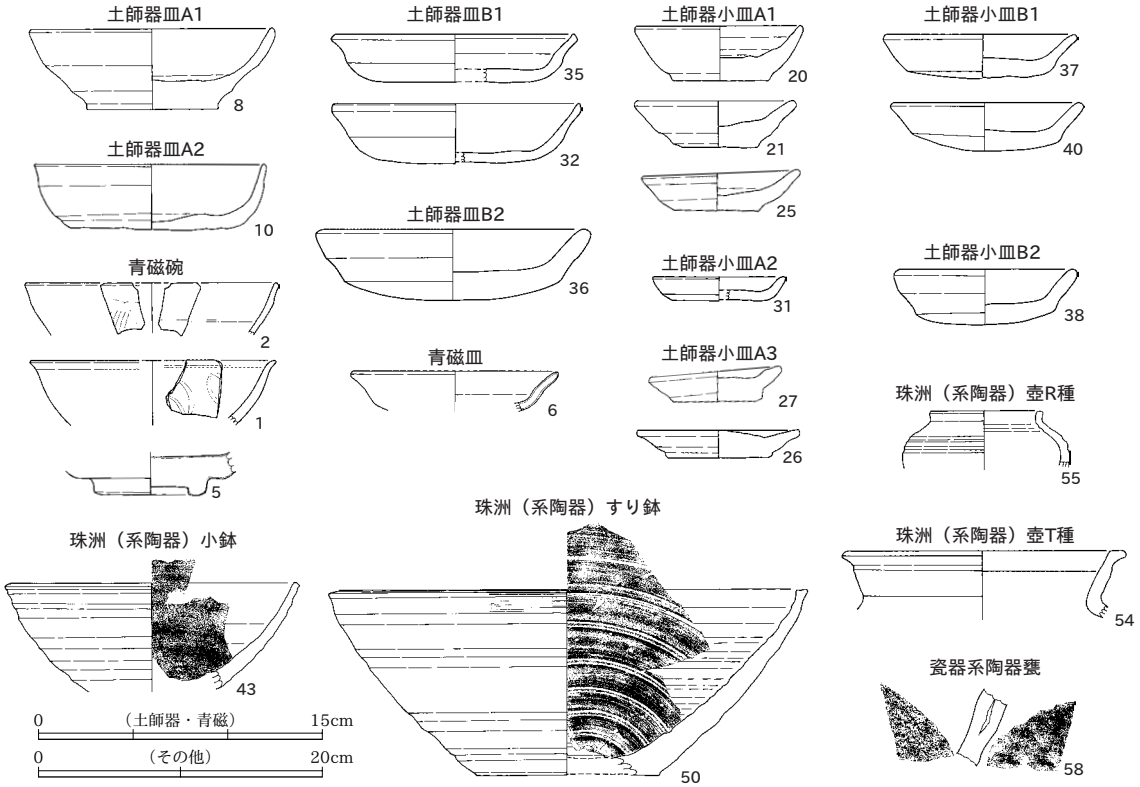
小皿Ａ3類：Ａ類のうち底部が柱状高台となるもの。

小皿Ｂ1類：Ｂ類のうち器壁が薄手のもの。

小皿Ｂ2類：Ｂ類のうち器壁が厚手のもの

種類	器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
土師器	皿・小皿	370	363	77.4%	75.3%
青磁	碗	8	14	1.7%	2.9%
青磁	皿	9	2	1.9%	0.4%
白磁	碗	0	1	0.0%	0.2%
青磁・白磁計		17	17	3.6%	3.5%
珠洲	すり鉢	61	53	12.8%	11.0%
珠洲	壺Ｒ種	18	4	3.8%	0.8%
珠洲	壺Ｔ種	8	2	1.7%	0.4%
珠洲	甕	4	20	0.8%	4.1%
珠洲	甕か壺Ｔ種	0	21	0.0%	4.4%
珠洲計		91	100	19.0%	20.7%
瓷器系	甕	0	2	0.0%	0.4%
総　計		478	482	100.0%	100.0%

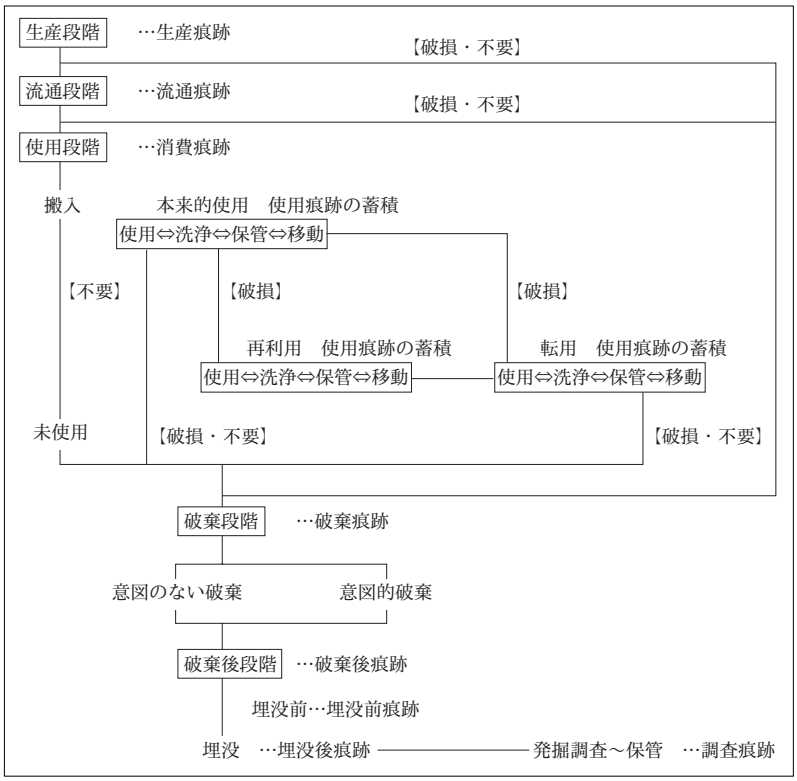
第６表　上層の土器・陶磁器



第13図　中世土器・陶磁器器種分類

C　観　察　表

前述したようにライフヒストリー的な観察が必要と考え、川畑　誠の研究［川畑1999・2001］を参考にし（第７～９表）、これに添った観察表作成を試みたが不十分なものとなった。以下の①～⑰の観察項目を設定し、これらを第７表の各段階に当てはめると、①は廃棄後段階、②は廃棄段階から廃棄後段階、③は生産段階素地作り工程と焼成工程、④～⑩・⑫は生産段階製作工程、⑪は生産段階製作工程と乾燥工程、⑬・⑭は製作段階焼成工程、⑮・⑯は消費段階に伴う属性・痕跡である。



第７表　土器の一生　　（［川畑1999］を転載）

①**No.**：図面図版･写真図版の遺物番号を記入した。

②**出土地点**：グリッド・遺構・遺構層位・取り上げNoなどを表記した。

③**種類**：土師器・青磁・珠洲（系陶器）・瓷器陶器・肥前系陶器などを記入した。珠洲としたものは、能登半島の珠洲市周辺で作られたもの。珠洲系陶器は、技法的には珠洲と同じであるが異なった産地のものである。珠洲と珠洲系陶器は胎土（主に海面骨針の有無）で判断した。珠洲系陶器のうち産地が推定できるものは備考欄に記入した。

④**器種**：本節Ｂで示した器種分類に対応した器種を記入した。

⑤**胎土**：胎土中に含まれる小礫・鉱物・化石などを記入した。「英」は石英、「長」は長石、「雲」は雲母、「チャ」はチャート、「海針」は海綿骨針の略称である。風化などにより、判断がつかないものを白色粒子、赤色粒子などと表現する場合もある。

⑥**口径**：倒位に置いた場合の接地面を計測した。

⑦**器高**：正位に置いた時の最も高い点を計測した。

⑧**底径**：高台のあるもの

工　程	生産痕跡		特徴など
素地作り	胎土		素地、混和材よりなる。須恵器の生産地特定の指標のひとつ。
製　作	形状、法量、容量		前２者は研究の蓄積多い。
	製作に伴う痕跡（製作痕跡）		工具痕、指痕など。後述。
乾　燥	乾燥に伴うヒビ割れ・剥離､敷物圧痕など		
焼　成	付着痕跡	自然釉・黒化、火だすきなど	窯内での位置、設置状況などを示し、焼成技術復元の指標のひとつ。
		他個体・焼き台との接触・溶着痕跡窯土の付着など	
	変化痕跡	色調など	焼成の状況を示し、焼成技術復元の指標のひとつ。
		焼け具合､堅さ、焼き歪み、ヒビ割れなど	
	除去痕跡	他個体・焼き台の除去、窯土の除去など	窯出し状況、完成品の許容範囲を示す。
選　別	（窯周辺での大量出土）		完成品の許容範囲、流通のあり方を示す。

第８表　生産段階と生産痕跡　　（［川畑2001］を転載）

は、高台の接地面を計測した。

⑨最大径：口径が最大径の場合は省略した。

⑩回転方向：ロクロ・ヨコナデ・叩きなど回転方向がわかるものは記入した。右は時計回り、左は反時計回りである。ロクロの回転方向は水挽き痕・底部切り離し痕・ロクロケズリ痕などで判断し、一致しない場合は併記した。「水」は水挽き、「切」は底部切り離し、「ケ」はロクロケズリの略称である。

⑪底部調整：底部外面の切り離し技法や再調整を記載した。また川畑の乾燥段階の痕跡と考えられる板目圧痕なども、紙数の関係がありここに記入した。

⑫その他の調整：底部以外の調整を記入した。「口」は口縁部、「体」は体部、「外」は外面、「内」は内面、「上」は上部、「下」は下部の略称である。

⑬降灰（黒化）：陶器は、焼成の際の降灰（あるいは黒化）部位、無釉部位を記入した。降灰は焼成時の上面、黒化は下面に発生しやすいが、明確に区分できないものも多くすべて「降灰」として示した。降灰・無釉部位から重ね焼き方法が推定できるものは第16図の分類を記入した。土師器は黒斑の形状・部位を記入した。施釉陶磁器は釉の色調、施釉部位を記入した。

観察項目		観察点	区分など
① 遺存度		全体の形	完形・一部欠損（略完形）・部分・小片
		構成する破片の数・大きさ	
接触痕跡	② 割れ 割り 剥離 穿孔	部位	
		範囲	全周・部分・単独などの連続性の有無、水平・非水平
		大きさ・数	大・中・小、多い～少ない
		方向・順序	打点位置、順序
	③ 欠け 欠き 細かい剥離	部位	
		範囲	全面・環状・帯状・部分・単独など連続性の有無、水平・非水平
		大きさ・頻度	頻度は規則的・非規則的、多い～少ない
		方向・順序	打点位置、割れの順序
	④ 磨耗	部位	
		範囲	全面・環状・帯状・部分・単独など連続性の有無、水平・非水平
		頻度	極度の摩耗、普通の摩耗、弱い摩耗
		方向・順序	
付着痕跡	⑤ 付着物	内容	煤、こげ、炭化物、漆、粘土、編物痕、シミ、汚れなど
		部位	
		範囲	全面・環状・帯状・部分・単独など連続性の有無、水平・非水平
		頻度	多い～少ない
		取れ具合	取れた範囲、頻度、要因
	⑥ 文字 記号	記入方法	墨書(黒墨、朱墨)・漆書・刻書・印刻など
		記入内容	文字・文字様・記号・記号様など
		記入部位 大きさ	
		筆法、筆原体	
		摩耗具合	取れた範囲・頻度・要因、摩耗など記入後の使用状況の確認
⑦ 色調の変化 堅さの変化		色調の変化	変化の部位・範囲、変化の要因（煮炊きなど）
		堅さの変化	変化の部位・範囲、変化の要因（煮炊きなど）
⑧ 出土状況			

第９表　土器に見られる使用段階以降の痕跡

（〔川畑1999〕を転載）

⑭焼成：陶器は焼成の具合を記入した。「酸硬」は酸化硬質、「酸軟」は酸化軟質、「環硬」は環元硬質、「環軟」は環元軟質の略称である。施釉陶磁器は陶胎か磁胎かを記入した。土師器は表面と断面の色調が著しく異なるもの以外は、特に記入を行っていない。

⑮使用痕跡：一次的（本来的）使用による損傷（欠け・磨耗）や付着物の種類とその部位を記入した。「底」は底部の略称で、他は「その他の調整」の部位略称に従う。食膳具・貯蔵具の炭化物・煤などの付着は⑯転用痕跡に含めるべきかもしれないがここに含めた。一次的（本来的）使用と後述する二次的（本来的でない）使用の区別は明確でなく感覚的なもとなっている。

⑯転用痕跡：二次的（本来的でない）使用を行うための打ち欠き、割揃え、転用などの加工を記入した。

⑰備考：上記にあてはまらない特徴的な生産痕跡・消費痕跡などがあった場合は記入した。

Ｄ　遺　物　各　説（図版21）

青磁（1～6）　内面劃花文の碗（1・3）、同安窯系の外面に毛彫りの文様がみられる碗（2）、幅広・低

平の高台を持ち、高台内側・畳付が無釉の碗（4・5）、小皿（6）がある。

土師器皿（7～18・32～36）　A1類（7・8、11・13～19）・A2類（9・10・12）・B1類（32～35）・B2類（36）があり、Ａ１類が主体を占める。

土師器小皿（21～31・37～42）　A1類（20～25）・A2類（31）・A3類（26～28）・B1類（37・39・40）・B2類（38・41）があり、Ａ１類が主体を占める。

珠洲（43～57）　すり鉢（43～52）、壺Ｔ種（53・54）、壺Ｒ種（55）、甕（56・57）がある。52は吉岡編年［吉岡1994］のⅣ期、53は須恵器となる可能性が高い。他は、吉岡編年Ⅰ・Ⅱ期に納まるものであろう。

瓷器系陶器（58）　甕か壺の体部が出土している。

肥前系磁器（59・60）　見込み蛇ノ目釉剥ぎを行う皿（59）と、「くらわんか手」の碗（60）がある。

3　下 層 の 土 器

A　概　　要

古代の土器には須恵器杯蓋・有台杯・無台杯・折縁杯・無台碗・高杯・鉄鉢・鉢・長頸瓶・壺蓋・球胴壺広口壺・狭口壺・横瓶・中甕・小甕、土師器無台椀・有台皿・無台杯・小釜・長釜・鍋、黒色土器無台椀・有台皿などが確認できる。年代は『新潟県の考古学』の古代の土器編年［春日1999］のⅤ～Ⅵ期と考えられ、機能別の比率は口縁部残存率計測法で食膳具67.2％、貯蔵具2.3％、煮炊具30.4％であり、食膳具が半数以上を占めるが、煮炊具も定量存在する（第10表）。食膳具の組成は、口縁部残存率計測法で須恵器（Ａ群：新津産）21.5％、須恵器（Ｃ群：阿賀北産）2.8％、須恵器（Ｂ群：小泊産）30.8％、須恵器（その他）2.2％、土師器38.5％、黒色土器3.4％であり、土師器と須恵器（Ｂ群）が拮抗し、須恵器（Ａ群）がこれに次ぐ（第13表）。７区と８区で食膳具の組成に差があり、７区は須恵器が主体だが、８区は土師器・黒色土器が定量確認できる（第11・12表）。

種類	器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器	杯蓋	841	337	4.0%	0.6%
須恵器	有台杯	1057	531	5.0%	1.0%
須恵器	折縁杯	55	20	0.3%	0.0%
須恵器	無台杯	6200	3501	29.4%	6.7%
須恵器	無台杯か有台杯	8	119	0.0%	0.2%
須恵器	無台椀	6	13	0.0%	0.0%
須恵器	高杯	8	1	0.0%	0.0%
須恵器	鉄鉢･鉢	12	2	0.1%	0.0%
土師器	無台杯	219	178	1.0%	0.3%
土師器	有台椀	12	14	0.1%	0.0%
土師器	無台椀	5209	9015	24.7%	17.3%
土師器	有台皿	41	21	0.2%	0.0%
土師器	高杯	5	2	0.0%	0.0%
土師器	鉄鉢	4	1	0.0%	0.0%
黒色土器	有台椀	0	5	0.0%	0.0%
黒色土器	無台椀	473	656	2.2%	1.3%
黒色土器	有台皿	6	1	0.0%	0.0%
食膳具　計		14156	14417	67.2%	27.7%
須恵器	壺・瓶類	307	576	1.5%	1.1%
須恵器	甕	154	1356	0.7%	2.6%
須恵器	小甕	17	9	0.1%	0.0%
須恵器	壺･瓶類か甕	13	13	0.1%	0.0%
貯蔵具　計		491	1954	2.3%	3.7%
土師器	長釜	1607	2990	7.6%	5.7%
土師器	小釜	2270	14435	10.8%	27.7%
土師器	鍋	759	746	3.6%	1.4%
土師器	台付鍋	5	1	0.0%	0.0%
土師器	長釜か鍋	1767	17389	8.4%	33.4%
土師器	甑	5	1	0.0%	0.0%
煮炊具　計		6413	35562	30.4%	68.2%
土師器	小釜か椀類	5	204	0.0%	0.4%
総　計		21065	52137	100.0%	100.0%

第10表　下層の土器

B　分　　類

土器の種類（須恵器・土師器・黒色土器）・器形により大まかな分類を行い、須恵器杯類、土師器・黒色土器・無台碗については法量で細分した（第14図）。須恵器貯蔵具については、北野博司氏の分類［北野1999］を用いた（第15図上段）。煮炊具は器種による大まかな分類しか行っていない（第15図下段）。

種類	器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器	杯蓋	363	170	7.2%	1.3%
須恵器	有台杯	343	153	6.8%	1.2%
須恵器	折縁杯	53	14	1.1%	0.1%
須恵器	無台杯	2029	1148	40.3%	8.8%
須恵器	無台杯か有台杯	4	9	0.1%	0.1%
須恵器	無台椀	2	4	0.0%	0.0%
須恵器	高杯	8	1	0.2%	0.0%
須恵器	鉄鉢・鉢	12	2	0.2%	0.0%
土師器	無台杯	2	6	0.0%	0.0%
土師器	有台椀	0	3	0.0%	0.0%
土師器	無台椀	533	1440	10.6%	11.0%
黒色土器	無台椀	19	33	0.4%	0.3%
食膳具　計		3368	2983	67.0%	22.7%
須恵器	壺・瓶類	156	231	3.1%	1.8%
須恵器	甕	52	542	1.0%	4.1%
須恵器	壺･瓶類か甕	13	9	0.3%	0.1%
貯蔵具　計		221	782	4.4%	6.0%
土師器	長釜	339	750	6.7%	5.7%
土師器	小釜	467	3560	9.3%	27.1%
土師器	鍋	254	320	5.1%	2.4%
土師器	長釜か鍋	377	4683	7.5%	35.7%
煮炊具　計		1437	9313	28.6%	71.0%
土師器	小釜か椀類	3	37	0.1%	0.3%
総　計		5029	13115	100.0%	100.0%

第11表　7区下層の土器

種類	器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器	杯蓋	463	155	3.0%	0.4%
須恵器	有台杯	713	372	4.6%	1.0%
須恵器	折縁杯	2	6	0.0%	0.0%
須恵器	無台杯	4003	2246	25.8%	6.0%
須恵器	無台杯か有台杯	4	22	0.0%	0.1%
須恵器	無台椀	4	9	0.0%	0.0%
土師器	無台杯	176	134	1.1%	0.4%
土師器	有台椀	41	21	0.3%	0.1%
土師器	無台椀	4582	7359	29.5%	19.7%
土師器	有台皿	12	10	0.1%	0.0%
土師器	高杯	5	2	0.0%	0.0%
土師器	鉄鉢	4	1	0.0%	0.0%
黒色土器	有台椀	0	5	0.0%	0.0%
黒色土器	無台椀	451	608	2.9%	1.6%
黒色土器	有台皿	6	1	0.0%	0.0%
食膳具　計		10466	10951	67.4%	29.3%
須恵器	壺･瓶類	151	333	1.0%	0.9%
須恵器	甕	116	803	0.7%	2.2%
須恵器	壺･瓶類か甕	0	9	0.0%	0.0%
貯蔵具　計		267	1145	1.7%	3.1%
土師器	長釜	1235	2205	8.0%	5.9%
土師器	小釜	1754	10423	11.3%	27.9%
土師器	鍋	482	403	3.1%	1.1%
土師器	長釜か鍋	1311	12186	8.4%	32.6%
土師器	甑	5	1	0.0%	0.0%
煮炊具　計		4787	25218	30.8%	67.5%
土師器	小釜か椀類	2	29	0.0%	0.1%
総　計		15522	37343	100.0%	100.0%

第12表　8区下層の土器

器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器Ａ群	3102	1498	21.9%	10.4%
須恵器Ｂ群	4370	2708	30.8%	18.8%
須恵器Ｃ群	403	147	2.8%	1.0%
須恵器Ｄ群	312	42	2.3%	0.3%
須恵器計	8187	4395	58.1%	30.5%
土師器	5490	9360	38.8%	64.9%
黒色土器	479	662	3.4%	4.6%
総計	14156	14417	100.0%	100.0%

第13表　下層の食膳具

食膳具

須恵器杯蓋：有台杯につく蓋。12～14cm前後のものをⅠ、口径15～17cm前後のものをⅡとした。

須恵器有台杯：杯のうち高台のつくもの。口径10～11cm・器高5～7cm前後のものをⅠ、口径11～14cm・器高4cm前後のものをⅡ、口径15～17cm・器高5～7cm前後のものをⅢとした。

須恵器無台杯：杯のうち高台を持たないもの。口径12～13cm前後のものをⅠ、口径14cm前後のものをⅡとした。

須恵器無台椀：体部から口縁部にかけて内彎し、底径が小さいものを無台杯と区別し無台椀とする。底部は回転糸切りとなる。

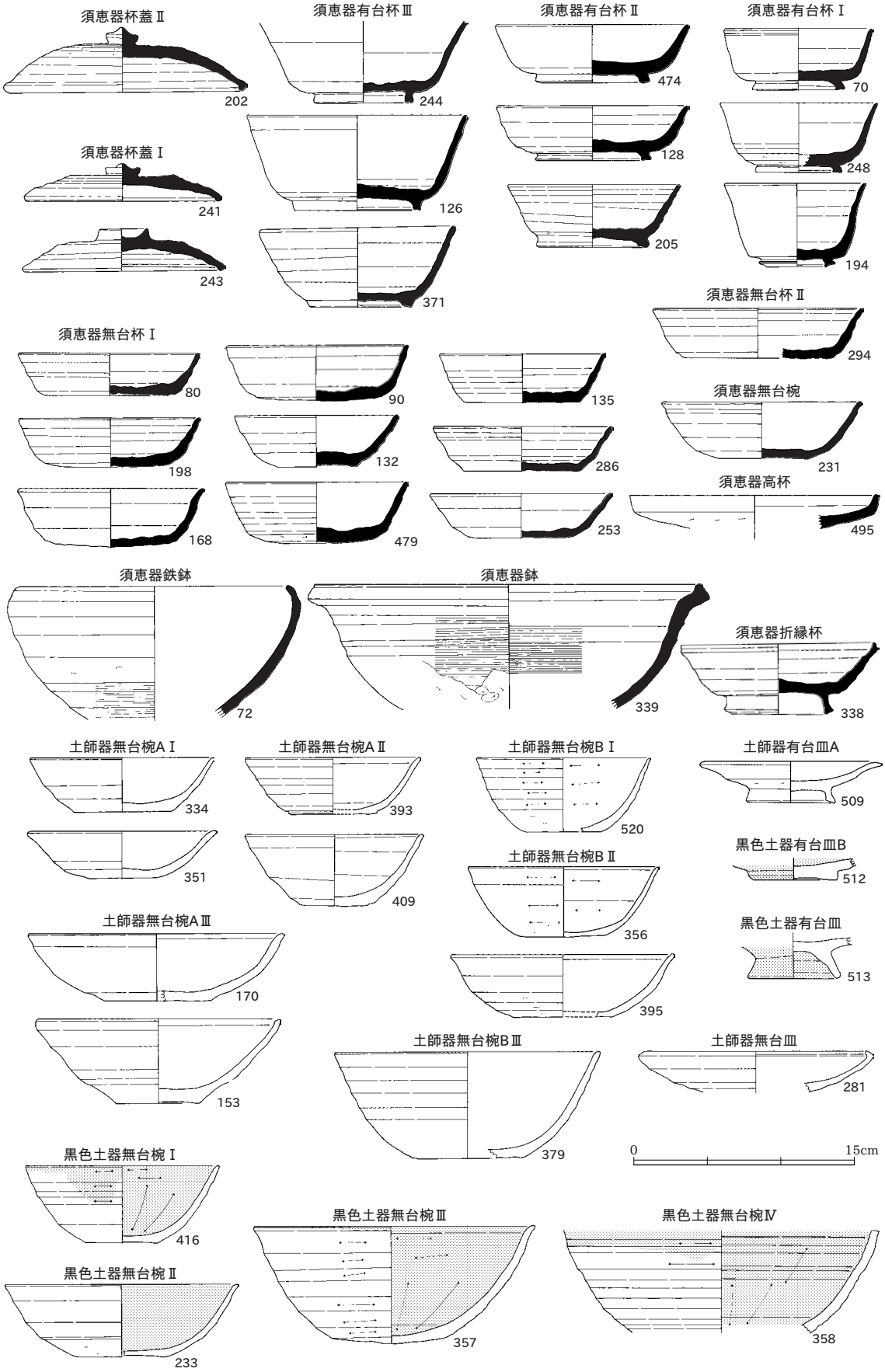
須恵器折縁杯：有台杯のうち、杯蓋のように屈曲する口縁端部を持つもの。

土師器無台椀：須恵器無台椀と同様に体部から口縁部にかけて内彎し、底径が小さいものを無台杯と区別し無台椀とする。底部・体部・口縁部のいずれかに再調整（ロクロケズリ・手持ちケズリ・ヘラミガキなど）を行うＢ類と行わないＡ類に大別した。無台椀Ｂ類と黒色土器の内面が酸化したものとの区別は、底部外面の棒状黒斑の有無で判断した（第Ⅶ章-2参照）。また、口径12～13cm前後のものをⅠ、口径14～16cm前後のものをⅡ、口径17～20cm前後のものをⅢ、口径20cmを越えると思われるものをⅣとする。

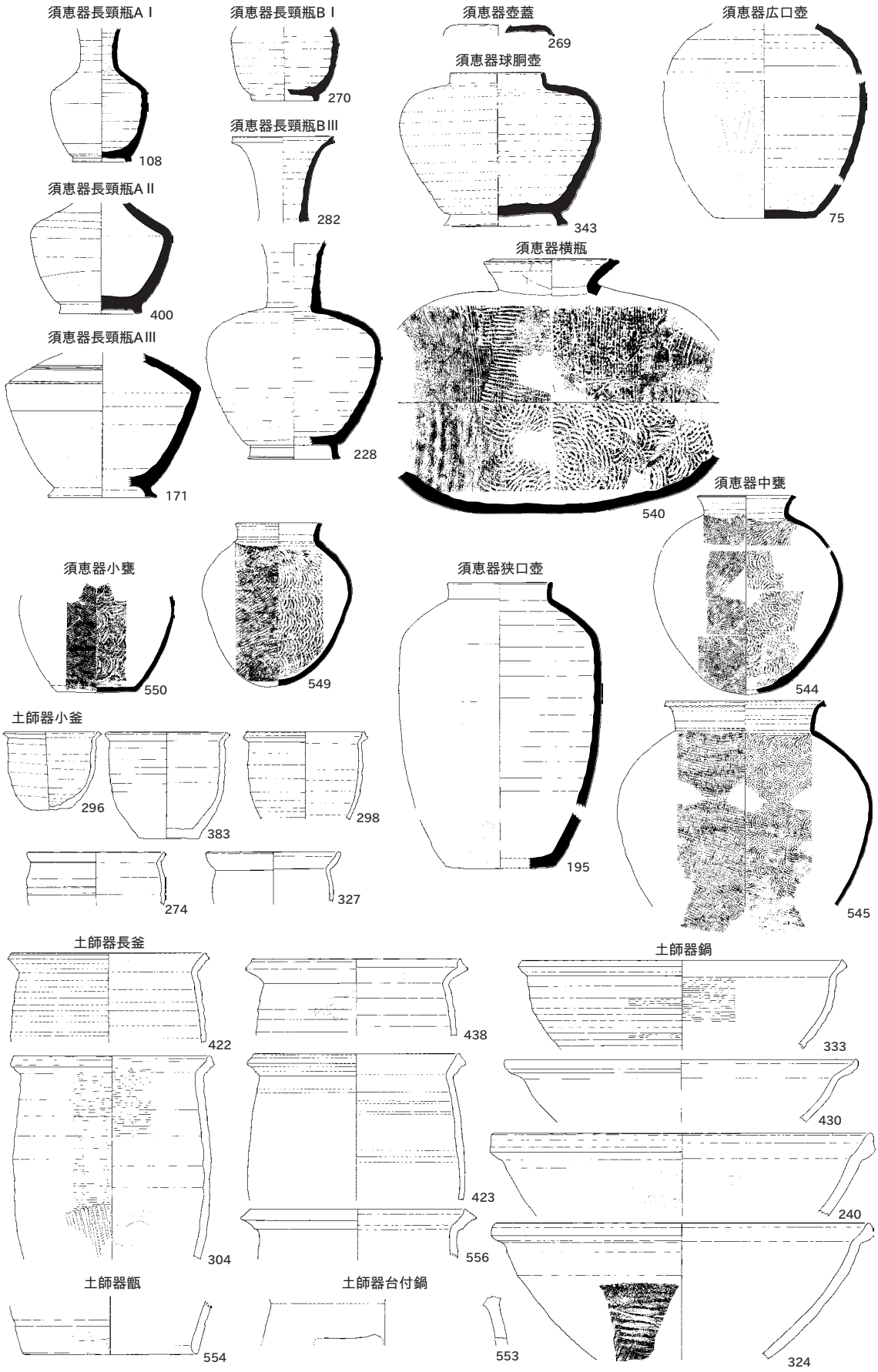
黒色土器無台椀：土師器無台椀に準じた法量による細分を行った。

土師器・黒色土器有台皿：輪高台のものをＡ類、削り出しの柱状高台のものをＢ類とする。

土師器無台皿：口縁端部が屈曲する皿（281）は、



第14図　古代土器器種分類（1）



第15図　古代土器器種分類（2）

横越町上郷遺跡（310）［春日ほか1997］や和島村門新外割田遺跡（14）［田中1996］などの事例から、無台皿と考えた。

貯蔵具

須恵器長頸瓶：肩部に稜を持つものをＡ類、なで肩のものをＢ類とし、最大径10cm前後のものをⅠ、最大径15cm前後のものをⅡ、最大径20cm前後のものをⅢとした。

須恵器壺類：「瓶」に比べ短い口縁部を持つものを「壺」とする。短胴で肩部が張り、比較的広い口縁部をもつものを**球胴壺**、やや長胴でなで肩となり比較的広い口縁部を持つものを**広口壺**、長胴・なで肩で狭い口縁部を持つものを**狭口壺**とする。

須恵器甕：器高・最大径とも40cm前後かそれ以下のものを**小甕**、器高・最大径とも50～60cm前後のものを**中甕**とする。

煮炊具

器高より口径が小さいものを**釜**、器高より口径が大きいものを**鍋**とし［宇野1992］、釜は小型で平底の**小釜**と、大型で丸底の**長釜**に分ける。このほか量的には少ないが、**台付き鍋**、**甑**などがある。口縁端部の形態による細分を試みたが、成しえなかった。

釜は従来「甕（型土器）」と呼ばれてきたものであり、研究史的には適切でないかもしれないが、計量的な分析を行う際に須恵器甕と混乱をきたさないため、「釜」という呼称を便宜的に用いる。機能と名称を一致させることが目的ではない。機能的には長釜と鍋はともに湯沸し用の釜と考えられ、小釜は汁物を煮る鍋であろう［坂井1989］。

C 観 察 表

上層（本章2-C）に準じた項目を立てた。以下で触れないものは、上層と同じである。

種類：須恵器・土師器・黒色土器などを記入した。両面黒色土器は両黒土器とした。

器種：本節Ｂの器種分類に対応した器種を記入した。

胎土：須恵器は第14表に示した分類を記入した。土師器・黒色土器は胎土中に含まれる小礫・鉱物・化石などを記入した。小礫・鉱物・化石の略称は上層に同じ。

底径：底径と切り離し径が大きく異なる場合は両者を併記した。「底」が底径、「切」が切り離し径の略称である。高台のあるものは、上層に同じ。

降灰・黒化：杯蓋の依存状態の良好なものは第16図の分類を記入した。

焼成：土師器は上層に同じ。須恵器は上層の陶器に準じた記入を行った。

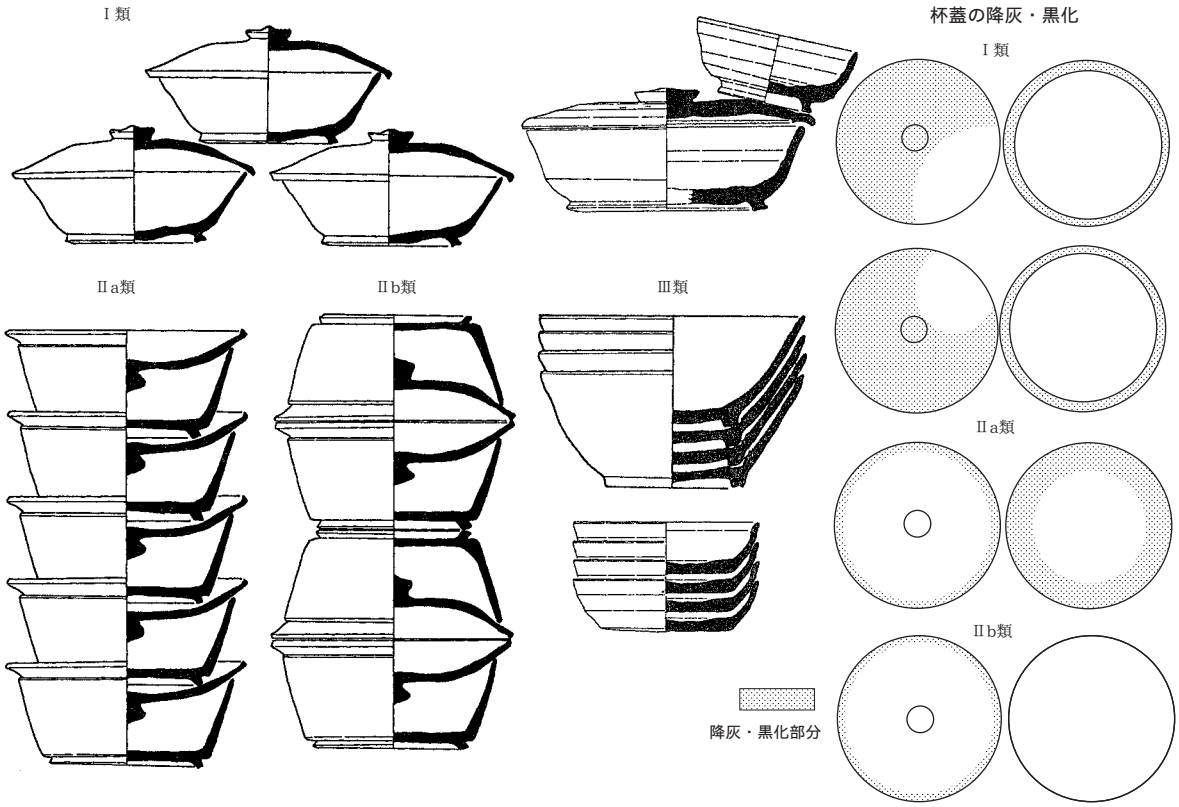
使用痕跡：上層に準じるが、墨書もこれに含めた。

胎土	特徴
Ａ類	素地は粘土質が強い。1mm前後の石英・長石粒を定量含む。生産地は新津丘陵窯跡群の可能性が高い。
Ｂ類	素地は砂質が強い。混入物の少ない精白な胎土のものが多いが、1mm以下の白色粒子を多量に含むものもある。生産地は佐渡小泊窯跡群産の可能性が高い。
Ｃ類	素地は粘土質が強い。石英・長石を多量に含む。雲母が含まれる場合もある。笹神丘陵などを中心とした阿賀北地域で造られた須恵器の可能性が高い。
Ｄ類	上記以外のものを一括した。

第14表　須恵器胎土の特徴

D 遺 物 各 説

器種構成比率・食膳具の構成比率を中心に記述する。土器群の年代は『新潟県の考古学』の古代の土器編年［春日1999］に対応した時期区分を示した。詳細は第Ⅶ章-1を参照していただきたい。



第16図　杯蓋・有台杯の重ね焼分類

7下SK134（図版22　61～78、第15・16表）

破片数で165片、口縁部残存率計測法で225/36個体の遺物が出土した。須恵器杯蓋3点、同有台杯3点、同無台杯5点、同鉢1点、同広口壺1、土師器長釜1点、同小釜1点、同鍋3点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具92.4％、煮炊具7.6％で食膳具が大半を占め、他のものは少ない。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器（A群）79.8％、須恵器（C群）6.7％、須恵器（B群）13.5％であり、土師器・黒色土器は出土していない。須恵器（A群）が多い。Ⅴ1期の良好な資料と考える。

8下SK43（図版23　84～102、第17・18表）

破片数で541片、口縁部残存率計測法で469/36個体の遺物が出土した。須恵器杯蓋1点、同有台杯3点、同無台杯7点、同球胴壺1点、同甕1点中甕、土師器無台椀1点、同長釜2点、同小釜2点、同鍋1点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具73.6％、貯蔵具4.1％、煮炊具22.4％で食膳具が多いが、煮炊具も定量存在する。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器（A群）44.3％、須恵器（B群）12.2％、須恵器（C群）11.9％、須恵器（D群）11.0％、土師器20.6％であり、須恵器

種類	器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器	杯蓋	54	21	24.0%	12.7%
須恵器	有台杯	36	5	16.0%	3.0%
須恵器	無台杯	110	24	48.9%	14.5%
須恵器	鉄鉢・鉢	8	1	3.6%	0.6%
食膳具　計		208	51	92.4%	30.9%
須恵器	甕	0	16	0.0%	9.7%
貯蔵具　計		0	16	0.0%	9.7%
土師器	長釜	4	3	1.8%	1.8%
土師器	小釜	6	36	2.7%	21.8%
土師器	鍋	6	10	2.7%	6.1%
土師器	長釜か鍋	1	49	0.4%	29.7%
煮炊具　計		17	98	7.6%	59.4%
総　計		225	165	100.0%	100.0%

第15表　7下SK134出土土器の器種構成比率

器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器B群	28	10	13.5%	19.6%
須恵器A群	166	29	79.8%	56.9%
須恵器C群	14	12	6.7%	23.5%
須恵器計	208	51	100.0%	100.0%
総計	208	51	100.0%	100.0%

第16表　7下SK134食膳具構成比率

種類	器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器	杯蓋	32	9	6.8%	1.7%
須恵器	有台杯	55	16	11.7%	3.0%
須恵器	無台杯	187	47	39.9%	8.7%
須恵器	有台杯か無台杯	0	1	0.0%	0.2%
土師器	無台椀	71	97	15.1%	17.9%
食膳具　計		345	170	73.6%	31.4%
須恵器	壺・瓶類	19	4	4.1%	0.7%
須恵器	甕	0	3	0.0%	0.6%
貯蔵具　計		19	7	4.1%	1.3%
土師器	長釜	18	37	3.8%	6.8%
土師器	小釜	63	148	13.4%	27.4%
土師器	鍋	6	7	1.3%	1.3%
土師器	長釜か鍋	18	172	3.8%	31.8%
煮炊具　計		105	364	22.4%	67.3%
総　計		469	541	100.0%	100.0%

第17表　8下SK43出土土器の器種構成比率

器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器Ｂ群	42	28	12.2%	15.6%
須恵器Ａ群	153	32	44.3%	18.8%
須恵器Ｃ群	41	8	11.9%	4.7%
須恵器Ｄ群	38	5	11.0%	2.9%
須恵器計	274	73	79.4%	42.9%
土師器	71	97	20.6%	57.1%
総計	345	170	100.0%	100.0%

第18表　8下SK43食膳具構成比率

種類	器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器	杯蓋	19	5	3.3%	0.8%
須恵器	有台杯	26	16	4.5%	2.6%
須恵器	無台杯	287	86	50.1%	13.9%
須恵器	有台杯か無台杯	0	1	0.0%	0.2%
土師器	有台椀	12	3	2.1%	0.5%
土師器	無台椀	140	137	24.4%	22.1%
食膳具　計		484	248	84.5%	40.1%
須恵器	壺・瓶類	0	2	0.0%	0.3%
貯蔵具　計		0	2	0.0%	0.3%
土師器	長釜	29	61	5.1%	9.9%
土師器	小釜	47	171	8.2%	27.6%
土師器	鍋	6	6	1.0%	1.0%
土師器	長釜か鍋	7	131	1.2%	21.2%
煮炊具　計		89	369	15.5%	59.6%
総　計		573	619	100.0%	100.0%

第19表　8下SD40出土土器の器種構成比率

器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器Ｂ群	218	68	45.0%	27.4%
須恵器Ａ群	114	36	23.6%	14.5%
須恵器Ｃ群	9	4	1.9%	1.6%
須恵器Ｄ群	0	0	0.0%	0.0%
須恵器計	332	108	68.5%	43.5%
土師器	152	140	31.5%	56.5%
黒色土器	0	0	0%	0%
総計	484	248	100.0%	100.0%

第20表　8下SD40食膳具構成比率

（Ａ群）が多く、他のものは10％前後である。Ｖ１期の良好な資料と考える。

8下SD40（図版23　123～158、第19・20表）

破片数で619片、口縁部残存率計測法で573/36個体の遺物が出土した。須恵器杯蓋３点、同有台杯６点、同無台杯13点、同球胴壺１点、土師器無台椀８点、同長釜２点、同小釜１点、黒色土器無台椀２点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具84.5％、煮炊具15.5％で食膳具が多いが、煮炊具も定量存在する。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器（Ａ群）23.6％、須恵器（Ｃ群）1.9％、須恵器（Ｂ群）45.0％、土師器31.5％であり、須恵器（Ｂ群）が半数近くを占めるが、土師器・須恵器（Ａ群）も20～30％前後存在する。後述するＶ２期を中心とする資料と考えるが、須恵器（Ｂ群）有台杯・無台杯などの形態には多様性があり、土師器無台椀（145・147・149～154）は深身のものが多い。新しい時期の遺物を定量含む可能性が高い。

8下SE205（図版24・43　159～171・640～644、第21・22表）

破片数で136片、口縁部残存率計測法で242/36個体の遺物が出土した。須恵器有台杯３点、同無台杯９点、同長頸瓶１点、土師器無台椀２点、同小釜２点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具95.0％、貯蔵具1.7％、煮炊具3.3％で食膳具が多い。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器（Ａ群）6.1％、須恵器（Ｃ群）30.4％、須

種類	器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器	有台杯	59	5	24.4%	3.7%
須恵器	無台杯	160	36	66.1%	26.5%
土師器	無台椀	11	44	4.5%	32.4%
食膳具　計		230	85	95.0%	62.5%
須恵器	壺・瓶類	0	2	0.0%	1.5%
須恵器	甕	4	5	1.7%	3.7%
貯蔵具　計		4	7	1.7%	5.1%
土師器	長釜	8	22	3.3%	16.2%
土師器	小釜	0	8	0.0%	5.9%
土師器	長釜か鍋	0	14	0.0%	10.3%
煮炊具　計		8	44	3.3%	32.4%
総　計		242	136	100.0%	100.0%

第21表　8下SE205出土土器の器種構成比率

器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器Ｂ群	135	34	58.7%	40.0%
須恵器Ａ群	14	4	6.1%	4.7%
須恵器Ｃ群	70	3	30.4%	3.5%
須恵器計	219	41	95.2%	48.2%
土師器	11	44	4.8%	51.8%
総計	230	85	100.0%	100.0%

第22表　８下SE205食膳具構成比率

恵器（Ｂ群）58.7％、土師器4.8％であり、須恵器（Ｂ群）が多い。須恵器（Ｂ群）無台杯の形態にはまとまりがあり、土師器無台椀（642）は、やや深身だが、底径は大きい。Ｖ２期の良好な資料と考える。

８下SD31（図版25　172～192、第23・24表）

破片数で127片、口縁部残存率計測法で264/36個体の遺物が出土した。須恵器有台杯４点、同無台杯４点、同長頸瓶１点、土師器無台椀３点、同長釜４点、同小釜５点、同鍋１点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具83.5％、煮炊具17.5％で食膳具が大半を占める。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器（Ａ群）58.3％、須恵器（Ｂ群）11.0％、土師器30.7％であり、須恵器（Ａ群）が多い。Ｖ２期を中心とする資料と考えるが、須恵器（Ｂ群）無台杯の形態には多様性があり、土師器無台椀にも底径が比較的大きいもの（181）と小さなもの（182）がある。新しい時期の遺物を定量含む可能性がある。

８下SK36（図版26　202～222、第25・26表）

破片数で524片、口縁部残存率計測法で860/36個体の遺物が出土した。須恵器杯蓋２点。同有台杯４点、同無台杯７点、土師器無台椀２点、同長釜６点、同小釜３点、同鍋１点、黒色土器無台椀１点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具64.5％、貯蔵具0.4％、煮炊具35.1％で食膳具が多いが煮炊具も定量存在する。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器（Ａ群）35.8％、須恵器（Ｂ群）36.7％、土師器20.4％、黒色土器7.1％であり、須恵器（Ａ群）と須恵器（Ｂ群）が多いが、土師器も定量確認できる。Ｖ２期を中心とする時期の資料と考えるが、須恵器（Ｂ群）無台杯には、薄手で体部の開

種類	器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器	杯蓋	25	2	9.6%	1.6%
須恵器	有台杯	76	8	28.8%	6.3%
須恵器	無台杯	50	6	19.7%	4.7%
土師器	無台椀	67	36	25.4%	28.3%
黒色土器	無台椀	0	1	0%	0.8%
食膳具　計		218	53	83.5%	41.7%
須恵器	壺・瓶類	0	2	0%	1.6%
須恵器	甕	0	1	0%	0.8%
貯蔵具計		0	3	0%	2.4%
土師器	長釜	38	18	14.4%	14.1%
土師器	小釜	2	12	0.8%	9.4%
土師器	鍋	5	2	1.9%	1.6%
土師器	長釜か鍋	1	39	0.4%	30.7%
煮炊具　計		46	71	17.5%	55.8%
総　計		264	127	100%	100%

第23表　８下SD31出土土器の器種構成比率

器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器Ｂ群	24	6	11.0%	11.3%
須恵器Ａ群	127	9	58.3%	17.0%
須恵器Ｄ群	0	1	0.0%	1.9%
須恵器計	151	16	69.3%	30.2%
土師器	67	36	30.7%	67.9%
黒色土器	0	1	0.0%	1.9%
総計	218	53	100.0%	100.0%

第24表　８下SD31食膳具構成比率

種類	器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器	杯蓋	69	4	13.2%	0.5%
須恵器	有台杯	31	12	5.9%	1.4%
須恵器	無台杯	145	55	27.6%	6.4%
土師器	無台椀	69	112	13.2%	13.0%
黒色土器	無台椀	24	16	4.6%	1.9%
食膳具計		338	199	64.5%	23.2%
須恵器	壺・瓶類	2	12	0.4%	1.4%
須恵器	甕	0	7	0%	0.8%
貯蔵具計		2	19	0.4%	2.2%
土師器	長釜	89	100	17.0%	11.6%
土師器	小釜	61	228	11.6%	26.5%
土師器	鍋	9	5	1.7%	0.6%
土師器	長釜か鍋	25	309	4.8%	35.9%
煮炊具計		184	642	35.1%	74.6%
総　計		524	860	100%	100%

第25表　８下SK36出土土器の器種構成比率

器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器Ｂ群	124	43	36.7%	21.6%
須恵器Ａ群	121	28	35.8%	14.1%
須恵器計	245	71	72.5%	35.7%
土師器	69	112	20.4%	56.3%
黒色土器	24	16	7.1%	8.0%
総計	338	199	100.0%	100.0%

第26表　８下SK36食膳具構成比率

きが大きいもの（214）もあり、新しい時期の遺物を含む可能性がある。

8下SK17（図版26　202～222　第26・27表）

破片数で509片、口部残存率計測法で265/36個体の遺物が出土した。須恵器無台杯3点、土師器無台椀1点、同長釜1点、同小釜5点、同鍋1点、黒色土器無台椀1点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具66.0％、貯蔵具1.5％、煮炊具32.4％で食膳具が多いが煮炊具も定量存在する。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器（A群）3.4％、須恵器（B群）28.0％、土師器62.3％、黒色土器6.3％であり、土師器が主体を占めるが、須恵器（B群）も定量存在する。Ⅵ1期の資料と考えるが、食膳具の数が少なく、確実性に欠ける。

8下SD21（図版27　241～284、第28・29表）

破片数で1314片、口縁部残存率計測法で692/36個体の遺物が出土した。須恵器杯蓋3点、有台杯6点、無台杯6点、土師器無台椀11点、同長釜2点、同小釜5点、同鍋2点、黒色土器無台椀2点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具68.6％、貯蔵具1.9％、煮炊具29.5％で食膳具が多いが煮炊具も定量存在する。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器（A群）25.1％、須恵器（C群）1.3％、須恵器（B群）17.1％、土師器49.5％、黒色土器7.1％であり土師器が多いが、須恵器（A群）、須恵器（B群）も定量存在する。Ⅵ1期を中心とする時期の資料と考えるが、古い時期の遺物を相当数含んでいる可能性が高い。

8下SK44（図版28　285～291、第30・31表）

破片数で340片、口縁部残存率計測法で176/36個体の遺物が出土した。須恵器無台杯5点、土師器長釜1点、同小釜1点、同鍋1点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具71.6％、貯蔵具0.6％、煮炊具27.8％で食膳具が多いが煮炊具も定量存在する。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器（A群）1.6％、須恵器（B群）67.5％、土師器31.0％、黒色土器0％であり、須恵器（B群）が主体を占めるが、土師器も定量存在する。出土点

種類	器種	口縁部残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器	杯蓋	0	1	0%	0.2%
須恵器	有台杯	5	2	1.9%	0.4%
須恵器	無台杯	50	27	18.9%	5.3%
土師器	無台椀	109	171	41.1%	33.6%
黒色土器	無台椀	11	19	4.1%	3.7%
黒色土器	有台椀	0	2	0%	0.4%
食膳具計		175	222	66.0%	43.6%
須恵器	甕	4	18	1.5%	3.5%
貯蔵具計		4	18	1.5%	3.5%
土師器	長釜	17	11	6.4%	2.1%
土師器	小釜	49	107	18.5%	21.0%
土師器	鍋	3	3	1.1%	0.6%
土師器	長釜か鍋	17	148	6.4%	29.1%
煮炊具計		86	269	32.4%	52.8%
総　計		265	509	100%	100%

第27表　8下SK17出土土器の器種構成比率

器種	口縁部残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器B群	49	17	28.0%	7.7%
須恵器A群	6	13	3.4%	5.9%
須恵器計	55	30	31.4%	13.5%
土師器	109	171	62.3%	77.0%
黒色土器	11	21	6.3%	9.5%
総計	175	222	100%	100%

第28表　8下SK17食膳具構成比率

種類	器種	口縁部残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器	杯蓋	50	12	7.2%	0.9%
須恵器	有台杯	39	35	5.6%	2.7%
須恵器	無台杯	117	89	16.9%	6.8%
土師器	無台杯	46	31	6.6%	2.4%
土師器	無台椀	186	202	26.9%	15.4%
土師器	有台皿	3	10	0.4%	0.8%
黒色土器	無台椀	34	35	4.9%	2.7%
食膳具　計		475	414	68.6%	31.5%
須恵器	壺･瓶類	0	6	0.0%	0.5%
須恵器	甕	13	35	1.9%	2.7%
貯蔵具　計		13	41	1.9%	3.1%
土師器	長釜	40	53	5.8%	4.0%
土師器	小釜	90	403	13.0%	30.7%
土師器	鍋	14	10	2.0%	0.8%
土師器	長釜か鍋	60	393	8.7%	29.9%
煮炊具　計		204	859	29.5%	65.4%
総　計		692	1314	100.0%	100.0%

第29表　8下SD21出土土器の器種構成比率

器種	口縁部残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器B群	81	62	17.1%	15.0%
須恵器A群	119	67	25.1%	16.2%
須恵器C群	6	7	1.3%	1.7%
須恵器計	206	136	43.5%	32.9%
土師器	235	243	49.5%	58.7%
黒色土器	34	35	7.1%	8.4%
総計	475	414	100.0%	100.0%

第30表　8下SD21食膳具構成比率

種類	器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器	有台杯	0	2	0.0%	0.6%
須恵器	無台杯	87	25	49.4%	7.4%
土師器	無台椀	39	67	22.2%	19.7%
食膳具　計		126	94	71.6%	27.6%
須恵器	甕	1	3	0.6%	0.9%
貯蔵具　計		1	3	0.6%	0.9%
土師器	長釜	0	30	0.0%	8.8%
土師器	小釜	31	104	17.6%	30.6%
土師器	鍋	5	10	2.8%	2.9%
土師器	長釜か鍋	13	99	7.4%	29.1%
煮炊具　計		49	243	27.8%	71.5%
総　計		176	340	100.0%	100.0%

第31表　８下SK44出土土器の器種構成比率

数はそれほど多くないが、須恵器（Ｂ群）無台杯は型式的にまとまりがあり、煮炊具も定量見られⅥ１期の良好なと考える。

８下SE27（図版30　344～370、第32・33表）

破片数で205片、口縁部残存率計測法で270/36個体の遺物が出土した。須恵器長頸瓶３点、土師器無台椀13点、同小釜５点、黒色土器無台椀６点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具89.6％、煮炊具10.3％で食膳具が多い。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器（Ｂ群）1.2％・土師器75.2％・黒色土器23.6％であり、土師器が主体を占める。須恵器食膳具の比率が非常に少ないが、浅身で底径が大きい土師器無台椀の形態などからⅥ１期の資料と考えた。

８下SK100（図版28　371～383、第34・35表）

破片数で645片、口縁部残存率計測法で269/36個体の遺物が出土した。須恵器有台杯１点、土師器無台椀８点・同有台皿１点・同長釜１点・同小釜２点・同鍋点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具72.1％、煮炊具27.9％で食膳具が多い。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器（A群）5.2％、須恵器（B群）25.2％、土師器63.9％、黒色土器5.7％であり、土師器が主体を占める。土師器が食膳具の大半を占める組成は８下SE27・８下SK14出土土器群と同じだが、土師器無台椀には深身で底径が小さいものが多いことから、これらに後続するⅥ２期の資料と考える。

器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器Ｂ群	85	24	67.5%	25.5%
須恵器Ａ群	2	3	1.6%	3.2%
須恵器計	87	27	69.0%	28.7%
土師器	39	67	31.0%	71.3%
黒色土器	0	0	0.0%	0.0%
総計	126	94	100.0%	100.0%

第32表　８下SK44食膳具構成比率

種類	器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器	有台杯	0	1	0%	0.5%
須恵器	無台杯	3	4	1.1%	2.0%
土師器	有台椀	0	1	0%	0.5%
土師器	無台椀	182	67	67.4%	32.7%
黒色土器	無台椀	57	32	21.1%	15.6%
食膳具計		242	105	89.6%	51.2%
須恵器	壺・瓶類	0	5	0%	2.4%
貯蔵具計		0	5	0%	2.4%
土師器	長釜	0	1	0%	0.5%
土師器	小釜	17	40	6.3%	19.5%
土師器	鍋	2	3	0.7%	1.5%
土師器	長釜か鍋	9	51	3.3%	24.9%
煮炊具計		28	95	10.3%	46.4%
総　計		270	205	100%	100%

第33表　８下SE27出土土器の器種構成比率

器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器Ｂ群	3	4	1.2%	3.8%
須恵器Ｄ群	0	1	0.0%	1.0%
須恵器計	3	5	1.2%	4.8%
土師器	182	68	75.2%	64.8%
黒色土器	57	32	23.6%	30.5%
総計	242	105	100.0%	100.0%

第34表　８下SE27食膳具構成比率

種類	器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器	杯蓋	0	1	0.0%	0.2%
須恵器	有台杯	45	10	16.7%	1.6%
須恵器	無台杯	12	7	4.5%	1.1%
須恵器	有台杯か無台杯	2	3	0.7%	0.5%
土師器	有台椀	0	3	0.0%	0.5%
土師器	無台椀	124	301	46.1%	46.7%
黒色土器	有台椀	0	2	0.0%	0.3%
黒色土器	無台椀	11	13	4.1%	2.0%
食膳具　計		194	340	72.1%	52.7%
須恵器	壺・瓶類	0	2	0.0%	0.3%
貯蔵具　計		0	2	0.0%	0.3%
土師器	長釜	7	16	2.6%	2.5%
土師器	小釜	59	191	21.9%	29.6%
土師器	長釜か鍋	9	96	3.3%	14.9%
煮炊具　計		75	303	27.9%	47.0%
総　計		269	645	100.0%	100.0%

第35表　８下SK100出土土器の器種構成比率

8下SK14（図版31　384～404、第36・37表）

破片数で272片、口縁部残存率計測法で272/36個体の遺物が出土した。須恵器有台杯1点・同無台杯2点・同長頸瓶3点・同横瓶1点、土師器無台椀13点・同小釜1点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具91.5％、貯蔵具0.7％、煮炊具7.7％で食膳具が多い。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器（新津産）4.0％、須恵器（小泊産）13.0％、土師器82.0％、黒色土器1.0％であり、土師器が主体を占める。須恵器食膳具の比率が非常に少ないが須恵器（B群）有台杯（385・386）の形態、浅身で底径が大きい土師器無台椀の形態などからⅥ1期の資料と考えた。

器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器B群	49	13	25.2%	3.8%
須恵器A群	10	8	5.2%	2.3%
須恵器計	59	21	30.4%	6.1%
土師器	124	304	63.9%	89.4%
黒色土器	11	15	5.7%	4.4%
総計	194	340	100.0%	100.0%

第36表　8下SK100食膳具構成比率

種類	器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器	杯蓋	5	2	1.8%	0.7%
須恵器	有台杯	6	3	2.2%	1.1%
須恵器	無台杯	31	6	11.4%	2.2%
土師器	無台杯	0	15	0.0%	5.5%
土師器	無台椀	204	120	75.0%	44.1%
黒色土器	無台椀	3	6	1.1%	2.2%
食膳具　計		249	152	91.5%	55.9%
須恵器	壺・瓶類	2	7	0.7%	2.6%
須恵器	甕	0	2	0.0%	0.7%
貯蔵具　計		2	9	0.7%	3.3%
土師器	長釜	8	26	2.9%	9.6%
土師器	小釜	5	37	1.8%	13.6%
土師器	鍋	3	11	1.1%	4.0%
土師器	長釜か鍋	5	37	1.8%	13.6%
煮炊具　計		21	111	7.7%	40.8%
総　計		272	272	100.0%	100.0%

第37表　8下SK14出土土器の器種構成比率

器種	口縁部 残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器B群	32	4	13%	2.6%
須恵器A群	10	7	4%	4.6%
須恵器計	42	11	17%	7.2%
土師器	204	135	82%	88.8%
黒色土器	3	6	1%	3.9%
総計	249	152	100%	100%

第38表　8下SK14食膳具構成比率

その他の遺構出土遺物　8下SD42（図版22　79～83：V期）、8下SD47（図版23　103～108：V期）、7下SK122（図版23　112～115：V期）、7下SK109（図版23　116～118：V期）、7下SK5（図版23　119～122：V期）、7下SK104（図版25　198～201：V期）、8下SE201（図版28　294～298：Ⅵ1期）、8下SD46（図版28　299～304：Ⅵ期）、8下SE201（図版28　294～298）、8下SD105（第28図　305～307：Ⅵ期）、7下SK132（第29図　334～339：Ⅵ期）、8下SK58（第31図　405～408：Ⅵ期）などから、時期的にもまとまりがあると思われる遺物が比較的多く出土している。なお、8下SD407（図版32　428～432）、8下SK34（図版33　452～455）、8下SK33（図版34　460・461）は平面図で遺構を確認できなかった。遺物の出土グリッドから8下SK33は8下SK43、8下SK34は8下SK39のラベルか註記の書き間違いの可能性が高い。

その他　261は胎土B群の壺蓋、447は胎土B群の球胴壺、550は胎土B群の平底となる小甕で、生産地を含めても類例が少ないものである。261・477は降灰状況から蓋を倒位に置いて焼成したと思われる。479は胎土B群の無台杯で底部外面から体部下半にかけてロクロケズリを行う。東海地方などに類例があり、佐渡小泊窯跡群でもK-402窯に類例がある。533は体部下半に湿台跡が残る。540は両面閉塞の横瓶で内面の当て具跡の状況から実測図の右側が製作段階初期の下側であったと思われる。547は焼成後底部付近に径約7cm前後の孔を穿つ。

4　土製品・石器・木器・金属器

土製品（図版38）

細型土錘（562～567）　10点出土しており、6点を図化した。重量は7～8g前後である。7下SK134から3点まとまって出土している。

太型土錘（588・569）　3点出土しており、残りのよい2点を図化した。568は8上SD1、569は下層出土。

羽口（570・571）　2点とも下層出土であり、直径約6～7cm前後になる可能性が高い。

土器片円盤（572～575）　土師器片を用いたもの（572）と須恵器有台杯底部を用いたもの（573～575）がある。572は側縁が磨耗するが、573～575には側縁の磨耗は見られない。

円筒形土製品（576・649）　天地逆の可能性もある。2点とも須恵器技法（ロクロナデ・カキメなど）を用いたものである。649は口縁部がすぼまる。

石　器（図版38・39）

砥石（577～592）　上層のもの（577・578・580～583）と下層のもの（579・584～542）がある。在地の凝灰岩・流紋岩などを用いたものが大半で、遠隔地系のものは確認していない。切石を素材としたと思われるもの（578・581・583など）のほかに自然礫を素材としたと思われるもの（577・582・592など）が確認できる。592は節理により破損した上・下側面を作業面として用いている。

凹石（593）　石材は軽石で、正裏面、上・下側面に凹部が正面、左右側面に磨り面が確認できる。

木　器（図版39～43、第39表）

8下SE206（595～608）　598・599・604～608は井戸側を構成する部材で他は覆土中の遺物と思われる。595は曲物側板、596は円形板で側面に木釘が確認できる。598・599は井戸側桟木であり、結合には目違い?を用いる。604～608は井戸側縦板で断面形などからから丸木舟を分割・転用したものと思われる。

8下SE205（609～621）　614・615・617～622は井戸側を構成する部材で他は覆土中の遺物と思われる。611は稜碗の口縁部破片と考えられ劣化が激しいため樹種同定・写真撮影ができなかった。614・615は井戸側桟木であり、結合には目違い?を用いる。617～622は井戸側の縦板で一端を薄くする加工を行う。

8下SE28（622～627）　図化した遺物はいずれも井戸側を構成する部材で622～626が縦板、627が水溜めである。図化しなかったが桟木と考えられる。芯持ち丸太材が縦板底面付近から出土している。縦板（622～626）はいずれも片面に加工痕があり、下端が釘となり先端が尖る。

金属器（図版43）

釘（629～631）　いずれも8下SK3から出土しており、下端を欠損する。

刀子（632～636）　632は木質部が残っており基部には釘が確認できる。土師器皿（36）が共伴しており、13～14世紀のものであろう。635・636は基部に釘穴が確認できる。

鎌（637・638）　ともに曲刃鎌と考えられる。637は上層、638は下層からの出土である。

その他（639）　横断面に彎曲が見られた事から容器と考えた。鉄鍋などの可能性が考えられる。

第Ⅵ章　木製品の樹種

1　方　　法

出土材から横断面・放射断面・接線断面の３断面について剃刀を用いて切り取り、ガムクロラール（アラビアゴム・抱水クロラール・グリセリン・蒸留水を混合したもの）で封入してプレパラートを作成した。検鏡は光学顕微鏡にて40－400倍で行い、現生標本との対照により同定を行った。なお、同定したプレパラートはNGT－の頭文字と通し番号を付してパレオ・ラボに保管されている。

2　結　　果

樹種同定の結果、計35点の木製品中には４分類群が認められた（第38表）。次に、検出された分類群の解剖学的記載を行うと共に、写真図版を付して同定の根拠とする。

スギ　Criptomeria japonica（L.f.）D.Don　スギ科（第17図　1a～1c）

仮道管と放射柔組織、及び樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急で、樹脂細胞はこの移行部分にかけて散在し、しばしば接線方向に配列する。また晩材部は量多く明瞭。分野壁孔はスギ型で大きく、１分野にふつう２個。

スギは高木になる常緑針葉樹である。現在ではいたるところに植栽されているが天然分布は降水量の多い地域に限られて点在し、特に東日本の日本海側に多く、湿地周辺や尾根沿い、谷沿いなどに生育する。材質は軽軟で保存性は中庸、割裂性・加工性に優れる。

ヤナギ属　Salix　ヤナギ科　（第18図　2a～2c）

小さな（直径約40－80μm）放射方向に伸びた丸い薄壁の導管が、ほぼ単独で密に分布する散孔材。導管の直径は年輪の始めと終わりで小さくなる傾向にある。導管の穿孔は単一。放射組織は単列異性で、導管と放射組織との壁孔は蜂の巣形のふるい状。

ヤナギ属には山地に生育する種や、河畔・湿地周辺に生育する種などが含まれ、また低木から高木になる種まで様々であるが、多くが向陽地の土壌の薄い適湿～湿潤で水はけの良い立地を好む。材質は軽軟で、加工は容易、耐久性は低い。

コナラ節　Quercus sect. Prinus　ブナ科　（第18図　3a～3c）

年輪の始めに大型（直径約180－220μm）の丸い道管が単独で年輪の始めに並び、そこから径を減じて晩材では小型（直径約20－50μm）でやや角張った道管が火炎状に配列する環孔材。木部柔組織はいびつな接線状で１－２列。道管の穿孔は単一で、道管内部にはチローシスが著しい。放射組織は単列同性であるが、大型の広放射組織が混在する。道管と放射柔細胞との壁孔は対列状、または柵状。

コナラ節には温帯下部～暖温帯に分布するコナラQuercus serrata Thunb. ex Murray、温帯上部～冷温帯に分布するミズナラQuercus crispula Blume、主に暖温帯の沿海地に多いカシワQuercus dentata Thunb. ex Murray、暖温帯に点在して分布するナラガシワQuercus aliena Blumeなどが含まれる。いずれも重硬で弾性を持つ材で、保存性は中庸、割裂・加工は難易であり、乾燥収縮に伴い割れが入りやす

No.	地区	グリッド	遺構	層位・No.	器種	長さ	幅	厚さ	樹種	木取り	時代	備考
594	8区		P 105		柱根	327	205	157	スギ	芯持？	9世紀	
595	8区	68D21	SE206	No.7	曲物側板	165	15	3.5	スギ	柾目	9世紀	
596	8区	68D21	SE206	No.12	円形板	226(直径)	173	9	スギ	柾目	9世紀	
597	8区	68D21	SE206		板材	247	213	19	スギ	板目	9世紀	
598	8区	68D21	SE206	No.8	角材	374	41	34	スギ	芯外し斜め	9世紀	
599	8区	68D21	SE206	No.8	角材	445	68	38	スギ	芯外し斜め	9世紀	
600	8区	68D21	SE206	No.9	板材	273	130	13	スギ	板目	9世紀	
601	8区	68D21	SE206	No.10	板材	176	121	12	スギ	板目	9世紀	
602	8区	68D21	SE206	No.11	板材	317	90	22	スギ	板目	9世紀	
603	8区	68D21	SE206	No.1	井戸側部材	550	203	20	スギ	柾目	9世紀	丸木船を転用
604	8区	68D21	SE206	No.2	井戸側部材	1011	249	34	スギ	板目	9世紀	丸木船を転用
605	8区	68D21	SE206		井戸側部材	664	254	51	カツラ属	板目	9世紀	丸木船を転用
606	8区	68D21	SE206	No.5	井戸側部材	890	284	60	スギ	板目	9世紀	丸木船を転用
607	8区	68D21	SE206	No.4	井戸側部材	624	425	46	カツラ属	板目	9世紀	丸木船を転用
608	8区	68D21	SE206		井戸側部材	983	335	66	スギ	板目	9世紀	丸木船を転用
609	8区	68D17･22	SE205	No.3	不明	138	51	30	コナラ節	半裁状	9世紀	
610	8区	68D17･22	SE205	No.5	板材	336	86	31	スギ	板目	9世紀	
611	8区	68D17･22	SE205		稜椀	219(口径)	-	-				
612	8区	68D17･22	SE205		板材	473	131	28	スギ	板目	9世紀	
613	8区	68D17･22	SE205		杭	108	54	54	ヤナギ属	芯持	9世紀	
614	8区	68D17･22	SE205	No.3	角材	659	36	40	スギ	芯外し	9世紀	
615	8区	68D17･22	SE205	No.5	板材	632	92	31	スギ	柾目	9世紀	
616	8区	68D17･22	SE205	No.6	井戸側部材	467	133	35	スギ	板目	9世紀	
617	8区	68D17･22	SE205	No.4	井戸側部材	924	115	15	スギ	板目	9世紀	
618	8区	68D17･22	SE205	No.4	井戸側部材	1234	297	28	スギ	板目	9世紀	
619	8区	68D17･22	SE205	No.4	井戸側部材	1218	255	13	スギ	板目	9世紀	
620	8区	68D17･22	SE205		井戸側部材	927	125	13	スギ	板目	9世紀	
621	8区	68D17･22	SE205	No.4	井戸側部材	812	96	10	スギ	板目	9世紀	
622	8区	68E3	SE18	No.6	井戸側部材	686	80	23	スギ	板目	9世紀	
623	8区	68E3	SE18	No.1	井戸側部材	603	183	35	スギ	板目	9世紀	
624	8区	68E3	SE18	No.2	井戸側部材	581	109	23	スギ	板目	9世紀	
625	8区	68E3	SE18	No.2	井戸側部材	532	140	17	スギ	板目	9世紀	
626	8区	68E3	SE18	No.16	井戸側部材	592	149	22	スギ	板目	9世紀	
627-1	8区	68E3	SE18		円形曲物側板	320～342 (口径)	310～324 (底径)	218 (高さ)	スギ	柾目	9世紀	井戸水溜め
627-2	8区	68E3	SE18		円形曲物箍	-	-	-	スギ	柾目	9世紀	井戸水溜め
628	8区	不明	不明		板材	203	179	80	スギ	板目	9世紀	

第39表　沖ノ羽遺跡Ｃ地区出土木製品の樹種同定結果

い。

カツラ属　Cercidiphyllum　カツラ科　（第18図　4a～4c）

小型（直径約50－70μm）の薄壁でやや角張った導管が密に分布する散孔材。導管の穿孔は階段状で20－30本程度。放射組織は異性で2－3列、上下端に直立細胞が顕著でしばしば数個連なる。

カツラ属の母植物はカツラが考えられる。カツラは高木になる落葉広葉樹で、河畔や渓畔などの適湿地にみられる。現在の新潟県の植物相からみるとカツラは稀な樹種である。

3　考　　察

木製品の器種別にみると、計17点の井戸側部材にはスギが15点見いだされ、スギが多用されていることがわかる（第39表）。スギは材が通直であり、また軟らかく加工・切削が容易で、また軽い材である割には強度があり、板材として適材であることから用いられたとみられる。井戸材にスギが多用される例は新保遺跡においても確認されている［松葉2001］。残りの2点はカツラ属であったが、井戸枠に軽軟

な広葉樹が見出されることは全国的にもしばしば認められ、おそらく軽軟な材は割裂性に優れるので板材への加工が容易であることが大きな要因であると推測される。遺構別にみると、SE205とSE28の井戸側部材はすべてスギから成っているが、SE206ではスギとカツラ属の２種類の材から成っていることがわかる。井戸建築材の部位によって樹種が使い分けされる例はあるが［例えば、高橋・橋本1995、松葉2001］、今回はすべて井戸側と考えられるので、SE206の井戸側が補修された際に異なる材が使用されたことも想定されよう。木取りでみると井戸側のほとんどが板目取りであり、強度に配慮した板材の加工が行われていたと考えられる。

角材・板材にはすべてスギが用いられており、井戸側と同様な材質への着目からスギが選択されたものとみられる。新潟県内のほぼ同時期の遺跡において板材にスギが多用されている例は、蔵ノ坪遺跡［パリノ・サーヴェイ株式会社2002］、城田遺跡［パリノ・サーヴェイ株式会社2001］、新保遺跡［松葉2001］などをはじめ多く確認されており、本遺跡の結果はこれらと調和的である。また、板材の木取りはほとんどが板目であり、強度を必要とする使用法を採っていた可能性が想定される。

柱根にもスギが見出された。県内における奈良・平安時代や中世の遺跡での柱根の樹種同定は比較的行われており、その結果多くの遺跡でクリが多用されている［例えば、川村1983、パリノ・サーヴェイ株式会社1997・2002、松葉2001、古環境研究所2002］。その他、トネリコ属やヤマグワが多用されている例もあり［パリノ・サーヴェイ株式会社2001］、したがって重硬な部類の材質でかつ大径の得やすい樹種が選択されているといえる。スギは上記の報告でも少ないながら見出されているものの、県内の諸遺跡で多用されているクリ・トネリコ属・ヤマグワといった樹種に比べれば軽軟である。今回の点数は1点でありどの程度全体の柱材の樹種構成を反映したものか明らかではないが、建物の使用法や利用者等の違い、遺跡の性格や周辺植生による違いを反映している可能性もある。

製品では曲物側板にスギが用いられていた。割裂性が良く薄板を挽くのに適し、また従曲性がある材特性から選択されたのであろう。木取りも薄板を挽くのに適する柾目取りである。このように曲物の用材としてスギが用いられるのは、新潟県内の他の遺跡でも類例がある［例えば、パリノ・サーヴェイ株式会社1994・2002］。しかしながら、一方で新保遺跡［松葉2001］や八反田遺跡［松葉2002］ではヒノキが多く、また城田遺跡［パリノ・サーヴェイ株式会社2001］や一之口遺跡東地区［パリノ・サーヴェイ株式会社2002］においても一部にヒノキが認められる。ヒノキは中部以北の日本海側には分布しない樹種で、現在の新潟県においても天然分布は認められない。八反田遺跡では櫛に関東南部以西に分布が限られるイスノキが［松葉2002］、蔵ノ坪遺跡では合子に新潟県内にはほとんど分布しないツゲが［パリノ・サーヴェイ株式会社2002］それぞれみいだされていることを考慮すると、この時代には木材あるいは製品そのものが流通していたと考えられ、ヒノキも他地域から木材や製品として搬入されたと考えられる。本遺跡では搬入と考えられる樹種は見出されておらず、近辺の花粉分析結果［金原1998・1999・2000］からも身近なスギの材が用いられたと推察されるが、これが時代的な差異によるものなのか、遺跡の性格によるものなのか今後検討を有するであろう。

杭にはヤナギ属が見出されたが、杭材は全国的に特定の樹種が用いられているということはなく多種多様な樹種が用いられる。また護岸杭材な

樹種／器種	井戸側部材	板材	角材	曲物側板	円形曲物側板	円形曲物箍	円形板	杭
スギ	15	8	3	1	1	1	1	
カツラ属	2							
コナラ節								
ヤナギ属								1
計	17	8	3	1	1	1	1	1

第40表　器種別の樹種構成

どではヤナギ属などの湿生の樹種が検出されることが多く、それゆえ近辺に生育していたも樹木から無操作的に木材を得ていたと想定されるが、今回検出されたヤナギ属の材もそのような範疇で捉えるのが妥当であると推測される。

全体の樹種構成でみると、スギをはじめヤナギ属・カツラ属・コナラ節といった河畔や渓畔に生育し得る樹種が検出されていることは、本遺跡の立地環境に対応した植生を良く反映しているものであるかもしれない。

（株式会社　パレオ・ラボ　三村　昌史）

引用文献

川村恵洋　1983　「曽根遺跡出土木材の識別」『新潟大学農学部演習林報告』16　75－82

金原正子　1998　「細池遺跡西地区における花粉分析」『細池遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会　39－45

金原正子　1999　「中谷内遺跡における花粉分析」『中谷内遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会　62－71

金原正子　2000　「川根遺跡における花粉分析」『川根遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会　35－48

古環境研究所　2002　「鴨侍遺跡出土木材の樹種同定」『荒川町埋蔵文化財発掘調査報告書第８集　鴨侍遺跡』新潟県　荒川町教育委員会39－40

パリノ・サーヴェイ株式会社　1994　「一之口遺跡東地区から出土した木質遺物及び種実遺体の同定」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第60集 一之口遺跡東地区（本文編）』新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団147－167

パリノ・サーヴェイ株式会社　1997　「岩田遺跡第２次調査における自然科学分析調査報告」『越路町文化財報告書第　21　岩田遺跡　第２次発掘調査報告書』越路町教育委員会　18－25

パリノ・サーヴェイ株式会社　2001　「城田遺跡の自然科学分析」『神林村埋蔵文化財報告第10集　城田遺跡（本文編）』新潟県岩船郡神林村教育委員会　山武考古学研究所　57－71

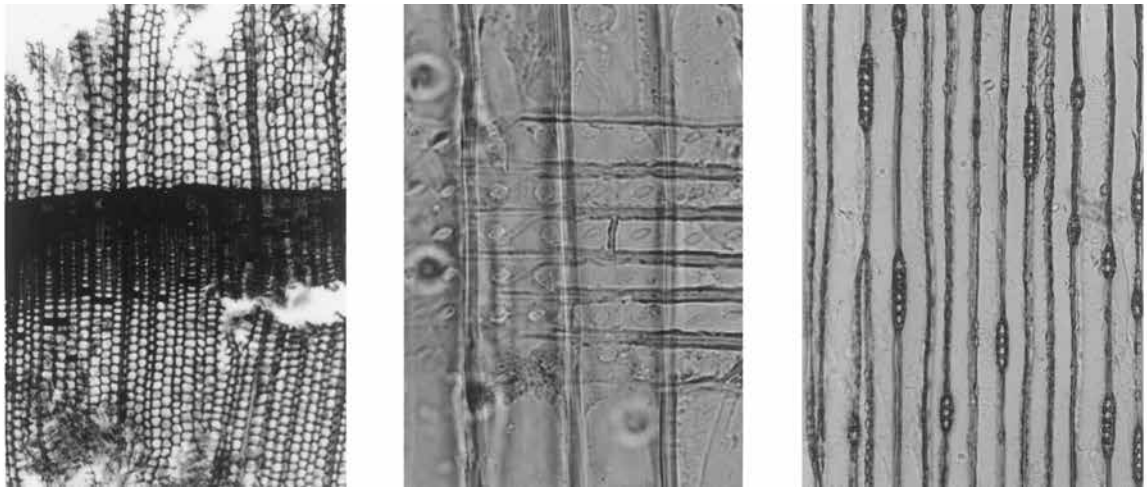
パリノ・サーヴェイ株式会社　2002　「蔵ノ坪遺跡から出土した木材の樹種」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第115集　蔵ノ坪遺跡』新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団　45－59

松葉礼子　2001　「新保遺跡出土木製品の樹種同定」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第103集　新保遺跡』新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団78－82

松葉礼子　2002　「木製品の樹種同定」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第110集　八反田遺跡・高畑遺跡（C地点・二期線）』新潟県教育委員会・新潟県埋蔵化財調査事業団78－82

高橋敦・橋本真紀夫　1995　「遺構建築材料の同定」『飯田町遺跡』飯田町遺跡調査会　467－480

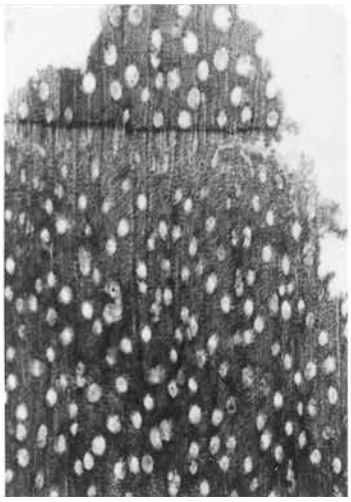
a:横断面　b:放射断面　c:接線断面



1a.スギ（599）　bar:1.0mm　　1b.同　bar:0.1mm　　1c.同　bar:0.4mm

第17図　木製品切片の光学顕微鏡写真（1）

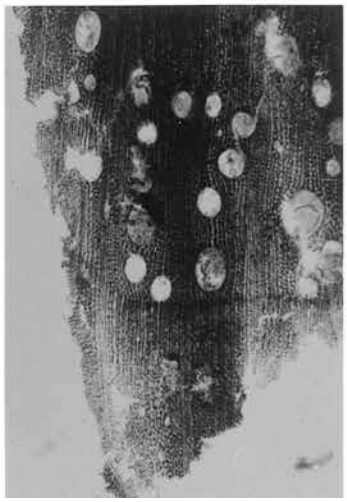
a:横断面　b:放射断面　c:接線断面



2a.ヤナギ属（613）　bar:1.0mm

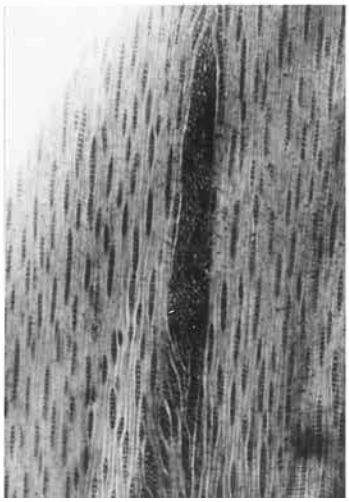
1b.同　bar:0.2mm

2c.同　bar:0.4mm

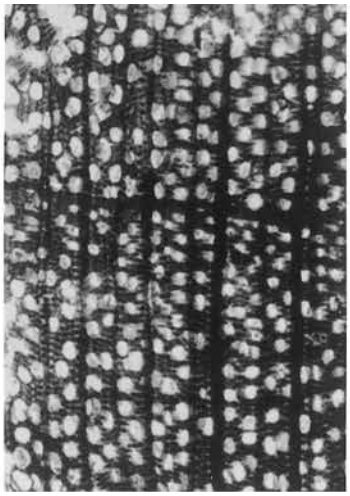


3a.コナラ節（609）　bar:1.0mm

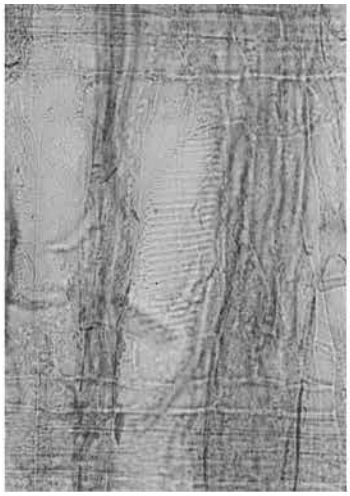
3b.同　bar:0.4mm



3c.同　bar:1.0mm



4a.カツラ属（607）　bar:1.0mm



4b.同　bar:0.2mm

4c.同　bar:0.4mm

第18図　木製品切片の光学顕微鏡写真（2）

第Ⅶ章　ま　と　め

1　土　器　編　年

A　上　　層（中世）

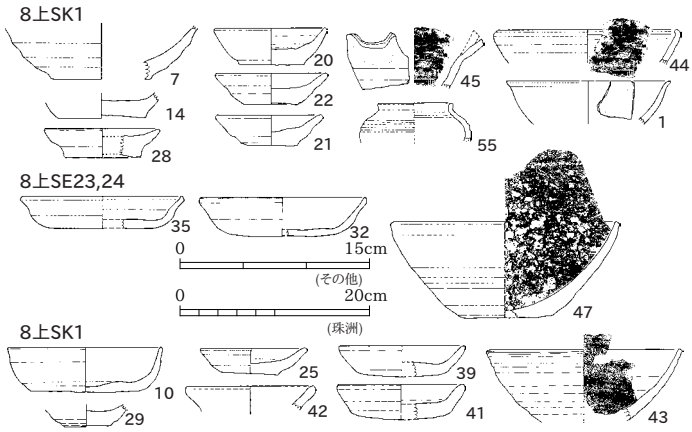
土師器皿・小皿について記述する。上層で、ある程度まとまって土師器皿・小皿を出土した遺構として、8上SD1、8上SE23・24、8上SK1がある（第19図）。

8上SD1からは土師器皿・小皿A1類、土師器小皿A3類が出土しており、8上SE23・24からは、土師器皿B1類が出土している。また8上SK1からは、土師器皿A2類、土師器小皿B2類が出土している。既存の編年［品田1991・1997・1999］に対応させれば、土師器皿・小皿A類が主体を占めB類が確認できない。8上SD1出土土器が8上SE23・24、8上SK1出土土器に先行するものと思われる。

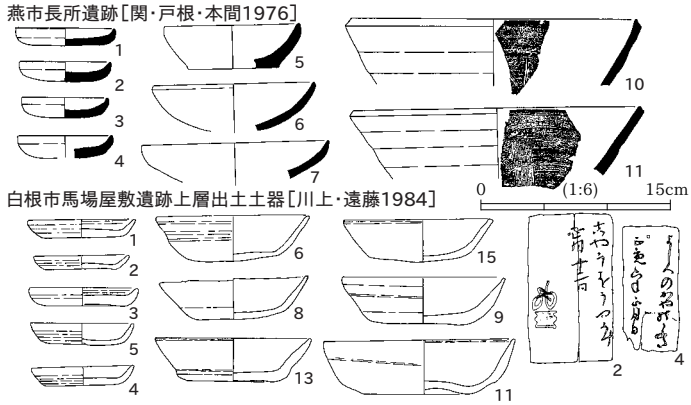
8上SE23・24出土土器と8上SK1出土土器の前後関係は同一系譜上の器種がなく比較が難しいが8上SE23・24出土土器が先行する可能性が高いと考えている。このことは燕市長所遺跡出土の土師器皿を介して考えると理解しやすい。長所遺跡からは第20図上段の土師器皿・小皿が出土しており、共伴した珠洲すり鉢は、Ⅱ期（13世紀前半）に限定できる。土師器皿・小皿には手づくね成形のものとロクロ成形のものがあり、手づくね成形の土師器皿（6・7）は薄手で口縁端部に面を持つ。体部にヨコナデによる稜はみられないが、この点を除けば8上SE23・24出土のもの（32・35）に類似する。一方ロクロ成形の皿（5）は、SK1出土のもの（7）よりは体部の立ち上がりが急だが、8上SK1出土のもの（10）と比較すると底径は小さく体部の立ち上がりはゆるい。従って長所遺跡出土土師器は8上SE23・24出土土師器と近接した時期と考えられ、8上SK1出土土師器はこれに後続する可能性が高い。

これらのことから、沖ノ羽遺跡出土土師器は以下のように変遷したと考えた。

1期：皿・小皿A1類、小皿A3類などにより構成される時期。当期に手づくね成形の皿・小皿が存在した可能性は高いが、実態は不明である。存在してもその数は少なかった



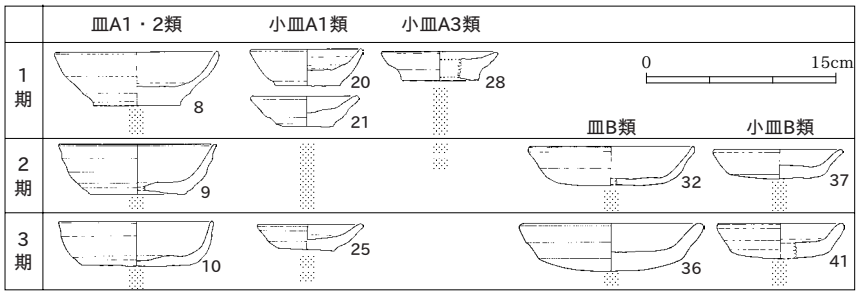
第19図　上層遺構出土の主な遺物



第20図　関連遺物

ものと考えられる。8上SD1出土土器などが当期の資料である。

2期：皿B1類が定量存在するようになる時期。長所遺跡の状況を参考にするならば、A2類のうち底径がやや小さい皿（9）、B1類の小皿（37など）も在した可能性が高い。8上SE23・24出土土器などが当期の資料と考えられる。



第21図　沖ノ羽遺跡C地区出土土師器皿の変遷案

3期：皿・小皿B2類が確認できるようになる時期。土師器皿A2類は引き続き確認できるが、2期に比べ底径が大きく、体部の立ち上がりも急である。小皿A1も確認できるが1期に比べ浅く底径が大きい。土師器皿B類の形態は、良好な共伴関係を持つ資料がなく不明であるが、2期のB1類（32・35）に後続する資料としてB2類（36）が考えられる。8上SK1出土土器などが当期の資料と考えられる。

土器の暦年代は以下のように考える。長所遺跡出土の珠洲すり鉢はⅡ期にほぼ限定でき、これと近接した時期と考えられる。従って2期は13世紀前半、これに先行する1期は12世紀後半、後続する3期は13世紀後半を中心とする時期を考えたい。

なお13世紀末頃の木簡を伴った白根市馬場屋敷下層出土の土師器皿には、A類（ロクロ成形）は確認できず、B類も36に比べ深身で口縁部のナデ幅が広い（第20図下段）。これらの要素はいずれも新しい要素と考えられ、このことからも3期の暦年代は支持される。

B 下　　層（古代）

7下SK134・8下SK43・8下SK36・8下SE205・8下SD41・8下SK31・8下SE27・8下SK14・8下SK100から、まとまった土器群が検出されている。以下ではこれらの資料を用い沖ノ羽遺跡C地区出土土器の変遷について記述する。時期区分は［春日1999］を用いる。

V　　期

須恵器B群（小泊産）が流入しはじめる時期。底部回転糸切りの土師器・黒色土器無台椀も、当期には組成として定着する。須恵器B群の型式変化は充分検討できていないが、須恵器A群の形態と須恵器B群、土師器無台椀の多少により2期に細分する。

V1期：食膳具の大半を須恵器A群が占めるがB群も少量確認できる。7下SK134・8下SK43が当期の資料と考えられる。食膳具に占めるA群とB群の比率は、口縁部残存率計測法で、7下SK134がA群79.8％、B群13.5％、8下SK43はA群44.3％、B群12.2％である。

須恵器A群（新津産）の杯蓋はⅠ・Ⅱがある。有台杯はⅠ・Ⅱが確認できる。有台杯Ⅲは杯蓋Ⅱが確認できることから、本来存在するものと思われるが良好な資料がない。無台杯はⅠのみ確認でき、器高2.7cm前後の浅いもの（89）、器高3cm前後のやや深身のもの（94）、器高3.3cm以上の深身のもの（65）がある。

須恵器B群は無台杯Ⅰ（69）・有台杯Ⅱ（64）のほか、幅広で外端接地の高台を持つ有台杯Ⅰ（87）、

擬宝珠型の摘みを持つ杯蓋（62）などが確認できる。

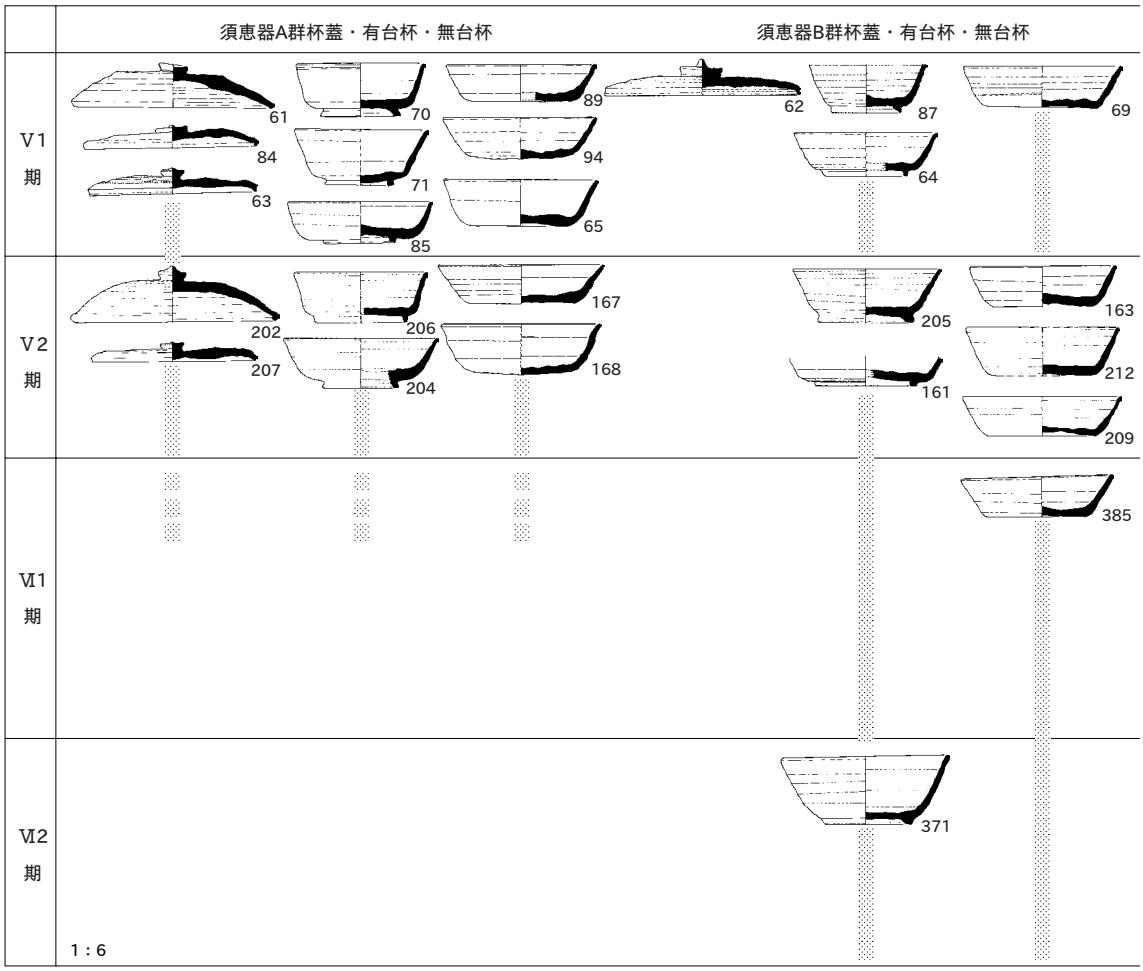
土師器食膳具は本来存在したと思われるが、良好な共伴例が無く詳細は不明である。煮炊具は口縁端部に面を持つもの（78・98・101・102）が主体を占め、少量ではあるが西古志型長釜（74）も確認できる。貯蔵具は球胴壺（100）・中甕（99）が確認できる。

Ｖ２期：須恵器Ｂ群、土師器食膳具が増加する時期８下SK36、８下SE205が当期の資料と考える。食膳具の構成比率は８下SK36が須恵器Ａ群35.8％、同Ｂ群36.7％、土師器・黒色土器27.5％、８下SE205が須恵器Ａ群6.1％、同Ｂ群58.7％、土師器・黒色土器4.8％である。

須恵器Ａ群（新津産）の杯蓋はⅠ・Ⅱが確認できる。Ｖ１期のものと比較し、大きな変化は見られない。有台杯はＶ１期と同様Ⅰ・Ⅱが確認でき、Ｖ１期と比較し体部が外傾するもの（204）がある。有台杯Ⅲは、杯蓋Ⅱが確認できることから、本来存在するものと思われるが、良好な資料がない。無台杯はⅠのみ確認でき、器高2.7cm前後の浅いものは確認できない。器高3cm前後のやや深身のもの（167）はＶ１期のものに比べ体部が外傾する。器高3.3cm以上の深身のもの（168）は底部が丸底気味となる。

須恵器Ｂ群の無台杯Ⅰ（163・212）はＶ１期のものと比較し大きな変化は見られない。他に幅広の高台を持つ有台杯Ⅱ（205）、底部外面から体部下端付近にロクロケズリを行う有台杯Ⅲ（161）がある。

土師器無台椀には浅身で底径が大きいもの（170・215）、やや深身で底径が大きいもの（217・642）が確認できる。煮炊具はＶ１期と同様に口縁端部に面を持つもの（218・221・223・224・227）が主体



第22図　下層土器の変遷（1）

を占める。貯蔵具は須恵器Ｃ群（阿賀北産）の長頸瓶Ａ（171）が確認できる。

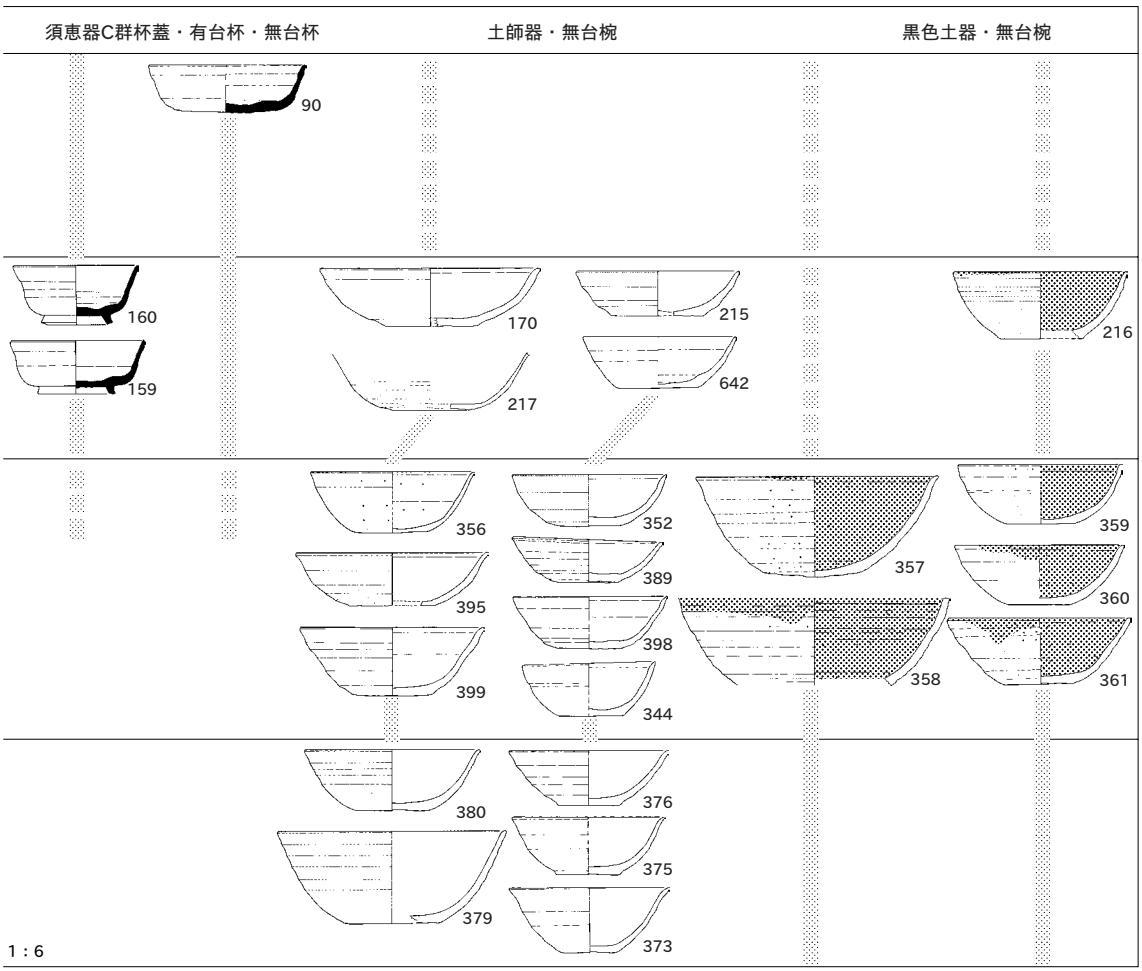
Ⅵ　　期

須恵器Ａ群（新津産）減少し、土師器・黒色土器が食膳具の主体を占める時期。須恵器Ｂ群（小泊産）も存在するが、量的にはそれほど多くない。須恵器Ｂ群、土師器無台椀の形態から２期に細分する。

Ⅵ１期：食膳具の大半を土師器が占めるがＢ群も少量確認できる。８下SK14・８下SE27が当期の資料と考えられ、８下SD21も古い遺物を定量含むが、当期が主体を占めるものと思われる。食膳具の構成は、口縁部残存率計測法で、８下SK14が須恵器Ｂ群13.0％、土師器82.0％、黒色土器1.0％であり、８下SE27は須恵器Ｂ群1.2％、土師器75.2%、黒色土器23.6%である。

須恵器Ｂ群は無台杯Ⅰ（385）が確認できる。Ⅴ２期と比較し底径が小さく体部の外傾度が大きい。土師器無台椀は身が浅く底径が小さいもの（352・389・395）、やや深身で底径が小さいもの（398）、深身で底径が大きいもの（344・356）、深身で底径が小さいもの（399）などがある。煮炊具は口縁端部を摘み上げるもの（271・363・364）、口縁端部付近が厚手となるもの（278・279）が主体を占める。貯蔵具は横瓶（404）・長頸瓶Ａ（400・401）、同Ｂ（403）が確認できる。

Ⅵ２期：食膳具の大半を土師器が占めるがＢ群も少量確認できる点はⅥ１期と同じである。８下SK100が当期の資料と考えられる。食膳具の構成は、口縁部残存率計測法で、須恵器Ｂ群25.2％、土師



第23図　下層土器の変遷（2）

器63.9％、黒色土器5.7％である。

須恵器Ｂ群は有台杯Ⅲ（371）が確認できる。幅広だが低い高台を持ち、体部の外傾度は大きい。土師器無台椀は深身で底径が小さいもの（373・375・376）が主体を占め、深身で底径が大きいもの（379・380）も確認できる。煮炊具は口縁端部を摘み上げるもの（381・382）が主体を占める。貯蔵具の様相は不明である。

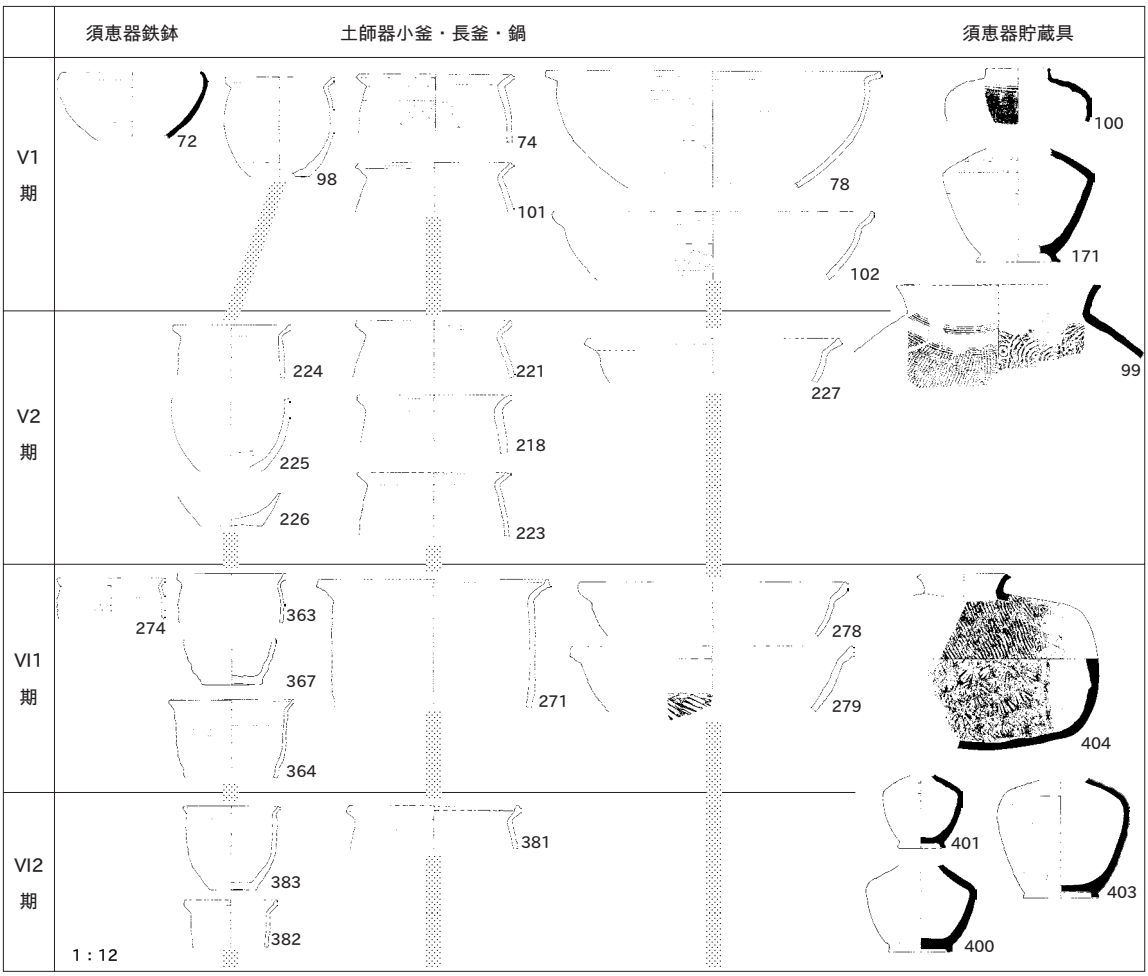
2　古代の土器類の観察結果

観察表に示した項目で、なんらかの傾向が読み取れる点について簡単に触れる。

A　回　転　方　向

水挽き成形の器種

第40表は水挽き成形を行う土器について、ロクロ回転方向を集計したものである。対象とした器種は杯蓋・有台杯・無台杯・高杯・盤・無台碗・無台皿・有台皿等の食膳具と中・小型の壺・瓶類、土師器小釜である。須恵器は胎土（産地）別に集計したが、土師器・黒色土器は胎土の分類ができなかったため一括した。ただし、本遺跡で土出土した土師器・黒色土器の大半は新津丘陵かその周辺で生産されたもので、



第24図　下層土器の変遷（3）

他地域から供給されたものは少ないと推測している。須恵器Ａ・Ｃ群はⅤ期を中心とする。資料、土師器・黒色土器・椀・皿類はⅥ期を中心とする資料、須恵器Ｂ群・土師器小釜はⅤ～Ⅵ期の資料で同列には扱えないが、ある程度の傾向は示せるものと考えている。

種類／回転方向	右	左	計
須恵器Ａ郡（新津）	128（90.8%）	13（9.2%）	141
須恵器Ｂ郡（小泊）	48（23.6%）	155（76.4%）	203
須恵器Ｃ郡（笹神）	6（20.0%）	24（80.0%）	30
土師器・黒色土器	117（89.3%）	14（10.6%）	131

第41表　水挽き成形器種のロクロ回転方向

ロクロ回転方向の判断は北野博司らの研究成果を参考にした。検討水挽き痕、底部切り離し痕、ロクロケズリ痕等を観察している。水挽き痕は①見込みの螺旋状の水挽き痕・②器面の砂粒の動きや有色粒子の擦痕、切り離し痕は①回転ヘラ切り・回転糸切りの痕跡、ロクロケズリ痕は①砂粒の動きなどをそれぞれ観察し回転方向を判定した（註２）。ただし３者とも確認できる例は多くなく、１つの痕跡で回転方向を判断した個体も少なくない。第41表には、水挽きと底部切り離し・ロクロケズリで回転方向が異なった場合は、水挽き痕の回転方向、底部切り離しとロクロケズリで回転方向が異なった場合は、底部切り離しの回転方向で集計した。ただしそうした事例は数例程度で非常に少ない。

須恵器Ａ・Ｃ群、土師器・黒色土器椀皿類・土師器小釜は、右回転のものが90％前後を占める。これに対し須恵器Ｂ群は左回転が75％前後を占める（註3）。

叩き成形の器種

回転方法の判断は主に当て具の切り合い関係から判断した。製品を回転代の上に乗せ、少しずつ回転しながら叩き成形を行ったという前提に立ち（註4）当て具痕が右から左へ移動している場合が右回転、逆に左から右に移動している場合は左回転と判断した。叩き成形を行う器種には、須恵器横瓶・甕・土師器長釜・鍋などがあるが、土師器長釜・鍋については当て具痕が明瞭に残っているものが少なく、検討できていない。

種類／回転方向	右	左	計
須恵器Ａ郡（新津）	2（50%）	2（50%）	4
須恵器Ｂ郡（小泊）	2（40%）	3（60%）	6

第42表　叩き成形の回転方向

第42表は須恵器横瓶・甕の回転方向を胎土（産地）別にまとめた。水挽き成形のものと同様にＡ・Ｃ群はⅤ期を中心とする資料、Ｂ群はⅤ～Ⅵ期の資料であり、同列に扱えない。また資料数も少ないため、不確定な要素を残すが、Ａ群は右回転２例で50％、左回転２例で50％、Ｂ群は右回転２例で40％、左回転３例で60％である。水挽き成形のものに比べ特定の回転方向に偏るという傾向は弱い。

小　　結

以上のように水挽き成形のものと叩き成形のものでは、同一の産地と推定されるものであって、ロクロ回転の左右の比率は一致しない可能性が高い。

水挽き成形による須恵器のロクロ回転方向が右回転主体であることは、６世紀後半以降の須恵器窯跡（群）では一般的で、左回転が全く確認できない事例も多くある。北野博司らはこのような様相が生じた背景に、多様な要素の存在を想定しつつも、水挽き成形の技術の伝習方法が最も大きな影響を与えたとする。また、叩き成形の回転方向については利き手との関連を指摘している［北野2001］。水挽き成形がロクロで行われたとすれば、利き手は関連しないが、利き足のとは関連する可能性がある。

また叩き成形の場合も、同じ利き手であっても回転台を手前に引くか、奥に回すかで回転方向は異なる。水挽き成形、叩き成形とも利き手（足）と技術の伝習方法の２つに関係し、特に後者が大きな影響を与えていた可能性が高い（註5）。このように考えるならば、水挽き成形に比べ叩き成形は、よりルーズな伝習

方向が行われたか、指導的な立場にある工人集団が多様性を持っていたかのどちらかと考える。叩き成形の須恵器が水挽き成形に比べ大形でより高い技術を必要としたとすれば、後者の可能性が高いだろう。

B　降　　灰（黒化）

須　恵　器

杯蓋と有台杯の重ね焼きについて主に検討する。第43表は杯蓋の降灰状況から推定される重ね焼きの方法を胎土（産地）別にまとめたものである。A群（新津産）・C群（笹神産）はⅤ期を中心とする資料、B群（小泊産）はⅤ～Ⅳ期の資料であり同列にあつかえないが、A・C群ではⅠ類が大半を占めるのに対し、B群はⅡA類が主体を占め、Ⅰ類はほとんど確認できない傾向は指摘できるであろう。

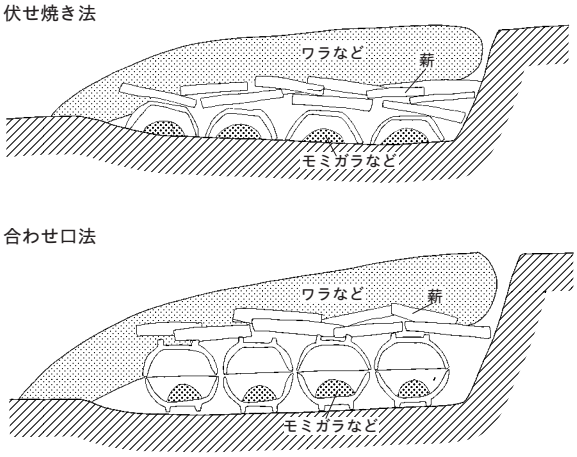
種類／重ね焼き	Ⅰ類	Ⅱa類	Ⅱb類	Ⅲ類	計
須恵器A郡（新津）	72（66,1%）	16（14.7%）	17（15.6%）	4（3.7%）	109
須恵器B郡（小泊）	4（12.1%）	6（18.1%）	23（69.7%）	0	33
須恵器C郡（笹神）	17（100%）	0	0	0	17

第43表　杯蓋の重ね焼き

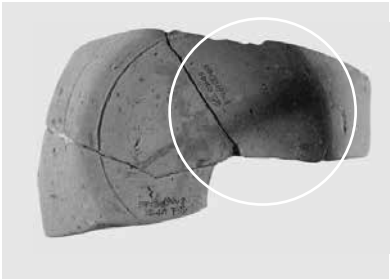
Ⅰ類と比較しⅡa・b類が量産に適した焼成方法である一方で、垂直に製品を重ねるために倒壊などにより失敗品を生み出しやすいという欠点もある。北陸（加賀・越中）ではⅣ期にはⅡA類の重ね焼きが大半を占めるようになる［北野1988、木立1988、宇野ほか1989］。また杯蓋を伴わないと考えられる有台杯Ⅰの重ね焼きも、須恵器A群はB群に比べⅢ類は少なく、杯蓋の上に単体で置き焼成を行うものが定量確認できる。小泊窯跡群や北陸の他の窯跡群に比べ、新津丘陵窯跡群や阿賀北地域の諸窯はそれほど量産化を意識しない生産体制が維持されたものと思われる。

黒 色 土 器

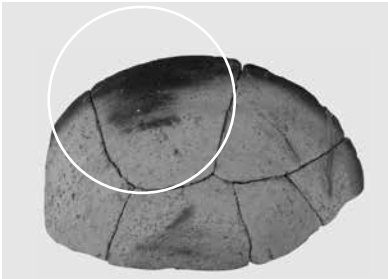
黒色土器無台碗の大半が底部外面か底部外面付近に棒状黒斑を持ち口縁部外面に黒色処理がはみ出ている（註6）。こうした特徴は「伏せ置き法」（第25図上段）によって黒色土器生産が行われた結果と考えられる［久世ほか1996］。沖ノ羽遺跡で出土する黒色土器の大半はⅥ期のものと考えられ、大半が新津丘陵かその周辺で生産されたものと推測できるが、同時期の加賀では「合わせ口法」（第25図下段）と呼ばれる焼成方法も存在した。伏せ置き法よりも合わせ口法は量産に適した方法であるが、内面酸化の不良品を生じやすい欠点も指摘をされている［久世ほか1996］。須恵器有台杯・杯蓋の重ね焼きと同様に量産をそれほど意識しない黒色土器の生産が、新津丘陵（周辺）で



第25図　黒色土器の焼成方法



第26図　底部外面の棒状黒斑



第27図　口縁部外面の黒化

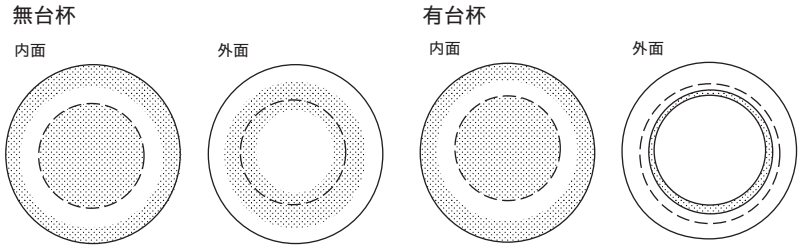
行われた可能性が考えられる。

小　　結

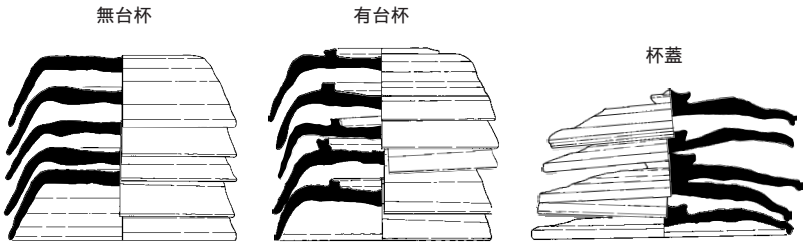
以上のように新津丘陵（周辺）では加賀や越中と比較し量産を強く意識しない品質重視の土器生産体制が後の時期（Ⅴ～Ⅵ期）まで維持された可能性が高い。このような生産体制が維持された背景については多様な要因が考えられ、充分検討できていないが、その一因として土器の使用法と関連する可能性が考えられる。吉岡康暢は古代末～中世の土器組成や土器量を比較し、東北地方と畿内周辺差を、「西日本の複合的消耗品示向、東日本の単一的耐久品示向といった物質文化に対する価値観の差異が伏在したとする解釈が生まれる余地があろう。」と評価した［吉岡 1991］。このような傾向が古代にも存在した可能性が考えられ、越後は東日本と、加賀は西日本に近似した様相であった可能性が高く、土器に対する価値観の違いが土器生産に影響を与えている可能性もあろう。

C　須恵器食膳具の使用痕跡

無台杯　①口縁部内面、②体部下半から底部外縁付近、③見込みが磨耗するものが多数確認できた。①と②は重ねて収納した時の対応する磨耗痕と考えられる（第28図）。③は収納時以外に生じた痕跡の可能性が高く、食事時やその後の洗浄時に生じた可能性も考えられる。



第28図　磨耗部位（アミが磨耗部位）



第29図　杯類の収納方法

杯蓋・有台杯　有台杯は①口縁部内面、②体部下半、③見込みに磨耗がみられ、また④高台には磨耗・欠けがみられる。①・②から無台杯と同様の収納方法が推測できる。また③も無台杯と同様に食事時やら洗浄時に生じた可能性が高く、④は食事時・収納時両方で生じるものと思われる。

杯蓋は、①内面、②摘み先端部に磨耗が確認できた。また③口縁端部には磨耗・カケが確認できるものもある。①～③から直接重ねる収納方法が推測でき、有台杯とは別にまとめて収納されていた可能性が高い。なお②は範囲が広く、磨耗も強いものが認められることから、全てが収納時に生じたとは考えにくく、倒位にして食器として使用した場合もあったと考えられる。

3　西川流域の古代土器様相との比較

新津丘陵周辺と西川流域は、ともに律令制下の蒲原郡に属したが、古墳時代前期にはそれぞれ異なった政治勢力が存在し、新津丘陵周辺は長岡市東部の東山丘陵周辺と、西川・矢川周辺は島崎川流域の地域と

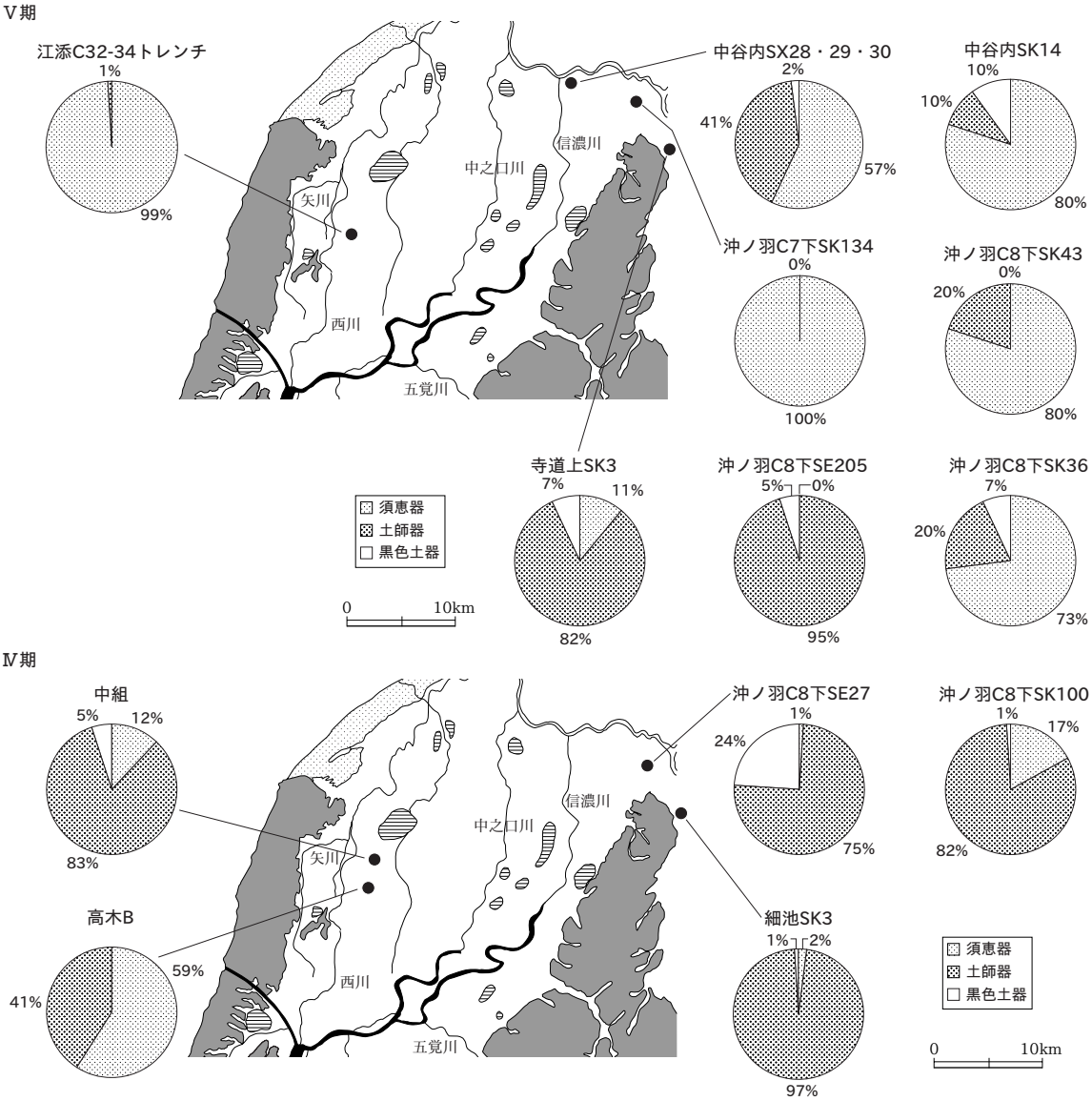
それぞれ関連が強いことを第Ⅱ章２－Ｂで指摘した。西川流域の土器様相についてはかつて触れたことがあり［春日2000・2001］、これと一部重複するが、以下では、新津丘陵周辺と西川・矢川周辺では土器様相が異なることを示し（註7）、古墳時代以来の伝統的な政治的関係が９世紀前半～末の土器様相にも影響を与えていた可能性を示したい。

Ａ　食　膳　具

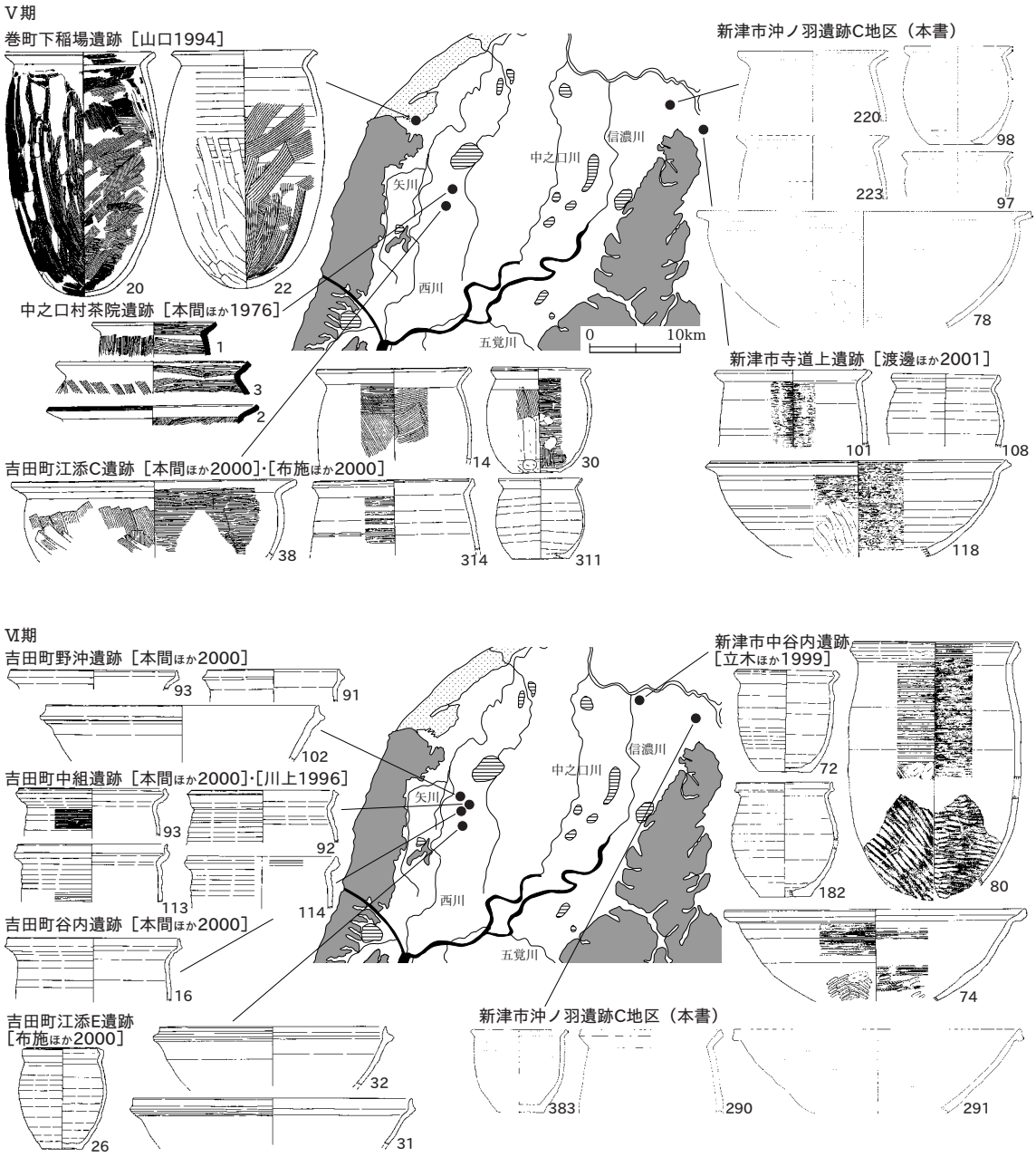
食膳具の須恵器・土師器・黒色土器の構成比率について検討し、必要に応じ須恵器の産地にも触れる。土器の計測法は特に断らない限り口縁部残存率計測法による。

西川流域の吉田町江添Ｃ遺跡32・34トレンチ（Ｖ２期）では食膳具の90％以上を須恵器が占め、75％前後はＢ群である［春日2000］。

一方、新津丘陵周辺の中谷内遺跡SK14（Ｖ２期）は土師器が10％、SX28・29・30（Ｖ２期）は土師器が41％を占める［立木1999］。沖ノ羽遺跡７下SK134・８下SK43（ともにＶ１期）は、80～90％前



第30図　食膳具の構成比率



第31図　各遺跡出土の煮炊具

後を須恵器が占め、須恵器の80％前後はＡ群である。８下SK43・８下SK36（ともにＶ２期）では、土師器が30％前後確認でき、さらに新津丘陵に近い寺道上遺跡SK3（Ｖ２期）では土師器が90％以上を占める。Ｖ１期の様相は不明だが、Ｖ２期の西川流域は、新津丘陵周辺に比べ土師器が少く須恵器Ｂ群が多い傾向がみられる。

こうした様相はⅥ１期までは続くと思われる。西川流域の吉田町高木Ｂ遺跡（Ⅵ１期）は須恵器が59％、土師器が41％であり、須恵器の大半はＢ群である［春日2000］。一方新津丘陵周辺の沖ノ羽遺跡８下SE27（Ⅵ１期）は須恵器１％、土師器73％、黒色土器24％、細池遺跡SK3（Ⅵ１期）は須恵器２％、土師器97％、黒色土器１％であり［立木1998］、西川流域に比べ新津丘陵周辺は土師器の比率が高い。

こうした状況はⅥ２期には解消される可能性が高く、中組遺跡（Ⅵ２期）［川上1996・本間ほか2000・春日2000］、沖ノ羽遺跡SK100ではともに土師器が80％強を占める。

B　煮　炊　具

煮炊具の口縁部形態・調整についいて検討する。Ⅴ期の煮炊具をみると、西川流域の巻町下稲場遺跡20［山口1994］、中之口村茶院遺跡１～３［本間ほか1976］、吉田町江添Ｃ遺跡14・30・38［本間ほか2000、布施ほか2000］など、口縁部端部に面を持ち体部にハケメ成形を行ういわゆる「西古志型釜」が多く見られ、ロクロナデ・カキメ・叩きなど須恵器の成形技法を用いる小釜・長釜・鍋は確認できないわけではないが比較的少ない。一方、新津丘陵周辺では、ロクロナデ・カキメを多用する煮炊具が主体を占め「西古志型釜」は確認できないわけではないが（沖ノ羽遺跡Ｃ地区74など）、存在しても僅かである（第31図上段）。

Ⅵ期には、西川流域でもロクロやカキメなどの須恵器技法を用いる煮炊具が一般的になるが、吉田町の沖遺跡91・93・102［本間ほか2000］、同町中組遺跡93・113［川上1996、本間ほか2000］、同町谷内遺跡20［本間ほか2000］、同町江添Ｅ遺跡26・31・32［本間ほか2000、布施ほか2000］など口縁端部が上方に長く屈曲するものが多く確認できる。一方新津丘陵周辺ではこのような例は少ない。

以上のように西川流域と新津丘陵周辺はⅤ・Ⅵ期の食膳具・煮炊具に差が見られた。このことが、古墳時代以来の伝統的な政治的関係によるかは、①政治的な関係がどのような経緯で土器様相に反映されるのか。②古墳時代前期～８世紀の間も土器様相に差が見られるのか（註8）、などの問題を明らかにしなければならない。今後の課題としたい。

註

1）８上SD１、８上SE23・24、８上SK１ともⅠ～Ⅱ期にかけての珠洲すり鉢が出土している。

2）このほか北野博司らは、①口縁部で水挽き痕が抜ける方向、②変形に伴う小ジワや縮れジワの傾斜、③体部のロクロ目の傾斜などを水挽きのロクロ回転方向を判断する観察項目として挙げている［北野ほか2002］

3）須恵器Ｂ群（小泊産）のロクロ回転方向に関しては、渡邊［2001］、川村［2002］、春日［2003］を参照していただきたい。

4）作り手が回転しながら叩き成形を行う可能性も考えられるが、特大の甕以外は回転台に載せるほうが合理的と考える。

5）叩き成形の須恵器の回転方向が利き手と関連すると考えるならば、経験的に知る左利きの人の比率に比べ、左回転の須恵器の比率が高すぎるように思える。

6）黒色土器の大半のものが、口縁部外面にヘラミガキを行う。このことは、黒化が口縁部外面まで及ぶことを想定していたとも考えられる。

7）西川流域と新津丘陵を結ぶ信濃川河口周辺や亀田砂丘周辺の様相については資料数が定量存在するにもかかわらず力量不足から検討できなかった。信濃川河口周辺は西川流域に近い土器様相、亀田砂丘周辺は沼垂郡に近い土器様相と考えている。別の機会に検討したい。

8）古墳時代前期（後半）は小型精製器種の形態、８世紀は須恵器技法を用いた煮炊具の普及度合などが異なる可能性が高いと考えているが資料数が少ない。資料の増加を待って検討したい。

要　　約

1　沖ノ羽遺跡Ｃ地区は、新津市大字七日町字沖ノ羽3255ほかに位置する。

2　遺跡は新潟平野の野東に位置する新津丘陵に近く、東は阿賀野川、西は能代川に囲まれた微高地上に位置し、標高は約4.5mである。

3　磐越自動車道建設に伴い、平成２年４～６月に一次調査を行い、平成３・４年４月～12月にかけて二次調査を行った。

4　調査の結果、中世（12世紀後半～14世紀）と古代（9世紀）の遺構・遺物が層位的に検出された。中世は掘立柱建物12基・井戸６基・土坑39基・溝36基、古代は掘立柱建物４基・井戸11基・土坑79基・溝67基を検出した。

5　中世の土器・陶磁器60点、古代の土器・陶磁器510点、土製品16点、石製品17点、木器35点、金属器11点を図示し、土器・陶磁器はライフヒストリー論的な観察を試みた。

6　中世の土師器は、既存の編年案を参考にしながら変遷案を示した。

7　古代の土師器・須恵器は、既存の編年案を参考にしながら変遷案を示した。また、西川流域の土器様相との差異を指摘し、背景に古墳時代以来の伝統的な政治関係が存在する可能性を指摘した。

引用・参考文献

甘粕　健・小野昭ほか　1984　『山谷古墳』巻町教育委員会

甘粕　健・荒木勇次ほか　1989　『保内三王山古墳』三条市教育委員会

甘粕　健ほか　1989　「新潟県岩室村観音山古墳測量調査報告」『新潟大学人文科学研究　76,』新潟大学人文学部

甘粕　健・川村浩司ほか　1992　『古津八幡山古墳Ⅰ』新津市教育委員会

甘粕　健・小野昭ほか　1993　『越後山谷古墳』巻町教育委員会

甘粕　健　1994　「菖蒲塚古墳・隼人塚古墳」『巻町史　資料編１　考古』巻町

荒川隆史・加藤　学　1999　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第93集　和泉Ａ遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

石川智紀ほか　1994　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第58集　沖ノ羽遺跡Ⅰ（Ａ地区）』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

伊藤秀和　2000　「新潟　馬越遺跡」『木簡研究』第22号　木簡学会

伊藤秀和　2001a　「加茂市下条中沢遺跡発掘調査速報」『加茂郷土史』加茂郷土調査研究会

伊藤秀和　2001b　『鬼倉遺跡』新潟県加茂市教育委員会

稲場塚古墳測量調査団　1993　「新潟県弥彦村稲場塚古墳測量調査報告」『磐越地域における古墳文化形成程の研究』磐越地域における古墳文化出現過程の研究会（代表　甘粕健）

上田秀夫　1982　「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』第２号　貿易陶磁研究会

宇野隆夫　1982　「井戸考」『史林』第65巻第５号

宇野隆夫　1992　「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集　国立歴史民俗博物館

宇野隆夫ほか　1989　『富山大学考古学研究報告第３集　越中上末窯』富山大学考古学研究室

大橋康二　1989　『肥前陶磁』ニュー・サイエンス社

小野昭ほか　1991　「長岡市麻生田古墳群測量調査報告」『長岡市史研究　2』長岡市史編さん室

温古談話会　1893，1977復刊　『温古の栞』(下)　歴史図書社

春日真実　1999　「第４章古代　第２節土器編年と地域性」『新潟県の考古学』高志書院
春日真実　2000　「考古編　第５章　まとめ」『吉田町史資料編１考古・古代・中世』吉田町
春日真実　2003　「消費遺跡出土佐渡小泊産須恵器のロクロ回転方向－越後出土の資料を中心に－」『研究紀要』第４号　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
春日真実ほか　1996　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第76集　江内遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
春日真実・小池義人ほか　2002　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第116集　奈良崎遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤学ほか　2001　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第106集　松影Ａ遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤学・尾崎高宏　2002　「阿賀野川河口採集の遺物－採集地点をめぐる二，三の問題－」『新潟考古　第13号』新潟県考古学会
川上貞雄　1981　『山崎須恵窯跡　緊急発掘調査報告書』五泉市教育委員会
川上貞雄・木村宗文・鈴木郁夫　1989　『新津市史　資料編第１巻　原始・古代・中世』新津市
川上貞雄　1992　『川口甲遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
川上貞雄　1994　『八幡山遺跡Ⅰ　遺構編』新津市教育委員会
川上貞雄・遠藤孝司　1994　『馬場屋敷遺跡等発掘調査報告書』白根市教育委員会
川上貞雄　1995　『舟戸遺跡発掘報告書』新津市教育委員会
川上貞雄　1996　『金津丘陵製鉄遺跡群　居村Ｂ・Ｄ地区』新津市教育委員会
川上貞雄　1996　『吉田町文化財調査報告書　第４集　中組遺跡』吉田町教育委員会
川上貞雄　1997　『上浦Ａ遺跡　新津市工業団地第２期工事地内発掘調査報告書』新津市教育委員会
川畑　誠　1999　「須恵器貯蔵具の消費痕跡試論」『須恵器貯蔵具を考えるⅠ　つぼとかめ　北陸古代土器研究』第８号　北陸古代土器研究会
川畑　誠　2001　「須恵器貯蔵具の製作痕跡試論」『須恵器貯蔵具を考えるⅡ　つぼとかめのつくり方　北陸古代土器研究』第９号　北陸古代土器研究会
川村浩司　1992　「山頂側に存在する墳丘外広域平坦面」『古津八幡山古墳』新潟大学考古学研究室・新津市教育委員会
川村浩司　2000　「信濃川右岸の古墳群」『季刊　考古学』第71号　雄山閣出版
川村　尚　2002　「佐渡郡羽茂町小泊窯跡」『新潟県考古学会　第14大会研究発表要旨』新潟県考古学会
木立雅朗　1988　「竹生野遺跡出土須恵器について」『竹生野遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
北野博司ほか　1988　『辰口西部遺跡群Ⅰ』石川県立埋蔵文化財センター
北野博司ほか　2002　「須恵器成形におけるロクロ回転」『日本考古学協会第68回総会研究発表要旨　日本考古学協会
木村宗文　1986　「越後国延喜式内社の所在をめぐって」『政治社会史論議叢』山田秀雄先生退官記念会編　近藤出版社
木村宗文　1989　「城館跡」『新津市史』資料編第Ⅰ巻　新津市
車崎正彦　1993　「鼉龍鏡考」『翔古論聚』久保哲三先生追悼論文集
久世建二・北野博司・小島俊彰・小林正史ほか　1996　「内面黒色土器の焼成方法」『日本考古学協会第62回総会研究発表要旨』日本考古学協会
久保田正寿　1997　「土師器の焼成方法－二つの覆い焼き」『古代の土師器生産と焼成遺構』窯跡研究会
小池義人ほか　1994　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第59集　細池遺跡　寺道上遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
駒見和夫　1997　「下小島谷古墳群」『和島村史』通史編　和島村
坂井秀弥ほか　1984　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第35集　今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』新潟県教育委員会
坂井秀弥　1988　「越後・佐渡における古代土器の生産と－８～10世紀を中心として－」『シンポジウム北陸の古代

土器研究の現状と課題』報告編　石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
坂井秀弥　1989　「第Ⅶ章まとめ　２奈良・平安時代の土器」『新新バイパス関係開発発掘調査報告書　山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟国道工事事務所
坂井秀弥・田中　靖　1991　「新潟県八幡林遺跡と出土木簡」『日本歴史』1991年第10号　吉川弘文館
坂井秀弥・鶴間正昭・春日真実　1991　「佐渡の須恵器」『新潟考古』第２号　新潟県考古学会
坂井秀弥　1996　「水辺の古代官衛遺跡－越後平の内水面・舟運・漁業」『越と古代の北陸』名著出版
坂井秀弥　1999　「第Ⅳ章古代　第１節　総論」『新潟県の考古学』新潟県考古学会
品田高志　1991　「越後の中世土師器」『新潟考古学談話会』第８号　新潟考古学談話会
品田高志　1997　「越後における土師器の変遷と諸相」『中近世の北陸－考古学が語る社会史』北陸中世土器研究会
品田高志　1999　「第５章３－１中世土師器」『新潟県の考古学』新潟県考古学会
菅井良咲　1998　「姥ヶ入南遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』平成９年度　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
鈴木郁夫　1989　「自然」『新津市史』資料編第１巻　新津市
鈴木俊成　1994　「第Ⅵ章まとめ　１平安時代の土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第60集　一之口遺跡東地区（本文編）』新潟県教育委員会・財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団
関　雅之・戸根与八郎・本間信明　1976　「燕市長所遺跡発掘調査報告」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第６集　長所遺跡・蛇山遺跡・地蔵塚』新潟県教育委員会
田嶋明人　1988　「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編　石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
田中　靖　1996　『和島村埋蔵文化財調査報告第５集　門新遺跡　外割田地区』和島村教育委員会
田村　裕　1993　「第三章　荘・保と武士の世」『新津市史　通史編・上巻』新津市史編さん委員会
立木宏明ほか　1998　『細池遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
立木宏明ほか　1999　『中谷内遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
立木宏明ほか　2000　『川根遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
立木宏明・高野裕子ほか　2002　『内野遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
寺村光晴　1991　「大久保古墳群」『寺泊町史』資料編Ⅰ原始・古代・中世　寺泊町
中村成夫・倉田芳郎　1956　「新津田屋七本松須恵器窯址発掘調査報告書」『越佐研究』第11集　新潟県人文研究会
永田聡・神田章ほか　1973　土地分類基本調査『新潟』新潟県農地部農地計画課
新潟古砂丘グループ　1974　「新潟砂丘と人類遺跡－新潟砂丘の形成史－」『第四紀研究』13－２　日本第四紀学会
新潟市史編さん原始古代中世史部会　1994　『新潟市史』資料編１　原始　古代　中世　新潟市
新津市教育委員会　1993　『草水町２丁目遺跡現地説明会資料』
広井　造　1996　「新潟平野南部における古墳時代開始期の考察」『考古学と遺跡の保護』甘粕健先生退官記念論集刊行会
広井　造・小熊博史　1999　「信濃川の歴史的意義」『長岡市立科学博物館研究報告』第34号長岡市立科学博物館
布施智也ほか　2000　『吉田町文化財調査報告書　第５集　江添Ｃ遺跡』吉田町教育委員会・山武考古学研究所
布施智也ほか　2000　『吉田町文化財調査報告書　第７集　江添Ｅ遺跡』吉田町教育委員会・山武考古学研究所
星野信明ほか　1996　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第80集　沖ノ羽遺跡Ⅱ（Ｂ地区）』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
本間敏則ほか　2000　「第３章　吉田町の遺跡」『吉田町史　資料編１　考古・古代・中世』吉田町
本間信明・家田順一郎　1976　『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第５　茶院書跡』新潟県教育委員会
森下章司　2002　「捩文鏡について」『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第116集　奈良崎遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
森田　勉　1982　「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』第２号
山崎　天　1999a　『橋田Ｂ遺跡』五泉市教育委員会
山崎　天　1999b　『小実山遺跡』五泉市教育委員会

山口栄一　1994　「下稲場遺跡」『巻町史　資料編１　考古』巻町
横田賢次朗・森田勉　1978　「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』4
横山勝栄・竹田和夫ほか　1987　『新潟県中世城館等分布調査報告書』新潟県教育委員会
吉岡康暢　1989　『日本海の土器・陶磁（中世論）』六興出版
吉岡康暢　1991　「中世的食器組成の成立と時期区分覚え書－90年シンポに寄せて－」『中近世土器の基礎研究』中世土器研究会
吉岡康暢　1994　『中世須恵器の研究』吉川弘文舘
吉田恵二　1982　『緒立八幡神社遺跡』黒埼町教育委員会
吉田東吾　1902　『大日本地名辞書』冨山房
米沢　康　1980　「大宝二年の越中国四郡分割をめぐって」『信濃』32－6　信濃史学会
渡邊朋和　1991　『長沼遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
渡邊朋和　1992　『上浦遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
渡邊朋和　1994a　『八幡山遺跡発掘調査報告書－平成５年度範囲確認調査－』新津市教育委員会
渡邊朋和　1994b　『平成５年度　新津市内遺跡確認調査報告書』新津市教育委員会
渡邊朋和　1995　「新津市八幡遺跡：高地性環濠集落と方形周溝墓」『新潟県考古学会第７回　大会研究発表会発表要旨』
渡邊朋和ほか　1997　『金津丘陵製鉄遺群跡発掘調査報告書Ⅱ　居村遺跡Ｅ・Ａ・Ｃ地点　大入遺跡Ａ地点』新津市教育委員会
渡邊朋和ほか　1998　『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅲ　（分析・考察編）』新津市教育委員会
渡邊朋和ほか　2001　『寺道上遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
渡邊朋和　2001　「まとめ」『寺道上遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
和田寿久　1997　「姥ヶ入製鉄遺跡・姥ヶ入南遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』平成９年度　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

上層土坑・井戸・溝観察表

遺構名	グリッド	平面図	断面図	断面記号	写真	平面形	断面形	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	前後関係	出土遺物	備考
8上SK72	70C21 69C25	2	3	abc	47	円	弧状	195	180	55	−	−	
8上SK70	69C20・25	2	3	d	47	楕円	弧状	185	135	14	8上SK71を切る。	−	
8上SK71	69C24・25	2	3	de	47	不整	弧状	310	90	10	8上SK70・P318に切られる。	−	
8上P318	69C24・25	2	3	fg	47	楕円	弧状	90	60	20	−	−	
8上P428	70D16・21	2	3	h	47	円	箱状	80	70	22	−	−	
8上P422	69D19・20	2	3	ij	47	楕円	弧状	95	70	23	−	−	
8上SK82	69D20 70D16	2	3	kl	−	円	弧状	120	110	52	−	−	
8上SK81	69D19	2	3	m	−	楕円	弧状	120	95	44	8上SK80に切られる。	−	
8上SK80	69D19	2	3	n	−	楕円	階段状	135	90	42	8上SK81を切る。	−	
8上SK36	69C23 69D3	2	3	o	47	楕円	弧状	145	115	54	SB7に切られる。	580	
8上SK2	69C12・13	2	3	pqr	−	長楕円	箱状	305	75	14	8上SK38・SD34を切る。	−	
8上SK66	69D18・ 19・23	2	3	st	−	円	弧状	130	115	25	8上SK1との前後関係は不明。	12・637	
8上SK30	69C16・21	2	3	uv	48	長楕円	台形状	300	85	22	−	−	.
8上SK58	68D25 69D21	2	3	w	46	円	弧状	120	100	25	−	−	
8上SD21	68D9・10・ 14	2	3	x	−	−	弧状	−	35	8	8上SK12・16・SD29を切る。	−	
8上SK12	68D4・5・ 9・10	2	3	x	−	方形	弧状	180	160	20	8上SD21に切られる。8上SK16との前後関係は不明。	−	
8上SK9	68D3	2	3	y	−	円	弧状	120	(110)	15	8上SD10との前後関係は不明。	−	
8上SK8	68D3・8	2	3	z	−	楕円	弧状	120	60	15	−	−	
8上SK16	68D10	2	3	A	−	−	弧状	110	100	20	8上SD21との前後関係は不明。	−	
8上SK3	68D19・20	2	3	BC D	48	長楕円	台形状	370	115	45	−	−	
8上SE48	69D7・8・ 12・13	2	4	E	45	円	階段状	190	175	142	−	27	
8上SE60	69D17	2	4	FG	46	円	台形状	140	130	55	8上SK1に切られる。	16・636	
8上SE59	69D21	2	4	H	46	円	U字状	80	75	105	8上SD65・SK1との前後関係は不明	−	
8上SE5	68D20 69D16	2	4	I	46	楕円	階段状	110	95	85	−	−	
8上SE23	68D15 69D11	2	4	J	46	楕円	台形状	290	210	110	99SE24を切る。8上SD29との前後関係は不明。	32・34・35・47・ 51・577・583	
8上SE24	68D10・15 69D6・11	2	4	K	46	円	弧状	275	(165)	105	99SE23に切られる。	32・34・35・47・ 51・583・577	
8上SK67	69D22・23 69E2	2	4	L	−	楕円	箱状	280	(140)	35	8上SK1を切る。	−	
8上SK1	69D16・ 17・21～23	2	4	L	46 49	方形	台形状	−	60	30	8上SK67に切られる。8上SD64・65・SE60を切る。8上SD62・SK66・63・SE59との前後関係は不明。	10・39・41・42・ 43・49・635	竪穴状遺構か
8上SD1	69・70C	2	4	M	51	−	階段状	−	270	45	8上SD34との前後関係は不明。	1・7・13・14・ 20・21・22・28・ 44・45・53・55	
8上SD34	69CD	2	4	NO	50	−	弧状	−	85	25	8上SK2・SD35・SB7に切られる。8上SD39・42・44を切る。	37・40	
8上SD62	69D12・17	2	4	P	−	−	弧状	−	20	10	8上SD61を切る。8上SK1との前後関係は不明。	−	
8上SD64	69D16・17	2	4	Q	−	−	弧状	−	60	15	8上SK1に切られる。8上SD65を切る。	31	
8上SD10	68D3・8・ 13・14	2	4	RS	−	−	弧状	−	190	14	8上SK9との前後関係は不明。	−	
8上SK14	68D5・10	2	4	T	−	−	台形	90	85	55	8上SD29との前後関係は不明。	−	
8上SD49	69D13・14	2	4	U	−	−	弧状		40	25	−	11・50	
8上SD46	69D3・4・ 7・8	2	4	V	−	−	弧状	−	35	24	8上SD44,SK45との前後関係は不明。	−	
8上SK504	68D21・22	2	4	W	−	楕円	台形	150	80	32	8上SD501・502を切る。	−	
8上SK505	67D20	2	4	X	−	円	弧状	100	95	32	8上SD507を切る。	−	
8上SD63	69D11・ 12・16・17	2	−	−	−	−	弧状	−	20	15	8上SK1・61との前後関係は不明。	−	

遺構名	グリッド	平面図	断面図	断面記号	写真	平面形	断面形	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	前後関係	出土遺物	備考
8上SD73	70C	2	－	－	－	－	弧状		25	10	－	－	
8上SK85	70D3・4	2	－	－	－	円	弧状	160	160	31	8上SD84との前後関係は不明。	－	
8上SD29	69C21 68D5・16	2	－	－	－	－	弧状	－	50	25	8上SE24・SD22・44、SK14・15との前後関係は不明。	4	
8上SD31	69C11・12・16・17・21	2	－	－	－	－	弧状	－	30	10	8上SD32との前後関係は不明。	－	
8上SD32	69C16・21	2	－	－	－	－	弧状	－	50	10	8上SD31との前後関係は不明。	－	
8上SD33	69C25 69D1	2	－	－	－	－	弧状	－	50	10	8上SD44との前後関係は不明。	－	
8上SD35	69C21・22	2	－	－	－	－	弧状	－	20	8	8上SD34を切る。	－	
8上SD39	69C12・13	2	－	－	－	－	弧状	－	25	8	8上SD34に切られる。	－	
8上SD42	69D1・2・6	2	－	－	－	－	弧状	－	65	18	8上SK41、SD34、SB2に切られる。8上SD44を切る。	－	
8上SD44	68・69C 68・69D	2	－	－	－	－	弧状	－	140	－	8上SD34・42・SK40・SB3に切られる。8上SD29・33・46との前後関係は不明。	－	
8上SD47	69D6・11	2	－	－	－	－	弧状	－	40	10	8上SE23との前後関係は不明。	488	
8上SD500	68D21・22 68E2・3・4	2	－	－	－	－	弧状	－	50	15	－	－	
8上SD501	67D20 68D11・21	2	－	－	－	－	弧状	－	70	10	8上SD502・SK504に切られる。	－	
8上SD502	67D20 68D21	2	－	－	－	－	弧状	－	30	20	8上SD501を切る。8上SK504に切られる。	－	
8上SD503	68D16・17・22	2	－	－	－	－	弧状	－	30	5	－	－	
8上SD52	69D4・8・9	2	－	－	－	－	弧状	－	35	5	－	－	
8上SD65	68D16・21	2	－	－	－	－	弧状	－	70	10	8上SK1・SD64に切られる。8上SE59との前後関係は不明。	－	
8上SK15	68D5・10	2	－	－	－	円	弧状	80	75	32	8上SD29との前後関係は不明。	－	
8上SK37	69C18	2	－	－	－	楕円	階段状	145	105	15	－	－	
8上SK38	69C12～14	2	－	－	－	長楕円	弧状	340	80	15	8上SK2に切られる。	576	
8上SK40	69D1	2	－	－	－	楕円	弧状	125	90	24	8上SD44を切る。	－	
8上SK41	69D1・2・6・7	2	－	－	－	円	弧状	120	100	25	8上SD42を切る。SB2に切られる。	－	
8上SK65	69D13・14・18・19	2	－	－	－	楕円	－	145	65	15	－	－	
8上SK69	70C16	2	－	－	－	楕円	弧状	100	60	8	－	－	
8上SK77	70D6	2	－	－	－	楕円	弧状	125	65	10	－	－	
8上SK74	70C21 70D1	2	－	－	－	楕円	弧状	170	120	31	－	－	
8上SD61	69D11～13・18	2	－	－	－	直線	弧状	－	50	10	8上SD62に切られる。8上SD63との前後関係は不明。	－	
8上SD84	70C24 70D3・4	2	－	－	－	直線	弧状	－	50	10	8上SK85との前後関係は不明。	－	
8上SK7	68D2・3	2	－	－	－	楕円	弧状	125	45	10	－	－	
8上SK56	68D3・4	2	－	－	－	楕円	—	105	80	30	－	－	
8上SK506	68D11.16	2	－	－	－	－	弧状	－	40	15	8上SD501に切られる	－	
8上SK507	67D15・20 68D11・2	2	－	－	－	－	弧状	－	30	15	8上SK505に切られる	－	
7上SD10	62・63C	5・6	7	ab	51	－	弧状	－	95	15	－	－	
7上SD8		5・6	7	cp	51	－	弧状	－	80	20	7上SD3・5・9・SK1～5に切られる。7上SD6を切る。7上SD4・7との前後関係は不明。	－	
7上SD3	62CD 63CDE・ 64E・65E	5・6	－	－	－	－	弧状	－	175	20	7上SD4・6・8、SE11を切る。	23	
7上SD2	62C6・7・8	6	7	d	51	－	弧状	－	50	10	7上SD11との前後関係は不明。	－	
7上SD1	62C1・2・7～10	6	7	e	－	－	弧状	－	40	10	7上SD12との前後関係は不明。	57	

遺構名	グリッド	平面図	断面図	断面記号	写真	平面形	断面形	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	前後関係	出土遺物	備考
7上SD6	62・63D 62E	6	7	f	－	－	弧状	－	70	10	7上SD3・8に切られる。	－	
7上SK2	63E15	6	7	g	50	円	弧状	115	110	20	7上SD8を切る。	－	
7上SK1	63E5・10 64E1・6	6	7	hi	49	円	弧状	140	130	50	7上SD8を切る。	25・29	
7上SK5	63E3・4・8・9	6	7	jk	50	円	弧状	140	140	20	7上SD8を切る。	15	
7上SK3	63E2	6	7	lm	50	楕円	弧状	215	110	10	7上SD8を切る。	629～630	
7上SK4	63E1	6	7	no	49	楕円	弧状	210	70	20	7上SD8を切る。	30	
7上SE11	63D24・25 63E4・5	6	7	qr	－	円	階段状	190	200	110	7上SD3・9に切られる。	36・632	
7上SD4	62CDE	6	－	－	－	直線	弧状	－	270	10	7上SD3に切られる。7上SD8・11との前後関係は不明。	－	
7上SD7	63E5・10・15	6	－	－	－	弧状	弧状	－	50	15	7上SD8との前後関係は不明。	8	
7上SD9	63E3～5・8	6	－	－	－	蛇行	弧状	－	25	5	7上SD8・SE11を切る。7下SD5との前後関係は不明。	－	
7上SD5	63E3・7・8・11・12・16	6	－	－	－	直線	弧状	－	60	5	7上SD8を切る。7上SD9との前後関係は不明。	－	8下SD102と一連か
7上SD11	62D 63D6	6	－	－	51	－	－	－	350	25	7上SD1・2・4・10との前後関係は不明	－	

下層土坑・井戸・溝観察表

遺構名	グリッド	平面図	断面図	断面記号	写真	平面形	断面形	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	前後関係	出土遺物	備考
8下SK46	71D6	8	9	a	－	楕円	台形状	125	60	19	8下SD110を切る。	299～304	
8下SK47a	71D1・6	8	9	b	－	楕円	弧状	140	105	21	8下SD109を切る。	－	
8下SK45	70D8～10	8	9	cd	－	楕円	台形状	405	270	20	8下SD44との前後関係は不明。	421～423・555	
8下SK47b	70D6・7・11・12	8	9	－	－	楕円	－	280	110	15	8下SD42・45・47を切る。	109～111	
8下SD44	70D1～3・7・8	8	9	e	59	－	弧状	－	145	20	8下SK45,SD115・116との前後関係は不明。	285～291・554	
8下SD109	69・70・71C 71D	8	9	f	－	－	弧状	-	50	13	8下SK47a・134に切られる。	481	
8下SD46	69D4・5 70D1・6・7・12～14・19	8	9	g	－	－	弧状	-	40	21	8下SK47b・SK51・SD118に切られる。8下SD50・129・130との前後関係は不明。	244・299～304・453	
8下SD42	70D6・11・12・17・18	8	9	hot	－	－	弧状	-	35	22	8下SK43を切る。	79～83・98・134・494	8下SD21・54と一連か
8下SK39	70D1・2・6・7	8	9	i	－	楕円	弧状	130	70	18	－	157・424～427・552	
8下SK51	70D1・6	8	9	j	－	楕円	台形状	160	120	25	8下45・46を切る。	308～311・500	
8下SK113	69C19・24	8	9	k	－	円	弧状	140	120	40	8下SD115・116・117を切る。	533	
8下SK144	69C20	8	9	l	－	円	台形状	70	60	35	－	－	
8下SD115	69C13・14・18～20・25 70C21	8	9	mps	59	－	弧状	－	60	25	8下SD44との前後関係は不明。8下SK100・113に切られる。	－	
8下SD116	69C13・18～20・25 70C21	8	9	ms	59	－	弧状	－	60	20	8下SD44との前後関係は不明。8下SK100・113に切られる。	－	
8下SK100	69C12・13・17・18	8	9	nm	－	楕円	弧状	320	255	30	8下SD114・115・116・117を切る。	371～383	
8下SD47	69D・9・10・15 70D11・12・17・18	8	9	o	－	－	弧状	-	75	16	8下SK43を切る。8下SD50との前後関係は不明。	84・103～107・369・488	
8下SK43	69D3～5・9・10 70D6	8	9	ot	56	長楕円	弧状	1260	60	35	8下SD42・47に切られる。	80・84～102・245・452・470	
8下SD114	69C11・12・17～19・23・24	8	9	q	59	－	弧状	-	60	20	8下SK100に切られる。8下SD201との前後関係は不明。	433～436	
8下SD117	69C18・19・24・25 70C21 70D1	8	9	s	59	－	弧状	-	60	30	8下SK100・113に切られる。	99	

遺構名	グリッド	平面図	断面図	断面記号	写真	平面形	断面形	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	前後関係	出土遺物	備考
8下SD118	68C20 69C16・21・22	8	9	uv	－	－	弧状	－	－	－	8下SD45・102・129・130を切る。	458・459・576	
8下SD45	69D4・5・10 70D6・12・13・18・19	8	9	uv	－	－	弧状	-	70	30	8下SK47b・51・SD118に切られる。8下SD50との前後関係は不明	108・417～420	
8下SK36	69D19・20	8	9	w	－	楕円	弧状	300	195	5	8下SD40（21・54）を切る。	126・158・202～227・243・246・275・368	
8下SD131	69D19・24・25	8	9	w	－	－	弧状	－	60	15	8下SD40（21・54）に切られる。8下SK31との前後関係は不明。	－	
8下SD40	69D18～20・24・25	8	9	w	－	－	弧状	－	160	27	8下SK36・76に切られる。8下SK57・SD131を切る。	123～158・213・237・241・267	
8下SD21	69D2・3・7・8・11・12・14	8	9	xy	59	－	弧状	－	145	20	8下SK32、SK57を切る。8下SK12・76に切られる。	99・241～279	8下SD42・54と一連か
8下SK57	69D12・17	8	9	y	－	楕円	弧状	(115)	(75)	30	8下SD21（40・54）に切られる。	－	
8下SK76	69D12	8	9	y	－	楕円	弧状	(145)	(95)	32	8下SD21（40・54）を切る。	－	
8下SD24	69D1～3・6・7・11	8	9	z	－	－	台形	-	90	35	8下SK12に切られる。	253・267	8下SD38と一連か
8下SK32	69D12	8	9	A	－	円	台形	80	75	45	8下SD21（40・54）に切られる。	545・549・561	
8下SK31	69D17・18	8	9	B	－	楕円	弧状	(340)	120	39	8下SD40・131との前後関係は不明。	125・172～192・242・271・414	
8下SK30	69D22	8	9	C	－	長楕円	弧状	395	115	20	8下SK23・32・SD29に切られる。	245・441～445	
8下SK23	69D16・17・21・22	8	9	D	－	円	弧状	120	100	29	8下SK30を切る。	－	
8下SK12	69D11・12・16	8	9	E	－	円	弧状	230	225	22	8下SD24（38）・21（40・54）を切る。	－	
8下SD105	68D13	8	9	F	－	－	弧状	－	－	－	－	305～307	
8下SK134	70C20・25	8	－	－	－	円	－	150	135	45	8下SD109を切る。	－	
8下SD29	69D17・22・23	8	－	－	－	－	－	－	60	29	8下SK30を切る。8下Sk31との前後関係は不明。	414～416	
8下SD49	70D16・21	8	－	－	－	－	弧状	－	60	23	8下SD38・54との前後関係は不明。	490	
8下SD201	69C16・21	8	－	－	－	－	弧状	－	40	15	8下SD102・114・118・119・126・128・129・130との前後関係は不明。	－	
8下SD128	69C16・21・22	8	－	－	－	－	弧状	－	55	16	8下SD114・129・130・201との前後関係は不明。	302	
8下SD119	69C21・22	8	－	－	59	－	弧状	－	30	10	8下SD126・201・SK198との前後関係は不明。	－	
8下SD126	69C21・22	8	－	－	－	－	弧状	－	25	15	8下SD119・201との前後関係は不明。	－	
8下SD50	69D10 70D6	8	－	－	－	－	弧状	－	60	20	8下SD38・42・45・46・47・48・SK43との前後関係は不明。	－	
8下SD129	68C20 69C16・17・22・23	8	－	－	59	－	弧状	－	55	19	8下SD118に切られる。8下SD201との前後関係は不明。	－	
8下SD130	68C15 69C11・16～18・23	8	－	－	－	－	弧状	－	35	21	8下SD118に切られる。8下SD201との前後関係は不明。	470・493	
8下SD111	69C7～9・13～15 20　70C16	8	－	－	－	－	弧状	－	60	10	－	－	
8下SD132	69C15・20 70C16・21～22	8	－	－	－	－	弧状	－	65	20	－	－	
8下SD38	69D3・8・9・14・15 70D11・16・17・23	8	－	－	－	－	弧状	－	90	13	8下SD49・50との前後関係は不明。	108・157・314～325・576	8下SD24と一連か
8下SD54	69D15・20 70D16・17・22	8	－	－	－	－	弧状	－	55	23	8下SD49との前後関係は不明。	456・457・549	8下SD21・42と一連か
8下SE50	69D20 70D16	8	－	－	－	円	弧状	110	100	90	－	484	
8下SK58	68C17	8	－	－	－	円	弧状	100	90	-	－	405～408	
8下SK106	68C20 69C16	10	11	a	－	楕円	台形状	190	100	26	8下SD102を切る。	－	
8下SD102	68C13～15・19・20	10	11	b	59	－	弧状	-	150	19	8下SK106・SD118に切られる。8下SD201との前後関係は不明。	－	
8下SD180	68C7～10・14・15	10	11	c	－	－	台形	-	150	26	－	448・449	

遺構名	グリッド	平面図	断面図	断面記号	写真	平面形	断面形	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	前後関係	出土遺物	備考
8下SK11	69D16	10	11	d	－	楕円	弧状	175	90	17	－	－	
8下SK17	68D20・24・25 69D21	10	11	e	56	－	階段状	450	210	40	8下SD203・SK6との前後関係は不明。	228～240・544	
8下SK13	68D5	10	11	f	56	楕円	弧状	115	65	22	－	－	
8下SE27	68D9・10・14・15	10	11	h	55	円	漏斗状	235	215	80	8下SE26との前後関係は不明。	344～370	
8下SK8	68D4・9	10	11	i	56	－	階段状	240	140	30	－	－	
8下SE26	68D13・14	10	11	j	55	円	漏斗状	245	230	77	8下SK14を切る。8下SE27との前後関係は不明。	171	
8下SK209	68E2・3	10	11	k	－	楕円	箱状	75	50	55	－	－	
8下SK55	68D3	10	11	l	－	－	孤状	180	120	18	8下SE18を切る。	－	
8下SE45	68D12・13・17	10	11	m	－	円	孤状	180	150	88	－	－	
8下SE201	68D22 68E2	10	11	n	54	円	台形状	190	180	41	8下SD202に切られる	294～298	
8下SD202	68D22・23 68E3・4	10	11	n	－	－	孤状	－	30	15	8下SE201を切る。8下SD203・204との前後関係は不明。	－	
8下SK208	68D18・23	10	11	o	56	楕円	孤状	255	(145)	51	－	－	
8下SK14	68D6・7・8・12・13	10	11	pqr	56	楕円	台形状	600	280	19	8下SK15・SE26を切る。	384～404・545	
8下SK15	68D7	10	11	qr	－	楕円	台形状	195	145	45	8下SK14に切られる。	－	
7下SK79	67D16・17	10	11	s	56	円	孤状	100	95	36	－	437～440	
7下SK78	67D16	10	11	t	－	楕円？	孤状	215	140	61	－	－	
8下SD25	68D20 69D16・21	10	－	－	－	－	孤状	－	20	15	8下SK17との前後関係は不明。	－	
8下SK207	68D16・17・21・22	10	－	－	－	－	－	－	135	95	8下SE205・206に切られる	－	
8下SD203	68D23・24 68E3	10	－	－	－	－	－	－	10	4	8下SD202との前後関係は不明。	－	
8下SD204	68E2・3	10	－	－	－	－	－	－	30	9	8下SD202との前後関係は不明。	－	
8下SK2	68D18	10	－	－	－	楕円	－	220	100	17	－	－	
8下SK37	68D1・2	10	－	－	－	楕円	－	(215)	(95)	(20)	旧河道に切られる。	－	
8下P8	68D19	10	－	－	－	楕円	－	130	85	19	－	－	
8下P24	68D10	10	－	－	－	楕円	－	105	80	20	－	－	
8下SD16	68D19・20・24	10	－	－	－	－	－	－	35	13	8下SD203との前後関係は不明。	－	
8下SK6	68D20	10	－	－	－	円	－	115	100	16	8下SK17との前後関係は不明。	－	
8下SD101	68C17～19	10	－	－	－	－	－	－	45	20	－	449	
8下SD218	68C18・19・23・24	10	－	－	－	－	－	－	45	5	－	－	
8下SK198	68C25	10	－	－	－	楕円	－	125	60	20	8下SD119との前後関係は不明	－	
8下SD219	68C23～25	10	－	－	－	－	-	－	45	17	－	521	
8下SD181	68C9・10	10	－	－	－	－	-	－	20	13	－	－	
8下SE205	68D17・22	10・20	20	a	54	円	台形状	265	210	140	8下SK207を切る	159～171・609～621・640～644	
8下SE206	68D21	10・20	20	b	54	円	台形状	220	155	128	8下SK207を切る	544・595～608	
8下SE18	68D3	10・20	20	c	54	円	台形状	110	110	98	8下SK55に切られる。	622～627	
7下SD74	66D15・20 67D11・16・21	12	13	a	－	－	孤状	-	125	27	旧河道に切られる。	515	
7下SK55	66D20・25	12	13	b	－	楕円	孤状	175	100	-	7下SK54を切る。	646	
7下SK57	66D25	12	13	c	57	楕円	孤状	95	55	24	－	292・293	
7下SK53	66D19	12	13	d	－	楕円	台形状	115	80	26	7下SK54を切る。	476	
7下SK54	66D19・20・24・25	12	13	e	57	－	台形状	275	275	9	7下SK53・55に切られる。	－	
7下SK52	66D23・24	12	13	f	57	楕円	孤状	180	120	33	－	312・313・486	

遺構名	グリッド	平面図	断面図	断面記号	写真	平面形	断面形	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	前後関係	出土遺物	備考
7下SK51	66D23	12	13	g	57	円	孤状	110	95	10	－	312・313	
7下SK62	66D12・17	12	13	h	57	不整	孤状	145	120	18	－	－	
7下SK61	66D11・12	12	13	i	－	不整	孤状	250	85	13	－	－	
7下SK63	66D17	12	13	j	－	円	孤状	160	140	20	－	280・462・463	
7下SD21	66D16・17・22・23 66E3・4	12	13	kl	60	－	階段状	-	65	19	7下SK20を切る。7下SK69との前後関係は不明。	280～284	
7下SK69	66E4・9	12	13	m	－	楕円	階段状	120	85	34	7下SK20・SD21との前後関係は不明。	－	
7下SK20	66E3・4・8・9	12	13	no	－	楕円	孤状	170	85	11	7下SK71を切る。7下SD21に切られる。7下SK69との前後関係は不明。	492	
7下SK71	66E3	12	13	p	－	楕円	孤状	60	25	12	7SK19・20に切られる。	－	
7下SK19	66E3	12	13	r	－	楕円	孤状	100	80	27	－	－	
7下P60	66E3	12	13	s	－	円	孤状	80	85	－	7下SK73を切る。7下P35に切られる。7下SD75との前後関係は不明。	446・447	
7下P35	66E3	12	13	s	－	円	孤状	80	75	18	7下P60・SD75を切る。	－	
7下SK76	66D22 66E2	12	13	t	－	楕円	孤状	135	75	17	7下SD75を切る。	－	
7下SD75	66D22 66E2・3	12	13	u	－	－	孤状	-	60	15	7下P35・SK76に切られる。7下P60との前後関係は不明。	－	
7下SK18	66E7・8・12・13	12	13	vw	－	－	孤状	195	190	15	－	195	
7下SK80	65D4・5・9・10・15	12	13	x	57	楕円	階段状	560	400	32	旧河道に切られる。7下SD138との前後関係は不明。	340～343・473	
7下SK15	65E10・15	12	13	y	－	楕円	台形状	110	75	23	－	－	
7下SK14	65E15	12	13	z	－	円	台形状	115	100	44	－	－	
7下SK13	65E20 66E16	12	13	A	－	－	台形状	110	80	37	－	－	
7下SK5	62D18・20 65E11・16・17	12	13	B	－	楕円	台形状	195	160	35	－	75・119～122	
7下SK7	64E20	12	13	C	－	円	台形状	140	120	26	－	－	
7下SK104	64E3・4	12	13	D	58	楕円	孤状	220	100	10	－	198～201	
7下SK9	64E14・15・19・20	12	13	E	58	－	孤状	120	120	20	－	－	
7下SK2	64E18・19・23・24	12	13	F	－	楕円	孤状	345	130	12	－	464・465	
7下SK8	64E17・18	12	13	G	58	楕円	孤状	155	115	44	－	195・491・540・645	
7下SK109	65D19	12	13	H	－	楕円	孤状	(40)	(40)	35	－	116～118・481	
7下SK82	67D17・18・23	12	－	－	－	楕円	孤状	－	35	18	7下SK81との前後関係は不明	530	
7下SD66	67D23 67E2・3	12	－	－	－	－	孤状	－	45	21	7下SD83を切る。7下SK81に切られる。	－	
7下SD83	67D17・22	12	－	－	－	－	孤状	－	60	22	7下SD66に切られる。	－	
7下SK81	67D17	12	－	－	－	楕円？	孤状	215	60	5	7下SD66を切る。7下SK82との前後関係は不明。	－	
7下SD56	66D13	12	－	－	－	－	孤状	－	35	29	旧河道に切られる。	－	
7下SK64	66D16・21	12	－	－	－	長楕円	孤状	180	55	40	－	－	
7下SK73	66E2・3	12	－	－	－	楕円	孤状	70	40	9	7下P60に切られる。	－	
7下SD17	66E1・2・7・8・9	12	-	－	60	－	孤状	-	40	15	－	－	
7下SD16	66E1・2・7・8	12	－	－	60	－	孤状	-	40	19	－	－	
7下SD138	65D9・14・15・20	12	－	－	－	－	孤状	550	80	－	7下SK80との前後関係は不明。	－	
7下SD141	65D24・25	12	－	－	－	－	孤状	420	30	－	7下SD103に切られる。	－	
7下SD139	65D3・7・8・11・12・16・17・21	12	－	－	－	－	孤状	－	70	－	旧河道に切られる。	－	

遺構観察表

遺構名	グリッド	平面図	断面図	断面記号	写真	平面形	断面形	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	前後関係	出土遺物	備考
7下SK60	63C2,64C10 64D18,65D16 66E3	14	15	abc	58	−	階段状	640	480	68	7下SD136を切る。	−	
7下SK3	63D25,63E5 64D21	14	15	d	58	楕円形	孤状	260	215	50	−	450・451	
7下SK30	63E9・10・14・15	14	15	e	−	円	孤状	150	145	63	−	−	
7下SD4	63E10・15 64E6・11	14	15	fg	60	−	階段状	−	56	47	−	196・197	
7下SK102	63E9・10	14	15	h	59	楕円	台形状	300	220	38	−	−	
7下SD136	64C,64D,64E	14	15	ijk	60	−	孤状	−	170	30	旧河道に切られる。	483	
7下SK133	64D24	14	15	l	−	円	箱状	110	110	25	7下SD136を切る。	−	
7下SK132	64D18	14	15	m	−	円	孤状	100	100	10	−	334～339	
7下SD144	64D2・3・8・9	14	15	n	−	−	V字状	570	60	30	−	466・467	
7下SE145	64D3	14	15	o	55	円	袋状	140	130	105	7下SD144を切る。	−	
7下SD120	63D9・14	14	15	p	60	−	孤状	—	50	25	−	−	
7下SK122	63D13	14	15	r	−	長方形	孤状	220	150	20	7下SD121を切る。	112～115	
7下SE126	63D8・9・13	14	15	s	−	円	台形状	100	90	86	−	−	
7下SK125	63D16	14	15	t	−	−	孤状	150	90	25	−	326～333	
7下SK123	63D16	14	15	uv	−	楕円	孤状	150	100	25	7下SE137を切る。	−	
7下SE137	63D12・17	14	15	v	55	円	—	100	80	−	−	−	
7下SK124	62D18・19・23・24	14	15	w	−	楕円	孤状	130	100	25	−	−	
7下SK134	62D13・14・18・19	14	15	x	58	不整	孤状	400	300	15	−	61～78	
7下SE135	62C,62D,62E	14	15	y	−	楕円	孤状	350	240	70	−	−	
7下SD101	62C12・13	14	15	AC	−	−	孤状	—	120	30	−	68・78	
7下SK146	62C12・13	14	15	B	−	楕円	階段状	270	150	35	−	−	
7下SD1	63E14・15・20	14	15	D	60	−	階段状	-	110	22	−	−	
7下SD118	63D20 64D21	14	−	−	−	−	—	530	40	9	−	−	
7下SD130	64D11・12・17・18	14	−	−	−	−	—	400	60	14	−	493	
7下SK140	62C14・19	14	−	−	−	長楕円	—	200	60	9	−	480	
7下SD131	62E1 62D21	14	−	−	−	−	—	200	30	9	−	−	
7下SD128	62D14・15・19・20	14	−	−	−	−	—	450	80	−	7下SE137に切られる。	75	
7下SD117	63D16・21・22・23	14	−	−	−	−	—	570	60	−	−	99	
7下SD119	63D18・23	14	−	−	−	−	—	210	40	−	−	−	
7下SD121	63D9・10・14	14	−	−	−	−	—	320	30	−	7下SK122に切られる。	−	
7下SD129	64D16・17・22	14	−	−	−	−	—	650	40	−	−	−	
7下SD147	63D8	14	−	−	−	−	—	120	20	−	−	−	
7下SK127	63D7・8・12・13	14	−	−	−	円	—	140	130	−	−	−	
8下SD407	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	428～432	
8下SK34	70D6	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	452～455	8下SK39の誤りか
8下SK33	69D9	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	460・461	

掘立建物観察表

遺構名	層位	グリッド	桁行（間）	梁間（間）	長さ（m）	幅（m）	構造	主軸方位	面積	ピット平面形	前後関係	備考
SB1	上	69D	3	2	51	36	総柱	西偏64°	18.0㎡	円形	SB2・3、8上SD52と重複。	
SB2	上	69D	3	2	53	35	総柱	西偏60°	18.0㎡	円形	SK36に切られる。SB1・3、8上SD52・SK56と重複	
SB3	上	69D	2	2	36	26	総柱	東偏16°	8.8㎡	円形	SB2・3と重複。	
SB4	上	69D	4	2	76	57	総柱	東偏45°	41.0㎡	円形	8上SD64を切り、8上SK1に切られる。また8上SD49・61・62・63、SE48・60と重複。	
SB5	上	68CD	5	2	82	39	総柱	東偏18°	26.9㎡	円形	8上SK12に切られ、8上SD21・44と重複	
SB6	上	68CD 69CD	3	3	90	78	総柱	西偏29°	66.9㎡	円形	8上SD42・SK41を切り、8上SD29・31・32・33・34・44・49、8上SK30・37・SB7などと重複。	
SB7	上	68CD	3	2	56	50	総柱	西偏60°	27.0㎡	円形	8上SD34・SK36を切り、8上SD42・44・49などと重複。	
SB8	上	65E	3	1	88	32	側柱	西偏31°	28.1㎡	円形	他の遺構との重複はみられない。	
SB9	上	65E	3	1	56	23	側柱	東偏21°	11.9㎡	円形	他の遺構との重複はみられない。	
SB10	上	63・64D	3	2	66	40	総柱	西偏68°	22.7㎡	円形	SB12と重複。	
SB11	上	63D	2	2	47	37	側柱	西偏72°	16.1㎡	円形	他の遺構との重複はみられない。	
SB12	上	63・64D	3	2	71	33	総柱	西偏74°	22.1㎡	円・方形	SB12と重複。	
SB13	下	68CD 69CD	5・6	1	102	45	側柱	東偏32°	44.9㎡	円形	8下SK8・SE27・SD119・126、SB14・16などと重複	
SB14	下	68・69D	4	2	115	61	側柱	西偏45°	69.5㎡	円・楕円形	8下SK14・SE26に切られ、SD21を切る。また、8下SK6・8・11・12・SE27・SD24、SB13・14などと重複。	
SB15	下	69D	2	1	60	35	側柱	東偏30°	20.3㎡	円形	8下SD38・131、SK57に切られる可能性が高い。また、8下SD21・54・SK76と重複	
SB16	下	69D	4	2	73	49	側柱	西偏71°	24.0㎡	円形	8下SK12・57・SD12を切り、8下SE27・SD24、SB13・14などと重複。	

上層土器・陶磁器観察表

No.	遺構	層位No.	グリッド	種類	器種	口径	器高	底径・摘み径	最大径	胎土	回転方向	底部・頂部調整	その他の調整	降灰（黒化）	焼成	使用痕跡	転用痕跡	備考
1	8上SD1	—	70C22	青磁	碗	(130)	—	—	—	—	—	—	—	緑色，貫入	磁胎	口カケ	—	
2	8上P339	—	69D4	青磁	碗	(130)	—	—	—	—	—	—	—	淡緑色	磁胎	—	—	
3	—	—	69D19	青磁	碗	—	—	—	—	—	—	—	内面劃花文	オリーヴ色	磁胎	—	—	
4	8上SD29	—	68D10	青磁	碗	—	—	49	—	—	—	—	—	高台畳付け・内側無釉，青緑色，貫入	磁胎	高台畳付け磨耗	—	
5	—	—	69D9	青磁	碗	—	—	52	—	—	—	—	—	高台畳付け・内側無釉，青緑色	磁胎	—	—	
6	—	—	69D21	青磁	皿	—	—		—	—	—	—	—	青緑色，貫入	—	—	—	
7	8上SD1	炭層	69C10	土師器	皿A1	—	—	80	—	長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	
8	7上SD7	—	63E10	土師器	皿A1	130	42	69	—	英・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	内面黒斑	—	—	—	
9	—	—	69D24	土師器	皿A2	124	39	74	—	チャ・長・雲	—	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
10	8上SK1	—	69D	土師器	皿A2	122	35	90	—	雲母・白色粒子	右	回転糸後板目圧痕	ロクロナデ	—	—	—	—	
11	8上SD49	—	69D14	土師器	皿A1	140	—	—	—	—	—	—	ロクロナデ	—	—	内スス	—	
12	8上SK66	—	69D23	土師器	皿A2	110	—	—	—	チャ・長	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	SK66か
13	8上SD1	—	69C10	土師器	皿A1	—	—	68	—	チャ・長・雲	—	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
14	8上SD1	中層	69C10	土師器	皿A1	—	—	68	—	チャ・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
15	7上SK5	—	63E3	土師器	皿A1	—	—	60	—	チャ・長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	
16	8上SE60	—	69D23	土師器	皿A1	—	—	70	—	長	—	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
17	—	砂層	71C15	土師器	皿A1	—	—	70	—	精良	—	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
18	8上SK56	—	69D4	土師器	皿A1	—	—	62	—	長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
19	—	—	69D	土師器	皿A1	—	—	60	—	精良	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	
20	8上SD1	炭層	70C	土師器	小皿A1	90	28	52	—	チャ・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
21	8上SD1	—	69C12	土師器	小皿A1	83	24	39	—	チャ・長・少	—	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
22	8上SD1	—	69C17	土師器	小皿A1	88	24	42	—	英・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	口縁部内外面黒斑	—	—	—	
23	7上SD3	—	63D24	土師器	小皿A1	92	23	48	—	チャ・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
24	旧河道	砂層	69B25	土師器	小皿A1	82	22	44	—	雲・白色粒	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	内外スス	—	
25	7上SK1	3層	—	土師器	小皿A1	85	21	45	—	海針・長・雲	—	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
26	—	—	69D29	土師器	小皿A3	86	14	54	—	海針・チャ・雲	右	回転糸	ロクロナデ	口縁部内外面黒斑	—	—	—	
27	8上SE48	—	69D7	土師器	小皿A3	—	23	46	—	海針・チャ・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
28	8上SD1	—	70C7	土師器	小皿A3	92	22	60	—	精良	—	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
29	7上SK1	3層	—	土師器	小皿A1	—	—	38	—	チャ	—	回転糸	ロクロナデ	—	—	外スス	—	
30	7上SK4	2層	63E1	土師器	小皿A1	—	—	48	—	長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
31	8上SD64	—	69D16	土師器	小皿A2	70	12	50	—	海針・雲母	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
32	8上SE23・24	—	68D15	土師器	皿B1	132	31	88	—	海針・雲	—	不調整	ヨコナデ	—	—	—	—	
33		—	69D11	土師器	皿B1	—	—	84	—	チャ・長・雲	—	不調整	ヨコナデ	—	—	—	—	
34	8上SE23・24	—	68D15	土師器	皿B1	—	—	70	—	チャ・長	—	不調整	ヨコナデ	—	—	—	—	
35	8上SE23・24	—	68D15	土師器	皿B1	130	25	70	—	チャ・長・雲	—	不調整	ヨコナデ	—	—	—	—	
36	7上SE11	—	—	土師器	皿B2	138	37	114	—	長・雲	—	不調整	ヨコナデ	—	—	—	—	
37	8上SD34	—	69C12	土師器	小皿B1	99	23	79	—	チャ・長・雲	—	不調整	ヨコナデ	底部外面・口縁部内面円形黒斑	—	—	—	
38	8上P3	—	69D18	土師器	小皿B2	90	29	75	—	チャ・長・雲	—	不調整	ヨコナデ	底部外面・口縁部内面円形黒斑	—	口端部　剥離	—	
39	8上SK1	—	69D21	土師器	小皿B1	100	24	76	—	チャ・長・雲	—	不調整	ヨコナデ	—	—	口内スス	—	
40	8上SD34	—	69C12	土師器	小皿B1	98	25	79	—	チャ・長・雲	—	不調整	ヨコナデ	底部外面・口縁部内面円形黒斑	—	—	—	
41	8上SK1	—	69D24	土師器	小皿B2	100	27	80	—	長・雲	—	不調整	ヨコナデ	—	—	—	—	
42	8上SK1	—	69D22	土師器	小皿B2	100	—	—	—	長・雲・白色粒	—	—	ヨコナデ	—	—	—	—	
43	8上SK1	—	69D17・18・24	珠洲	すり鉢	200	—	—	—	海針・白色粒	—	—	ロクロナデ	—	—	内磨耗，口端部欠け	—	
44	8上SD1	—	70C14	珠洲	すり鉢	181	—	—	—	海針・白色粒	—	—	ロクロナデ	内外降灰	環硬	口端部磨耗	—	
45	8上SD1	—	70C14	珠洲	すり鉢	—	—	—	—	海針・白色粒・黒色粒	—	—	ロクロナデ，おろし目一単位6本	Ⅲ類	環硬	—	—	
46	—	—	70C13	珠洲系陶器	すり鉢	—	—	90	—	英・長	—	静止糸	ロクロナデ	内面降灰	環硬	内磨耗	—	笹神か
47	8上SE23・24	—	68D10・15	珠洲系陶器	すり鉢	236	102	94	—	チャ・英・長	—	—	ロクロナデ	—	環軟	内外磨耗	—	笹神か 51と同一個体か
48	—	—	69D24	珠洲系陶器	すり鉢	—	—	104	—	英・長	—	静止糸後板目圧痕	ロクロナデ	内面降灰	環硬	内・底外磨耗	—	笹神
49	8上SK1	—	69D22・23	珠洲	すり鉢	—	—	110	—	海針・白色粒	—	板目圧痕	ロクロナデ	内面降灰	環硬	内・底外磨耗	—	
50	8上SK40・SD49	—	68C23，69C3，69D13，71C16	珠洲	すり鉢	322	131	130	—	海針・白色粒	—	板目圧痕	ロクロナデ	—	環硬	内・底外磨耗，底部漆継ぎ	—	
51	8上SE23・24	—	68D10・15	珠洲系陶器	すり鉢	234	—	—	—	チャ・英・長	—	—	ロクロナデ	—	環軟	内磨耗・剥落 口端部カケ	—	47と同一個体か
52	—	—	68E4	珠洲	すり鉢	250	—	—	—	海針・白色粒・黒色粒	—	—	ロクロナデ	—	環硬	内磨耗	—	
53	8上SD1	—	70C7	珠洲？	壺T種？	230	—	—	—	海針・白色粒	—	—	ロクロナデ後ハケメ・カキメ	—	環硬	—	—	
54	—	—	—	珠洲	壺T種	198	—	—	—	海針・白色粒・黒色粒	—	—	ロクロナデ	—	環硬	—	—	
55	8上SD1	—	69C22，70C1	珠洲	壺R種	80	—	—	—	白色	—	—	ロクロナデ	—	環硬	口端部磨耗	—	
56	—	—	70C9	珠洲	甕	—	—	—	—	海針・白色粒	—	—	ロクロナデ	—	環硬	—	—	
57	7上SD1	下層	62E7	珠洲	甕	—	—	—	—	海針・白色	—	—	外平行タタキ，内無文当て具	—	環硬	外磨耗	—	
58	8上SD47	—	69D15	瓷器系陶器	甕	—	—	—	—	白色粒	—	—	ねじ立て	内面降灰	酸硬	—	—	越前か
59	旧河道	—	66D11	肥前系磁器	有台皿	120	35	43	—	—	—	高台ケズリ出し，無釉	—	透明釉，見込み蛇ノ目釉剥	磁胎	見込み磨耗・高台欠け・磨耗	—	内野山
60	旧河道	—	—	肥前系磁器	丸椀	112	—	—	—	—	—	—	—	透明釉	磁胎	—	—	伊万里

下層土器観察表

No.	遺構	層位No.	グリッド	種類	器種	口径	器高	底径・摘み径	最大径	胎土	回転方向	底部・頂部調整	その他の調整	降灰（黒化）	焼成	使用痕跡	転用痕跡	備考
61	7下SK134	フク土	62D14・18・23，62C4	須恵器	杯蓋Ⅱ	155	34	23	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅱa類	環硬	内磨耗	—	
62	7下SD101 SK134	—	62D17・18・23，63D16	須恵器	杯蓋Ⅰ	152	28	34	—	B群	左	ロクロケズリ	ロクロナデ	Ⅱb類	環硬	内磨耗	—	
63	7下SK134	フク土	62D12・18	須恵器	杯蓋Ⅰ	132	19	20	—	A群	右	ロクロケズリ	ロクロナデ	Ⅰ類	環硬	内磨耗，口上下端欠け	—	
64	7下SK134	—	62D23	須恵器	有台杯Ⅱ	114	34	64	—	B群	—	ロクロケズリ	体外下ロクロケズリ，他ロクロナデ	蓋とセット	環硬	見込み・体外・高台磨耗	—	
65	7下SK134	—	62D19・23，63C11	須恵器	無台杯Ⅰ	120	35	76	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・体外下・口内磨耗	—	
66	7下SK134	フク土	62C4，62D18	須恵器	無台杯Ⅰ	120	31	80	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	酸軟	見込み・体外下・口内磨耗	—	
67	7下SK134	—	62D23	須恵器	無台杯Ⅰ	120	31	86	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・体外下・口内磨耗	—	
68	7下SD101 SK134	—	62D18	須恵器	無台杯Ⅰ	117	32	86	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・体外下・口内磨耗	—	
69	7下SK134	—	62D18・23・24	須恵器	無台杯Ⅰ	124	34	90	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類，内面降灰	環硬	希薄	—	
70	7下SK134	—	62D18	須恵器	有台杯Ⅰ	100	41	高58 低68	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類，内面ヒダスキ	環硬	見込み・体外下磨耗，高台欠け	—	
71	7下SK134	—	62D23	須恵器	有台杯Ⅰ	104	45	55		A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	単体	環硬	内剥落，体外下磨耗，高台欠け	—	
72	7下SK134	—	62D23	須恵器	鉢	180	—	—	—	A群	—	—	体外下カキメ，中ロクロケズリ，他ロクロナデ	—	環硬	口磨耗	—	
73	7下SK134	フク土	62D18・23	土師器	小釜		—	84	—	チャ・英・長・雲	—	不調整	内面カキメ，外面ロクロナデ	—	—	外被熱	—	
74	7下SK134	—	62D23	土師器	長釜	200	—		—	海針・チャ・英・長・雲	—	—	口ヨコナデ，体ハケメ	—	—	—	—	西古志型
75	7下SK5 SD128 SK134	—	62D18・20，64E19・20，65E11・16・17	須恵器	広口壺	—	—	105	—	A群	—	ヘラケズリ	体外上・体内下カキメ，体外下ヘラケズリ，他ロクロナデ	—	環硬	—	—	
76	7下SK134	—	62D18	土師器	鍋	380	—	—	—	チャ・長	—	—	体内カキメ，他ロクロナデ	—	—	—	—	
77	7下SK134	—	62D23	土師器	鍋	360	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	体内カキメ，他ロクロナデ	—	—	体外下スス，内炭化物	—	
78	7下SK134 SD101	—	62D17・18	土師器	鍋	440	—	—	—	チャ・長	—	—	口，体内上ロクロナデ，体外下ヘラケズリ，他カキメ	—	—	体外スス	—	
79	8下SD42	—	70D6	須恵器	有台杯Ⅰ	101	46	74	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	—	環軟	見込み・底外磨耗	—	
80	8下SD42，SK43	—	69D10	須恵器	無台杯Ⅰ	122	29	90	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
81	8下SD42	—	70D6	須恵器	無台杯Ⅰ	120	31	82	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
82	8下SD42	—	69D25	土師器	鍋	374	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	体外カキメ，体外下タタキ後ヘラケズリ，他ロクロナデ	—	—	体外下スス	—	
83	8下SD42	—	69C19	土師器	鍋	340	—	—	—	チャ・長	—	—	体外カキメ，他ロクロナデ	—	—	—	—	
84	8下SK43・SD47	—	69D9・10	須恵器	杯蓋Ⅰ	135	19	24	—	A群	右	ロクロケズリ	ロクロナデ	Ⅰ類	環硬	内磨耗	—	
85	8下SK43	—	69D9	須恵器	有台杯Ⅱ	113	34	54	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	見込み・口内上・体外下・高台磨耗	—	
86	8下SK43	—	69D9	須恵器	有台杯Ⅱ	112	35	62	—	A群	—	—	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	内外磨耗	—	
87	8下SK43	—	69D9	須恵器	有台杯Ⅰ	—	—	54	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	—	環硬	見込み・高台端部磨耗	—	
88	8下SK43	—	69D10	須恵器	無台杯Ⅰ	123	35	80	—	B群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環軟	内外磨耗	—	
89	8下SK43	—	69D10	須恵器	無台杯Ⅰ	117	29	78	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
90	8下SK43	—	69D9	須恵器	無台杯Ⅰ	123	38	81	—	C群	右	回転ヘラ後板目圧痕	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	希薄	—	
91	8下SK43	—	—	須恵器	無台杯Ⅰ	118	33	86	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
92	8下SK43	—	69D9	土師器	無台椀AⅠ	—	—	50	—	チャ・長	—	回転糸？	ロクロナデ	—	—	—	—	
93	8下SK43	—	—	須恵器	無台杯Ⅰ	119	28	84	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外磨耗	—	
94	8下SK43	—	69D9	須恵器	無台杯Ⅰ	120	34	80	—	海針・A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
95	8下SK43	—	69D9	土師器	無台椀AⅠ	123	44	48	—	海針・砂多	—	回転糸？	ロクロナデ	—	—	—	—	
96	8下SK43	—	69D10	土師器	小釜	154	—	—	—	チャ・雲	—	—	口ロクロナデ，体カキメ	—	—	外スス 口内炭化物	—	
97	8下SK43	—	69D10	土師器	小釜	140	—	—	—	チャ・長・赤色粒	—	—	ロクロナデ	—	—	口内炭化物	—	
98	8下SD42・SK43	—	69D10・15	土師器	小釜	141	131	76	—	チャ・英・長	—	ヘラケズリ	体外下ヘラケズリ，体外上カキメ，他ロクロナデ	—	—	口内炭化物・体外スス	—	
99	8下SD21・117・407・SK43	—	69D2～5・7・8・12・13	須恵器	甕	250	—	—	—	A群	左	—	体外平行タタキ後カキメ，体内同心円当て具，他ロクロナデ	—	環軟	頸内・体内上磨耗	—	
100	8下SK43	—	69D9	須恵器	球胴壺	81	—	—	—	A群	—	—	ロクロナデ	蓋とセット，蓋Ⅰ類	環硬	口端部磨耗	—	
101	8下SK43	—	69D3	土師器	長釜	200	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	体外カキメ，他ロクロナデ	—	—	希薄	—	

No.	遺構	層位No.	グリッド	種類	器種	口径	器高	底径・摘み径	最大径	胎土	回転方向	底部・頂部調整	その他の調整	降灰（黒化）	焼成	使用痕跡	転用痕跡	備考
102	8下SK43	—	69D9	土師器	鍋	420	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	口ロクロナデ，体外下平行タタキ，他カキメ	—	—	外スス	—	
103	8下SD47	—	71D1	須恵器	有台杯Ⅱ	116	35	64	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗，高台欠け	—	
104	8下SD47	—	69D9	須恵器	有台杯Ⅱ	120	38	60	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	見込み・口内上体外下・高台磨耗	—	
105	8下SD47	—	69D15	土師器	無台椀AⅠ	—	—	65	—	—	左	回転糸	ロクロナデ	内面円形黒斑	—	—	—	
106	8下SD47	—	69D10	土師器	小釜	—	—	64	—	チャ・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	外赤化・スス	—	
107	8下SD47	—	69D10	土師器	鍋	380	—	—	—	チャ・英・長	—	—	体外カキメ，他ロクロナデ	—	—	外スス	—	
108	8下SD38 SK45 SD47	—	69D10・14・15	須恵器	長頸瓶AⅠ	—	—	61	100	B群	左	回転ヘラ	体外下ロクロケズリ，他ロクロナデ	—	環硬	高台欠け・磨耗	—	
109	8下SK47	—	70D11	須恵器	無台杯Ⅰ	127	27	80	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	内外磨耗	—	
110	8下SK47	—	70D11	土師器	無台椀AⅠ	119	39	45	—	チャ・長・雲	—	回転糸？	ロクロナデ	—	—	—	—	
111	8下SK47	—	70D11	土師器	小釜	—	—	62	—	チャ・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	内炭化物，外赤化・スス炭化物	—	
112	7下SK122	—	62C10, 63C11, 63D9・14	須恵器	杯蓋Ⅰ	132	26	23	—	C群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅱb類	環硬	内・摘み磨耗	—	
113	7下SK122	—	63D14, 64E14, 65E14・15	須恵器	杯蓋Ⅰ	122	24	21	—	A群	右	ロクロケズリ	ロクロナデ	Ⅰ類	環硬	内・摘み磨耗	—	
114	7下SK122	—	62C19, 63C12	須恵器	杯蓋Ⅰ	—	—	22	—	C群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅰ類	環硬	内・摘み磨耗	—	
115	7下SK122	—	63D14	土師器	長釜	210	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	
116	7下SK109	—	65D19	須恵器	無台杯Ⅰ	118	35	切60 底90	—	C群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
117	7下SK109	—	65D19	須恵器	無台杯Ⅰ	120	34	—	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
118	7下SK109	—	65D19・20, 66D6	須恵器	無台杯Ⅰ	—	—	68	—	B群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	—	環硬	見込み・体外下磨耗	—	
119	7下SK5	—	65E16	須恵器	有台杯Ⅱ	106	38	52	—	C群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	単体	環硬	内の自然剥落，高台磨耗	—	
120	7下SK5	—	65E16	須恵器	有台杯Ⅱ	116	38	—	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	見込み・体外・口内磨耗，高台欠け	—	
121	7下SK5	—	65E16・17	須恵器	無台杯Ⅰ	127	33	—	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上体外下磨耗	—	
122	7下SK5	—	65E16・17	土師器	長釜	216	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	体外カキメ，他ロクロナデ	—	—	希薄	—	
123	8下SD40	—	68D19	須恵器	杯蓋Ⅰ	132	15	21	—	A群	—	ロクロケズリ	ロクロナデ	Ⅰ類	酸硬	内・摘み磨耗	—	
124	8下SD40	—	68D19	須恵器	杯蓋Ⅰ	140	23	26	—	B群	右	ロクロケズリ	ロクロナデ	Ⅱa類	環硬	内・摘み磨耗	—	
125	8下SK31・SD40	—	68D19, 69D17	須恵器	杯蓋Ⅰ	130	24	21	—	A群	右	ロクロケズリ	ロクロナデ	Ⅰ類	環硬	内・摘み磨耗	—	
126	8下SK36・SD40	—	68D19, 69D19・25	須恵器	有台杯Ⅲ	148	64	84	—	B群	左	ロクロケズリ	体外下ロクロケズリ，他ロクロナデ	蓋とセット	環硬	見込み・高台端部磨耗	—	
127	8下SD40	—	69D19	須恵器	有台杯Ⅲ	140	—	—	—	B群	—	—	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	口内上磨耗	—	
128	8下SD40	—	69D	須恵器	有台杯Ⅱ	128	37	78	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	内外磨耗	—	
129	8下SD40	—	70D	須恵器	有台杯Ⅲ	—	—	91	—	A群	右	ロクロケズリ	体外下ロクロケズリ，他ロクロナデ	蓋とセット	環硬	内外磨耗	割り揃え	
130	8下SD40	—	69D18・23	須恵器	有台杯Ⅲ	—	—	66	—	B群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅱ類	環硬	見込み・高台磨耗	—	
131	8下SD40	—	69C25	須恵器	有台杯Ⅲ	—	—	70	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	見込み・高台磨耗	—	
132	8下SD40	—	69D19	須恵器	無台杯Ⅰ	110	34	53	—	C群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環軟	見込み・口内上磨耗	—	
133	8下SD40	—	68D19	須恵器	無台杯Ⅰ	—	—	73	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	—	環硬	見込み・体外下磨耗	—	
134	8下SD40・42	—	69D19，70D6	須恵器	無台杯Ⅰ	120	33	86	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環軟	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
135	8下SD40	—	69D19	須恵器	無台杯Ⅰ	112	33	76	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	希薄	—	
136	8下SD40	—	68D19	須恵器	無台杯Ⅰ	120	32	82	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上体外下磨耗	—	
137	8下SD40	—	69D19	須恵器	無台杯Ⅰ	126	31	80	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外磨耗	—	
138	8下SD40	—	69D25	須恵器	無台杯Ⅰ	116	35	80	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
139	8下SD40	—	69C25	須恵器	無台杯Ⅰ	120	34	72	—	B群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
140	8下SD40	—	69D25	須恵器	無台杯Ⅰ	116	28	86	—	B群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
141	8下SD40	—	69D18	須恵器	無台杯Ⅰ	123	30	76	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	酸硬	見込み・口内上体外磨耗	—	
142	8下SD40	—	69D23	須恵器	無台杯Ⅰ	121	30	74	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上体外磨耗	—	
143	8下SD40	—	69D14	須恵器	無台杯Ⅰ	114	30	76	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上体外下磨耗	—	
144	8下SD40	—	69D13	須恵器	無台杯Ⅰ	—	—	81	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類，内面降灰	環硬	見込み・体外下磨耗	—	
145	8下SD40	—	69D18	土師器	無台椀AⅠ	114	45	46	—	チャ・長・雲	—	回転糸	ロクロナデ	Ⅲ類	—	—	—	
146	8下SD40	—	68D18	土師器	小釜？	—	—	55	—	チャ・雲・赤色粒	—	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
147	8下SD40	—	69D18	土師器	無台椀AⅠ	124	—	—	—	チャ・英・雲・赤色粒	—	—	ロクロナデ	—	—	口炭化物	—	
148	8下SD40	—	69D18	黒色土器	無台椀	—	—	52	—	チャ・長・雲	右	ロクロケズリ後ヘラミガキ	ヘラミガキ	底外棒状黒斑	—	—	—	

No.	遺構	層位No.	グリッド	種類	器種	口径	器高	底径・摘み径	最大径	胎土	回転方向	底部・頂部調整	その他の調整	降灰（黒化）	焼成	使用痕跡	転用痕跡	備考
149	8下SD40	—	69D18	土師器	無台椀AⅠ	—	—	55	—	海針・チャ・英・長	右	回転糸，ヘラ記号	ロクロナデ	—	—	—	—	
150	8下SD40	—	69D18	土師器	無台椀AⅠ	118	40	50	—	チャ・長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	
151	8下SD40	—	69D18	土師器	無台椀AⅡ	133	45	60	—	チャ・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
152	8下SD40	—	69D19，69C25	土師器	無台椀AⅡ	150	55	74	—	チャ・長・雲	—	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
153	8下SD40	—	69C25	土師器	無台椀AⅢ	162	57	57	—	チャ・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	体外スス	—	
154	8下SD40	—	69D18	土師器	無台椀AⅢ	166	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	
155	8下SD40	—	69D18	黒色土器	無台椀	—	—	64	—	海針・チャ・長・雲	右	ロクロケズリ	内ヘラミガキ，体外下ロクロケズリ	底外棒状黒斑	—	—	—	
156	8下SD40	—	69D17・18・21・22	須恵器	球胴壺	—	—	104	192	A群	—	不調整	体外下ロクロケズリ，体内下ナデ，他ロクロナデ	蓋なし	環硬	高台欠け	—	
157	8下SK4・39 SD38・40	—	69D4・10・15，69C17，70D1	土師器	長釜	196	—	—	—	チャ・英・長・定	—	—	口外ロクロナデ，他カキメ	—	—	体外スス，体内ヨゴレ	—	
158	8下SD40・SK36	—	69D19	土師器	長釜	224	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	口ロクロナデ，体カキメ	—	—	—	—	
159	8下SE205	フク土	—	須恵器	有台杯Ⅰ	108	41	60	—	C群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	単体	酸軟	見込み・口内上・体外下磨耗，高台欠け	—	
160	8下SE205	—	—	須恵器	有台杯Ⅰ	100	47	46	—	C群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	単体	環硬	高台磨耗	—	
161	8下SE205	フク土	—	須恵器	有台杯Ⅲ	—	—	80	—	B群	左	ロクロケズリ	体外下ロクロケズリ，他ロクロナデ	蓋とセット	環硬	高台磨耗	—	
162	8下SE205	フク土	—	須恵器	有台杯Ⅲ	—	—	66	—	B群・砂多	左	回転ヘラ	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	見込み・高台磨耗	—	
163	8下SE205	フク土	—	須恵器	無台杯Ⅰ	116	32	80	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外磨耗，底外墨書	—	
164	8下SE205	フク土	—	須恵器	無台杯Ⅰ	124	35	76	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
165	8下SE205	—	—	須恵器	無台杯Ⅰ	117	30	80	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗 底外墨書	—	
166	8下SE205	フク土	—	須恵器	無台杯Ⅰ	112	32	70	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	内外磨耗	—	
167	8下SE205	フク土	—	須恵器	無台杯Ⅰ	130	30	86	—	A群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環軟	見込み・体外下磨耗	—	
168	8下SE205	フク土	—	須恵器	無台杯Ⅰ	126	40	90	—	A群		回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	内・体外下磨耗	—	
169	8下SE205	フク土	—	須恵器	無台杯Ⅰ	124	25	74	—	B群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	希薄	—	
170	8下SE205	—	—	土師器	無台椀AⅢ	174	46	72	—	チャ・長・雲定混	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	
171	8下SE26・205 SK2	フク土	66D18	須恵器	長頸瓶AⅢ	—	—	112	201	C群	左	—	体外下ロクロケズリ，他ロクロナデ	—	環硬	高台欠け	—	
172	8下SK31	—	69D17	須恵器	有台杯Ⅱ	116	38	71	—	A群	—	—	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	高台磨耗	—	
173	8下SK31	—	69D17	須恵器	有台杯Ⅱ	116	40	75	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	内・高台磨耗	—	
174	8下SK31	—	69D17	須恵器	有台杯Ⅱ	115	32	50	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	見込み・口内上・体外下・高台磨耗	—	
175	8下SK31	—	69D17，71D12	須恵器	有台杯Ⅲ	130	63	89	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	見込み・口内上・高台磨耗	—	
176	8下SK31	—	69D17	須恵器	無台杯Ⅰ	119	37	切60 底87	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
177	8下SK31	—	69D17	須恵器	無台杯Ⅰ	124	34	82	—	B群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
178	8下SK31	—	69D17	須恵器	無台杯Ⅰ	126	35	86	—	B群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下・底外磨耗	—	
179	8下SK31	—	69D17	須恵器	無台杯Ⅰ	120	26	71	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	内・体外磨耗	—	
180	8下SK31	—	69D17	黒色土器	無台椀Ⅲ	—	—	70	—	チャ・長・雲	—	—	内赤彩・ミガキ，外ロクロケズリ	—	—	—	—	
181	8下SK31	—	69D17	土師器	無台椀AⅠ	130	39	64	—	チャ・長	—	回転糸	ロクロナデ	Ⅲ類	—	—	—	
182	8下SK31	—	69D17	土師器	無台椀AⅠ	—	—	47	—	チャ・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	見込み磨耗	—	
183	8下SK31	—	69D17	土師器	小釜	—	130	—	—	チャ・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	口内炭化物	—	
184	8下SK31	—	69D19	土師器	小釜	—	—	86	—	チャ・長・雲	—	ヘラケズリ	ロクロナデ	—	—	外スス	—	
185	8下SK31	—	69D17	土師器	小釜	144	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	口内炭化物，外スス	—	
186	8下SK31	—	69D17	土師器	小釜	—	—	72	—	チャ・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	底外赤化，体外スス	—	
187	8下SK31	—	69D17	土師器	小釜	—	—	54	—	チャ・長・雲	—	回転糸	外ロクロナデ，内カキメ	—	—	内炭化物	—	
188	8下SK31	—	69D17	土師器	長釜	224	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	内外カキメ	—	—	外スス	—	
189	8下SK31	—	69D17	土師器	長釜	200	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	体外カキメ，他ロクロナデ	—	—	希薄	—	
190	8下SK31	—	69D17	土師器	長釜	180	—	—	—	チャ・英・長	—	—	ロクロナデ	—	—	外スス	—	
191	8下SK31	—	69D6・7	土師器	鍋	390	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	体外・口内カキメ，他ロクロナデ	—	—	—	—	
192	8下SK31	—	69D17	須恵器	長頸瓶B	—	—	—	—	B群	—	—	ロクロナデ	—	環硬	—	口縁部・頸部打ち欠き	
193	7下SD1	—	64E16	須恵器	折縁杯	165	50	74	—	C群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・高台磨耗，口磨耗・欠け	—	
194	7下SD1	—	64D16	須恵器	有台杯Ⅰ	95	57	39	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・体外下・高台磨耗	—	

No.	遺構	層位No.	グリッド	種類	器種	口径	器高	底径・摘み径	最大径	胎土	回転方向	底部・頂部調整	その他の調整	降灰（黒化）	焼成	使用痕跡	転用痕跡	備考
195	7下SD1・SD4・SK8・SK9・SK18・SD37	—	63D7，63E8・15，64C17，64E7・11・20，65D7	須恵器	狭口壺	107	—	107	208	A群	—	不調整	体外中カキメ，体外下ヘラケズリ，他ロクロナデ	蓋とセット，蓋Ⅰ類	環硬	—	—	
196	7下SD4	—	64E11	須恵器	有台杯Ⅰ		—	42	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	単体	環硬	内カキシブ状見込み磨耗，高台磨耗欠け	—	
197	7下SD4	—	64E11	須恵器	有台杯Ⅱ	118	38	74	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗，高台欠け	—	
198	7下SK104	—	64E3・4	須恵器	無台杯Ⅰ	121	33	74	—	海針・D類	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環軟	見込み・口内上・体外下磨耗，底外墨書	—	
199	7下SK104	—	(63E10)	須恵器	無台杯Ⅰ	—	—	90	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・体外下磨耗，底外墨書	—	
200	7下SK104	—	64E4	須恵器	無台杯Ⅰ	124	31	84	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
201	7下SK104	—	63E20，64E4・16，65D11	須恵器	有台杯Ⅲ	94	43	49	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	単体	環硬	高台磨耗	—	
202	8下SK36	—	(69D14)	須恵器	杯蓋Ⅱ	158	43	22	—	A群	右	ロクロケズリ	ロクロナデ	Ⅱa類	環硬	内・摘み磨耗	—	
203	8下SK36	—	69D20	須恵器	有台杯Ⅱ	130	41	74	—	A群	—	—	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	高台磨耗	—	
204	8下SK36	—	69D19	須恵器	有台杯Ⅱ	120	39	52	—	A群	—	—	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	内外磨耗	—	
205	8下SK36	—	69D19	須恵器	有台杯Ⅱ	116	42	75	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	見込み・口内上・高台磨耗	—	
206	8下SK36	—	69D19	須恵器	有台杯Ⅱ	102	39	68	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	見込み・口内上・体外下・高台磨耗	—	
207	8下SK36	—	69D19	須恵器	杯蓋Ⅰ	128	15	19	—	A群	右	ロクロケズリ	ロクロナデ	Ⅰ類	環硬	内・摘み磨耗	—	
208	8下SK36	—	69D19	須恵器	無台杯Ⅰ	122	32	82	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
209	8下SK36	—	69D19	須恵器	無台杯Ⅰ	124	31	86	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
210	8下SK36	—	69D19	須恵器	無台杯Ⅰ	120	33	切80底100	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
211	8下SK36	—	(69D14)	須恵器	無台杯Ⅱ	131	39	88	—	B群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み磨耗	—	
212	8下SK36	—	—	須恵器	無台杯Ⅰ	119	38	87	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	内磨耗	—	
213	8下SK36・SD40	—	69D19・14	須恵器	無台杯Ⅰ	116	28	90	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
214	8下SK36	—	69D19	須恵器	無台杯Ⅰ	127	35	86	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	希薄	—	
215	8下SK36	—	69D19	土師器	無台椀AⅠ	128	35	74	—	チャ・長・雲	—	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
216	8下SK36	—	69D18・19	黒色土器	無台椀Ⅱ	136	53	66	—	チャ・長・雲・白色粒	—	—	内ヘラミガキ，体外下ロクロケズリ	体外・底外黒斑	—	—	—	
217	8下SK36	—	(69D14)	土師器	無台椀BⅢ	—	—	60	—	チャ・長・白色粒	右	ロクロケズリ後ヘラミガキ	体外下ロクロケズリ，内ヘラミガキ	Ⅲ類？	—	—	—	
218	8下SK36	—	69D19	土師器	長釜	200	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	体外カキメ，他ロクロナデ	—	—	—	—	
219	8下SK36	—	69D19・20	土師器	長釜	186	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	口ロクロナデ，体カキメ	—	—	体外スス	—	
220	8下SK36	—	69D19	土師器	長釜	195	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	体外カキメ，他ロクロナデ	—	—	—	—	
221	8下SK36	—	69D19	土師器	長釜	202	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	口内カキメ，他ロクロナデ	—	—	体外スス	—	
222	8下SK36	—	69D19	土師器	長釜	190	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	体外カキメ・体内上カキメ，体内下ハケメ後ロクロナデ，他ロクロナデ	—	—	—	—	
223	8下SK36	—	69D19	土師器	長釜	200	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	体外カキメ，他ロクロナデ	—	—	希薄	—	
224	8下SK36	—	69D19	土師器	小釜	152	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	
225	8下SK36	—	69D19・20	土師器	小釜	—	—	—	—	チャ・長・定	—	—	内カキメ，外ロクロナデ	—	—	—	—	
226	8下SK36	—	69D19	土師器	小釜	—	—	80	—	チャ・長	—	不調整	体外ヘラケズリ，内カキメ	—	—	外スス，底外赤化	—	
227	8下SK36	—	69D19・20	土師器	鍋	330	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	外スス，内炭化物	—	
228	8下SK17・210	—	68D，68E	須恵器	長頸瓶BⅢ	—	—	98	180	C群	—	—	体外下ロクロケズリ，他ロクロナデ	—	酸硬	高台欠け	口縁部・頸部割り揃え	
229	8下SK17	—	68D25，69D9	須恵器	無台杯Ⅰ	125	31	84	—	B群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類，内面降灰	環硬	希薄	—	
230	8下SK17	—	68D25	須恵器	無台杯Ⅰ	113	30	63	—	B群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・体外磨耗	—	
231	8下SK17	—	69D21	須恵器	無台椀	136	37	58	—	A群	左	回転糸	ロクロナデ	Ⅲ類	環軟	見込み・体外下磨耗	—	
232	8下SK17	—	69D21	土師器	無台椀AⅠ	121	44	44	—	チャ・長・雲	—	回転糸？	ロクロナデ	—	—	—	—	
233	8下SK17	—	68D25	黒色土器	無台椀Ⅲ	158	49	60	—	チャ・英・長・雲	右	ロクロケズリ後ヘラミガキ	体外下ロクロケズリ，他ヘラミガキ	底外棒状黒斑	—	—	—	
234	8下SK17	—	69D21	土師器	小釜	150	—	—	—	チャ・長	—	—	ロクロナデ	—	—	口内炭化物	—	
235	8下SK17	—	68D25	土師器	小釜	140	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	体外スス，口内・体内上炭化物	—	
236	8下SK17	—	68D19	土師器	長釜	224	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	内外カキメ	—	—	外スス，内ヨゴレ	—	
237	8下SK17・SD40	—	68D25，69D14・18	土師器	小釜	—	—	60	—	チャ・長	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	外赤化	—	
238	8下SK17	—	68D21	土師器	小釜	—	—	50	—	チャ・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	体外スス	—	

No.	遺構	層位No.	グリッド	種類	器種	口径	器高	底径・摘み径	最大径	胎土	回転方向	底部・頂部調整	その他の調整	降灰（黒化）	焼成	使用痕跡	転用痕跡	備考
239	8下SK17	—	69D21	土師器	小釜	—	—	70	—	チャ・長・雲	—	回転糸	ロクロナデ	—	—	体外スス，体内炭化物	—	
240	8下SK17	—	68D25	土師器	鍋	390	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	口ロクロナデ，体外下ヘラケズリ，他カキメ	—	—	外スス	—	
241	8下SD21・40	—	69D14・19	須恵器	杯蓋Ⅰ	130	26	23	—	A群	右	ロクロケズリ	ロクロナデ	Ⅰ類	環硬	見込み・摘み磨耗	—	
242	8下SD21・SK31	—	69D14・17	須恵器	杯蓋Ⅰ	135	30	26	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅰ類	環硬	見込み・摘み磨耗	—	
243	8下SD21・SK36	—	69D2・6・12・19	須恵器	杯蓋Ⅰ	133	29	34	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅱb類	環硬	—	転用硯	
244	8下SD21・46	—	70D1，69D2・5・7	須恵器	有台杯Ⅲ	—	—	65	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	見込み・高台磨耗	—	
245	8下SD21・30・SK43	—	69D12・17・11	須恵器	有台杯Ⅲ	—	—	89	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	見込み・高台磨耗	—	
246	8下SK36，SD21・105・P68	—	69D7，69C21，68D13，	須恵器	有台杯Ⅰ	118	40	70	—	C群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	単体	環硬	高台磨耗	—	
247	8下SD21	—	69D12・17	須恵器	有台杯Ⅰ	—	—	63	—	C群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	—	環硬	高台欠け	—	
248	8下SD21	—	(69D13・18)	須恵器	有台杯Ⅰ	106	47	59	—	A群	—	ロクロケズリ	ロクロナデ	単体	環硬	体外下・高台磨耗	—	
249	8下SD21	—	69D3	須恵器	有台杯Ⅰ	97	38	63	—	B群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅱ類	環硬	見込み・高台磨耗	—	
250	8下SD21	—	69D7	須恵器	無台杯Ⅰ	—	—	70	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	—	環硬	見込み・体外下磨耗	円形割り揃え	
251	8下SD21	—	69D3	須恵器	無台杯Ⅰ	—	—	70	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	—	環硬	見込み・体外下磨耗	円形割り揃え	
252	8下SD21	—	69D4	須恵器	無台杯Ⅰ	120	32	90	—	B群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
253	8下SD21・24	—	69D12・17	須恵器	無台杯Ⅰ	124	29	70	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環軟	見込み磨耗	—	
254	8下SD21	—	69D2・7	須恵器	無台杯Ⅰ	124	33	90	—	B群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上磨耗	—	
255	8下SD21	—	69D12・17	須恵器	無台杯Ⅰ	130	29	74	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環軟	見込み・口内上・体外磨耗	—	
256	8下SD21	—	69D12・17	土師器	無台椀AⅠ	122	37	48	—	精良	右	回転糸	ロクロナデ	Ⅲ類	—	—	—	
257	8下SD21	—	69D8・12	土師器	無台椀AⅠ	131	36	60	—	チャ・長	右	回転糸	ロクロナデ	底外棒状黒斑，内円形黒斑	—	—	—	
258	8下SD21	—	69D12・17	土師器	無台椀AⅠ	115	39	53	—	チャ・長・雲	—	回転糸？	ロクロナデ	—	—	内外器面剥落	—	
259	8下SD21	—	69D12	土師器	無台椀AⅠ	118	42	40	—	長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	外スス	—	
260	8下SD21	—	69D12・17	土師器	無台椀AⅠ	124	—	—	—	チャ・長	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	
261	8下SD21	—	69D12・17	土師器	無台椀AⅠ	120	—	—	—	チャ・長	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	
262	8下SD21	—	69D12・17	土師器	無台椀AⅠ	124	—	—	—	チャ・長	—	—	ロクロナデ	—	—	口スス	—	
263	8下SD21	—	69D12	土師器	無台椀AⅠ	—	—	70	—	チャ・長・雲	右	回転糸後ロクロケズリ	ロクロナデ	—	—	—	—	
264	8下SD21	—	69D17・18	土師器	無台椀AⅠ	—	—	50	—	チャ・長・雲	—	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
265	8下SD21	—	69D12・17	土師器	無台椀AⅠ	—	—	48	—	精良	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
266	8下SD21	—	69D7	黒色土器	無台椀Ⅲ	170	—	—	—	チャ・長・雲・白色粒	—	—	内ヘラミガキ	—	—	—	—	
267	8下SD21・24・40	—	69D17・18・19	土師器	無台椀AⅡ	151	52	60	—	チャ・長・雲	—	回転糸？	ロクロナデ	—	—	—	—	
268	8下SD21	—	(69D18)	黒色土器	無台椀Ⅲ	170	—	—	—	英・雲	—	—	内・口外ヘラミガキ，他ロクロナデ	—	—	—	—	
269	SD21	—	69D12	須恵器	壺蓋	—	—	—	—	B群	右	ロクロケズリ	ロクロナデ	Ⅱ類	環硬	—	—	
270	8下SD21	—	69D2・6・12，68C10	須恵器	長頸瓶BⅠ	—	—	69	—	B群	—	—	ロクロナデ	—	環硬	高台磨耗	—	
271	8下SD21，SK31	—	69D12・17	土師器	長釜	300	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	体カキメ，他ロクロナデ	—	—	外スス	—	
272	8下SD21	—	(69D14)	土師器	長釜	200	—	—	—	長・雲・白色粒	—	—	ロクロナデ	—	—	希薄	—	
273	8下SD21	—	69D12・13	土師器	小釜	146	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	口内カキメ，他ロクロナデ	—	—	口内炭化物，外スス	—	
274	8下SD21	—	(69D14)	土師器	小釜	140	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	希薄	—	
275	8下SD21・SK36・P76・85	—	69D3・12・19，63B8	土師器	小釜	—	—	64	—	チャ・英・雲	右	不調整	体外下ロクロケズリ，体外上・内カキメ	—	—	体外下底外赤化，体外スス	—	
276	8下SD21	—	69D12	土師器	小釜	—	—	53	—	チャ・英・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	底外棒状黒斑	—	外スス	—	
277	8下SD21	—	69D14	土師器	小釜	—	—	80	—	チャ・長・雲	—	不調整	ロクロナデ	—	—	希薄	—	
278	8下SD21	—	69D12	土師器	鍋	350	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	内カキメ，体外下ヘラケズリ，他ロクロナデ	—	—	体外スス	—	
279	8下SD21	—	69D12・17	土師器	鍋	370	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	口内・体上カキメ，体内下無文当て具，体外下平行叩き，他ロクロナデ	—	—	口内体外スス	—	
280	7下SD21・SK63	—	66E3・4，66D17	土師器	無台椀AⅠ	128	36	55	—	チャ・長・雲	—	回転糸	ロクロナデ	内外円形黒斑	—	—	—	
281	7下SD21	—	66D22	土師器	無台皿	150	—	—	—	チャ・英・長	—	—	ロクロナデ	口内円形黒斑	—	—	—	
282	7下SD21	—	66D17，66E4	須恵器	長頸瓶BⅢ	103	—	—	—	A群	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	
283	7下SD21	—	66E3・4	土師器	長釜	196	—	—	—	チャ・長	—	—	体外カキメ，他ロクロナデ	—	—	外スス	—	
284	7下SD21	—	66E3・4	土師器	長釜	220	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	体外カキメ，他ロクロナデ	—	—	外赤化	—	
285	8下SD44	—	70D2	須恵器	無台杯Ⅰ	124	30	80	—	B群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・底外磨耗	—	
286	8下SD44	—	70D8	須恵器	無台杯Ⅰ	120	30	79	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
287	8下SD44	—	70D2	須恵器	無台杯Ⅰ	120	28	72	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
288	8下SD44	—	(69D8)	須恵器	無台杯Ⅰ	116	30	75	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環軟	希薄	—	

№.	遺構	層位№.	グリッド	種類	器種	口径	器高	底径・摘み径	最大径	胎土	回転方向	底部・頂部調整	その他の調整	降灰（黒化）	焼成	使用痕跡	転用痕跡	備考
289	8下SD44	—	70D1・2	須恵器	無台杯Ⅰ	130	34	78	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環軟	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
290	8下SD44	—	70D1・2	土師器	長釜	184	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	体外スス	—	
291	8下SD44	—	70D2・3，69D8	土師器	鍋	380	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	体外下平行叩き，体内下・体外上カキメ，他ロクロナデ	—	—	体外スス	—	
292	7下SK57	—	66D25	須恵器	無台杯Ⅰ	120	31	73	—	B群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
293	7下SK57	—	66D25	土師器	無台椀AⅠ	128	42	46	—	チャ・英・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	口外棒状黒斑	—		—	
294	8下SE201	フク土	—	須恵器	無台杯Ⅰ	141	34	102	—	B群	—	回転ヘラ	—	Ⅲ類	環軟	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
295	8下SE201	—	68D22，68E2	須恵器	無台杯Ⅰ	122	24	80	—	B群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
296	8下SE201	—	68C5	土師器	小釜	94	83	39	—	チャ・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	外スス，口内炭化物	—	
297	8下SE201	—	—	須恵器	長頸瓶BⅠ	—	—	64	—	B群	左	回転ヘラ	体外下ロクロケズリ，他ロクロナデ	—	環硬	高台磨耗，漆継ぎ	胴部割り揃え	
298	8下SE201	フク土	—	土師器	小釜	120	—	—	—	チャ・長・雲・赤色粒	—	—	ロクロナデ	—	—	外スス，口内炭化物	—	
299	8下SD46	—	71D1	須恵器	無台杯Ⅰ	115	28	58	—	B群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	—	環軟	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
300	8下SD46	—	70D1	須恵器	無台杯Ⅰ	119	29	82	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	遺構なし
301	8下SD46	—	71D1	須恵器	無台杯Ⅰ	118	—	—	—	B群	—	—	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	口内上磨耗	—	
302	8下SD46・SK105・SD128	—	70D1	須恵器	有台杯Ⅲ	—	—	83	—	—	左	ロクロケズリ	体外下ロクロケズリ，他ロクロナデ	蓋とセット	環硬	見込み・高台磨耗	—	遺構なし
303	8下SD46	—	69D5	黒色土器	無台椀Ⅲ	179	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	外ロクロナデ，内ヘラミガキ	—	—	—	—	
304	8下SD46	—	71D1・6	土師器	長釜	200	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	口ロクロナデ，体外カキメ後平行タタキ，体内上カキメ，体内下ハケメ	—	—	外スス	—	
305	8下SD105	—	(69C21)	須恵器	無台杯Ⅰ	118	26	78	—	B群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	口内上・見込み磨耗	—	
306	8下SD105	—	69C24	須恵器	無台杯Ⅰ	129	30	70	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環軟	内器面の剥落	—	
307	8SD105	—	69C21	土師器	長釜	210	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	体外カキメ	—	—	—	—	
308	8下SK51	—	70D1	土師器	無台椀AⅠ	—	—	54	—	チャ・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
309	8下SK51	—	70D1	土師器	無台椀AⅠ	130	38	48	—	チャ・長	—	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
310	8下SK51	—	70D1	土師器	無台椀AⅢ	—	—	72	—	チャ・長・雲・赤色粒	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	
311	8下SK51	—	70D1	土師器	鍋	380	—	—	—	—	—	—	体外下ヘラケズリ，他ロクロナデ	—	—	外スス	—	SK51か
312	7下SK51・52	—	66D23・24	須恵器	無台杯Ⅰ	123	32	75	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み磨耗	—	
313	7下SK51・52	—	66D23・24	土師器	鍋	430	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	口ロクロナデ，体カキメ	—	—	希薄	—	
314	8下SD38	—	69D9	須恵器	杯蓋Ⅰ	134	16	25	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅱb類	環硬	内・摘み磨耗	—	
315	8下SD38	—	69D9	須恵器	無台杯Ⅰ	120	34	切50底74	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
316	8下SD38	—	69D15	須恵器	無台杯Ⅰ	120	29	62	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下・底外磨耗	—	
317	8下SD38	—	69D9	土師器	無台椀BⅠ	—	—	50	—	チャ・長	—	回転糸	ロクロナデ	—	—	外赤化	—	
318	8下SD38	—	69D14	土師器	無台椀AⅠ	—	—	52	—	チャ・長	—	回転糸？	ロクロナデ	—	—	内炭化物	—	
319	8下SD38	—	69D14	黒色土器	無台椀	—	—	55	—	精良・白色粒	—	ロクロケズリ後ヘラミガキ？	内ヘラミガキ	底外棒状黒斑	—	—	—	
320	8下SD38	—	69D9	土師器	無台椀AⅠ	—	—	50	—	海針	—	回転糸	ロクロナデ	—	—	見込み磨耗	—	
321	8下SD38	—	69D14	土師器	有台皿	—	—	—	—	長・雲	—	ロクロケズリ？	ロクロナデ	—	—	—	—	
322	8下SD38	—	69D9	須恵器	小甕	200	—	—	—	B群	—	—	口外平行叩き後ロクロナデ，他ロクロナデ	—	環硬	口外磨耗	—	
323	8下SD38	—	69D9	土師器	鍋	390	—	—	—	チャ・雲・赤色粒	—	—	口外ロクロナデ，体外下平行叩き，他ロクロナデ	—	—	—	—	
324	8下SD38	—	68D5・6，69D15	土師器	鍋	386	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	口ロクロナデ，体外下平行叩き体内下平行当て具，他カキメ	—	—	体部外スス	—	
325	8下SD38	—	69D9	土師器	小釜		—	68	—	チャ・英・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	外スス	—	
326	7下SK25	—	63C20	須恵器	無台杯Ⅰ	122	33	82	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上磨耗	—	
327	7下SK25	—	63C15	土師器	小釜	134	—	—	—	チャ・長	—	—	ロクロナデ	—	—	口内炭化物，外スス	—	
328	7下SK25	—	63C20	土師器	小釜	—	—	70	—	チャ・英・長	左	静止糸	体外下ロクロケズリ，他ロクロナデ	—	—	外スス	—	
329	7下SK25	—	63C20	土師器	長釜	196	—	—	—	チャ・英・長	—	—	ロクロナデ	—	—	外スス	—	
330	7下SK25	—	63C15	土師器	長釜	218	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	体外カキメ，他ロクロナデ	—	—	外スス	—	
331	7下SK25	—	63D13	土師器	長釜	200	—	—	—	チャ・雲	—	—	口ロクロナデ，体カキメ	—	—	外スス	—	
332	7下SK25	—	63C20	土師器	長釜	174	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	口ロクロナデ，体カキメ	—	—	外スス	—	
333	7下SK25	埋土	63C15	土師器	鍋	328	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	体内カキメ，他ロクロナデ	—	—	希薄	—	

No.	遺構	層位No.	グリッド	種類	器種	口径	器高	底径・摘み径	最大径	胎土	回転方向	底部・頂部調整	その他の調整	降灰（黒化）	焼成	使用痕跡	転用痕跡	備考
334	7下SK132	—	64D18	土師器	無台椀AⅠ	126	36	66	—	チャ・長	—	回転糸？	ロクロナデ	—	—	—	—	
335	7下SK132	—	64D18	土師器	無台椀AⅠ	124	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	
336	7下SK132	—	64D18	土師器	無台椀BⅢ	—	—	54	—	チャ・英・雲	右	回転糸？	体外下ヘラケズリ，他ロクロナデ	—	—	—	—	
337	7下SK132	—	64D18	土師器	無台椀BⅢ	172	56	66	—	チャ・長・雲	右	回転糸	体外下ロクロケズリ，他ロクロナデ	—	—	—	—	
338	7下SK132	—		須恵器	折縁杯	134	49	64	—	A群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	口欠け，内・高台磨耗	—	
339	7下SK132	—	64D18	須恵器	鉢	260	—	—	—	A群	—	—	口ロクロナデ，体外下ヘラケズリ，他カキメ	—	環硬	—	—	
340	7下SK80	フク土	—	須恵器	無台杯Ⅰ	123	35	66	—	B群	水右切左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
341	7下SK80	—	65D15	須恵器	有台杯Ⅲ	—	—	71	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	見込み・高台磨耗	—	
342	7下SK80	—	65D15	土師器	無台椀AⅠ	126	34	44	—	チャ・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
343	7下SK80	—	65D7～9・13・15，64C17	須恵器	球胴壺	95	159		—	A群	右	不調整	体外下ロクロケズリ，他ロクロナデ	単体	—	口磨耗	—	
344	8下SE27	—	68D14	土師器	無台椀AⅠ	105	43	52	—	チャ・長・雲	右	ロクロケズリ	ロクロナデ？	—	—	内外磨耗	—	
345	8下SE27	—	68D14	土師器	無台椀AⅠ	129	43	44	—	チャ・英・長・赤色粒	右	回転糸	ロクロナデ	内面渦状の黒斑	—	希薄	—	
346	8下SE27	—	68D14	土師器	無台椀AⅠ	126	38	49	—	チャ・英・長・赤色粒	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
347	8下SE27	—	68D14	土師器	無台椀AⅠ	120	36	50	—	チャ・長	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	内外炭化物	—	
348	8下SE27	—	68D14	土師器	無台椀AⅠ	130	36	52	—	チャ・長	—	回転糸	ロクロナデ	—	—	内外炭化物	—	
349	8下SE27	—	(67D14)	土師器	無台椀AⅠ	120	37	40	—	チャ・長	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	内外炭化物	—	
350	8下SE27	—	68D14	土師器	無台椀AⅠ	131	45	52	—	チャ・長	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
351	8下SE27	—	68D14	土師器	無台椀AⅠ	120	32	44	—	チャ・長	—	回転糸？	ロクロナデ	—	—	—	—	
352	8下SE27	—	68D14	土師器	無台椀AⅠ	123	40	47	—	チャ・英・長	右	回転糸	ロクロナデ	底外棒状黒斑	—	—	—	
353	8下SE27	—	68D14	土師器	無台椀AⅡ	142	51	55	—	チャ・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	内外円形黒斑	—	口内磨耗，口外炭化物	—	
354	8下SE27	—	68D15	土師器	無台椀AⅠ	125	31	61	—	チャ・長	—	回転糸？	ロクロナデ	—	—	口炭化物	—	
355	8下SE27	—	68D14	土師器	無台椀AⅠ	120	44	56	—	チャ・長	—	回転糸？	ロクロナデ	—	—	—	—	
356	8下SE27	—	68D14	土師器	無台椀BⅠ	130	48	52	—	精良	右	ロクロケズリ	体外下ロクロケズリ，他ヘラミガキ	赤彩	—	—	—	
357	8下SE27	—	68D14	黒色土器	無台椀Ⅲ	190	80	—	—	長・雲	右	ロクロケズリ後ヘラミガキ	体外中ロクロナデ他ヘラミガキ	底外棒状黒斑	—	—	—	
358	8下SE27	—	68D14	黒色土器	無台椀Ⅳ	—	—	—	—	チャ・雲	—	—	体外中ロクロナデ，体外下ロクロケズリ，他ヘラミガキ	—	—	—	—	
359	8下SE27	—	67D14，68D14	黒色土器	無台椀Ⅰ	130	46	52	—	雲	—	ロクロケズリ後ヘラミガキ	体外下ロクロケズリ，他ヘラミガキ	底外棒状黒斑	—	—	—	
360	8下SE27	—	68D14	黒色土器	無台椀Ⅰ	134	47	50	—	チャ・長	—	ロクロケズリ後ヘラミガキ	体外下ロクロケズリ，他ヘラミガキ	—	—	内器面の剥落	—	
361	8下SE27	—	68D14	黒色土器	無台椀Ⅱ	148	54	56	—	チャ・雲	右	ロクロケズリ後ヘラミガキ	体外下ロクロケズリ，他ヘラミガキ	底外棒状黒斑	—	—	—	
362	8下SE27	フク土	—	黒色土器	無台椀Ⅲ	169	—	—	—	精良	—	—	体外下ロクロナデ，他ヘラミガキ	—	—	—	—	
363	8下SE27	—	68D14	土師器	小釜	140	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	口内炭化物，外スス	—	
364	8下SE27	—	68D14	土師器	小釜	160	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	体一部カキメ，他ロクロナデ	—	—	外スス	—	
365	8下SE27	—	68D14	土師器	小釜	—	—	60	—	チャ・英・長・雲	右	回転糸	体外下ロクロケズリ，他ロクロナデ	—	—	内炭化物，外スス	—	
366	8下SE27	—	68D14	土師器	小釜	—	—	120	—	チャ・長・雲	—	不調整	ロクロナデ	—	—	—	—	
367	8下SE27	—	68D14	土師器	小釜	—	—	81	—	チャ・英・長・雲	左	静止糸	ロクロナデ	—	—	外赤化・スス	—	
368	8下SE27・SD36	—	69D19，70D3・13，68D14・19	須恵器	長頸瓶BⅢ	—	—	—	175	B群	右	不調整	体外下カキメ，他ロクロナデ，体外下湿台痕	—	環硬	体外下磨耗	高台打欠き	
369	8下SE27・SD47	—	68D14，69D	須恵器	長頸瓶B	88	—	—	—	B群	—	—	ロクロナデ	—	環硬	口欠け	—	
370	8下SE27	—	67D14	須恵器	長頸瓶BⅢ	—	—	—	184	B群	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	
371	8下SK100	—	69C18・19	須恵器	有台杯Ⅲ	132	54	68	—	B群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・高台端部　磨耗	—	
372	8下SK100	—	69C18	土師器	無台椀AⅠ	130	47	46	—	海針・長	—	回転糸？	ロクロナデ	—	—	—	—	
373	8下SK100	—	69C18・19	土師器	無台椀AⅠ	121	52	44	—	チャ・長・雲	—	回転糸？	ロクロナデ	—	—	—	—	
374	8下SK100	—	69C18・19	土師器	無台椀AⅠ	124	—	—	—	チャ・長・雲・赤色粒	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	
375	8下SK100	—	69C18	土師器	無台椀AⅠ	120	45	50	—	チャ・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
376	8下SK100	—	69C18	土師器	無台椀AⅠ	125	43	48	—	チャ・雲	—	回転糸？	ロクロナデ	—	—	底外・見込み磨耗	—	
377	8下SK100	—	69C18・19	土師器	有台ⅢA	—	—	—	—	チャ・長・雲	右	ロクロケズリ	外ロクロケズリ，内ヘラミガキ	—	—	—	—	
378	8下SK100	—	69C18	土師器	無台椀AⅢ	178	—	—	—	チャ・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	
379	8SK100	—	69C18・19	土師器	無台椀AⅢ	180	72	76	—	精良	—	ロクロケズリ後ヘラミガキ？	体外下ロクロケズリ，他ヘラミガキ？	—	—	—	—	
380	8下SK100	—	68C18・19	土師器	無台椀BⅡ	138	48	60	—	精良	右	ロクロケズリ後ヘラミガキ？	体外下ロクロケズリ，他ヘラミガキ？	—	—	—	—	

No.	遺構	層位No.	グリッド	種類	器種	口径	器高	底径・摘み径	最大径	胎土	回転方向	底部・頂部調整	その他の調整	降灰（黒化）	焼成	使用痕跡	転用痕跡	備考
381	8下SK100	—	68B15・20・25，69B22・23，69C1・4・5・12・18	土師器	長釜	220	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	体外・口内カキメ，他ロクロナデ	—	—	—	—	
382	8下SK100	—	69C17・18	土師器	小釜	120	—	—	—	長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	口・体内上半内炭化物，外赤化	—	
383	8下SK100	—	69C18	土師器	小釜	120	109	62	—	チャ・長・英・雲	右	回転糸？	ロクロナデ	—	—	外スス	—	
384	8下SK14	—	68D13	須恵器	有台杯Ⅱ	—	—	64	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	高台・見込み磨耗	—	
385	8下SK14	No.14	—	須恵器	無台杯Ⅰ	118	33	77	—	B群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
386	8下SK14		68D13	須恵器	無台杯Ⅰ	—	—	76	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	—	—	見込み磨耗	—	
387	8下SK14	No.8	—	土師器	無台椀AⅠ	120	36	50	—	海針	左	回転糸？	ロクロナデ	—	—	—	—	
388	8下SK14	No.13	—	土師器	無台椀AⅠ	133	41	50	—	チャ・長・英・雲	右	回転糸	見込み・体内下カキメ，他ロクロナデ	底外円形黒斑	—	—	—	
389	8下SK14	No.10	—	土師器	無台椀AⅠ	118	36	46	—	チャ・英・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	体外円形黒斑	—	—	—	
390	8下SK14	No.1	—	土師器	無台椀AⅠ	—	—	51	—	海針	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
391	8下SK14	No.9	—	須恵器	壺	—	—	110	—	A群	—	ヘラケズリ	外ヘラケズリ，内ロクロナデ	—	環軟	底外磨耗	—	
392	8下SK14	No.16	—	土師器	無台椀AⅠ	124	39	60	—	チャ・英・長	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
393	8下SK14		68D13	土師器	無台椀AⅠ	118	37	57	—	チャ・長・粒	—	回転糸	ロクロナデ	Ⅲ類	—	—	—	
394	8下SK14	No.9	—	土師器	無台椀AⅠ	120	40	45	—	チャ・長	—	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
395	8下SK14	No.7	—	土師器	無台椀BⅡ	150	42	—	—	長・雲	右	ロクロケズリ後ヘラミガキ	体外下ロクロケズリ，他ヘラミガキ	—	—	内磨耗	—	
396	8下SK14	No.2	—	土師器	無台椀AⅠ	112	39	48	—	チャ・長・赤色粒	—	回転糸	内ヘラミガキ，外ロクロナデ？	—	断面黒化	—	—	
397	8下SK14		68D12	土師器	無台椀AⅠ	126	40	40	—	チャ・長	—	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
398	8下SK14	No.6	—	土師器	無台椀AⅠ	120	42	51	—	チャ・長	右？	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
399	8下SK14	—	68D12	土師器	無台椀AⅡ	146	54	—	—	長	—	回転糸	体外下ロクロナデ，他ヘラミガキ？	—	—	—	—	
400	8下SK14	No.7	—	須恵器	長頸瓶AⅡ	—	—	85	146	A群	右	ロクロケズリ	体外下ロクロケズリ，他ロクロナデ	—	環軟	体外下磨耗，高台欠	頸部割り揃え	
401	8下SK14	No.3	—	須恵器	長頸瓶AⅠ	—	—	62	104	C群	右	回転糸	体外下ロクロケズリ，他ロクロナデ	—	環硬	体外下磨耗，高台欠	頸部割り揃え	
402	8下SK14	No.8	—	土師器	無台椀AⅢ	168	—	—	—	チャ・長	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	
403	8下SK14	No.5	—	須恵器	長頸瓶BⅢ	—	—	99	174	新津	—	ロクロケズリ	体外下ロクロケズリ、体外上カキメ、他ロクロナデ	—	環硬	体外下磨耗、高台欠	頸部割り揃え	
404	8下SK14	No.11.12	—	須恵器	横瓶	112	—	—	—	C群	—	—	体内左同心円当て具，体外左平行タタキ，他ロクロナデ	上側面が焼灰時下	環硬	体部の一部帯状に磨耗	—	右側が製作時の上
405	8下SK58	—	68C17	黒色土器	無台椀Ⅲ	188	78	74	—	チャ・長	右	ロクロケズリ後ヘラミガキ	体外下ロクロケズリ，他ヘラミガキ	底外棒状黒斑	—	—	—	
406	8下SK58	—	68C17	黒色土器	無台椀Ⅱ	136	51	50	—	精良	—	ロクロケズリ後ヘラミガキ？	内ヘラミガキ，他ロクロナデ	底外棒状黒斑	—	—	—	
407	8下SK58	—	68C17	土師器	長釜	189	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	体外カキメ，他ロクロナデ	—	—	外スス	—	
408	8下SK58	—	68C17	土師器	鍋	370	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	外スス	—	
409	8下P20（SB16）	—	69D6	土師器	無台椀AⅠ	119	49	45	—	チャ・長	—	—	ロクロナデ	—	—	内外炭化物	—	
410	8下P20（SB16）	—	69D6	土師器	無台椀AⅠ	—	—	48	—	海針	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
411	8下SD103	—	（69C23）	土師器	無台椀AⅠ	—	—	60	—	チャ・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	外炭化物	—	
412	8下SD103	—	69C23	土師器	無台椀AⅠ	127	42	61	—	チャ・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	体外円形黒斑	—	内炭化物	—	
413	8下SD103	—	69C16・23，69D6	土師器	鍋	340	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	体カキメ，他ロクロナデ	—	—	—	—	
414	8下SD29・31	—	69D17	土師器	無台椀BⅠ	124	40	54	—	チャ・英・長	右	回転糸	ロクロナデ	体外円形黒斑	—	—	—	
415	8下SD29	—	69D17	土師器	無台椀AⅠ	142	42	52	—	チャ・長	—	回転糸	内ヘラミガキ，外ロクロナデ	底外円形黒斑	—	—	—	
416	8下SD29	—	69D17	黒色土器	無台椀Ⅰ	130	51	48	—	チャ・長・雲	右	ロクロケズリ後ヘラミガキ	ヘラミガキ	底外棒状黒斑	—	—	—	
417	8下SD45	—	69D5	須恵器	杯蓋Ⅰ	120	37	25	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅱa類	環硬	内・摘み磨耗	—	
418	8下SD45	—	69D5	土師器	長釜	170	—	—	—	チャ・長・雲・赤色粒	—	—	口内カキメ，他ロクロナデ	—	—	—	—	
419	8下SD45	—	69D5	土師器	鍋	360	—	—	—	チャ・雲	—	—	体外上カキメ，体外下ハケメ後ヘラケズリ，体内下ハケメ，他ロクロナデ	—	—	体内炭化物，体外スス	—	
420	8下SD45	—	69D5	土師器	鍋	360	—	—	—	チャ・長	—	—	内・体外上カキメ，体外下ヘラケズリ，他ロクロナデ	—	—	—	—	
421	8下SK45	—	70D13	土師器	長釜	200	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	体外・口内カキメ，他ロクロナデ	—	—	外スス	—	
422	8下SK45	—	70D9・14・15	土師器	長釜	200	—	—	—	チャ・長	—	—	体外・口内カキメ，他ロクロナデ	—	—	—	—	
423	8下SK45	—	70D9	土師器	長釜	210	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	体外・口内カキメ，他ロクロナデ	—	—	体外スス	—	

No.	遺構	層位No.	グリッド	種類	器種	口径	器高	底径・摘み径	最大径	胎土	回転方向	底部・頂部調整	その他の調整	降灰（黒化）	焼成	使用痕跡	転用痕跡	備考
424	8下SK39	—	70D1	土師器	小釜	134	—	—	—	チャ・長	—	—	ロクロナデ	—	—	口内・体内上炭化物，体外スス	—	
425	8下SK39	—	70D1・69D5	土師器	小釜	—	—	66	—	チャ・長	右	回転糸	ロクロナデ	底外体外下円形黒斑	—	体外上スス，体外下・底外赤化	—	
426	8下SK39	—	70D1	土師器	小釜	—	—	66	—	チャ・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
427	8下SK39 SD45	—	70D1	土師器	鍋	386	146	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
428	8下SD407	—	—	須恵器	無台杯Ⅰ	120	30	80	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
429	8下SD407	—	—	土師器	長釜	200	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	体外カキメ，他ロクロナデ	—	—	外スス	—	遺構なし
430	8下SD407	—	—	土師器	鍋	360	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	体外カキメ，他ロクロナデ	—	—	外スス	—	
431	8下SD407	—	—	土師器	鍋	332	—	—	—	チャ・英・雲	—	—	体外カキメ，他ロクロナデ	—	—	—	—	遺構なし
432	8下SD407	—	—	土師器	鍋	400	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	体カキメ，口ロクロナデ	—	—	外スス	—	
433	8下SD114	—	70C18	須恵器	無台杯Ⅰ	116	31	74	—	B群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	—	口内上・見込み磨耗	—	
434	8下SD114	—	69C18・24	土師器	鍋	314	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	外赤化	—	
435	8下SD114	—	69C18・24	土師器	長釜	220	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	体外カキメ，他ロクロナデ	—	—	内炭化物	—	
436	8下SD114	—	70C18・19	土師器	長釜	220	—	—	—	海・チャ・長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	体外スス	—	
437	7下SK79	—	67D17	須恵器	中甕	244	—	—	—	B群	—	—	口外下カキメ，他ロクロナデ	—	環硬	口磨耗	—	
438	7下SK79	—	67D17	土師器	長釜	214	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	内・体外カキメ，他ロクロナデ	—	—	—	—	
439	7下SK79	—	67D17	土師器	小釜	120	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	外スス，口内炭化物	—	
440	7下SK79	—	67D17	土師器	鍋	360	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	
441	8下SK30	—	69D6・70C21・22	須恵器	杯蓋Ⅰ	134	12	25	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅰ類	環硬	内磨耗	—	
442	8下SK30	—	(69D6)	須恵器	無台杯Ⅰ	130	29	92	—	B群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
443	8下SK30	—	(69D11)	須恵器	無台杯Ⅰ	120	30	92	—	B群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・底外・体外下磨耗	—	
444	8下SK30	—	(69D6)	土師器	鍋	344	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	口内・体外カキメ，他ロクロナデ	—	—	—	—	
445	8下SK30	—	—	土師器	鍋	350	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	口ロクロナデ，体外下ヘラケズリ，他カキメ	—	—	体外スス	—	
446	7下SK60	—	—	須恵器	有台杯Ⅰ	103	51	63	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類，内面降灰	環硬	高台磨耗	—	
447	7下SK60	—	63C2・64C10 64D18・65D16	須恵器	球胴壺	80	167	102	195	B群	左	ロクロケズリ	体外下ロクロケズリ，他ロクロナデ	蓋とセット，蓋Ⅱ類	環硬	口・高台磨耗	—	
448	8下SD180	—	68C4・5・14	須恵器	有台杯Ⅲ	—	—	88	—	B群	左	回転ヘラ後ロクロケズリ	体外下ロクロケズリ，他ロクロナデ	蓋とセット	—	見込み・高台・体外下磨耗	—	
449	8下SD101・180	—	68C4・14・18	須恵器	有台杯Ⅲ	150	—	—	—	A群	—	—	ロクロナデ	蓋とセット	—	—	—	
450	7下SK3	—	66D22	須恵器	無台杯Ⅰ	122	32	84	—	B群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下・底外磨耗	—	
451	7下SK3	—	66D22	須恵器	無台杯Ⅰ	126	42	70	—	B群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	内・体外磨耗	—	
452	8下SK34・43	—	70D6	須恵器	杯蓋Ⅰ	124	31	24	—	A群	右	ロクロケズリ	ロクロナデ	Ⅰ類	環硬	内・摘磨耗	—	SK39か
453	8下SK34・SD46	—	70D1	土師器	小釜	138	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	外スス，口内炭化物	—	SK39か
454	8下SK34	—	70D1	土師器	小釜	—	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	体内カキメ，他ロクロナデ	—	—	外スス	—	SK39か
455	8下SK34	—	70D6	土師器	長釜	190	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	体外・口内カキメ，他ロクロナデ	—	—	体外スス	—	8下SK39か
456	8下SD54	—	69D14	須恵器	無台杯Ⅰ	118	28	84	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
457	8下SD54	—	69D14	土師器	鍋	390			—	チャ・英・長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	
458	8下SD118	—	69C22	須恵器	無台杯Ⅰ	117	32	切71 底91	—	C群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・体外下底外磨耗	—	
459	8下SD118	—	69C24	土師器	長釜	240	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	体外カキメ，他ロクロナデ	—	—	—	—	
460	8下SK33	—	69D9	須恵器	無台杯Ⅰ	123	34	74	—	B群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	遺構なし
461	8下SK33	—	69D9	土師器	小釜	124	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	体外下ヘラケズリ，他ロクロナデ	—	—	体外スス	—	遺構なし
462	7下SK63	—	66D17	土師器	無台椀AⅠ	126	37	47	—	チャ・英・長	—	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	7下SK83か
463	7下SK63	—	66D17	土師器	長釜	210	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	外スス	—	
464	7下SK2	—	—	須恵器	無台杯Ⅰ	126	30	80	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
465	7下SK2	—	64E14	土師器	鍋	328	—	—	—	チャ・英・長・雲		—	体外下ハケメ後ヘラケズリ，体内下ハケメ，他ロクロナデ	—	—	外スス	—	
466	7下SD144	—	64D3	土師器	無台椀AⅠ	118	44	58	—	チャ・長	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
467	7下SD144	—	64D3	土師器	鍋	360	—	—	—	チャ・英・長・雲		—	口外ロクロナデ，体外下ロクロケズリ，他カキメ	体外下棒状黒斑	—	外スス	—	

№.	遺構	層位№.	グリッド	種類	器種	口径	器高	底径・摘み径	最大径	胎土	回転方向	底部・頂部調整	その他の調整	降灰（黒化）	焼成	使用痕跡	転用痕跡	備考
468	8下P14	—	69D11	土師器	無台椀AⅠ	123	48	47	—	チャ・長		回転糸	ロクロナデ	—	—		—	
469	8下P14	—	69D11	土師器	無台椀AⅠ	—	—	53	—	海針・チャ・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	外スス	—	
470	8下SK43・SD130	—	69C17	須恵器	杯蓋Ⅱ	172			—	A群	右	ロクロケズリ	ロクロナデ	Ⅱa類	環硬	内磨耗	—	
471	—	—	69D11	須恵器	杯蓋Ⅰ	146	31	26	—	A群	右	ロクロケズリ	ロクロナデ	Ⅰ類	環軟	内・摘み磨耗	—	
472	7下SD131	—	62C13	須恵器	有台杯Ⅱ	116	40	52	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	見込み・口内上・体外下・高台磨耗	—	
473	7下SK80	—	65D15	須恵器	有台杯Ⅱ	116	37	81	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	見込み・口内上・高台磨耗	—	
474	—	—	64E4，63E15	須恵器	有台杯Ⅱ	132	39	78	—	C群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	口端部欠，見込み・高台端部磨耗	—	
475	—	—	62E2	須恵器	有台杯Ⅱ			58	—	D群	—	ロクロケズリ？	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	見込み磨耗，高台欠	—	関川西岸
476	7下SK53	—	66D25	須恵器	有台杯Ⅲ	100	48	64	—	B群	—	ロクロケズリ	ロクロナデ	蓋とセット	環硬	見込み磨耗	—	
477	—	—	62E1	須恵器	有台杯Ⅲ	—	—	66	—	B群	—	ロクロケズリ	ロクロナデ	—	環硬	内漆，見込み・高台磨耗	—	
478	旧河道	砂層	69D8	須恵器	無台杯Ⅰ	120	33	60	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外磨耗	—	
479	—	—	62D19	須恵器	無台杯Ⅰ	122	41	70	—	B群	左	ロクロケズリ	ロクロナデ	Ⅲ類	環軟	見込み・体内上・底外磨耗	—	
480	7下SK140	—	62C19，63C9	須恵器	無台杯Ⅱ	130	36	75	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	酸軟	内外磨耗	—	
481	8下SD109	—	69C14	須恵器	無台杯Ⅰ	120	30	切71 底87	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
482	—	—	—	須恵器	無台杯Ⅰ	120	29	91	—	D群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・体外下磨耗	—	
483	7下SD136	—	64D4	須恵器	無台杯Ⅱ	135	39	80	—	C群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環軟	希薄	—	
484	8下SE50	—	70D10	須恵器	無台杯Ⅰ	122	31	82	—	B群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
485	—	—	65D6	須恵器	無台杯Ⅱ	132	34	85	—	C群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	酸硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
486	7下SK52	—	66D23・24	須恵器	無台杯Ⅰ	124	27	78	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環軟	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
487	—	—	64E20	須恵器	無台杯Ⅱ	130	31	94	—	C群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	口内上・体外下磨耗	—	
488	8下SD47	—	70D11，69D15	須恵器	無台杯Ⅰ	—	—	84	—	B群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	—	環硬	底外墨書，見込み磨耗	—	
489	—	—	68B25・26，68C4，69B	須恵器	無台杯Ⅰ	123	31	68	—	A群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
490	8下SD49	—	69D18・23	須恵器	無台杯Ⅱ	132	31	82	—	B群		回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環軟	見込み・底外磨耗	—	
491	7下SK8	—	64E14	須恵器	無台杯Ⅰ	118	36	79	—	B群	左	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環軟	見込み磨耗	—	
492	7下SK20	—	66D22・23，66E3・4	須恵器	無台杯Ⅰ	118	30	70	—	B群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
493	7下SD130	—	64D17	須恵器	無台杯	—	—	切70 底92	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ	—	環硬	見込み・底外磨耗	—	
494	8下SD42	—	70D11	須恵器	無台碗	—	—	50	—	A群	右	回転糸	ロクロナデ	—	環硬	見込み・体外下磨耗	—	
495	—	—	62D24	須恵器	高杯	170	—	—	—	B群	—	—	杯外ロクロケズリ，他ロクロナデ	内面降灰なし	環硬	内・口磨耗	—	
496	—	—	64E1，62E9	須恵器	鉄鉢	190			—	D群	右	—	ロクロナデ	—	酸硬	口磨耗	—	
497	—	—	63D16・22	須恵器	杯蓋Ⅰ	126	27	28	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ，内面ヘラ記号×	—	環硬	内・摘み磨耗	—	
498	—	—	63E7	須恵器	有台杯Ⅰ	109	45	52	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ，底外ヘラ記号×	蓋とセット	環硬	見込み・体外・高台磨耗	—	
499	—	—	70C14	須恵器	有台杯Ⅰ	—	—	56	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ，底外ヘラ記号×	単体	環硬	見込み・体外・高台磨耗	—	
500	8下SK51	—	70D11	須恵器	無台杯Ⅰ	123	30	78	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ，底外ヘラ記号×	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	SK39か
501	8下P75	—	69D12	須恵器	無台杯Ⅰ	118	30	79	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ，底外ヘラ記号×	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
502	—	—	68D・E	須恵器	無台杯Ⅰ	124	37	78	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ，底外ヘラ記号×	Ⅲ類，内外ヒダスキ	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
503	—	—	63D16	須恵器	無台杯Ⅰ	117	31	76	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ，底外ヘラ記号×	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外磨耗	—	
504	—	—	63E15	須恵器	無台杯Ⅰ	121	38	79	—	C群	右	回転ヘラ	ロクロナデ，底外・体外ヘラ記号	Ⅲ類	環硬	希薄	—	
505	—	—	64D23	須恵器	無台杯Ⅰ			76	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ，底外ヘラ記号×	—	環硬	見込み・体外下磨耗	—	
506	—	—	63C23	須恵器	無台杯Ⅰ	124	35	74	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ，底外ヘラ記号×	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
507	—	—	64E8	須恵器	無台杯Ⅰ	120	31	82	—	A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ，底外ヘラ記号×	Ⅲ類	酸硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
508	—	—	—	須恵器	無台杯Ⅰ	114	31	69	—	A群	右	回転ヘラ	ロクロナデ，底外ヘラ記号×	Ⅲ類	環硬	希薄	—	
509	—	—	69D17	土師器	有台皿A	124	28	60	—	チャ・長	—	ロクロケズリ	体外下ロクロケズリ，他ヘラミガキ	—	—	—	—	
510	—	—	69D19	土師器	有台皿A	120	—	—	—	チャ・長・雲	—	ロクロケズリ	体外下ロクロケズリ，他ヘラミガキ？	—	—	—	—	
511	—	—	69D8	土師器	有台皿A	—	—	54	—	チャ・長	—	ロクロケズリ	体外下ロクロケズリ，他ヘラミガキ？	—	—	—	—	
512	—	—	68D・E	土師器	有台皿B	—	—	58	—	チャ・長	右	ロクロケズリ	ヘラミガキ？	—	—	—	—	
513	—	—	69D23	黒色土器	有台皿A	—	—	60	—	チャ・長	—	—	ヘラミガキ	—	—	—	—	
514	8下P127	—	68C	土師器	無台椀AⅠ	124	40	45	—	チャ・英・長	—	回転糸？	ロクロナデ	—	—	—	—	

No.	遺構	層位No.	グリッド	種類	器種	口径	器高	底径・摘み径	最大径	胎土	回転方向	底部・頂部調整	その他の調整	降灰（黒化）	焼成	使用痕跡	転用痕跡	備考
515	7下SD74	—	66E2	土師器	無台椀AⅠ	127	37	51	—	チャ・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	口外円形黒斑	—	—	—	
516	8下P40	—	68D8	土師器	無台椀AⅠ	123	42	50	—	チャ		回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
517	8下P42	—	68D13	土師器	無台椀AⅠ	122	42	52	—	チャ・長	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
518	8下P123	—	69D	土師器	無台椀AⅠ	127	42	52	—	チャ・長・雲	—	ロクロケズリ後ヘラミガキ	外ロクロナデ，内ヘラミガキ	—	—	—	—	
519	—	—	66E3	土師器	無台椀AⅢ	—	—	60	—	チャ・長・少	右	回転糸	外ロクロナデ，内ヘラミガキ	底外円形黒斑	—	—	—	
520	8下P76	—	68D12	土師器	無台椀BⅠ	118	50	50	—	精良	—	ロクロケズリ後ヘラミガキ	体外下ロクロケズリ，他ヘラミガキ	—	—	—	—	
521	8下SD219	—	68C23	土師器	無台碗AⅡ	134	54	50	—	チャ・英・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	—	—	
522	—	—	69D10	土師器	無台椀AⅠ	—	—	46	—	チャ・長	—	回転糸	ロクロナデ，見込みモミ痕	—	—	—	—	
523	旧河道	砂層	69B14・15	土師器	鉢鉢	200	—	—	—	チャ・長	—	—	内外カキメ	—	—	—	—	
524	—	—	69D3・8	須恵器	長頸瓶BⅢ	120	—	—	—	B群	—	—	ロクロナデ	—	環硬	口欠け	—	
525	—	—	69D22	須恵器	長頸瓶BⅢ	126	—	—	—	B群	—	—	ロクロナデ	—	環硬	口欠け	—	
526	—	—	64D1	須恵器	長頸瓶B	83	—	—	—	A群	—	—	ロクロナデ	—	環硬	口磨耗・欠け	—	
527	—	—	68C4，68D4 69D	須恵器	長頸瓶B	100	—	—	—	B群	—	—	ロクロナデ	—	環硬	口磨耗	—	
528	—	—	63E2	須恵器	長頸瓶AⅠ	—	—	—	118	D群	—	—	ロクロナデ	—	環硬	体外磨耗	割り揃え	
529	8下SK135	—	(70C19)	須恵器	長頸瓶BⅠ	—	—	59		A群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	—	環硬	高台磨耗・欠け	—	
530	7下SK82	—	67D19	須恵器	長頸瓶BⅢ	—	—	101		B群	—	不調整	ロクロナデ	—	環硬	高台磨耗・欠け	—	
531	—	—	69E1	須恵器	長頸瓶BⅢ	—	—	96		B群	左	不調整	外ロクロケズリ，内ロクロナデ	—	環硬	高台・体外下磨耗	—	
532	8下P68	—	68D13	須恵器	長頸瓶BⅢ	—	—	100		B群	左	不調整	ロクロナデ	—	環硬	高台磨耗	割揃え	
533	8下SK113	—	69D16，69E17	須恵器	長頸瓶BⅢ	—	—	102	190	B群	左	不調整，高台板目圧痕	体外下ロクロケズリ，他ロクロナデ	—	環硬	高台磨耗・欠け	見込み・体内下磨耗	SD219か
534	—	—	68D・E	須恵器	球胴壺	96	—	—	—	B群	—	—	ロクロナデ	蓋Ⅱ類	環硬	口磨耗	—	
535	—	—	68B5，8C5・9，69B5，70C19	須恵器	球胴壺	—	—	—	236	B群	—	ロクロケズリ	体外下ロクロケズリ体内カキメ，他ロクロナデ	—	環硬	高台打ち欠き	—	
536	—	—	69D3	須恵器	壺	—	—	118	—	B群？	—	—	ロクロナデ	Ⅱ類	環硬	高台欠け	—	
537	—	—	63D10，64D8	須恵器	長頸瓶B	—	—	—	—	A群	—	回転糸	ロクロナデ	—	環硬	—	高台割り揃え	
538	下SE24	—	63D20，68D15，69C25，69D1	須恵器	球胴壺	—	—	(90)	—	A群	右	ロクロケズリ？	体外下ロクロケズリ，他ロクロナデ	—	環硬	—	高台打ち欠き	
539	—	—	69D9，70D16	須恵器	横瓶	112	—	—	—	B群	左	—	外斜格子タタキ，内同心円当て具	上側面が上	環硬	口磨耗・欠け	—	
540	7下SK8 SK60 SD11	—	62C7，64E4・8・10・12・14・15・17・20，65D11・12・13・16，65E2・14	須恵器	横瓶	121	263	—	—	A群	右	—	体外左平行タタキ後カキメ，体外右カキメ，体内左同心円当て具，他ロクロナデ	上側面が下	環硬	口磨耗	—	
541	—	—	69D23	須恵器	中甕	540	—	—	—	B群	—	—	ロクロナデ	—	環硬	口磨耗・欠け	—	
542	—	—	65E15，66E2，66D23，66D25	須恵器	中甕	346	—	—	—	A群	左	—	体外平行タタキ，体内同心円当て具，他ロクロナデ	—	酸硬	口磨耗欠け，頸内磨耗	—	
543	—	—	63E8・9	須恵器	中甕	452	—	—	—	A群	—	—	口外タタキ後ロクロナデ，体外平行タタキ後カキメ，体内同心円当て具，他ロクロナデ	—	環硬	口磨耗・欠け	—	
544	8下SK17・SE206	—	68D10・18・20，69D15・21	須恵器	中甕	186	—	—	380	B群	左	タタキ出し	口ロクロナデ，体外平行タタキ，体内同心円当て具	Ⅰ類	環硬	口割り揃え	—	
545	8下SK14・32・P37	—	68D2・7・13・19・24，69D11	須恵器	中甕	326	—	—	526	B群	左	—	体外格子タタキ，体内同心円当て具，他ロクロナデ	—	環硬	希薄	—	
546	8下SK20 旧河道	砂層	66E4，69C5・12，69B13・14・15・18・20・21・22・23・25，68C5，70C24，67C13	須恵器	中甕	243	—	—	455	A群	—	—	体外平行タタキ後カキメ，体内同心円当て具，他ロクロナデ	肩部に小型杯重ね焼	酸硬	口・頸内磨耗	—	
547	—	—	69C10・18，69D14，70C14・15，71C11，71D1	須恵器	中甕	234	522	—	464	A群	右	タタキ出し	口外平行叩き後ロクロナデ，体外平行タタキ後カキメ，体内同心円当て具，他ロクロナデ	—	環硬	口磨耗	底部やや上に径約60㎜の穿孔	
548	—	砂層	68B15・20・25，68C3，68D2，68E，69B13・18・23，農道	須恵器	中甕	198	—	—	—	A群	—	—	体外平行タタキ後カキメ，体内同心円当て具，他ロクロナデ	—	環硬	—	—	
549	8下SD54・SK32	—	69D18・22	須恵器	小甕	90	170	丸底	310	B群	右	タタキ出し	体外平行タタキ，体内同心円当て具，他ロクロナデ	Ⅰ類，杯を焼台に使用	環硬	底外磨耗，口欠け	—	
550	7下P101	—	63D14・20，63E4，64C21，64D9～11・17・18	須恵器	小甕	—	—	80	—	B群	右	中央不調整，外縁ヘラケズリ	体外上平行タタキ，内同心円当て具	—	環硬	見込み・底外磨耗	—	

No.	遺構	層位No.	グリッド	種類	器種	口径	器高	底径・摘み径	最大径	胎土	回転方向	底部・頂部調整	その他の調整	降灰（黒化）	焼成	使用痕跡	転用痕跡	備考
551	8下P76	—	68D12	土師器	長釜	275	—	—	—	チャ・英・長	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	
552	8下SK39・SK52	—	70D1	土師器	長釜	235	—	—	301	チャ・英・長	—	—	体外上カキメ，体外下平行タタキ，体内下無文当て具，他ロクロナデ	—	—	体内中湯沸線，体外スス	—	SK51か
553	—	—	—	土師器	台付鍋	—	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	
554	8下SD44	—	69D8	土師器	甑	—	—	180	—	チャ・長・雲	—	—	体外下カキメ，他ロクロナデ	—	—	—	—	
555	8下SK45	—	70D9	土師器	長釜	200	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	口ヨコナデ，体外カキメ	—	—	—	—	
556	—	—	69D16	土師器	長釜	220	—	—	—	チャ・雲	—	—	体外カキメ，他ロクロナデ	—	—	—	—	
557	—	—	69D3	土師器	高杯	170	—	—	—	チャ・長	—	—	ハケ後ナデ	—	—	—	—	古墳中期
558	—	—	68D24	土師器	高杯	—	—	180	—	チャ・長	—	—	ナデ	—	—	—	—	古墳中期
559	—	—	70D7	土師器	鍋	400	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	口内ハケメ	—	—	—	—	
560	—	—	70D16	土師器	鍋	400	—	—	—	チャ・長・雲	—	—	口内ハケメ	—	—	—	—	
561	8下SK32	—	69D22	土師器	鍋	430	—	—	—	チャ・英・長・雲	—	—	体外下平行タタキ後，体内下平行当て具後ヘラケズリ，他ロクロナデ	—	—	体外スス 体内薄い炭化物	—	
640	8下SE205	中層	—	須恵器	無台杯Ⅰ	114	28	74	—	B群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
641	8下SE205	中層	—	須恵器	無台杯Ⅰ	124	36	76	—	B群	—	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
642	8下SE205	中層	—	土師器	無台椀AⅠ	118	40	65	—	チャ・長・雲	右	回転糸	ロクロナデ	—	—	底外墨書	—	
643	8下SE205	中層	—	土師器	小釜	—	—	80	—	チャ・長・雲	—	不調整	ロクロナデ	—	—	—	—	
644	8下SE205	中層	—	土師器	小釜	—	—	104	—	チャ・長・雲	右	不調整	体外下ロクロケズリ，他ロクロナデ	底外棒状黒斑	—	見込みヨゴレ	—	
645	7下SK8	—	64E10	須恵器	無台杯Ⅰ	121	36	80	—	A群，海針	右	回転ヘラ	ロクロナデ	Ⅲ類	環硬	見込み・口内上・体外下磨耗	—	
646	7下SK55	—	66D25	土師器	無台椀AⅠ	120	39	44	—	チャ・長	—	—	—	—	—	—	—	
647	—	—	64D19	須恵器	広口壺	120	—	—	—	B群	—	—	口内カキメ，他ロクロナデ	—	環硬	口欠け	—	
648	—	—	64D16・21	須恵器	広口壺	—	—	96	—	B群	—	不調整	体外下擬格子タタキ後ヘラケズリ，他カキメ	—	環硬	—	—	

鉄器計測表

No.	層位	遺構	グリッド	器種	長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	備考
636	上	8上SE60	69D17	刀子	72	16	3	
638	下	—	62D20	鎌	206	33	4	
637	上	8上SK66	69D18	鎌	71	32	3	
634	上	8上P258	—	刀子	69	12	4	
635	上	8上SK1	69D22	刀子	61	15	4	
633	—	—	—	刀子	162	23	6	
632	上	7下SE11	63D24・25	刀子	299	31	7	柄の木質残る
629	上	8上SK3	68D20	釘	54	10	5	
630	上	8上SK3	68D20	釘	51	12	5	
631	上	8上SK3	68D20	釘	36	9	5	

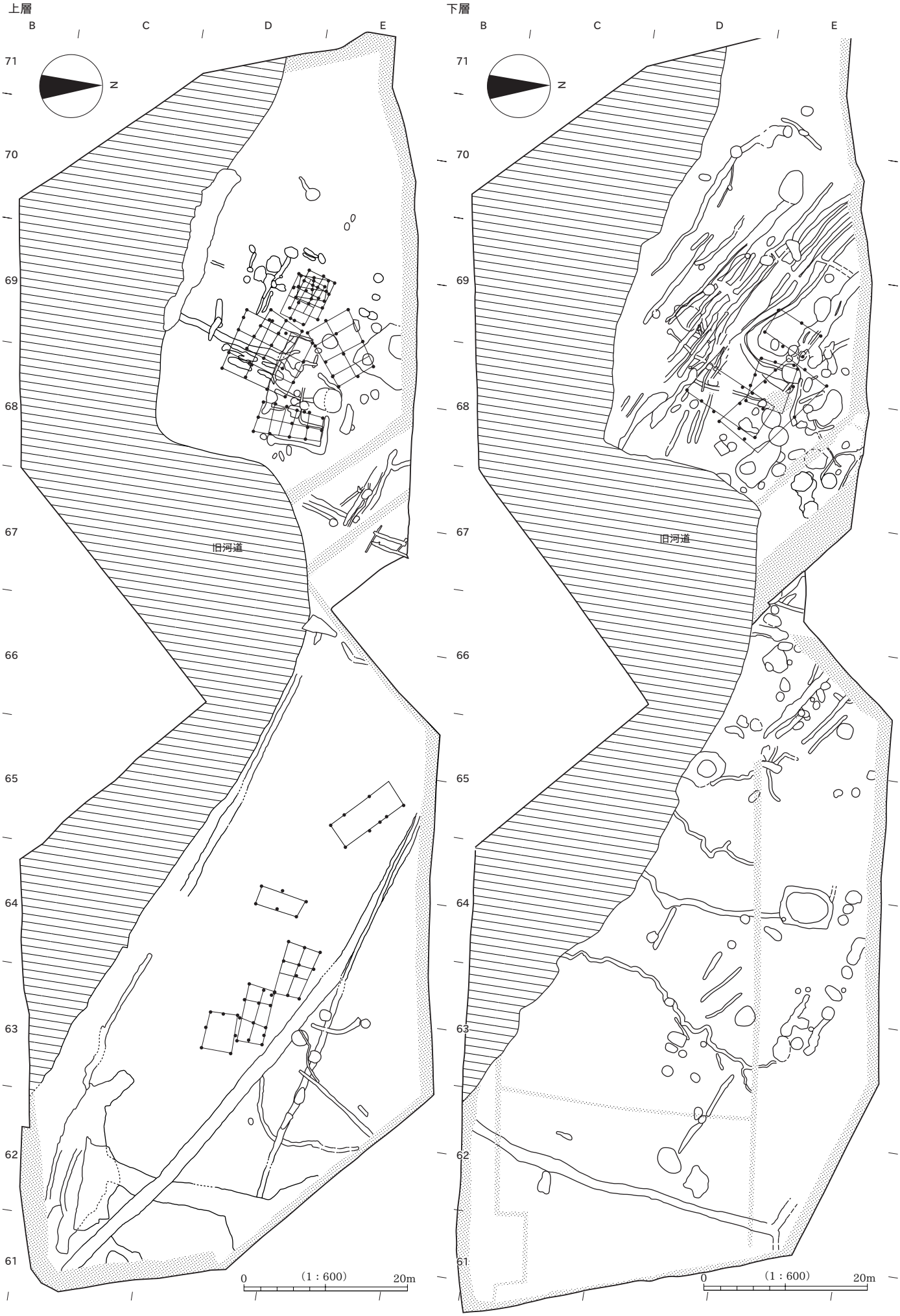
石器計測表

No.	器種	層位	遺構	グリッド	長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重（g）	石材
577	砥石	上	8上SE23・24	68D15	59	42	37	70	頁岩
578	砥石	上	—	69D1	63	21	20	48	緑色凝灰岩
579	砥石	下	—	69D12・13	49	33	27	59	砂岩
580	砥石	上	8上SK36	69D3	106	64	36	210	頁岩
581	砥石	上	—	69D16	66	62	36	140	頁岩
583	砥石	上	8上SE23	69D15	156	66	62	435	頁岩
583	砥石	上	—	68D19	136	75	70	906	砂岩
584	砥石	下	—	66D25	58	37	20	50	凝灰岩
585	砥石	下	—	70C14	45	55	27	102	緑色凝灰岩
586	砥石	下	—	68E11～13・16～18	70	66	39	125	流紋岩
587	砥石	下	89下SE205		63	48	15	68	凝灰岩
588	砥石	下	—	69D17	142	58	49	385	凝灰岩
589	砥石	下	—	66D28	93	52	50	258	凝灰岩
590	砥石	下	7下SD10	66D12	108	50	48	335	凝灰岩
591	砥石	下	—	63D21	81	32	26	100	砂岩
592	砥石	下	—	69D17	171	74	59	425	頁岩
593	凹石	上	—	68D9・14	157	87	67	713	軽石

土製品計測表

No.	器種	層位	遺構	グリッド	焼成	長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重（g）	備考
562	土錘	下	—	64D9	土師質	51	13	12	7	
563	土錘	下	7下SK134	62D23	土師質	4	0.9	14	7	
564	土錘	下	7下SK134	62D23	土師質	54	14	13	8	
565	土錘	下	7下SD144	63D3	土師質	43	12	12	5	
566	土錘	下	—	64D9	土師質	46	1	1	5	
567	土錘	下	—	64E14	土師質	5	15	14	9	
568	土錘	上	8上SD1	69D5	土師質	62	51	21	74	
569	土錘	下	—	70C13	土師質	62	40	42	70	
570	羽口	下	7下SD21	66E3・4	土師質	63	39	16	32	
571	羽口	下	—	68D25	土師質	28	38	12	19	
572	土器片円盤	下	7下SK111	62D22	土師質	56	64	8	33	
575	土器片円盤	下	—	68D19	須恵器	57	34	17	27	有台杯、A群、回転ヘラ切り、右回転、内面降灰無し，底径58
574	土器片円盤	下	—	68D19	須恵器	84	79	13	63	27
573	土器片円盤	上	旧河道	69B13・18・23	須恵器	73	74	15	68	有台杯、A群、回転ヘラ切り、右回転、内面降灰無し、底径54
576	円筒形土製品	下	8下SD38，SD118，P69	63D17，67D14，68D4・14，69C22，69D2・12・15・21・22，71D12	土師質	134（口径）	207（残存高）	—	—	内カキメ、外ロクロナデ
649	円筒形土製品	下	—	試80T	土師器	131（口径）	65（残存高）	—	—	ロクロナデ

図　　版

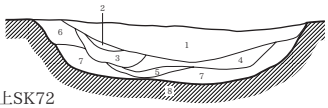

上層
下層
B
C
D
E
71
70
69
68
67
66
65
64
63
62
61
N
旧河道
0
(1：600)
20m

上層遺構平面図（1）

N
暗渠・トレンチ
旧河道
71C
71D
70C
70D
70E
69C
69D
69E
68C
68D
68E
8上SD1
8上SD84
8上SK85
8上SK74
8上SK69
8上SK72
8上SK77
8上P428
8上SK82
SB3
SB2
8上P318
SB1
8上SK70
8上SK71
8上SK56
8上P422
8上SK80
8上SK81
8上SD49
8上SK66
8上SK38
8上SD39
8上SD52
8上SK65
8上SD61
8上SK67
8上SD34
8上SK37
SB7
8上SE48
SB4
8上SD31
8上SD32
8上SD35
8上SD46
8上SD63
8上SD62
8上SE60
8上SK2
8上SD42
8上SE59
8上SD31
8上SD32
8上SK30
8上SK41
8上SD47
8上SK1
8上SD33
8上SK15
8上SK16
8上SD65
8上SK58
8上SD29
8上SK40
8上SD64
8上SE5
SB6
8上SE24
8上SE23
8上SK14
SB5
8上SK3
8上SD21
8上SD44
8上SK12
8上SK9
8上SK8
8上SD10
8上SK7
8上SK504
8上SD500
8上SD503
8上SD506
8上SD502
8上SD507
8上SK505
8上SD501
0
(1：200)
10m

8上SK72

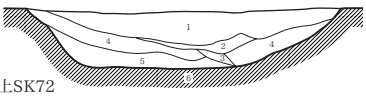
3.838m a　a'



8上SK72
1　暗褐色シルト。
2　茶褐色シルト。
3　暗茶褐色シルト。
4　黄色粘土。
5　黒色炭化物。
6　茶褐色シルト。
7　暗茶褐色シルト。
8　地山。

8上SK72

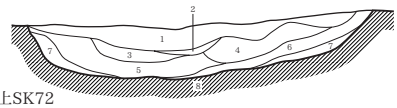
3.838m b　b'



8上SK72
1　暗褐色シルト。
2　黄色粘土。
3　茶褐色シルト。
4　黒色炭化物。
5　暗褐色シルト。
6　地山。

8上SK72

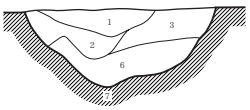
3.838m c　c'



8上SK72
1　暗褐色シルト。
2　茶褐色シルト。
3　暗茶褐色シルト。
4　黄色粘土。
5　黒色炭化物。
6　茶褐色シルト。
7　暗茶褐色シルト。
8　地山。

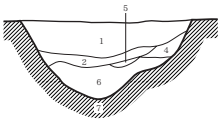
8上SK82

3.760m k　k'



8上SK82

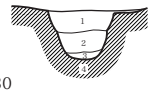
3.760m l　l'



8上SK82
1　茶褐色シルト。
2　暗茶褐色シルト。
3　白色粘土。
4　暗褐色シルト。
5　赤褐色粘土。
6　黒色炭化物。
7　地山。

8上SK30

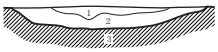
3.810m u　u'



8上SK30
1　暗茶褐色シルト。
2　暗褐色シルト。
3　茶褐色シルト。白色粘土ブロック混じる。
4　地山。

8上SK9

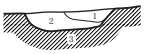
3.783m y　y'



8上SK9
1　黒褐色土。炭化物片混じる。
2　黒褐色土。黄褐色シルトブロック混じる。
3　地山。

8上SK8

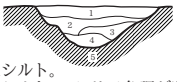
3.783m z　z'



8上SK8
1　黒褐色シルト。
2　暗青灰色シルト。黒褐色粘土ブロック混じる。
3　地山。

8上SK16

3.783m A　A'

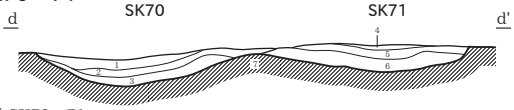


8上SK16
1　茶褐色シルト。
2　茶褐色シルト。1に比べ色調が明るい。
3　茶褐色シルト。灰白色粘土ブロック混じる。
4　茶褐色シルト。灰白色粘土ブロック・炭化物片混じる。
　3に比べ灰白色粘土ブロックの量が少ない。
5　地山。

0　(1:50)　2m

8上SK70・71

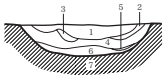
3.738m d　d'



8上SK70・71
1　暗褐色シルト。
2　暗茶褐色シルト。
3　茶褐色シルト。
4　黒褐色シルト。
5　暗褐色シルト。
6　暗茶褐色シルト。
7　地山。

8上P318

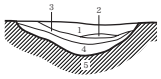
3.838m f　f'



8上P318
1　暗褐色土。
2・3　黒色炭化物。
4　黄色粘土。
5　黒色炭化物。
6　暗茶褐色土。
7　地山。

8上P318

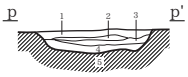
3.838m g　g'



8上P318
1　暗褐色土。
2　黒色炭化物。
3　暗茶褐色土。
4　暗褐色土。
5　地山。

8上SK2

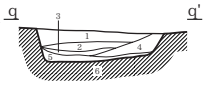
3.775m p　p'



8上SK2
1　茶褐色シルト。
2　暗褐色炭化物。
3　黄褐色シルト混茶褐色シルト。
4　黄褐色シルト混暗茶褐色シルト。
5　地山。

8上SK2

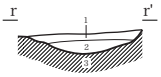
3.775m q　q'



8上SK2
1　茶褐色シルト。
2　茶褐色シルト。黄褐色シルトブロック混じる。
3　茶褐色土。炭化物片混じる。
4　暗茶褐色シルト。
5　茶褐色土。黄褐色シルトブロック混じる。2に比べ黄褐色ブロックの量が多い。
6　地山。

8上SK2

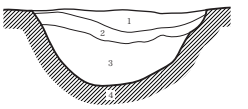
3.775m r　r'



8上SK2
1　茶褐色シルト。
2　暗褐色シルト。炭化物片大量に混じる。
3　地山。

8上SK36

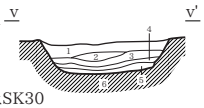
3.765m o　o'



8上SK36
1　暗茶褐色シルト。
2　黄褐色粘土ブロック混じり茶褐色シルト。
3　暗茶褐色シルト。マンガン・白色粘土ブロック多量に混じる。
4　地山。

8上SK30

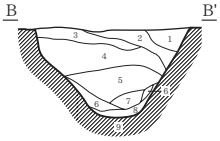
3.810m v　v'



8上SK30
1　暗褐色シルト。
2　暗茶褐色シルト。
3　暗褐色粘土。炭化物片多量に混じる。
4　暗褐色シルト。炭化物片混じる。
5　黒色炭化物。
6　地山。

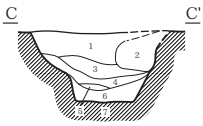
8上SK3

3.638m B　B'



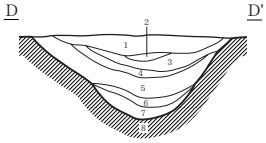
8上SK3

3.783m C　C'



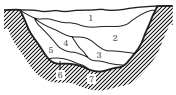
8上SK3

3.738m D　D'



8上SK81

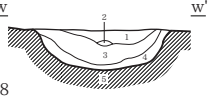
3.765m m　m'



8上SK81
1　暗褐色シルト。炭化物片定量混じる。
2　暗茶褐色シルト。
3　暗褐色シルト。炭化物片少量混じる。
4　暗褐色シルト。茶褐色粘土ブロック多量に混じる。
5　暗茶褐色シルト。
6　黄色粘土。
7　地山。

8上SK58

3.710m w　w'



8上SK58
1　茶褐色シルト。
2　黄色粘土。
3　暗褐色シルト。炭化物片定量混じる。
4　茶褐色シルト。
5　地山。

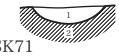
8上SK3
1　茶褐色シルト。
2　黄褐色シルト。
3　淡茶褐色シルト。
4　青灰色粘土。炭化物片定量混じる。
5　青灰色粘土。
6　黒色炭化物。
7　青灰色粘土。
8　黒色炭化物。
9　地山。

8上SK3
1　茶褐色シルト。マンガン粒多量に混じる。
2　青灰色粘土。
3　茶褐色シルト。炭化物片多く混じる。
4　黒色炭化物。
5　茶褐色シルト。
6　黒色炭化物。
7　地山。

8上SK3
1　茶褐色シルト。
2　黄褐色シルト。
3　茶褐色シルト。
4　黄褐色シルト。
5　茶褐色シルト。
6　暗茶褐色シルト。
7　茶褐色シルト。炭化物片・焼土粒混じる。
8　地山。

8上SK71

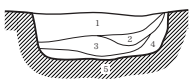
3.738m e　e'



8上SK71
1　暗茶褐色シルト。
2　地山。

8上P428

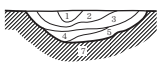
3.760m h　h'



8上P428
1　暗茶褐色土。
2　暗褐色土。
3　黒色炭化物。
4　暗褐色土。
5　地山。

8上P422

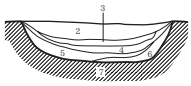
3.760m i　i'



8上P422
1　赤褐色土。
2　青褐色粘土。
3　黒色炭化物。
4　青褐色粘土。
5　黒色炭化物。
6　青褐色粘土。
　炭化物片混じる。
7　地山。

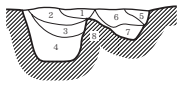
8上P422

3.760m j　j'



8上SK80

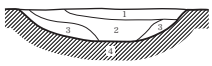
3.765m n　n'



8上SK80
1　暗茶褐色シルト。
2　暗褐色シルト。
3　黒褐色土。炭化物片少量混じる。白色粘土定量混じる。
4　暗茶褐色シルト。
5　暗茶褐色シルト。
6　黄色粘土。
7　暗褐色シルト。
8　地山。

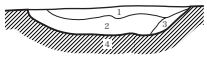
8上SK66

3.760m s　s'



8上SK66　3-5

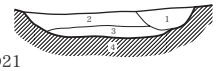
3.760m t　t'



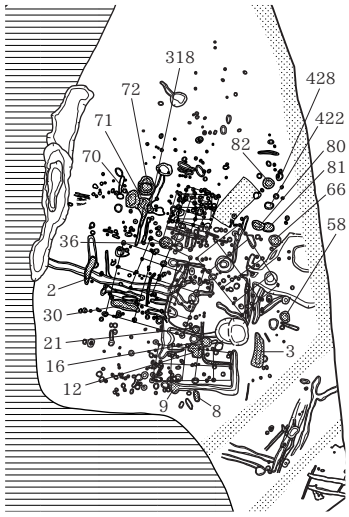
8上SK66
1　茶褐色シルト。酸化鉄粒若干混じる。
2　暗灰色粘土。鉄器・炭化物の塊混じる。
3　暗褐色粘土。暗灰色粘土ブロック定量混じる。
4　地山。

8上SK12、SD21

3.783m x　x'

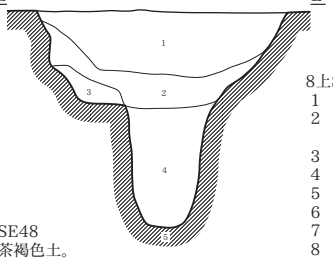


8上SK12・SD21
1　暗褐色シルト。炭化物少量混じる。
2　暗褐色シルト。1に比べ色調がやや明るい。
3　黄褐色土。暗褐色シルトブロック混じる。
4　地山。
1：SD21、2・3：SK12



8上SE48

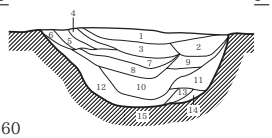
3.670m E　E'



8上SE48
1　茶褐色土。
2　茶褐色土。1に比べ色調が明るい。
3　暗茶褐色土。
4　黒褐色土。
5　地山。

8上SE60

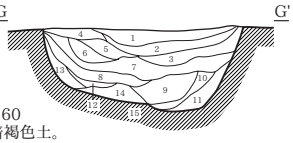
3.738m F　F'



8上SE60
1　暗褐色粘土。黄色粘土ブロック混じる。
2　暗褐色粘土。黄色粘土ブロック・炭化物片混じる。1に比べ色調が明るい。
3　暗褐色粘土。炭化物片混じる。
4　黒色炭化物。
5　黄色粘土。炭化物片多量に混じる。
6　黄色粘土。酸化鉄粒定量混じる。
7　黒色炭化物。
8　赤褐色粘土。黄色粘土ブロック混じる。
9　茶褐色土。炭化物片多量に混じる。
10　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
11　茶褐色粘土。酸化鉄粒定量混じる。
12　赤褐色粘土。酸化鉄粒定量混じる。
13　青灰色粘土。
14　赤褐色粘土。酸化鉄粒定量混じる。
15　地山。

8上SE60

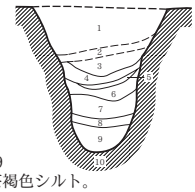
3.638m G　G'



8上SE60
1　暗褐色土。
2　暗褐色土。黄色粘土・炭化物片混じる。
3　暗褐色土。
4　暗褐色土。炭化物片混じる。
5　黄色粘土。
6　暗褐色粘土。炭化物片混じる。
7　暗褐色粘土。炭化物片混じる。6に比べ色調が暗い。
8　暗茶褐色粘土。黄色粘土ブロック多く混じる。
9　暗茶褐色粘土。炭化物片多く混じる。
10　黄色粘土ブロック。
11　赤褐色粘土。酸化鉄粒多い。
12　黒色炭化物。
13　赤褐色粘土。酸化鉄粒多く混じる。
14　青灰色粘土。
15　地山。

8上SE59

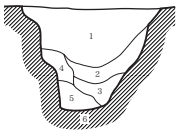
3.810m H　H'



8上SE59
1　暗茶褐色シルト。
2　黄色粘土ブロック。
3　暗褐色シルト。
4　黒色炭化物。
5　暗茶褐色シルト。炭化物片・黄色粘土ブロック多量に混じる。
6　暗茶褐色粘土。マンガン粒多く混じる。
7　赤褐色粘土。酸化鉄粒混じる。硬い。
8　淡黄色粘土。
9　黒色炭化物。
10　地山。

8上SE5

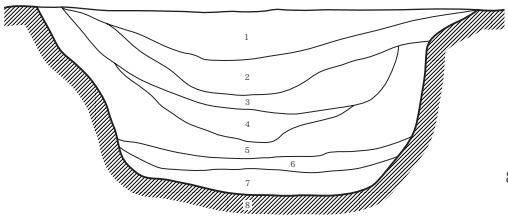
3.670m I　I'



8上SE5
1　暗茶褐色土。
2　暗茶褐色土。灰白色粘土ブロック混じる。
3　暗茶褐色土。黄褐色シルトブロック混じる。
4　暗茶褐色土。黄褐色シルトブロック混じる。3に比べ黄褐色シルトが少ない。
5　暗青灰色土。炭化物片混じる。
6　地山。

8上SE23

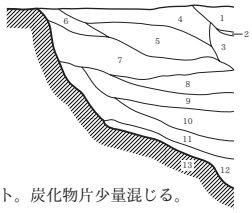
3.810m J　J'



8上SE3
1　暗茶褐色シルト。
2　黒褐色シルト。しまり弱い。
3　黄褐色シルト。
4　黒褐色シルト。しまり弱い。
5　暗青灰色粘土。
6　黒褐色シルト。
7　青灰色粘土。
8　地山。

8上SE24

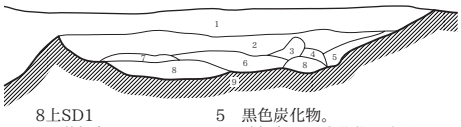
3.810m K　K'



8上SE29
1　暗茶褐色シルト。炭化物片少量混じる。
2　淡褐色粘土。
3　暗褐色シルト。炭化物片少量混じる。
4　暗茶褐色シルト。炭化物片少量混じる。3に比べ色調が明るい。
5　黒色炭層。
6　茶褐色シルト。黄褐色粘土。
7　黄褐色粘土。粘性強い。
8　暗青灰色シルト。粘性強い。炭化物片多く混じる。
9　青灰色砂。
10　青灰色シルト。
11　暗青灰色シルト。炭化物片多く混じる。
12　暗青灰色シルト。
13　地山。

8上SD1

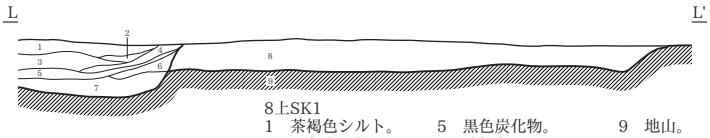
3.665m M　M'



8上SD1
1　茶褐色土。
2　暗茶褐色土。
3　白色粘土。
4　赤褐色土。
5　黒色炭化物。
6　暗褐色土。炭化物片多量に混じる。
7　赤褐色土。
8　青灰色粘土。炭化物片混じる。
9　地山。

8上SK1・67

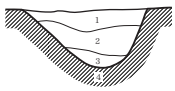
3.760m L　L'



8上SK1
1　茶褐色シルト。
2　黒色炭化物。
3　暗褐色土。
4　茶褐色土。
5　黒色炭化物。
6　暗褐色土。
7　橙色酸化鉄。
8　暗茶褐色シルト。
9　地山。

8上SD34

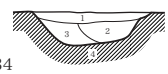
3.710m N　N'



8上SD34
1　暗褐色シルト。焼土粒・炭化物片少量混じる。
2　暗茶褐色シルト。しまり弱い。
3　暗褐色シルト。炭化物片少量混じる。
4　地山。

8上SD34

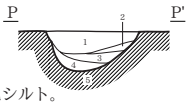
3.783m O　O'



8上SD34
1　暗褐色シルト。焼土粒・炭化物片少量混じる。
2　暗茶褐色シルト。しまり弱い。
3　暗褐色シルト。炭化物片少量混じる。
4　地山。

8上SD62

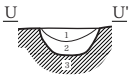
3.783m P　P'



8上SD62
1　茶褐色シルト。
2　茶褐色シルト。炭化物片多く混じる。
3　茶褐色シルト。炭化物片多く混じる。2に比べ色調が暗い。
4　茶褐色シルト。灰白色粘土ブロック混じる。
5　地山。

8上SD49

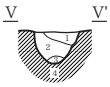
3.675m U　U'



8上SD49
1　茶褐色シルト。
2　暗褐色シルト。
3　地山。

8上SD46

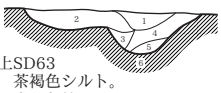
3.710m V　V'



8上SD46
1　茶褐色シルト。
2　暗茶褐色シルト。炭化物片多く混じる。
3　茶褐色シルト。白色粘土ブロック混じる。
4　地山。

8上SD64

3.810m Q　Q'



8上SD63
1　茶褐色シルト。
2　青灰色粘土。
3　暗茶褐色シルト。
4　青灰色粘土。炭化物片混じる。
5　黒色炭化物。
6　地山。

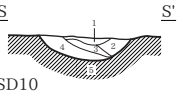
8上SD10

3.783m R　R'

8上SD10
1　暗灰色シルト。炭化物片混じる。
2　黄褐色シルト。黒褐色土ブロック混じる。
3　黄褐色シルト。黒褐色土ブロック混じる。2に比べ黒褐色土ブロックの量が少ない。
4　地山。

8上SD10

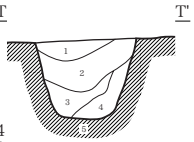
3.783m S　S'



8上SD10
1　黒褐色シルト。
2　暗褐色シルト。
3　茶褐色シルト。
4　黄褐色シルト。黒褐色シルトブロック混じる。
5　地山。

8上SK14

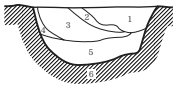
3.760m T　T'



8上SK14
1　茶褐色シルト。
2　茶褐色シルト。1に比べ色調がやや明るい。
3　暗褐色シルト。炭化物片混じる。
4　暗褐色土。黄褐色シルトブロック混じる。

8上SK504

3.775m W　W'

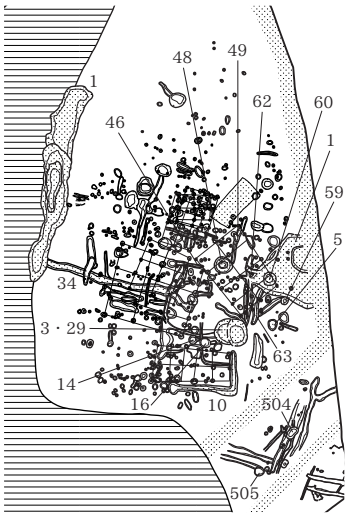


8上SK504
1　暗茶褐色土。
2　黒色炭化物。
3　暗茶褐色土。
4　茶褐色土。
5　暗茶褐色土。
6　地山。

8上SK505

3.675m X　X'

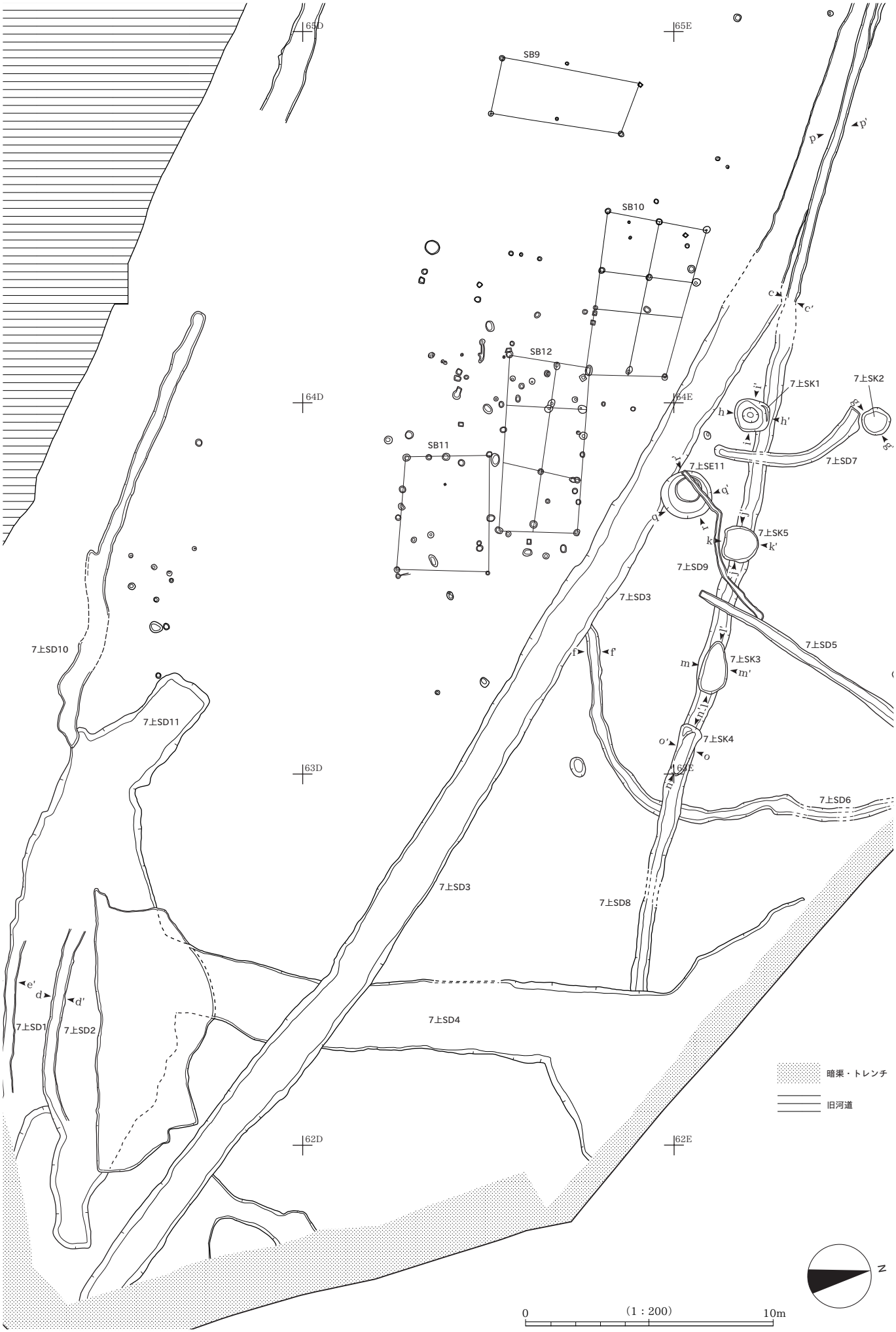
8上SK505
1　茶褐色シルト。
2　暗茶褐色シルト。
3　黒褐色土。
4　暗褐色シルト。黒褐色土ブロック混じる。
5　地山。



0　(1:50)　2m

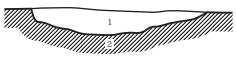
8上SD2
8上SD500
8上SD503
8上SD502
8上SK509
8上SD501
暗渠・トレンチ
旧河道
N
68D
68E
67D
67E
66D
66E
SB8
a
a'
b
b'
0
(1：200)
10m

上層遺構平面図（3）


65D
65E
SB9
SB10
SB12
SB11
64D
64E
63D
63E
62D
62E
7上SK1
7上SK2
7上SD7
7上SE11
7上SK5
7上SD9
7上SD3
7上SD5
7上SK3
7上SK4
7上SD6
7上SD10
7上SD11
7上SD8
7上SD1
7上SD2
7上SD4
暗渠・トレンチ
旧河道
N
0
(1：200)
10m

7上SD10

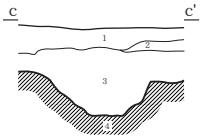
3.650m a　a'



7上SD10
1　明褐色シルト。酸化鉄・マンガン粒混じる。
2　地山。

7上SD8

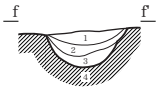
4.050m c　c'



7上SD8
1　明褐色シルト。マンガン粒多量に混じる。基本層序IIa層。
2　明褐色シルト質粘土。基本層序IIb層。
3　褐色粘土質シルト。マンガン粒多量に混じる。基本層序IId層。
4　地山。

7上SD6

3.850m f　f'



7上SD6
1　茶褐色シルト。
2　明茶褐色シルト。白色シルトブロック混じる。
3　暗茶褐色シルト。マンガン粒混じる。
4　地山。

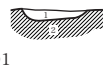
7上SD2

3.850m d　d'

7上SD2
1　黒褐色粘性シルト。マンガン粒多く混じる。
2　地山。

7上SD1

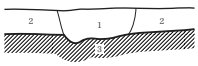
3.850m e　e'



7上SD1
1　黒褐色粘性シルト。マンガン粒多く混じる。
2　地山。

7上SD10

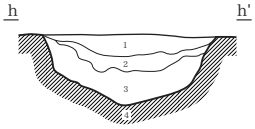
3.650m b　b'



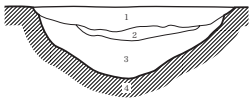
7上SD10
1　明褐色シルト。酸化鉄・マンガン粒混じる。
2　明褐色シルト。白色シルト・マンガン粒混じる。基本層序IId層。
3　地山。

7上SK1

3.750m h　h'



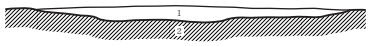
3.750m i　i'



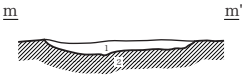
7上SK1（h・i）
1　褐色砂質シルト。焼土粒・炭化物片（1mm以下）少量混じる。
2　暗褐色シルト。焼土粒・炭化物片（2mm以下）定量混じる。
3　黒褐色粘質シルト。焼土粒・炭化物片（2mm以下）多量に混じる。
4　地山。

7上SK3

3.850m l　l'



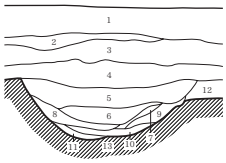
3.850m m　m'



7上SK3（e・m）
1　褐色シルト。焼土粒（5mm以下）・炭化物片（20mm以下）少量、マンガン粒多量に混じる。
2　地山。

7上SK2

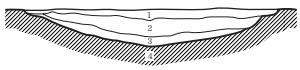
4.250m g　g'



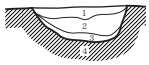
7上SK2
1　茶褐色シルト。基本層序I層。
2　明褐色シルト。基本層序IIa層。
3　明褐色シルト。マンガン粒多量に混じる。基本層序IIb層。
4　明黄褐色シルト。上部に酸化鉄、下部にマンガン粒混じる。基本層序IId層。
5　茶褐色シルト。マンガン粒多く混じる。基本層序IIIa層。
6　明褐色シルト質粘土。
7　青灰色粘土。
8　明褐色粘土。
9　黒褐色粘土。
10　褐色シルト。
11　黒褐色粘土。
12　青灰色粘土。
13　地山。

7上SK4

3.850m n　n'



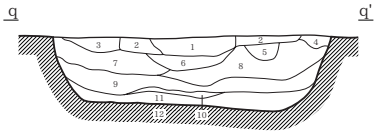
3.850m o　o'



7上SK4（n・o）
1　褐色シルト。炭化物片（2mm以下）・焼土粒少量、マンガン粒多量に混じる。
2　明褐色シルト。炭化物片（1mm以下）少量、明黄褐色土ブロック定量、マンガン粒多量に混じる。
3　黒褐色炭化物。
4　地山。

7上SE11

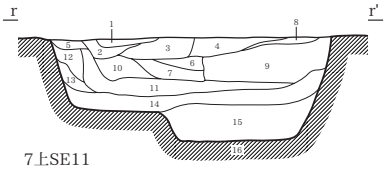
3.450m q　q'



7上SE11
1　青灰色粘土。暗青灰色粘土ブロック混じる。
2　暗青灰色粘土。
3　撹乱
4　茶褐色シルト。
5　青灰色粘土。暗青灰色粘土ブロック混じる。
6　暗青灰色粘土ブロックと青灰色粘土ブロックの混合。
7　黄褐色粘土。
8　青灰色粘土。炭化物片混じる。
9　青灰色砂質シルト。
10　淡青灰色シルト。
11　暗青灰色シルト。
12　地山。

7上SE11

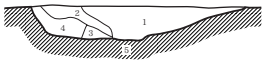
3.450m r　r'



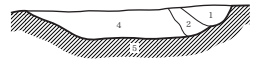
7上SE11
1　褐色シルト。
2　青灰色粘土。マンガン粒混じる。
3　青灰色粘土。暗青灰色粘土ブロック混じる。
4　暗黒青灰色粘土。
5　暗黒青灰色粘土。
6　暗青灰色粘土。青灰色粘土ブロック混じる。
7　青灰色粘土。炭化物片混じる。
8　黄褐色粘土。
9　暗青灰色粘土。青灰色粘土ブロック混じる。
10　青灰色粘土。
11　青灰色砂質シルト。
12　青灰色粘土。
13　青灰色砂質シルト。
14　淡青灰色シルト。
15　暗青灰色粘土。
16　地山。

7上SK5

3.850m j　j'



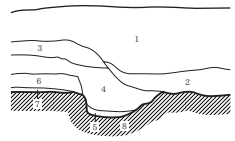
3.750m k　k'



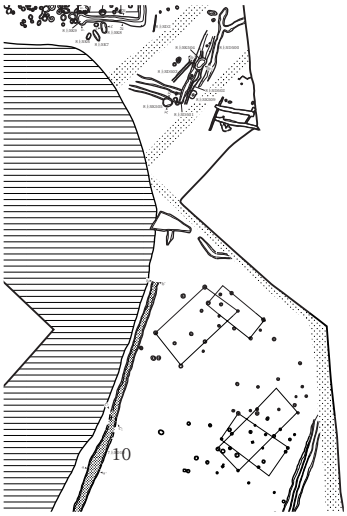
7上SK5（j・k）
1　茶褐色粘質シルト。マンガン粒多く混じる。
2　灰褐色粘質シルト。
3　灰褐色粘質シルト。
4　茶褐色粘質シルト。マンガン粒多く混じる。
5　地山。

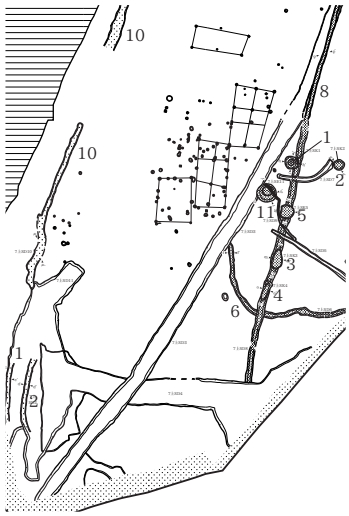
7上SD8

4.150m p　p'



7上SD8
1　明褐色粘質シルト。基本層序IIa層。
2　灰色シルト質粘土。7下SD3の覆土。
3　明褐色シルト。マンガン粒多量に混じる。基本層序IIb層。
4　明黄褐色シルト。マンガン粒多量に混じる。基本層序IId層。中世の遺物包含層。
5　灰色粘土。黄色シルトブロック・マンガン粒多量に混じる。
6　暗褐色シルト。マンガン粒多量に混じる。基本層序IIIa層。
7　暗褐色シルト質粘土。基本層序IIIb層。古代の遺物包含層。
8　地山。





0　(1:50)　2m

下層遺構平面図（1）

N
暗渠・トレンチ
旧河道
8下SK46
8下SK47
8下SK134
8下SK45
8下SD46
8下SD45
8下SD42
8下SD47
8下SD38
8下SD54
8下SD44
8下SD116
8下SD115
8下SD109
8下SD132
8下SK39
8下SD50
8下SK51
8下SD49
8下SD40
8下SD110
8下SK144
8下SE50
8下SD117
8下SK113
8下SK36
8下SD131
8下SD114
8下SK43
SB15
8下SK31
8下SD29
8下SK100
8下SK57
8下SK76
8下SK30
8下SD118
8下SD128
8下SK32
8下SD126
8下SD201
8下SD21
8下SK12
8下SK23
8下SD130
8下SD24
8下SD119
SB16
8下SD129
SB13
SB14
71C
71D
71E
70C
70D
70E
69C
69D
69E
68C
68D
68E
0
(1：200)
10m

8下SK46

3.110m a　a'

8下SK46
1　暗茶褐色粘土。基本層序VII層。
2　青灰色粘土。炭化物片少量混じる。
3　地山。

8下SK47

3.110m b　b'

8下SK47
1　暗茶褐色粘土。基本層序VII層。
2　暗褐色粘土。炭化物片定量混じる。
3　暗灰色粘土。暗褐色粘土ブロック混じる。
4　地山

8下SK113

3.110m k　k'

8下SK113
1　暗茶褐色粘土。炭化物片少量混じる。基本層序VII層。
2　青灰色粘土。炭化物片・暗褐色粘土混じる。
3　地山。

8下SK45

3.210m c　c'

8下SK45

3.110m d　d'

8下SK45
1　暗灰色粘土。
2　青灰色粘土。炭化物片定量混じる。
3　地山。

8下SD46

3.110m g　g'

8下SD46
1　黒色炭化物。
2　茶褐色粘土。暗茶褐色粘土ブロック多く混じる。炭化物片混じる。
3　青灰色粘土。暗褐色粘土ブロック混じる。
4　地山。

8下SD42

3.110m h　h'

8下SD42
1　暗茶褐色粘土。炭化物片混じる。基本層序VII層。
2　暗青灰色粘土。炭化物片少量混じる。
3　地山。

8下SK144

3.010m l　l'

8下SK144
1　暗黄褐色粘土。炭化物片少量混じる。
2　青灰色粘土。
3　暗褐色粘土。
4　暗青灰色粘土。
5　地山。

8下SK100

3.210m n　n'

8下SK100
1　黒色炭化物。
2　黒褐色粘土。炭化物片混じる。
3　黒褐色粘土。炭化物片多量に混じる。
4　暗褐色粘土。炭化物片混じる。
5　淡黄色粘土。
6　地山。

8下SD42・47・SK43

3.110m o　o'

8下SD42・43・47
1　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
2　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。1に同じ。
3　暗青灰色粘土。1より色調が暗い。
4　青灰色粘土。炭化物片混じる。
5　青灰色粘土。炭化物片少量混じる。4より色調がやや明るい。
6　地山。
1：SD43、2：SD47、3～5：SD42。

8下SD109

3.110m f　f'

8下SD109
1　黒褐色粘土。黄褐色粘土ブロック混じる。
2　青灰色粘土。暗褐色粘土混じる。
3　青灰色粘土。暗褐色粘土少量混じる。
4　地山。

8下SD44

3.110m e　e'

8下SD44
1　暗茶褐色粘土。
2　青灰色粘土。炭化物片少量混じる。
3　地山。

8下SK39

3.110m i　i'

8下SD39
1　黄褐色土。
2　暗青灰色粘土。
3　青灰色粘土。暗青灰色粘土ブロック混じる。
4　地山。

8下SK51

3.110m j　j'

8下SK51
1　暗灰色粘土。
2　暗茶褐色粘土。基本層序VII層。
3　黄褐色粘土。炭化物片・マンガン粒混じる。
4　暗青灰色粘土。大型の炭化物片定量混じる。
5　地山。

8下SK100、SD115・116

3.110m m　m'

8下SK113、SD115・116
1　暗茶褐色粘土。炭化物片混じる。
2　黒色炭化物。
3　黄褐色粘土。炭化物片少量混じる。
4　暗褐色粘土。炭化物片定量混じる。
5　暗青灰色粘土。
6　暗青灰色粘土。炭化物片定量混じる。
7　地山。
1～4：8下SK100、5：8下SD115、6：8下SD116

8下SD115

3.110m p　p'

8下SD115
1　暗褐色粘土。黄色粘土ブロック混じる。
2　黄色粘土。暗茶褐色粘土ブロック・酸化鉄粒混じる。
3　淡黄色粘土。暗茶褐色粘土ブロック・酸化鉄粒混じる。
4　地山。

8下SD114

3.010m q　q'

8下SD114
1　黒褐色粘土。炭化物片多く混じる。
2　暗茶褐色粘土。
3　暗茶褐色粘土。茶褐色粘土ブロック混じる。
4　地山。

8下SD115・116・117

3.110m s　s'

8下SD115・116・117
1　暗茶褐色粘土。
2　暗青灰色粘土。
3　青灰色粘土。炭化物片少量混じる。
4　暗褐色粘土。黄色粘土ブロック混じる。
5　黄色粘土。暗茶褐色粘土ブロック・酸化鉄粒混じる。
6　淡黄色粘土。暗茶褐色粘土ブロック・酸化鉄粒混じる。
7　地山。
1～3：SD117、4～6：SD116、4・5：SD115

8下SD42・43

3.110m t　t'

8下SD42・43
1　暗青灰色粘土。1より色調が暗い。
2　青灰色粘土。炭化物片混じる。
3　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
4　青灰色粘土。炭化物片混じる。
5　青灰色粘土。炭化物片少量混じる。4より色調がやや明るい。
6　地山。
1・2：SD43、3～5：SD42

0　(1:50)　2m

8下SD21

3.210m x　x'

8下SD21
1　暗茶褐色粘土。
2　暗灰色粘土。
3　暗青灰色粘土。
4　青灰色粘土。
5　地山。

8下SK36、SD40・131

3.210m w　w'

8下SK36、SD40・131
1　暗茶褐色粘土。炭化物片混じる。基本層序VII層。
2　暗青灰色粘土。
3　暗灰色粘土。炭化物片混じる。
4　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
5　暗灰色粘土。3に比べ色調が明るい。
6　暗青灰色粘土。4に比べ色調が明るい。
7　地山。
1・2：SK36、3・4：SD40、5・6：SD131

8下SD118・45

2.910m u　u'

8下SD118・102
1　暗褐色粘土。炭化物片混じる。
2　暗灰色粘土。炭化物片混じる。
3　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
4　青灰色粘土。炭化物片少量混じる。
5　暗灰色粘土。炭化物片少量混じる。2に比べ色調がやや明るい。
6　暗青灰色粘土。炭化物片少量混じる。4に比べ色調がやや明るい。
7　青灰色粘土。炭化物片混じる。
8　地山。
1～4：SD118、5～7：SD45

8下SD24

3.110m z　z'

8下SD24
1　黄色粘土。炭化物片混じる。
2　暗茶褐色粘土。炭化物片混じる。
3　暗灰色粘土。炭化物片混じる。
4　青灰色粘土。暗灰色粘土ブロック混じる。
5　地山。

8下SK32

3.310m A　A'

8下SK32
1　暗茶褐色粘土。炭化物片混じる。基本層序VII層。
2　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
3　青灰色粘土。炭化物片混じる。
4　地山。

8下SD21、SK57・76

3.110m y　y'

8下SD21、SK57・76
1　暗灰色粘土。炭化物片混じる。
2　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
3　暗灰色粘土。炭化物片混じる。1に比べ色調がやや明るい。
4　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。2に比べ色調がやや明るい。
5　暗灰色粘土。炭化物片混じる。1に比べ色調がやや明るい。
6　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。2に比べ色調がやや明るい。
7　地山。
1・2：SK76、3・4：SD21、5・6：SK57

8下SD105

3.110m F　F'

8下SD105
1　暗茶褐色粘土。炭化物片混じる。基本層序VII層。
2　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
3　青灰色粘土。炭化物片混じる。
4　地山。

8下SK23

3.238m D　D'

8下SK23
1　暗茶褐色粘土。炭化物片混じる。基本層序VII層。
2　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
3　青灰色粘土。炭化物片混じる。
4　地山。

8下SK12

3.210m E　E'

8下SK12
1　暗茶褐色粘土。炭化物片混じる。基本層序VII層。
2　暗灰色粘土。
3　黄褐色粘土。
4　灰茶褐色粘土。
5　灰茶褐色粘土。炭化物片混じる。
6　淡黄褐色粘土。
7　地山。

8下SD31　10-8

3.210m B　B'

8下SD31
1　暗茶褐色粘土。炭化物片混じる。基本層序VII層。
2　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
3　地山。

8下SD30

3.210m C　C'

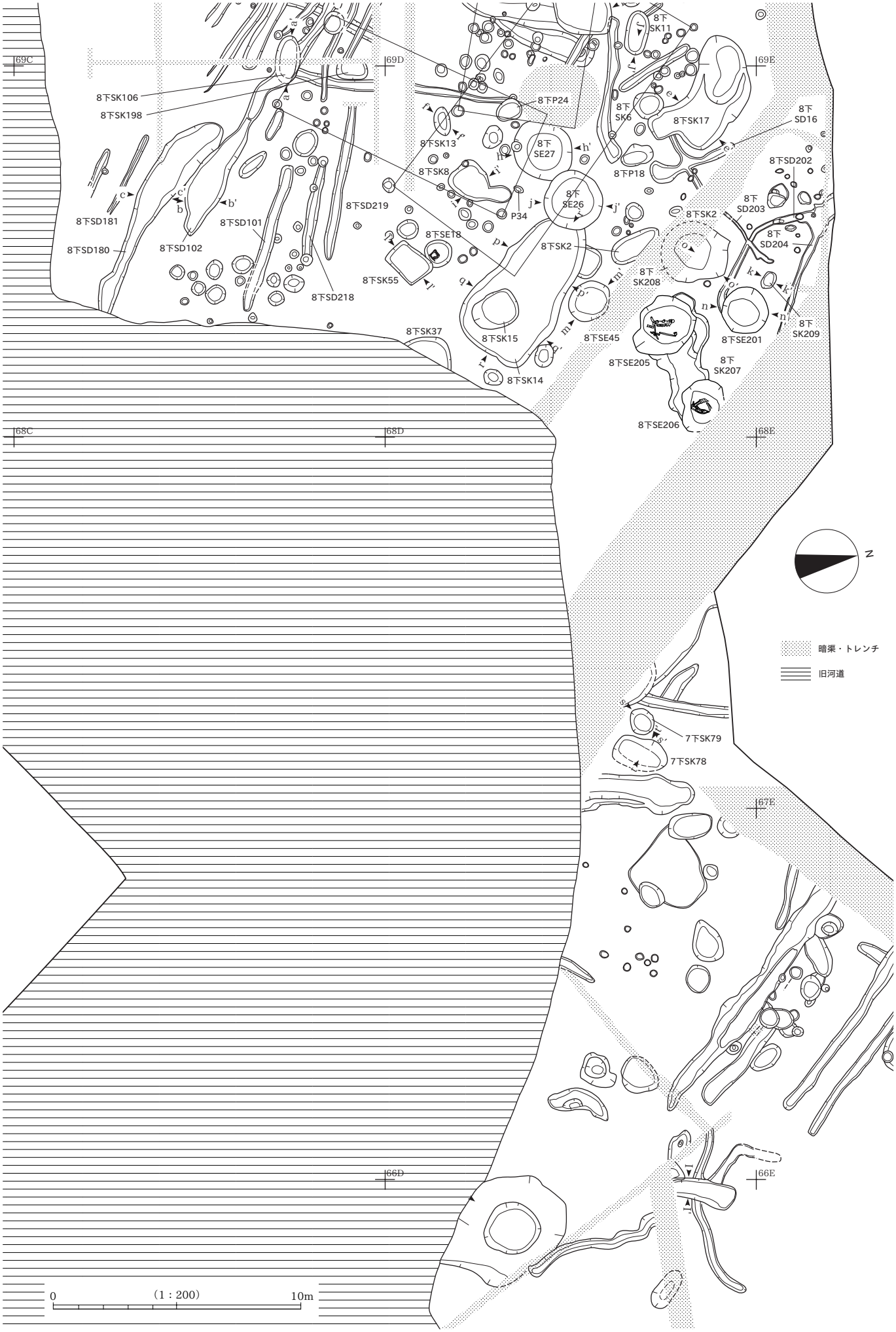
8下SD30
1　暗茶褐色粘土。炭化物片混じる。基本層序VII層。
2　暗茶褐色粘土。青灰色粘土ブロック・炭化物片混じる。
3　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
4　地山。

8下SD45・118

3.110m v　v'

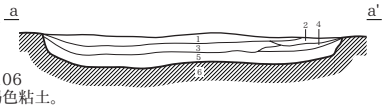
8下SD145・118
1　黄褐色粘土。炭化物片多く混じる。
2　黒色炭化物。
3　青灰色粘土。炭化物片混じる。
4　黄褐色粘土。炭化物片少量混じる。
5　黄褐色粘土。炭化物片少量混じる。
6　青灰色粘土。炭化物片多く混じる。
7　青灰色粘土。炭化物片少量混じる。
8　地山。
1～3：SD118、4～7：SD145

下層遺構平面図（2）


69C
69D
69E
68C
68D
68E
67E
66D
66E
8下SK106
8下SK198
8下P24
8下SK11
8下SK6
8下SK17
8下SD16
8下SK13
8下SE27
8下SK8
8下P18
8下SD202
8下SD181
8下SD101
8下SD219
8下SE26
8下SK2
8下SD203
8下SD102
P34
8下SE18
8下SD204
8下SD180
8下SK55
8下SK208
8下SD218
8下SK209
8下SK37
8下SK15
8下SE45
8下SE201
8下SE205
8下SK207
8下SK14
8下SE206
7下SK79
7下SK78
N
暗渠・トレンチ
旧河道
0
(1：200)
10m

8下SK106

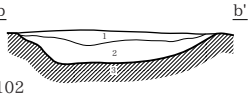
3.210m a　a'



8下SK106
1　黒褐色粘土。
2　灰白色粘土。
3　黒色炭化物。青灰色粘土・暗茶褐色粘土ブロック混じる。
4　暗青灰色粘土。
5　褐色灰色粘土。
6　地山。

8下SD102

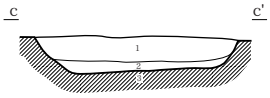
3.210m b　b'



8下SD102
1　暗茶褐色粘土。炭化物片混じる。基本層序VII層。
2　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
3　地山。

8下SD180

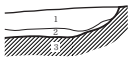
3.210m c　c'



8下SD180
1　黄褐色粘土。
2　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
3　地山。

8下SK11

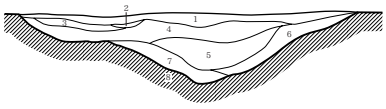
4.000m J　J'



8下SK11
1　黒褐色粘土。
2　淡黄褐色粘土。黒褐色粘土ブロック混じる。
3　地山。

8下SK17

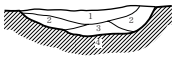
3.900m e　e'



8下SK17
1　暗茶褐色粘土。酸化鉄粒・炭化物片混じる。基本層序VII層。
2　暗灰褐色粘土。赤褐色粘土ブロック多く混じる。
3　黒色炭化物。
4　暗灰褐色粘土。炭化物片・酸化鉄粒定量混じる。
5　暗褐色粘土。炭化物片多く混じる。
6　暗灰褐色粘土。青灰色粘土ブロック・炭化物片混じる。
7　青灰褐色粘土。青灰色粘土ブロック混じる。
8　地山。

8下SK13

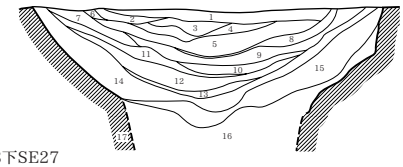
3.900m f　f'



8下SK13
1　暗茶褐色粘土。炭化物片・酸化鉄混じる。基本層序VII層。
2　暗茶褐色粘土。酸化鉄粒多量に混じる。
3　黄褐色粘土。暗茶褐色粘土ブロック混じる。
4　地山。

8下SE27

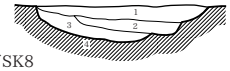
3.210m h　h'



8下SE27
1　暗茶褐色粘土。炭化物片混じる。基本層序VII層。
2　青灰色砂。暗青灰色粘土ブロック混じる。
3　黒褐色粘土。炭化物片混じる。
4　青灰色粘土ブロック・炭化物片混じる。
5　青灰色砂。暗青灰色粘土ブロック・炭化物片混じる。
6　黒色炭化物。青灰色粘土ブロック混じる。
7　黒色炭化物。青灰色粘土ブロック混じる。
8　黒色炭化物。青灰色粘土ブロック混じる。
9　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
10　暗青灰色粘土。青灰色砂混じる。
11　茶褐色粘土。青灰色粘土ブロック混じる。
12　青灰色粘土。青灰色砂・暗青灰色粘土ブロック混じる。
13　暗茶褐色粘土。炭化物片混じる。
14　暗灰色粘土。
15　青灰色砂。
16　暗青灰色粘土。炭化物片少量混じる。
17　地山。

8下SK8

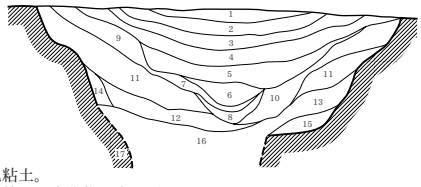
4.000m i　i'



8下SK8
1　暗茶褐色粘土。基本層序VII層。
2　暗茶褐色粘土。黄褐色粘土ブロック混じる。
3　淡黄褐色粘土。暗茶褐色粘土ブロック混じる。
4　地山。

8下SE26

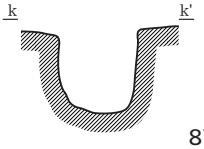
4.000m j　j'



8下SE26
1　青灰色粘土。
2　青灰色粘土。炭化物片多く混じる。
3　黒色炭化物。
4　黒色炭化物。青灰色粘土ブロック多く混じる。
5　黒色炭化物。青灰色粘土ブロック少量混じる。
6　黒色炭化物。青灰色粘土ブロック多く混じる。
7　青灰色砂。炭化物片混じる。
8　黒色炭化物。
9　青灰色粘土。炭化物片混じる。
10　青灰色砂。青灰色粘土ブロック混じる。
11　青灰色砂。
12　青灰色砂。青灰色粘土ブロック混じる。
13　青灰色砂。炭化物片多く混じる。
14　青灰色粘土。青灰色砂混じる。
15　青灰色粘土。炭化物片多く混じる。
16　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
17　地山。

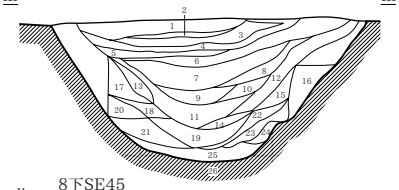
8下SK209

3.138m k　k'



8下SE45

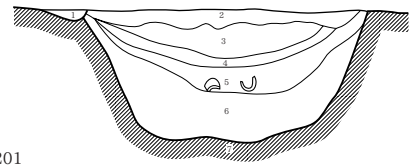
3.310m m　m'



8下SE45
1　暗茶褐色粘土。炭化物片混じる。酸化鉄多く混じる。基本層序VII層。
2　淡灰褐色粘土。酸化鉄粒多く混じる。
3　淡灰褐色粘土。炭化物片多く混じる。
4　茶褐色粘土。酸化鉄粒多く混じる。
5　暗灰褐色粘土。炭化物片多く混じる。
6　暗青灰色粘土。炭化物片多く混じる。
7　黒褐色粘土。炭化物片多く混じる。青灰色砂混じる。
8　青灰色粘土。灰色粘土ブロック混じる。
9　黒色炭化物。青灰色砂混じる。
10　黒褐色粘土。炭化物片多く混じる。
11　黒色炭化物。
12　青灰色粘土。黒褐色粘土ブロック混じる。
13　青灰色砂。炭化物片多く混じる。
14　黒褐色粘土。炭化物片・青灰色粘土ブロック混じる。
15　青灰色砂。
16　青灰色粘土。黒褐色粘土ブロック混じる。
17　黒色炭化物。青灰色粘土ブロック混じる。
18　青灰色粘土。黒褐色粘土ブロック混じる。
19　黒色炭化物。
20　青灰色砂。炭化物片混じる。
21　青灰色砂。
22　青灰色砂。炭化物片混じる。
23　黒褐色粘土。
24　青灰色砂。
25　青灰色粘土。黒褐色粘土ブロック混じる。
26　地山。

8下SE201

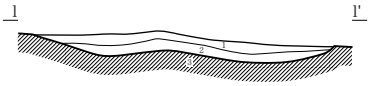
3.210m n　n'



8下SE201
1　暗茶褐色粘土。
2　黄茶褐色粘土ブロック・青灰色粘土ブロックの混合。炭化物片少量混じる。
3　暗茶褐色土。炭化物片混じる。基本層序VII層。
4　暗灰色粘土。炭化物片多く混じる。
5　黒灰色粘土。　炭化物片多量に混じる。
6　灰色粘土。炭化物片定量混じる。
7　地山。

8下SK55

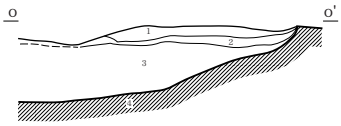
3.110m l　l'



8下SK55
1　暗灰色粘土。炭化物片混じる。基本層序VII層。
2　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
3　地山。

8下SK208

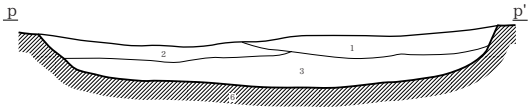
3.110m o　o'



8下SK208
1　茶褐色粘土。炭化物片混じる。
2　茶褐色粘土。炭化物片多く混じる。
3　暗灰色粘土。炭化物粒少量混じる。
4　地山。

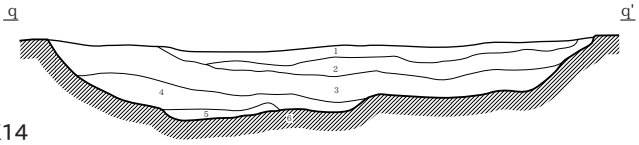
8下SK14

3.210m p　p'



8下SK14

3.310m q　q'

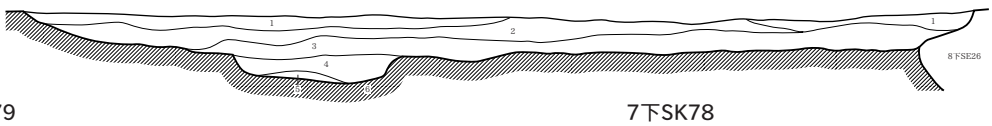


8下SK14
1　黄褐色砂。暗茶褐色粘土ブロック混じる。
2　黄褐色粘土。
3　暗青灰色粘土。遺物多く出土。
4　青灰色粘土。砂混じる。
5　青灰色粘土。砂混じる。4と5の間には薄い炭化物が入る。
6　地山。

0　(1:50)　2m

8下SK14

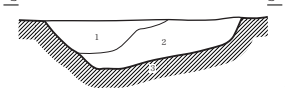
3.310m r　r'



8下SE26

7下SK79

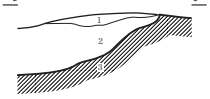
3.460m s　s'



7下SK79
1　暗青灰色粘土。炭化物片（～10mm）少量混じる。
2　灰色粘土。炭化物片（～5mm）多量に混じる。
3　地山。

7下SK78

3.450m t　t'



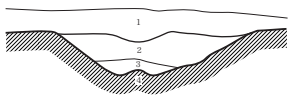
7下SK78
1　暗灰色粘土。炭化物片（～30mm）少量混じる。
2　青灰色粘土。炭化物片（～5mm）多量に混じる。
3　地山。

下層遺構平面図（3）

N
0
(1：200)
10m
暗渠・トレンチ
旧河道
7下SK82
7下SD83
7下SD66
7下SK81
7下SD74
67E
7下SK55
7下SK57
7下SK54
7下SK53
7下SK69
7下SK20
7下SK20
7下SK52
7下SD56
7下P60
7下P35
7下SK71
7下SK19
7下SK51
7下SD17
7下SD21
7下SK73
7下SK62
7下SK18
7下SK63
7下SD75
7下SK61
7下SK76
7下SD16
7下SK64
7下SX143
66D
66E
66F
7下SK13
7下SK80
7下SD103
7下SK15
7下SK14
7下SD118
7下SD141
7下SK109
7下SD139
65D
65E
65F
7下SK5
7下SK7
7下SK60
7下SK9
7下SK2
7下SK104
7下SK8

7下SD74

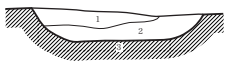
3.500m a　a'



7下SD74
1　暗茶褐色粘土。炭化物片少量混じる。基本層序のVII層対応。
2　青灰色粘土。炭化物片（～10mm）、地山ブロック（～20mm）混じる。
3　青灰色粘土質シルト。炭化物片（～5mm）少量混じる。
4　地山。

7下SK55

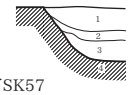
3.450m b　b'



7下SK55
1　暗灰色粘土。炭化物片（～20mm）混じる。
2　青灰色粘土。炭化物片（～2mm）混じる。
3　地山。

7下SK57

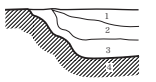
3.450m c　c'



7下SK57
1　暗灰色粘土。炭化物片（～5mm）混じる。
2　暗青灰色粘土。
3　青灰色粘土。
4　地山。

7下SK53

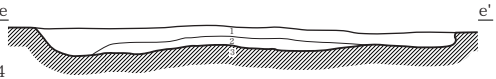
3.450m d　d'



7下SK53
1　暗青灰色粘土。炭化物片（～10mm）多量に混じる。
2　暗青灰色粘土。炭化物片（～10mm）少量混じる。
3　暗青灰色粘土。
4　地山。

7下SK54

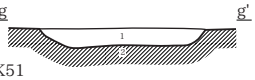
3.450m e　e'



7下SK54
1　暗灰色粘土。炭化物片（～10mm）少量混じる。
2　灰色粘土。暗灰色粘土（覆土1層）ブロック混じる。
3　地山。

7下SK51

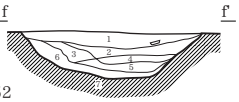
3.450m g　g'



7下SK51
1　暗灰色粘土。炭化物片（～2mm）混じる。
2　地山。

7下SK52

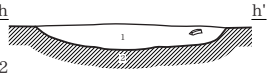
3.450m f　f'



7下SK52
1　暗青灰色粘土質シルト。炭化物片（～10mm）多量に混じる。
2　青灰色粘土。炭化物片（～20mm）混じる。
3　青灰色粘土。炭化物片（～5mm）混じる。2より色調がやや暗い。
4　黒褐色粘土。炭化物片多量に混じる。
5　青灰色粘土。
6　青灰色粘土。炭化物片（～5mm）混じる。5より色調がやや暗い。
7　地山。

7下SK62

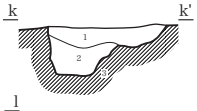
3.450m h　h'



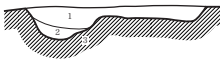
7下SK62
1　暗灰色粘土。炭化物片多量に混じる。
2　地山。

7下SD21

3.450m k　k'



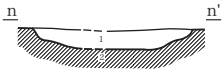
3.550m l　l'



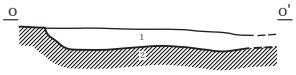
7下SD21（k・l）
1　暗灰色粘土。
2　暗灰色粘土。青灰色粘土ブロック混じる。
3　地山。

7下SK20

3.450m n　n'



3.450m o　o'



7下SK20（n・o）
1　青灰色粘土。炭化物片（～10mm）少量混じる。
2　地山。

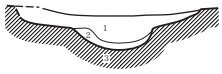
7下SK61

3.550m i　i'

7下SK61
1　暗灰色粘土。炭化物片少量混じる。
2　地山。

7下SK69

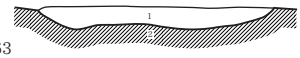
3.450m m　m'



7下SK69
1　暗灰色粘土。炭化物片（～20mm）多量に混じる。
2　青灰色粘土。炭化物片（～10mm）少量混じる。地山より色調がやや暗い。
3　地山。

7下SK63

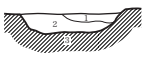
3.550m j　j'



7下SK63
1　暗灰色粘土。炭化物片定量混じる。
2　地山。

7下SK71

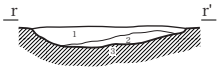
3.450m p　p'



7下SK71
1　青灰色粘土。炭化物片（～10mm）多量に混じる。
2　青灰色粘土。地山より色調がやや暗い。
3　地山。

7下SK19

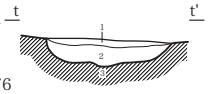
3.450m r　r'



7下SK19
1　明褐色粘土。炭化物片（～10mm）混じる。
2　青灰色粘土。炭化物片多量に含む。
3　地山。

7下SK76

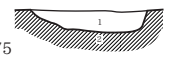
3.550m t　t'



7下SK76
1　暗灰色粘土。炭化物片多く混じる。
2　暗灰色粘土・炭化物片少量混じる。1より色調がやや明るい。
3　地山。

7下SD75

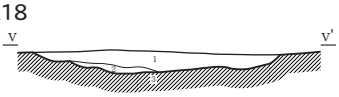
3.450m u　u'



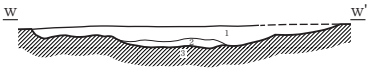
7下SD75
1　暗灰色粘土。炭化物片混じる。
2　地山。

7下SK18

3.450m v　v'



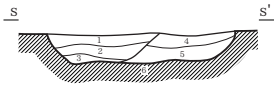
3.450m w　w'



7下SK18（v・w）
1　明褐色粘土質シルト。炭化物片（～10mm）混じる。
2　灰色粘土。
3　地山。

7下P35・60

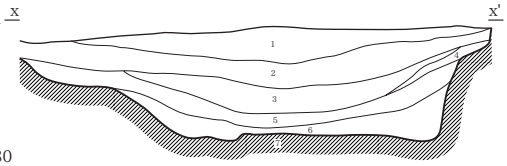
3.450m s　s'



7下P35・60
1　明褐色粘土。炭化物片混じる。
2　暗灰色粘土。炭化物片混じる。
3　青灰色粘土。暗灰色粘土ブロック少量混じる。
4　暗灰色粘土。炭化物片（～10mm）少量混じる。
5　青灰色粘土。炭化物片少量混じる。
6　地山。
1～3：P60、4・5：P35

7下SK80

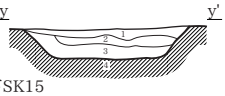
3.500m x　x'



7下SK80
1　青灰色粘土。炭化物片（～5mm）少量混じる。
2　暗灰色粘土。炭化物片（～10mm）多量に混じる・
3　黒褐色土。青灰色粘土ブロック・青灰色砂ブロック多量、炭化物片（～10mm）定量混じる。
4　暗灰色粘土。炭化物片（～10mm）混じる。
5　青灰色シルト。暗灰色粘土ブロック混じる。
6　青灰色粘土。暗灰色粘土ブロック・青灰色砂混じる。
7　地山。

7下SK15

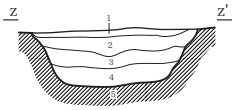
3.550m y　y'



7下SK15
1　暗茶褐色粘土。基本層序IVb層。
2　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
3　暗青灰色粘土。青灰色粘土混じる。
4　地山。

7下SK14

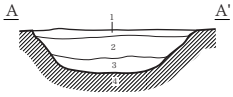
3.550m z　z'



7下SK14
1　褐色粘土。
2　灰色粘土。炭化物片（～10mm）少量混じる。
3　灰色粘土。炭化物片（～5mm）少量混じる。
4　青灰色粘土。炭化物片（～5mm）少量混じる。
5　地山。

7下SK13

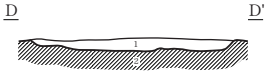
3.550m A　A'



7下SK13
1　褐色粘土。
2　灰色粘土。
3　青灰色粘土。
4　地山。

7下SK104

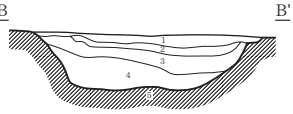
3.100m D　D'



7下SK104
1　暗茶褐色粘土。
2　地山。

7下SK5

3.450m B　B'

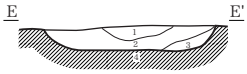


7下SK5
1　暗茶褐色粘土。炭化物片混じる。基本層序VII層。
2　褐色粘土。
3　灰色粘土。
4　暗灰色粘土。
5　地山。

0　(1:50)　2m

7下SK9

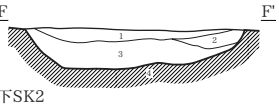
3.350m E　E'



7下SK9
1　暗茶褐色粘土。炭化物片混じる。基本層序IVb層
2　暗青灰色粘土。
3　地山。

7下SK2

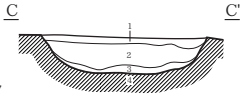
3.350m F　F'



7下SK2
1　暗褐色粘土。基本層序VII層。
2　褐色粘土。
3　褐色粘土。2より色調がやや明るい。
4　地山。

7下SK7

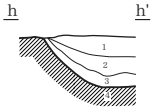
3.450m C　C'



7下SK7
1　暗茶褐色粘土。炭化物片混じる。基本層序VII層。
2　褐色粘土。
3　暗灰色粘土。
4　地山。

7下SK109

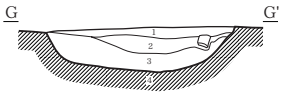
3.200m h　h'



7下SK109
1　暗茶褐色粘土。
2　暗灰色粘土。
3　青灰色粘土。
4　地山。

7下SK8

3.350m G　G'



7下SK8
1　暗茶褐色粘土。炭化物片混じる。基本層序IVb層。
2　褐色粘土。
3　暗青灰色粘土。
4　地山。

下層遺構平面図（4）

N
7下SD139
65D
65E
7下SK60
7下SD136
7下SK133
7下SD144
7下SE145
7下SK132
7下SD130
7下SD129
7下SD4
64D
7下SD118
7下SK3
7下SD120
7下SK30
7下SD121
7下SK102
7下SD1
7下SK122
7下SK125
7下SK126
7下SD147
7下SD119
暗渠・トレンチ
旧河道
7下SK127
7下SK124
7下SD117
7下SK123
7下SE137
63D
63E
7下SD128
7下SK140
7下SE135
7下SK134
7下SX146
7下SD101
7下SD131
62D
62E
0
(1：200)
10m

7下SK60

3.650m a　a'

7下SK60
1　灰褐色粘土。炭化物片（～5mm）少量混じる。
2　灰褐色粘土。明褐色粘土ブロック少量混じる。
3　明褐色粘土。
4　黒褐色粘土。
5　青灰色粘土。炭化物片（～10mm）多量に混じる。
6　青灰色粘土。炭化物片（～5mm）混じる。
7　暗青灰色粘土。炭化物片（～3mm）混じる。
8　地山。

7下SK60

3.750m b　b'

7下SK3

3.450m d　d'

7下SK3
1　黒褐色粘土。
2　褐色粘土。
3　地山。

7下SK60

3.650m c　c'

7下SK30

3.450m e　e'

7下SK30
1　暗灰色粘土質シルト。
2　明褐色シルト質粘土。
3　明褐色粘土。
4　地山。

7下SD4

3.450m f　f'

7下SK102

3.200m h　h'

7下SK102
1　明茶褐色シルト質粘土。
2　暗青灰色粘土。植物遺体少量混じる。
3　暗青灰色粘土。暗青灰色砂ブロック混じる。
4　地山。

7下SD136

3.200m i　i'

7下SD136
1　灰色粘土。
2　青灰色粘土ブロックと灰色粘土ブロックの混合。
3　青灰色シルト。
4　地山。

7下SD136

3.200m j　j'

7下SD136
1　暗灰色粘土。炭化物片混じる。
2　灰色シルト。
3　暗青灰色砂。暗灰色粘土ブロック混じる。
4　地山。

7下SD4

3.450m g　g'

7下SD4
1　暗灰色粘土。
2　灰色シルト。
3　黒褐色粘土。炭化物片混じる。
4　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
5　青灰色粘土。炭化物片少量混じる。
6　地山。

7下SK133

3.100m l　l'

7下SK133
1　暗灰色シルト質粘土。炭化物片少量混じる。
2　黒色炭化物。
3　地山。

7下SD136

3.200m k　k'

7下SD136
1　暗灰色粘土。
2　青灰色粘土。炭化物片混じる。
3　灰色粘土。
4　暗灰色粘土。炭化物片混じる。
5　暗灰色粘土。
6　暗灰色粘土。炭化物片混じる。
7　灰色シルト質粘土。
8　地山。

7下SK132

3.200m m　m'

7下SK132
1　赤褐色シルト。
2　暗灰色シルト質粘土。
3　地山。

7下SD144

3.200m n　n'

7下SD144
1　暗灰色シルト質粘土。炭化物片多量に混じる。
2　青灰色シルト質粘土。
3　暗青灰色粘土。炭化物片多く混じる。
4　地山。

7下SE145

3.200m o　o'

7下SE145
1　暗灰色粘土ブロックと青灰色粘土ブロックの混合。炭化物片混じる。
2　黒褐色粘土ブロックと灰色シルトブロックの混合。炭化物片少量混じる。
3　黒色炭化物層。
4　暗灰色粘土。
5　灰色シルト。
6　地山。

7下SD120

3.300m p　p'

7下SD120
1　赤茶褐色シルト。
2　地山。

7下SK126

3.300m s　s'

7下SK126
1　淡青灰色シルト。茶褐色シルトブロック・マンガン粒混じる。
2　淡灰色粘土。
3　青灰色粘土。
4　暗灰色粘土。炭化物片混じる。土器片含む。
5　地山。

7下SK122

3.300m r　r'

7下SK122
1　暗褐色粘土。
2　淡灰色粘土。
3　暗青灰色粘土。炭化物片多量に混じる。
4　地山。

0　(1:50)　2m

7下SK124

3.300m w　w'

7下SK24
1　暗青灰色粘土。灰色粘土ブロック混じる。
2　黒色土。炭化物片多量に混じる。
3　明茶褐色シルト。
4　青灰色粘土。
5　青灰色砂。
6　地山。

7下SK125

3.300m t　t'

7下SK125
1　明茶褐色粘土。明茶褐色シルトブロック・炭化物片混じる。
2　淡灰色粘土。淡灰色砂ブロック・炭化物片混じる。
3　淡灰色粘土。炭化物片混じる。
4　暗青灰色粘土。ラミナ状に炭化物層が入る。
5　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
6　地山。

7下SK123

3.300m u　u'

7下SK123
1　茶褐色粘土。炭化物片混じる。
2　暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
3　黒色炭化物。
4　茶褐色粘土。
5　茶褐色粘土。
6　青灰色粘土。炭化物片混じる。
7　地山。

7下SK137・123

3.300m v　v'

7下SK137・123
1　暗褐色粘シルト。炭化物片少量混じる。
2　暗灰色粘土。
3　暗赤褐色シルト。炭化物片少量混じる。
4　暗灰色粘土。
5　暗灰色粘土。4に比べ色調がやや明るい。
6　地山。

7下SE135

3.250m y　y'

0　(1：100)　4m
(7下SE135)

7下SK134

3.300m x　x'

7下SX134
1　暗褐色粘土。酸化鉄多量、炭化物片少量混じる。
2　地山。

7下SD101

3.200m C　C'

7下SD101
1　暗赤褐色シルト。暗灰色粘土ブロック・暗灰色砂ブロック・炭化物片混じる。
2　暗灰色砂。暗灰色粘土ブロック・炭化物片混じる。
3　地山。

7下SX146

3.100m B　B'

7下SX146
1　暗灰色砂。暗灰色粘土ブロック混じる。炭化物片混じる。上部は酸化鉄粒が多く混じり、赤褐色となる。
2　地山。

7下SD1

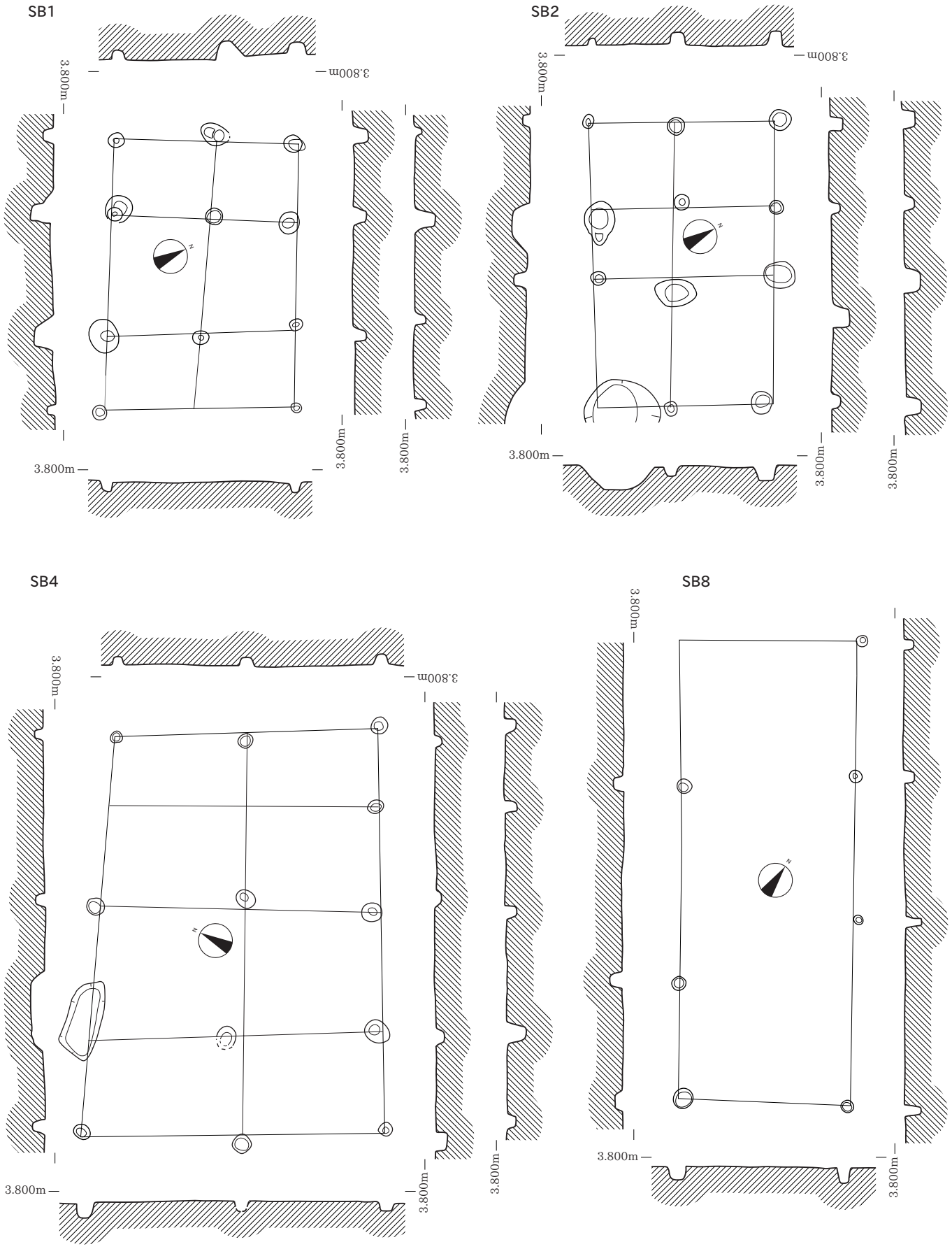
3.450m D　D'

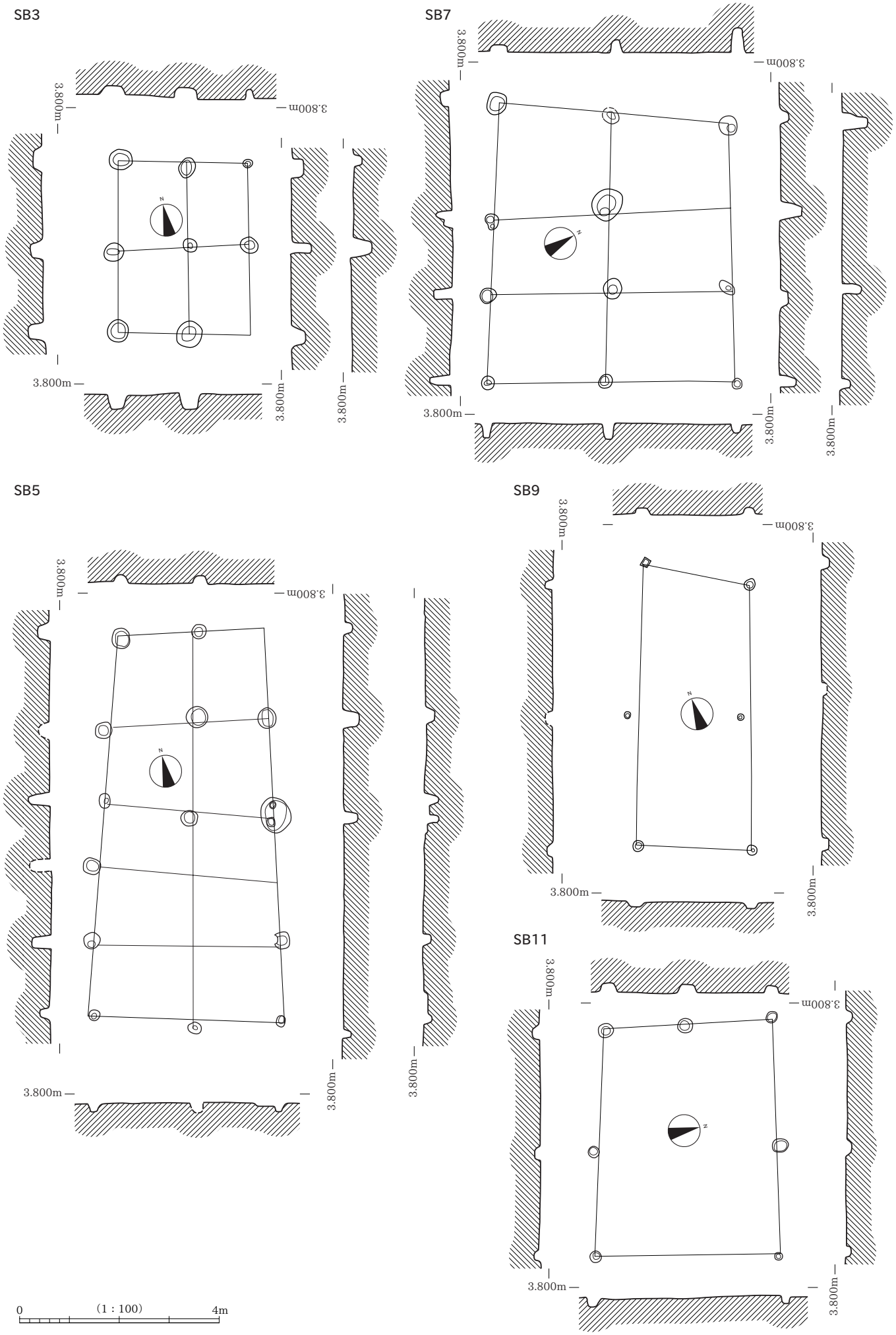
7下SD1
1　暗黒褐色粘土。
2　暗青灰色粘土。
3　暗青灰色粘土。炭化物片多量に混じる。
4　暗青灰色粘土ブロックと青灰色粘土ブロックの混合。
5　地山。

7下SD101

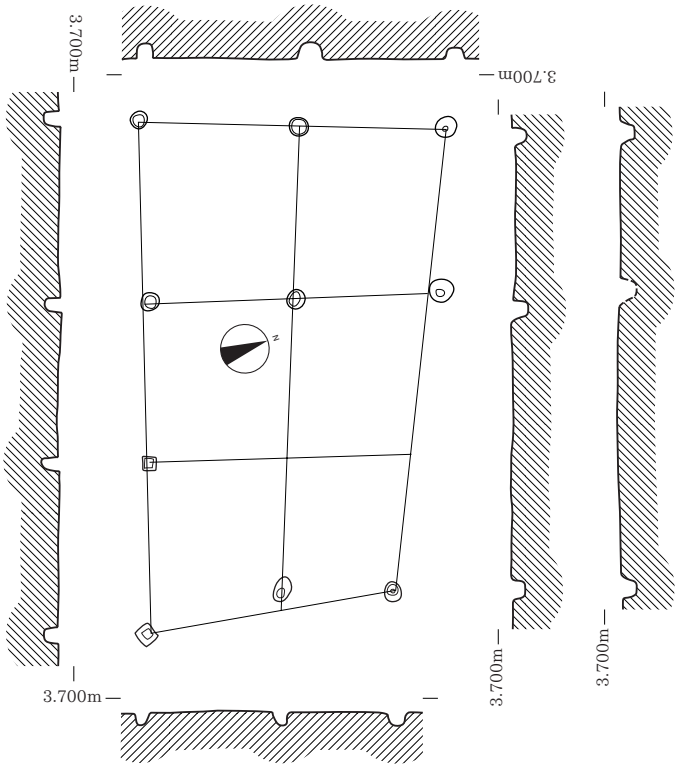
3.200m A　A'

7下SD101
1　暗灰色砂。暗灰色粘土ブロック多量に混じる。
2　暗灰色砂。暗灰色粘土ブロック・酸化鉄粒多量に混じる。1に比べ赤味が強い。
3　暗灰色シルト。
4　地山。

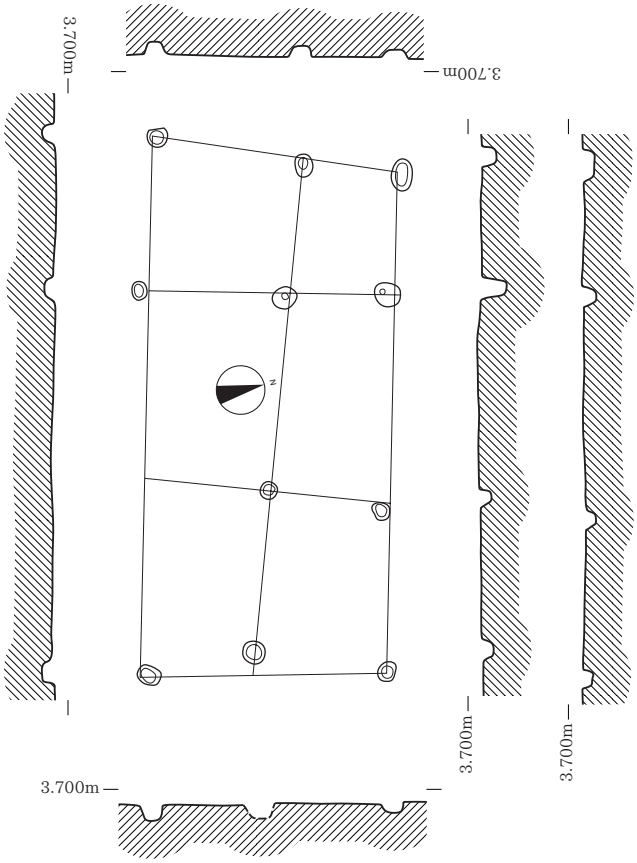

SB1
SB2
SB4
SB8
3.800m
N
0
（1：100）
4m


SB3
SB7
SB5
SB9
SB11
3.800m
N
0
（1：100）
4m

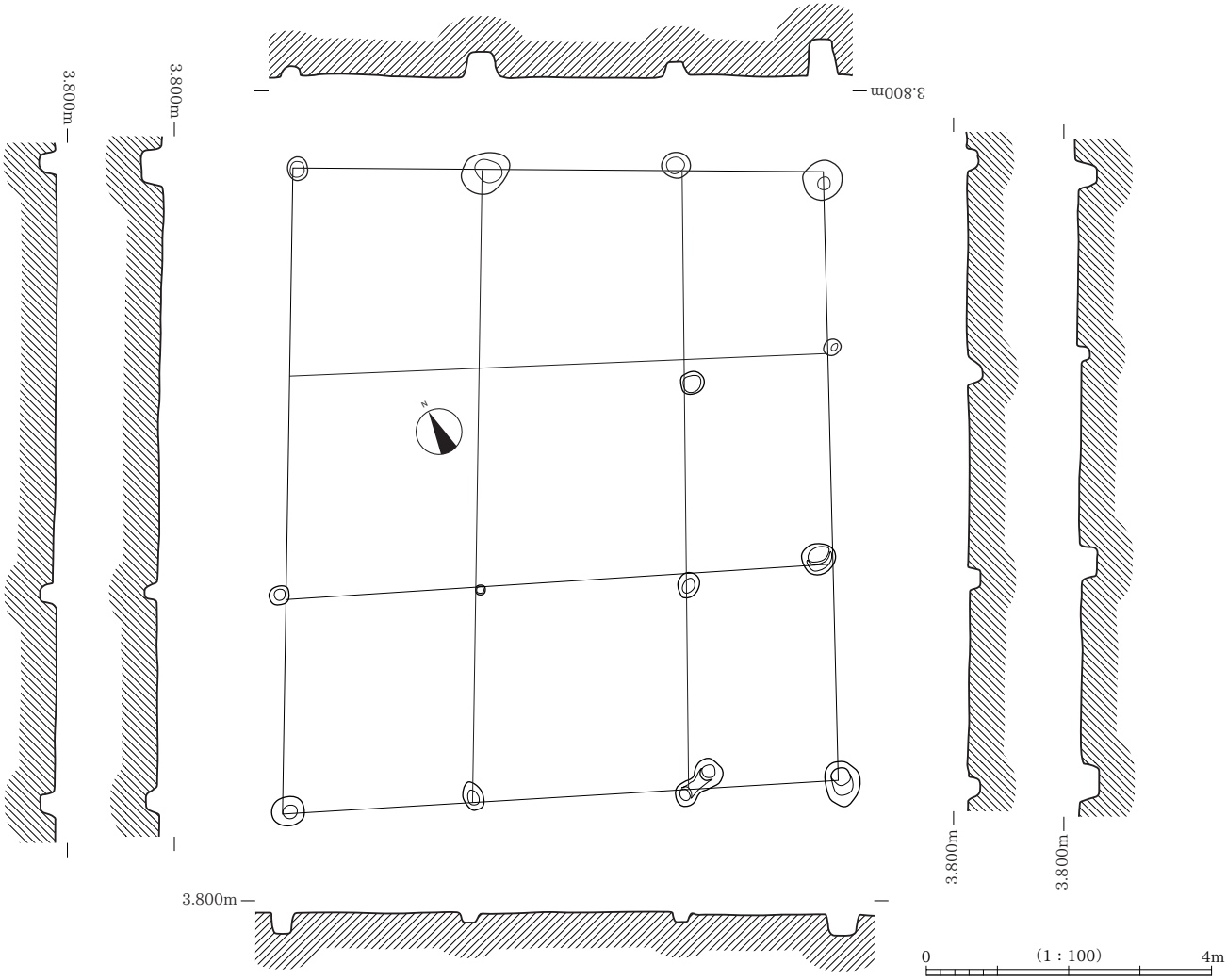
SB10

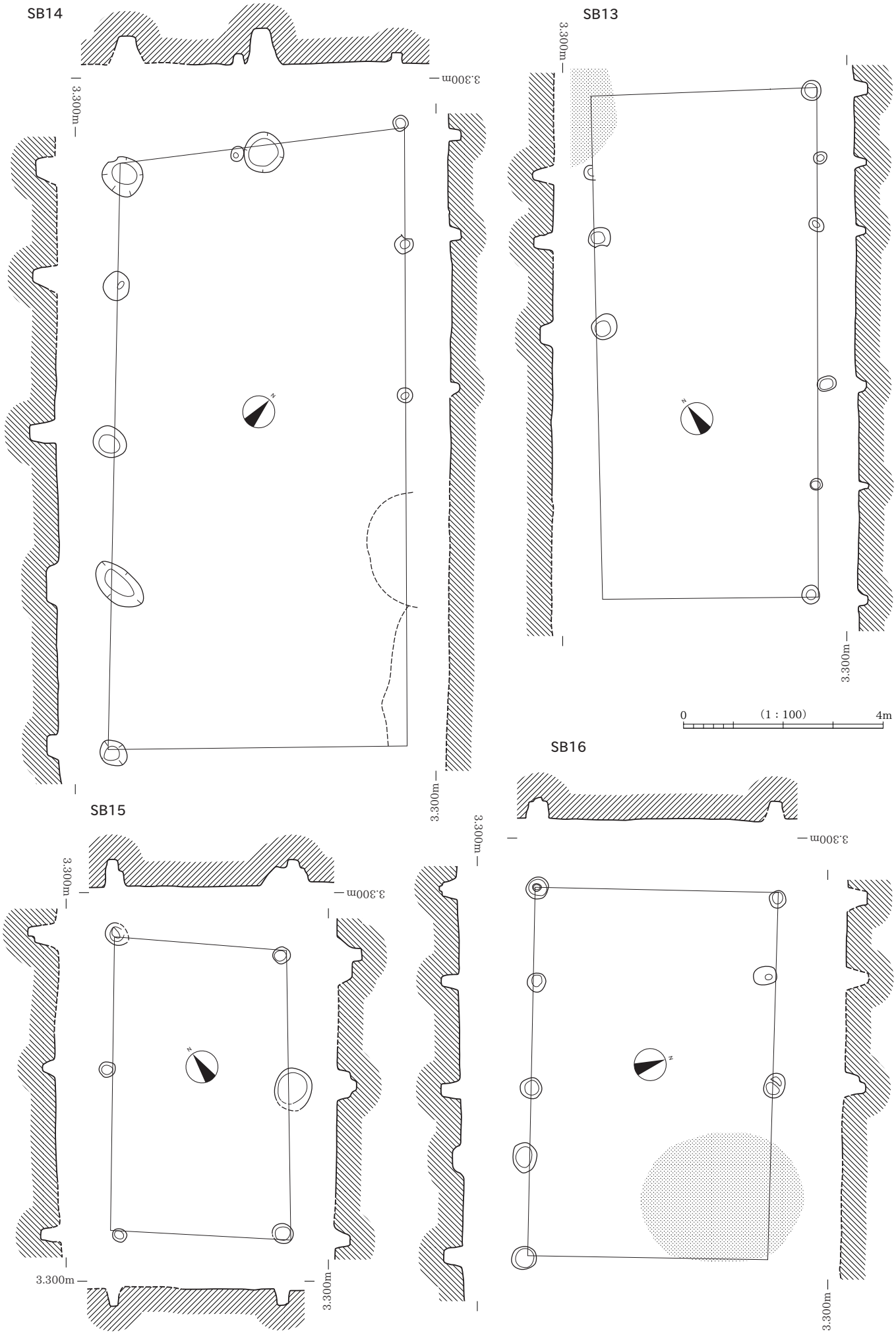


SB12

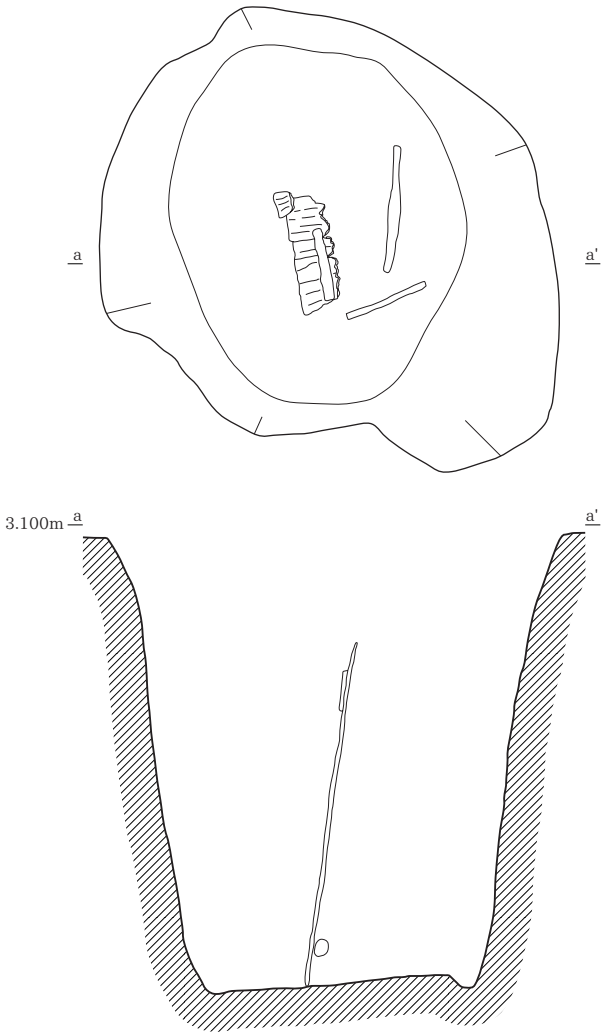


SB6

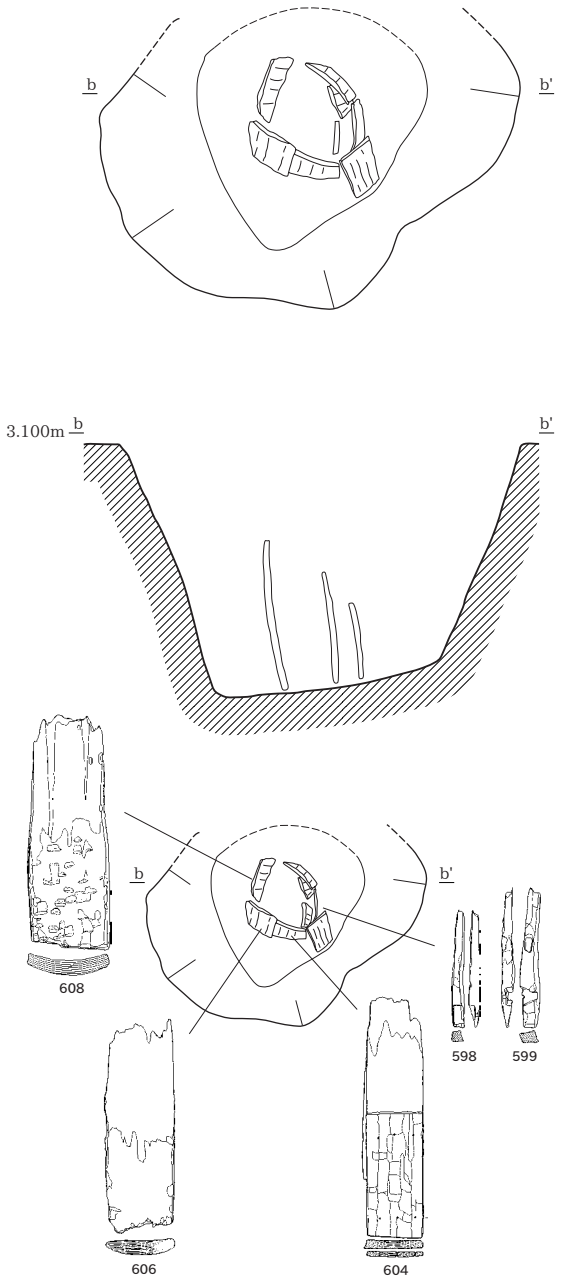


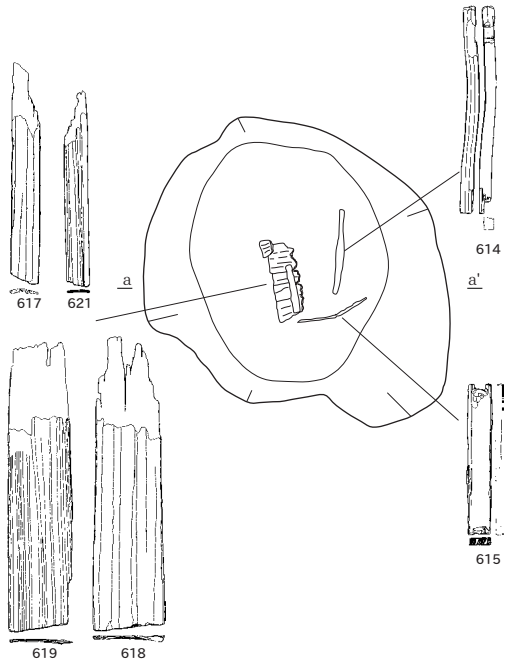

SB14
SB13
SB15
SB16
3.300m
0
(1 : 100)
4m

8下SE205

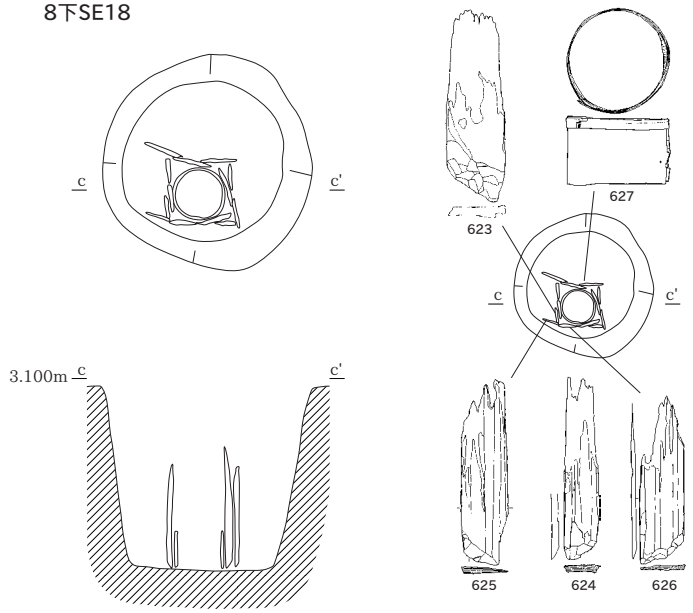


8下SE206

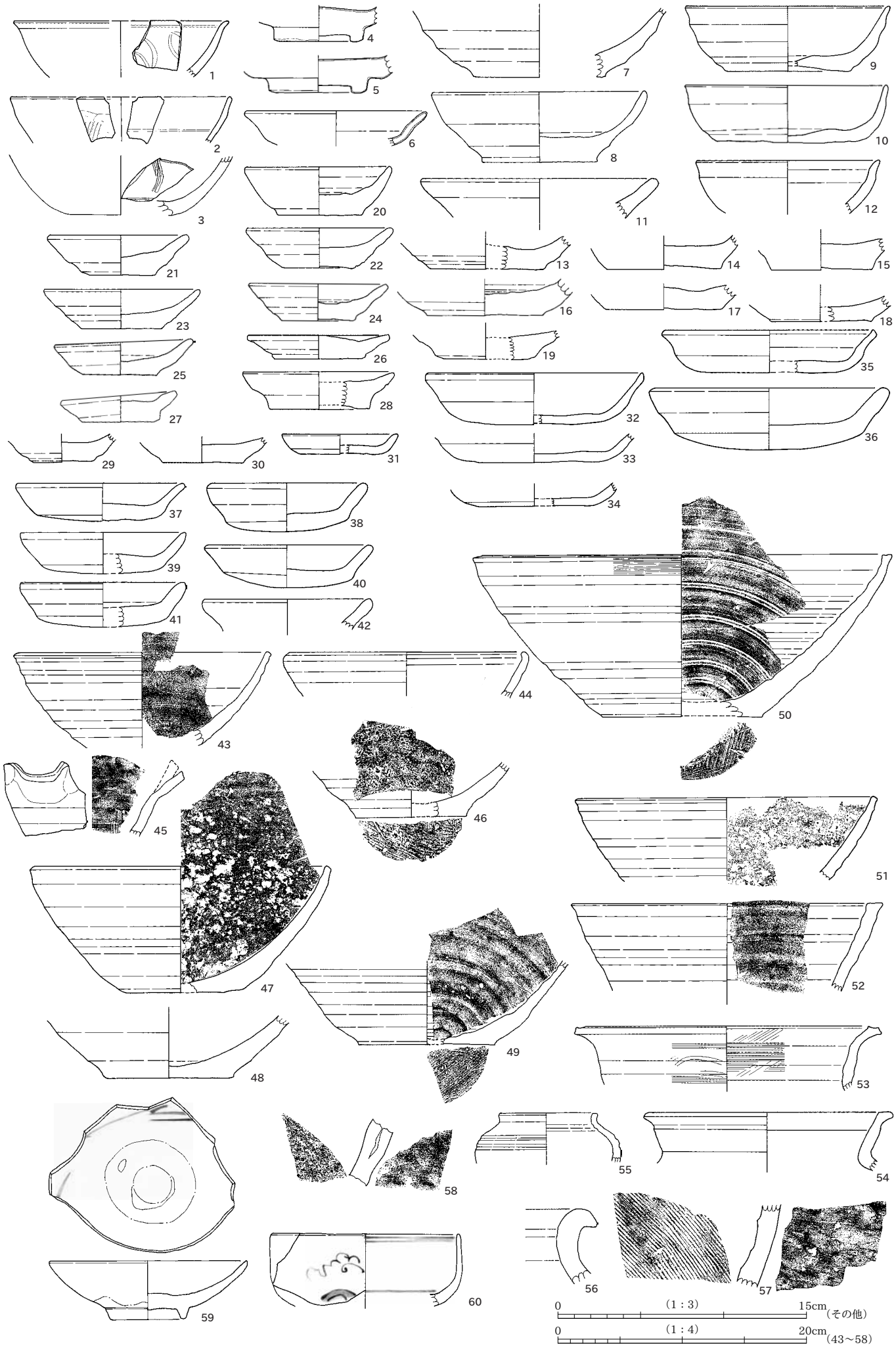




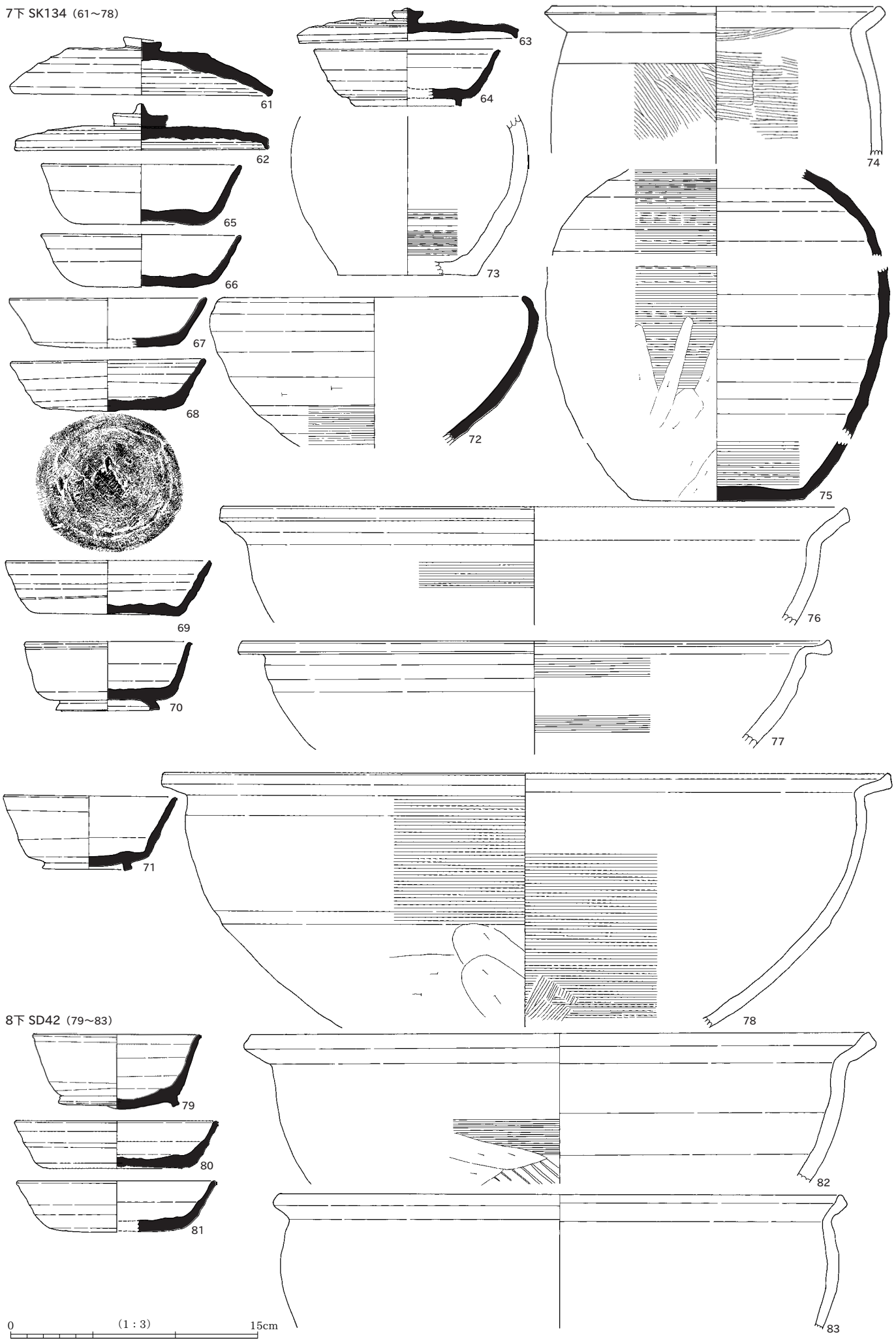
8下SE18



0　（1：40）　2m

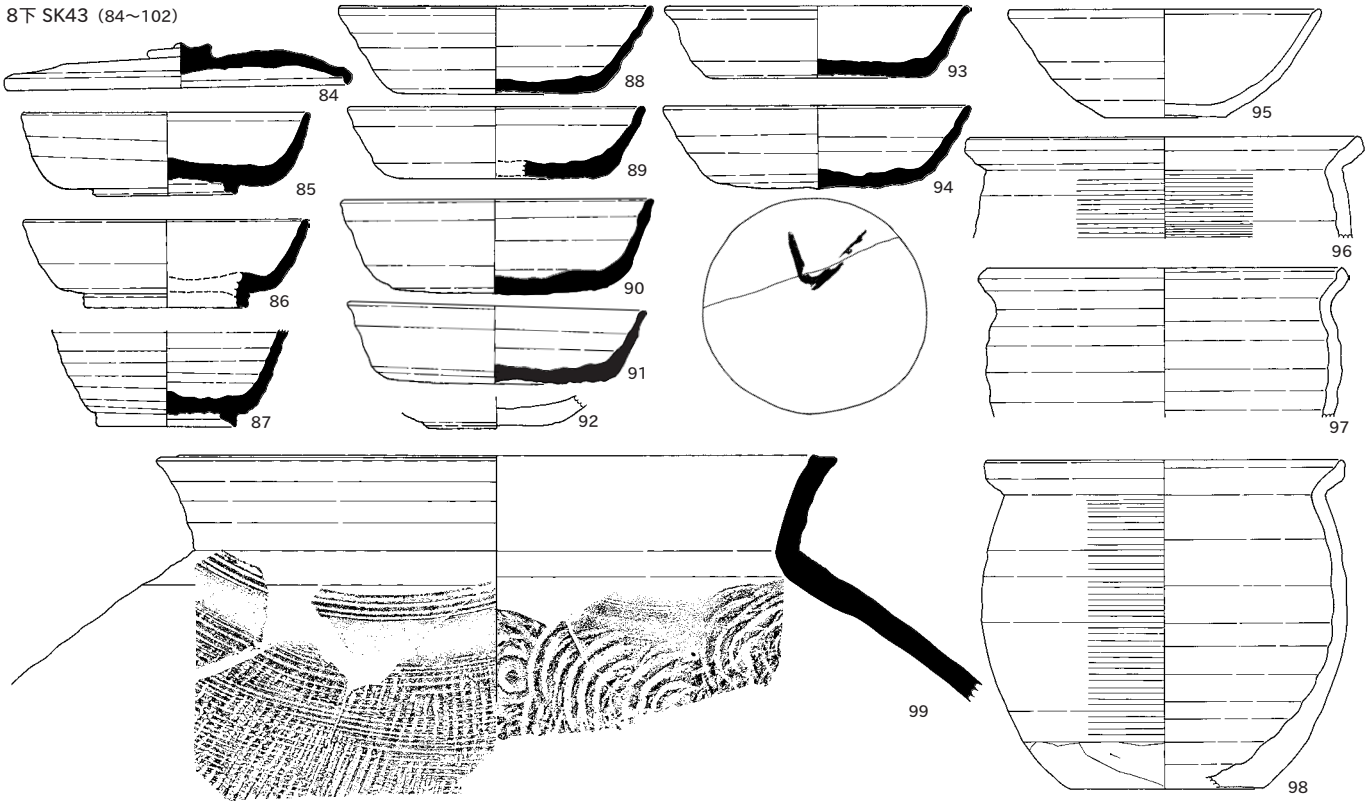

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
0 (1：3) 15cm (その他)
0 (1：4) 20cm (43～58)

7下 SK134（61～78）

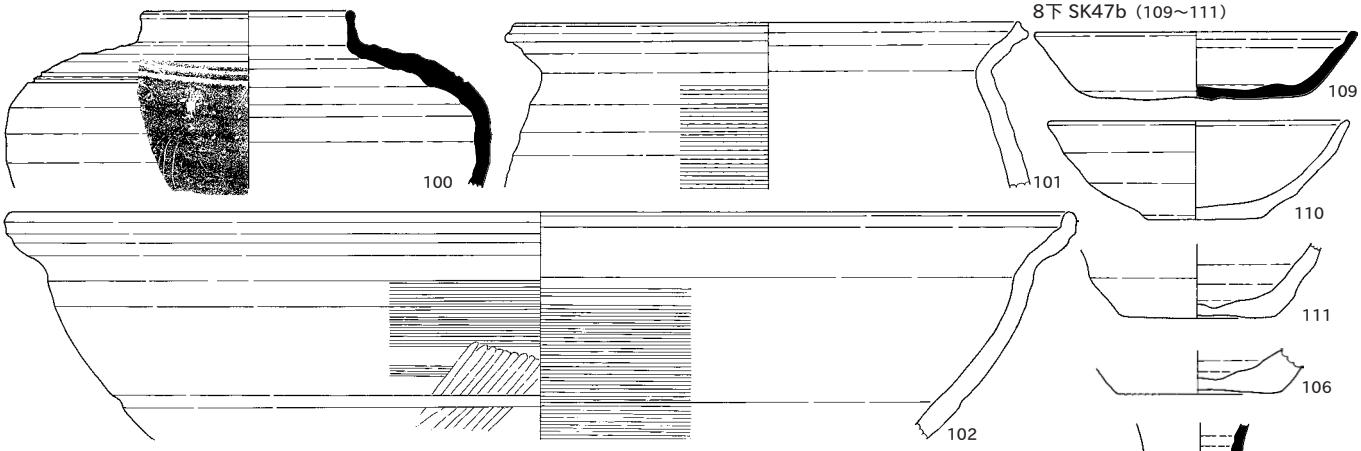


8下 SD42（79～83）

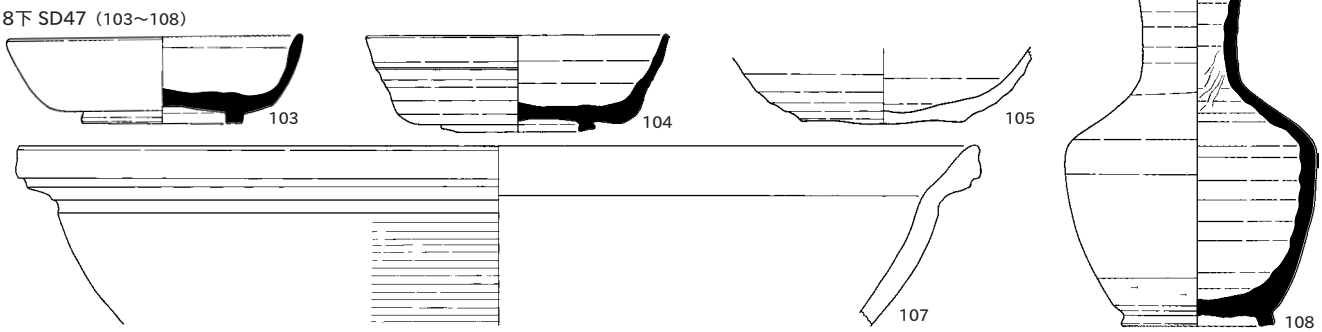
8下 SK43（84～102）



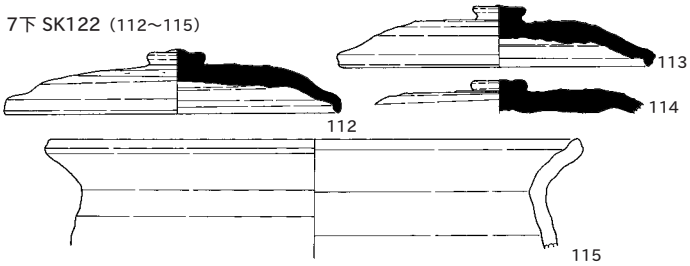
8下 SK47b（109～111）



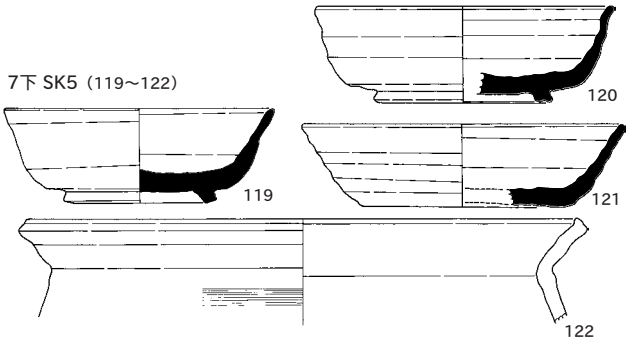
8下 SD47（103～108）



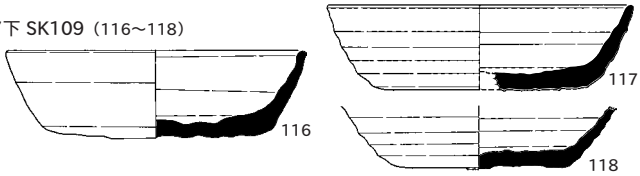
7下 SK122（112～115）



7下 SK5（119～122）

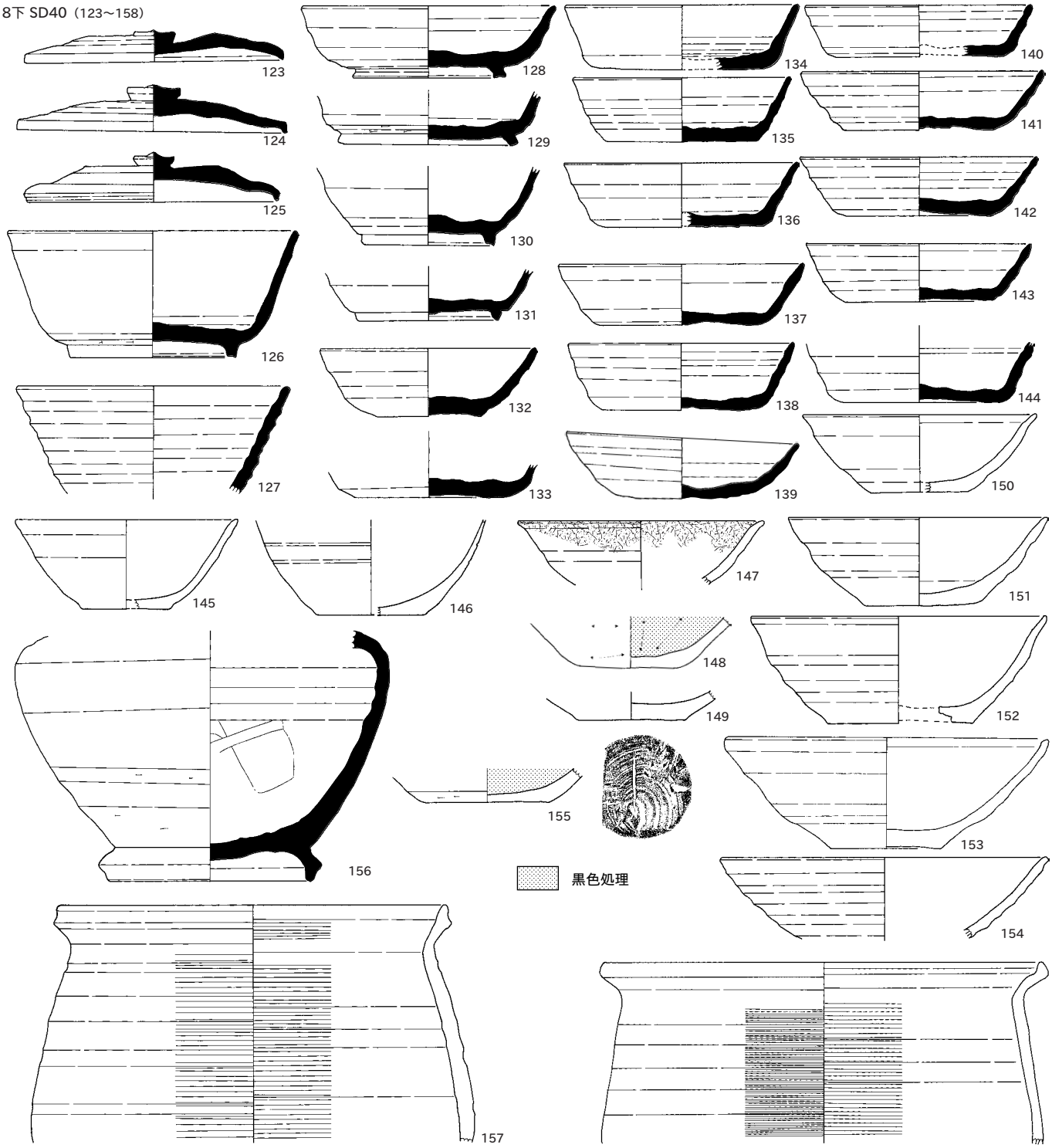


7下 SK109（116～118）

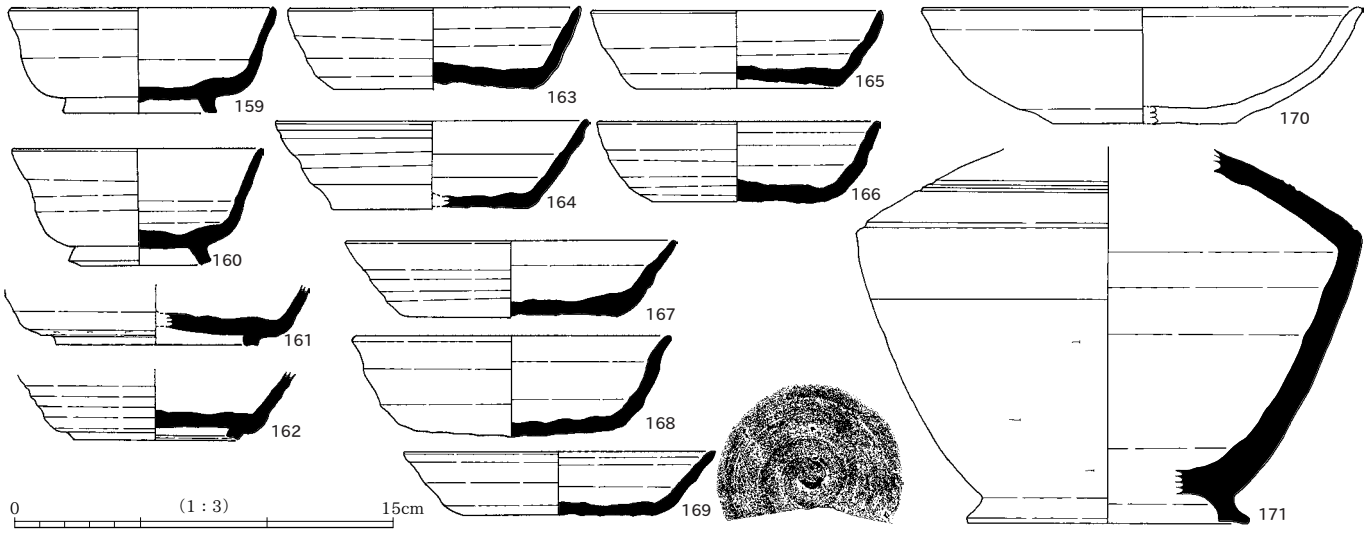


0　（1：3）　15cm

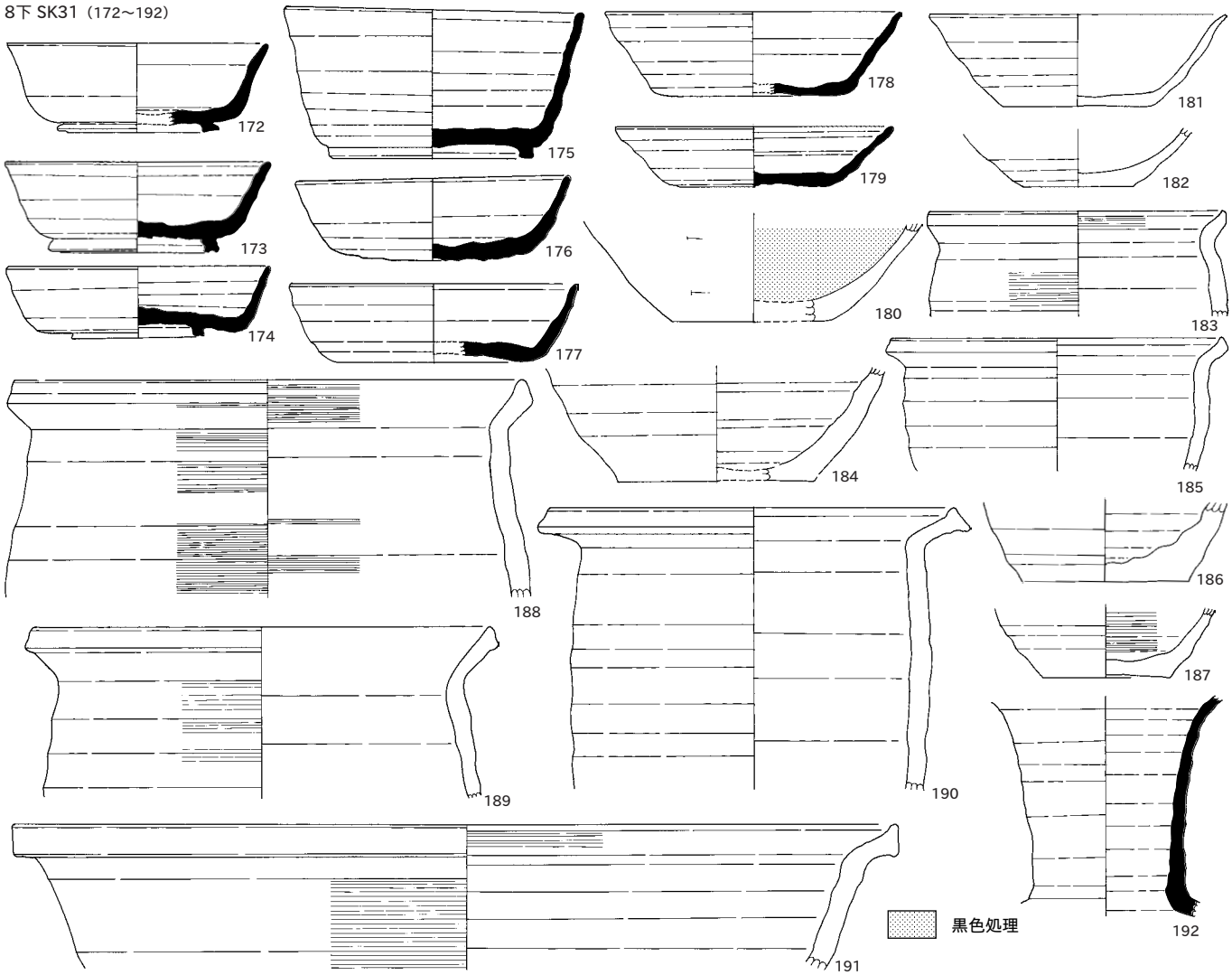
8下 SD40（123～158）



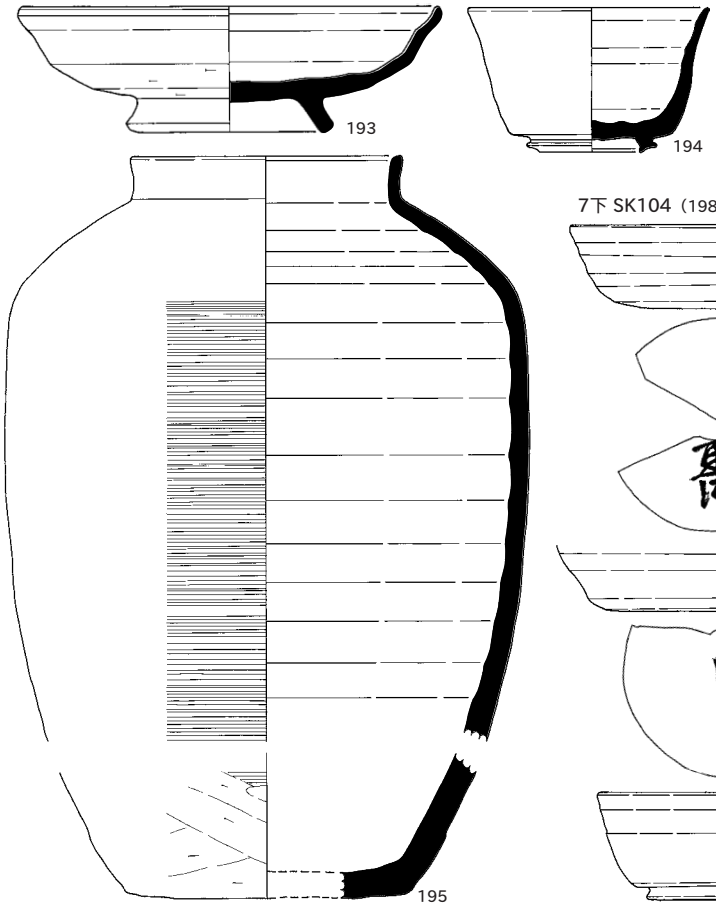
8下 SE205（159～171）



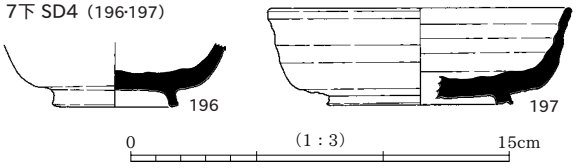
8下 SK31（172～192）



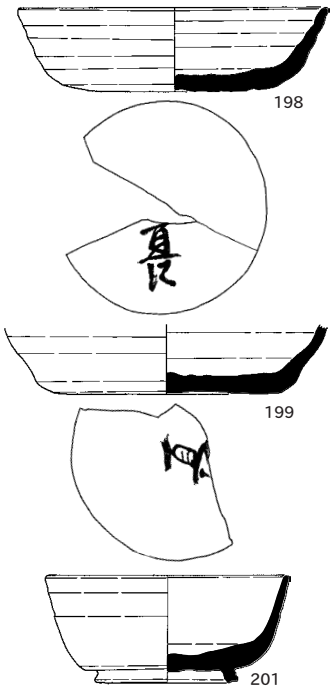
7下 SD1（193～195）

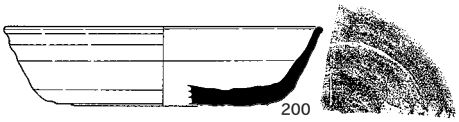


7下 SD4（196·197）

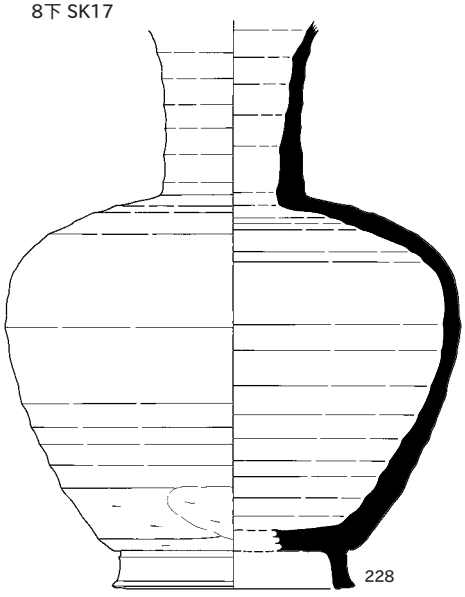


7下 SK104（198～201）

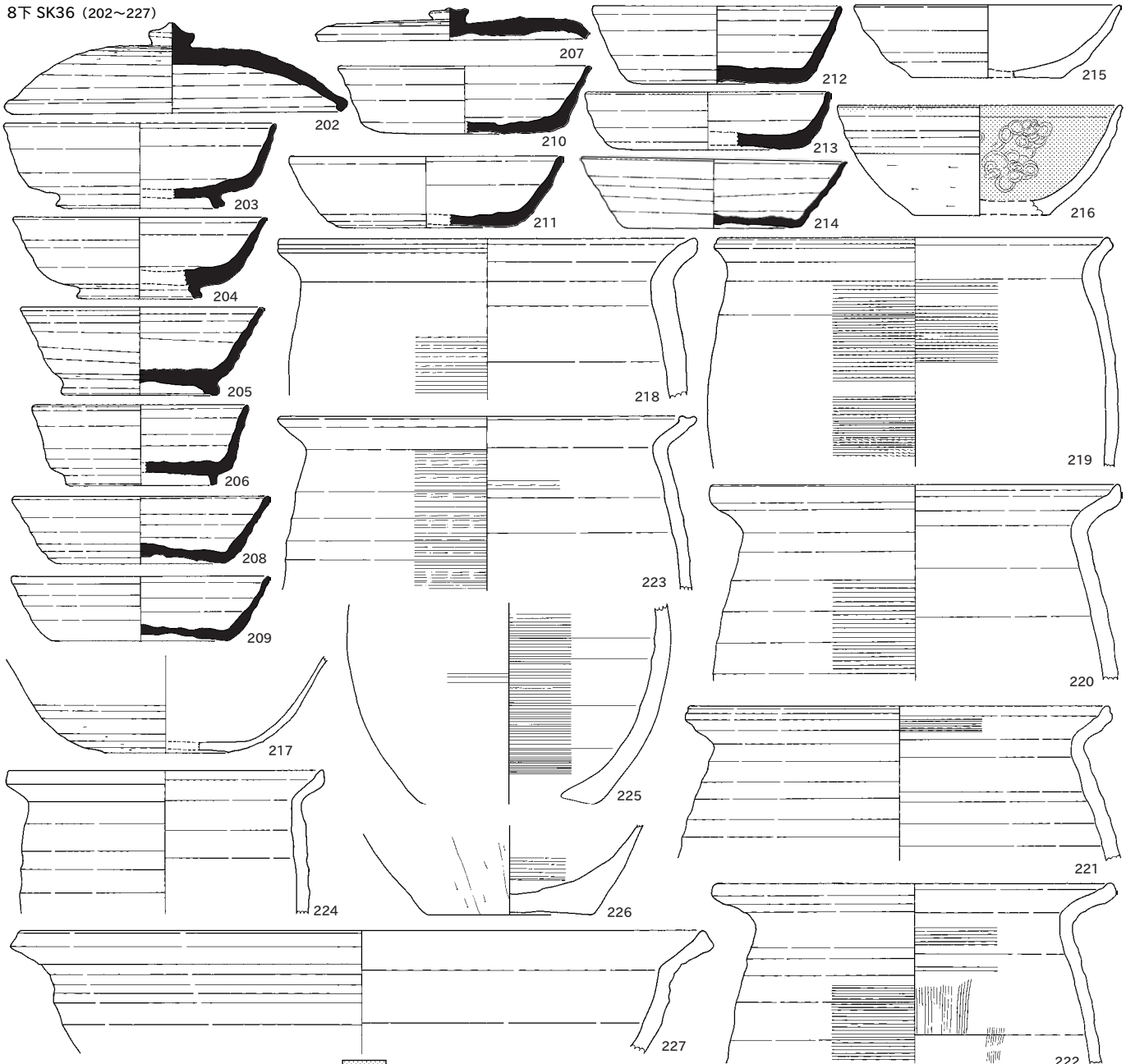




8下 SK17

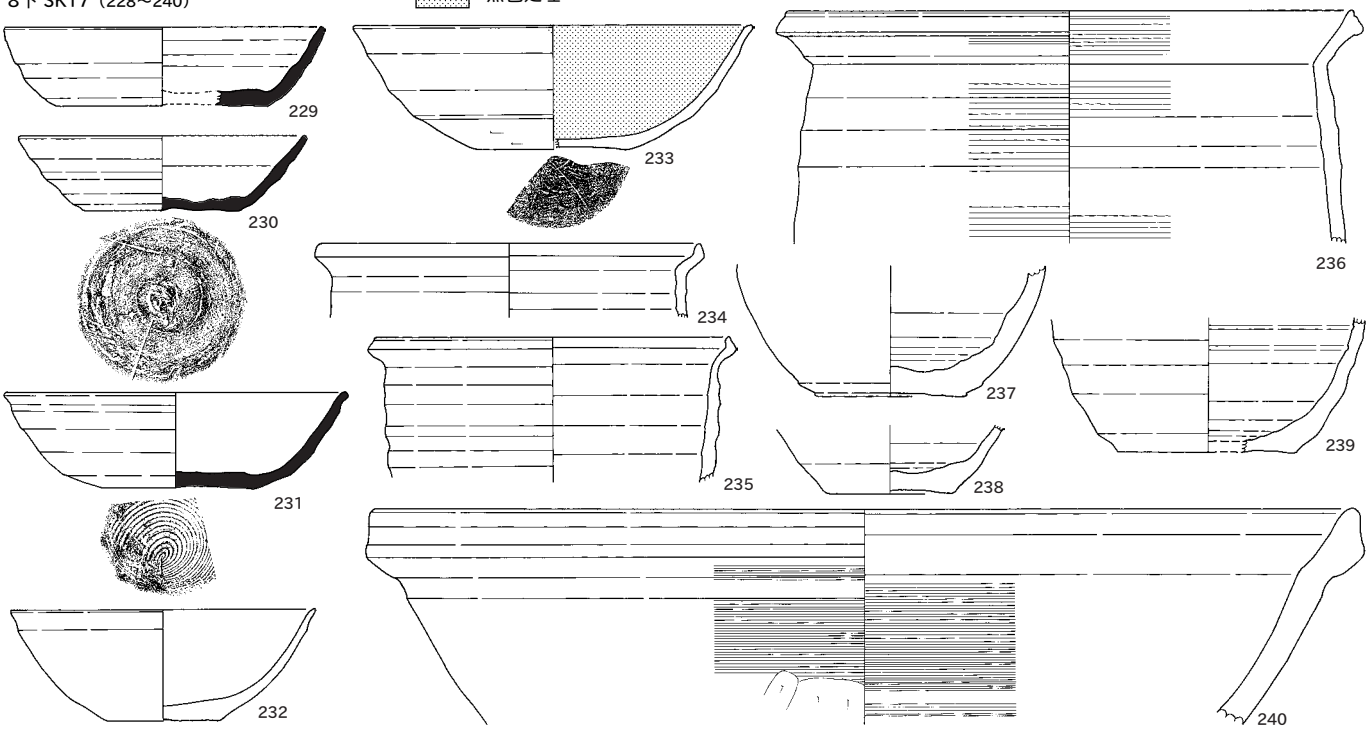


8下 SK36（202～227）

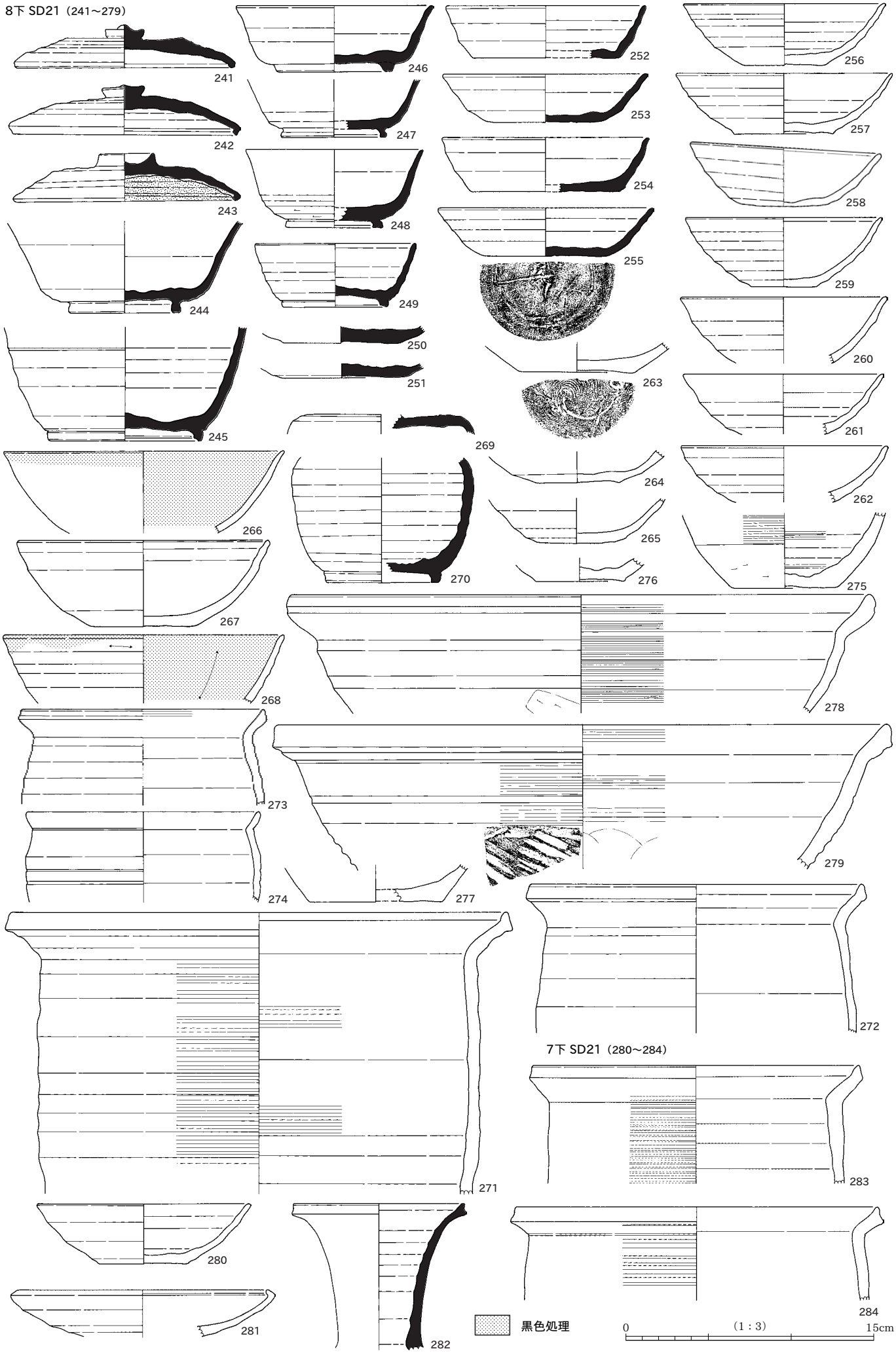


黒色処理

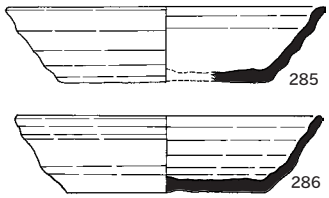
8下 SK17（228～240）

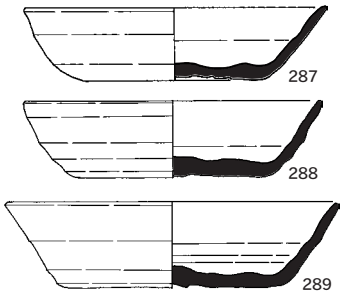


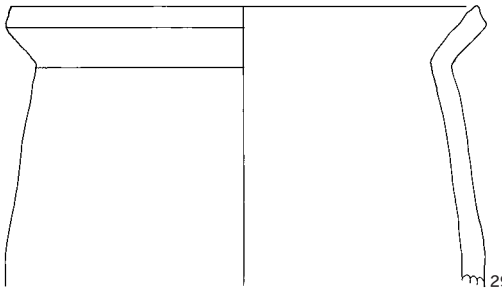
8下 SD21（241～279）



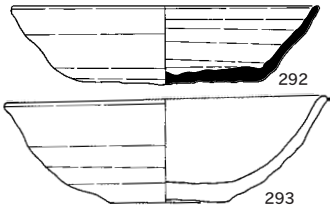
8下 SD44（285～291）

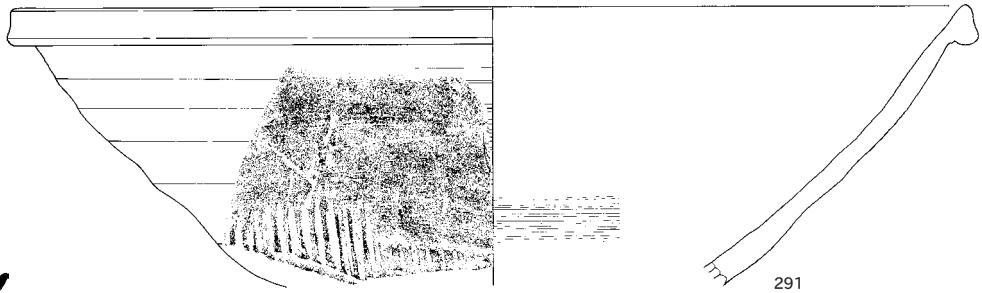




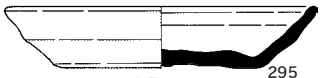


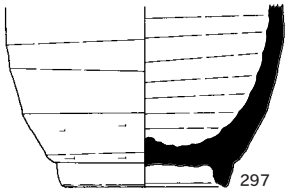
7下 SK57（292·293）

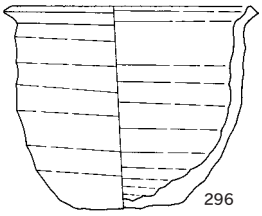


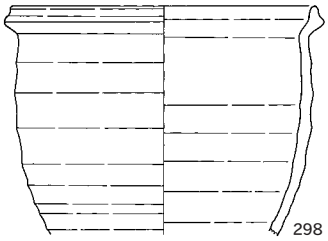


8下 SE201（294～298）

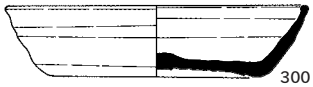


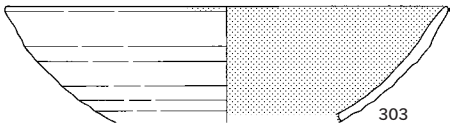


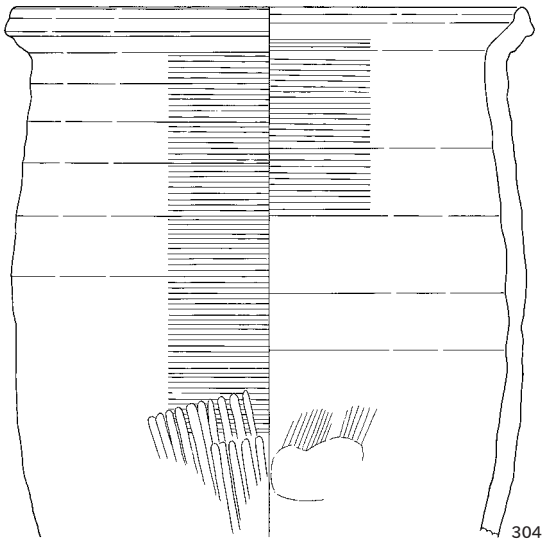




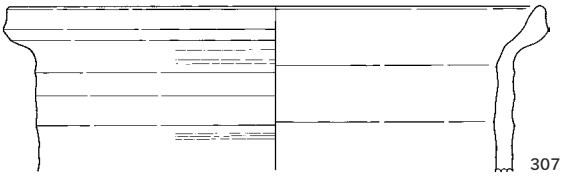
8下 SD46（299～304）





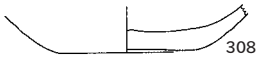


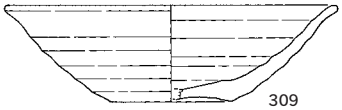
8下 SD105（305～307）

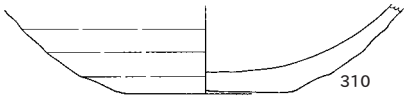


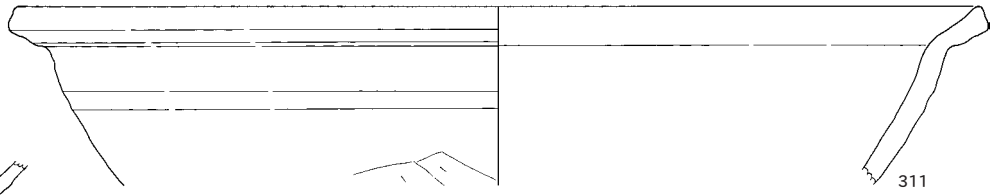
黒色処理

8下 SK51（308～311）



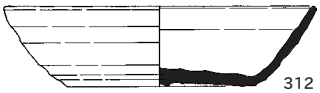


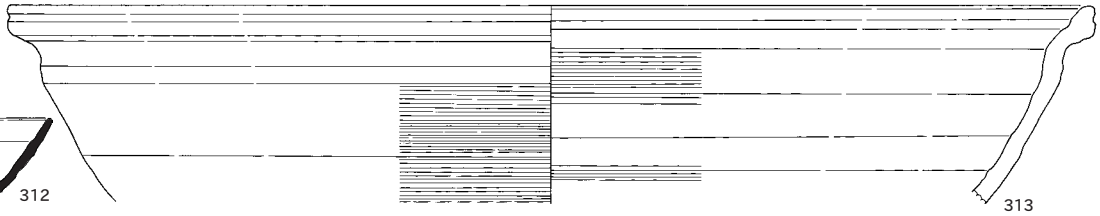




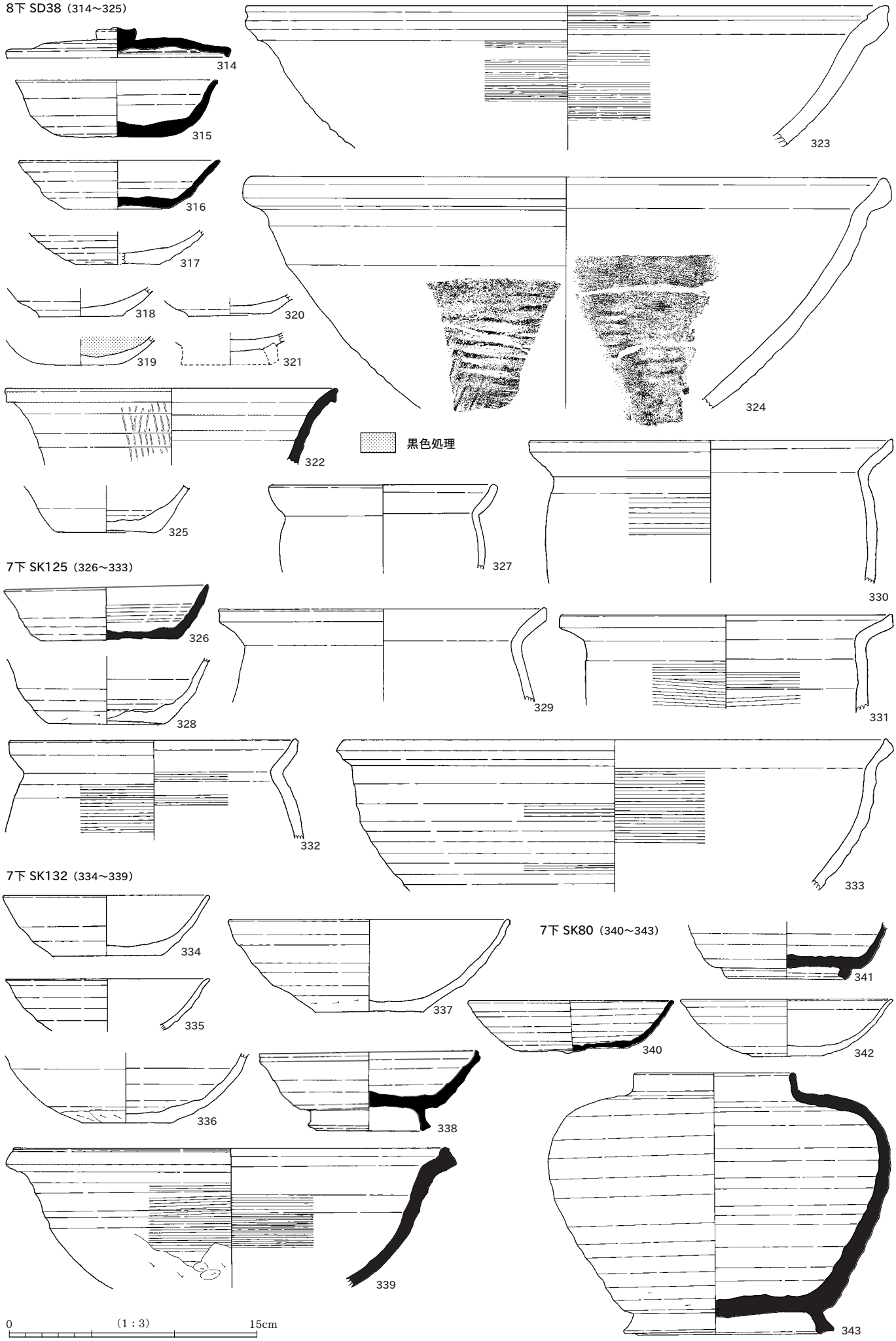
0　（1：3）　15cm

7下 SK51·52（312·313）





8下 SD38（314～325）

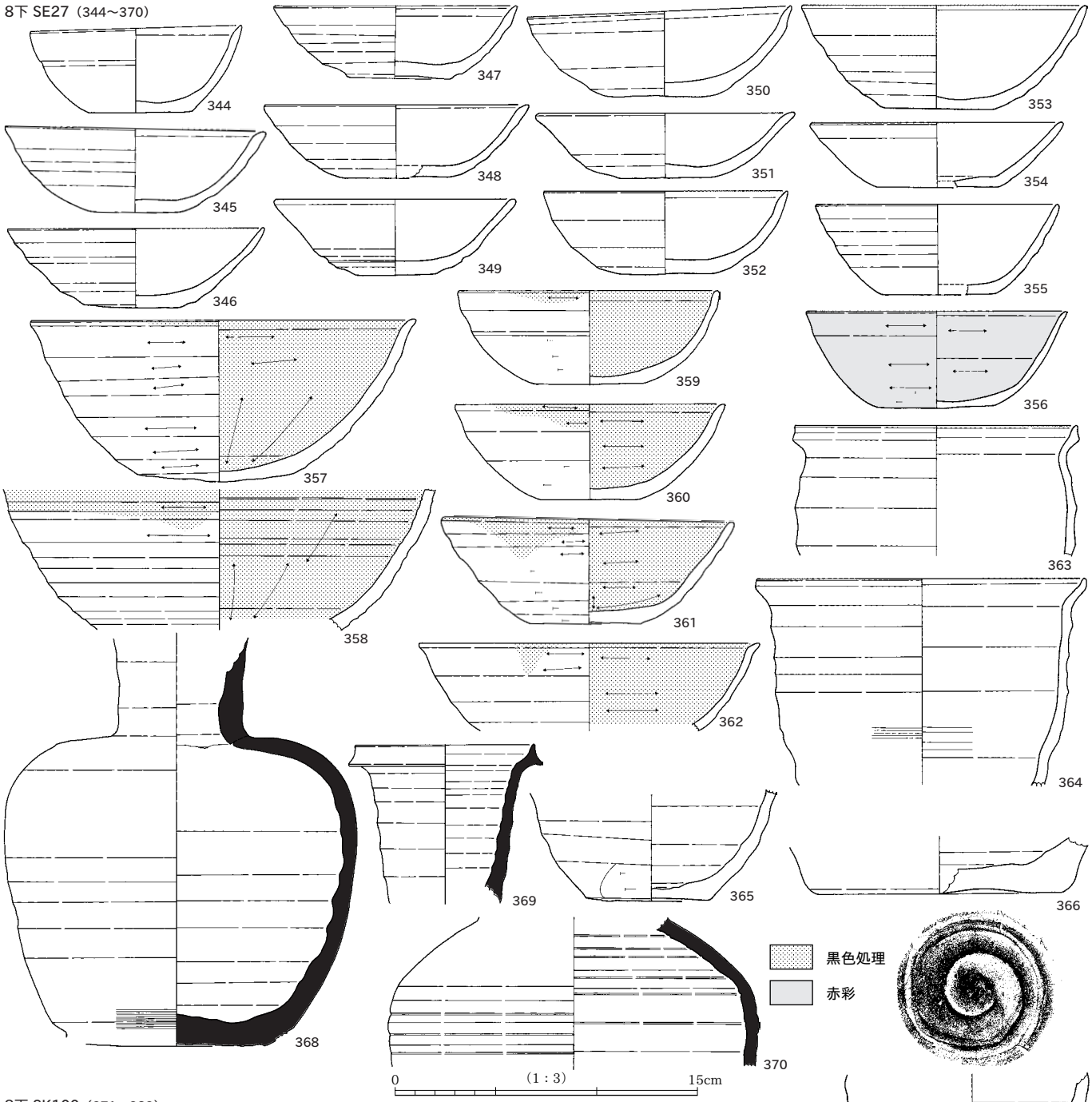


7下 SK125（326～333）

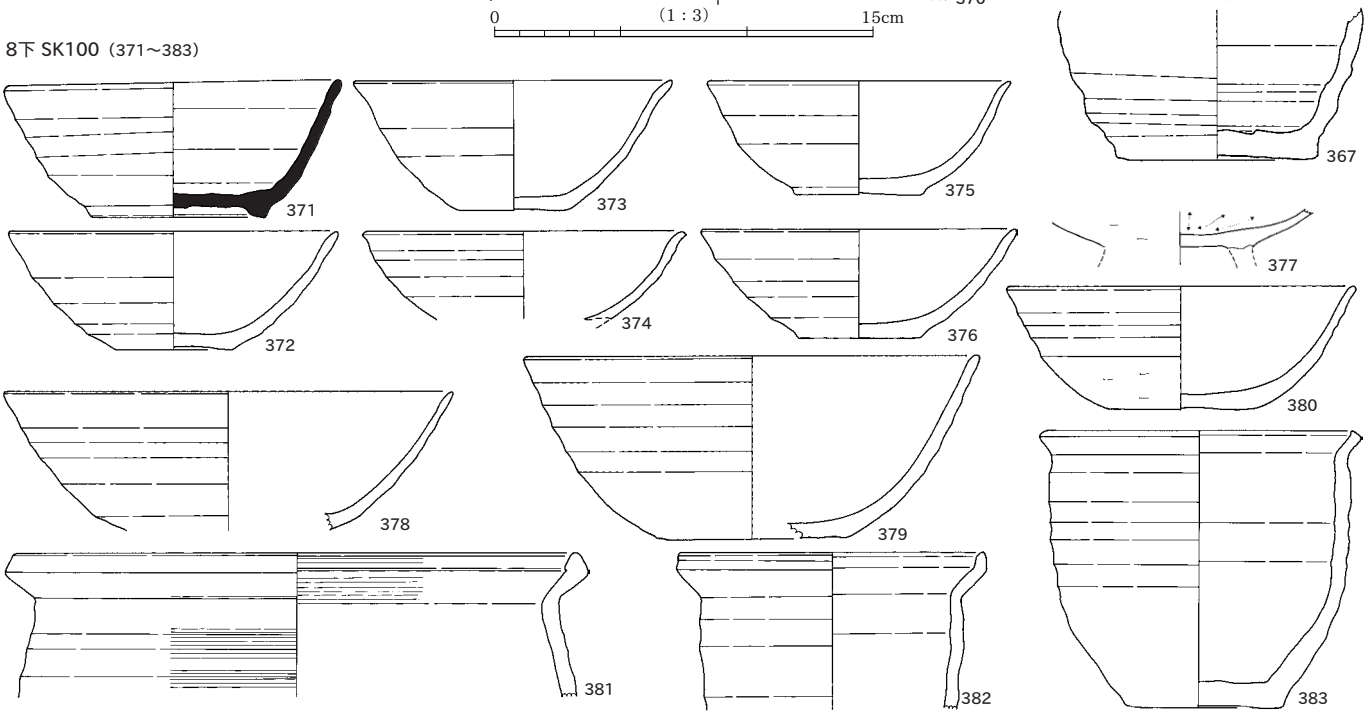
7下 SK132（334～339）

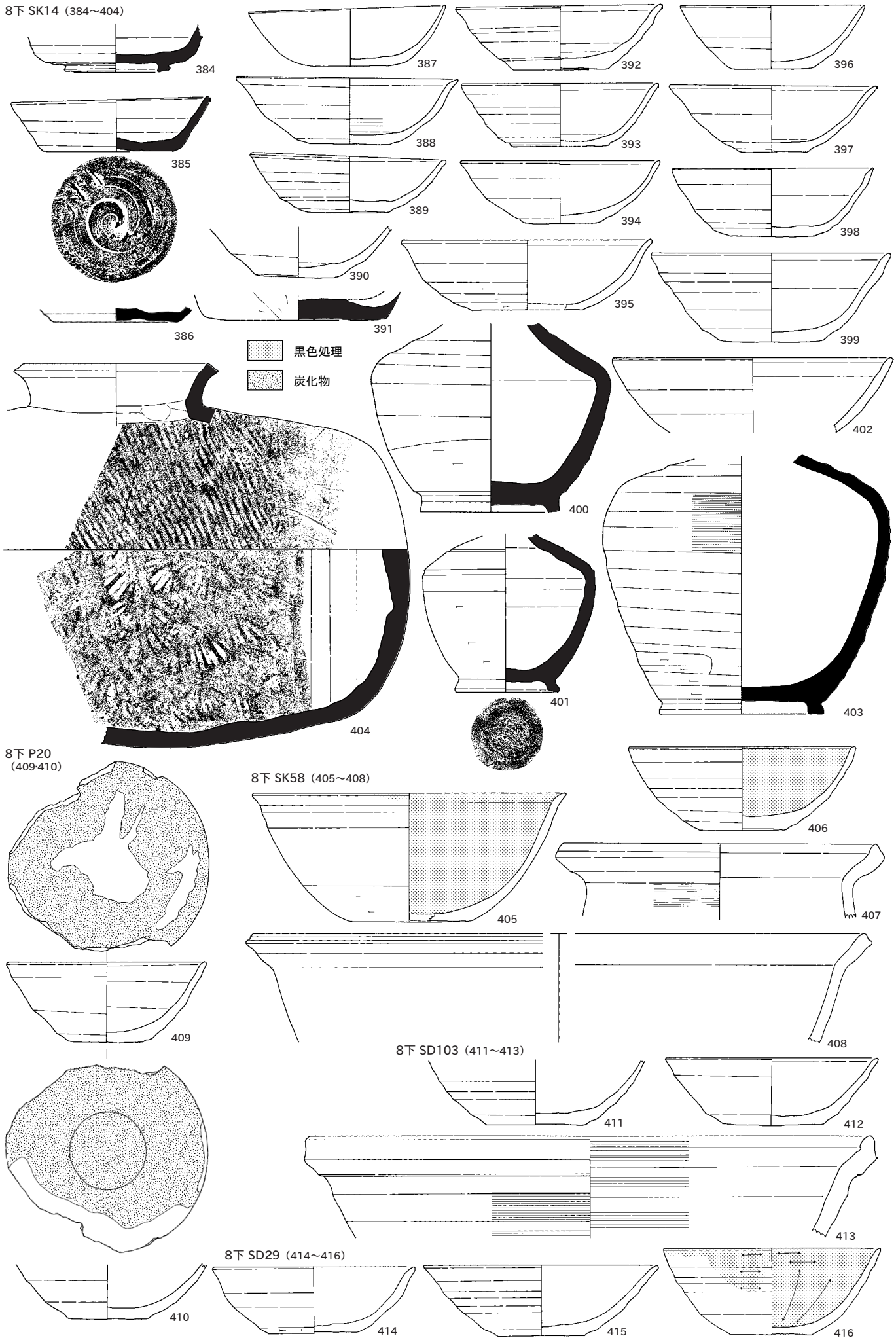
7下 SK80（340～343）

8下 SE27（344～370）

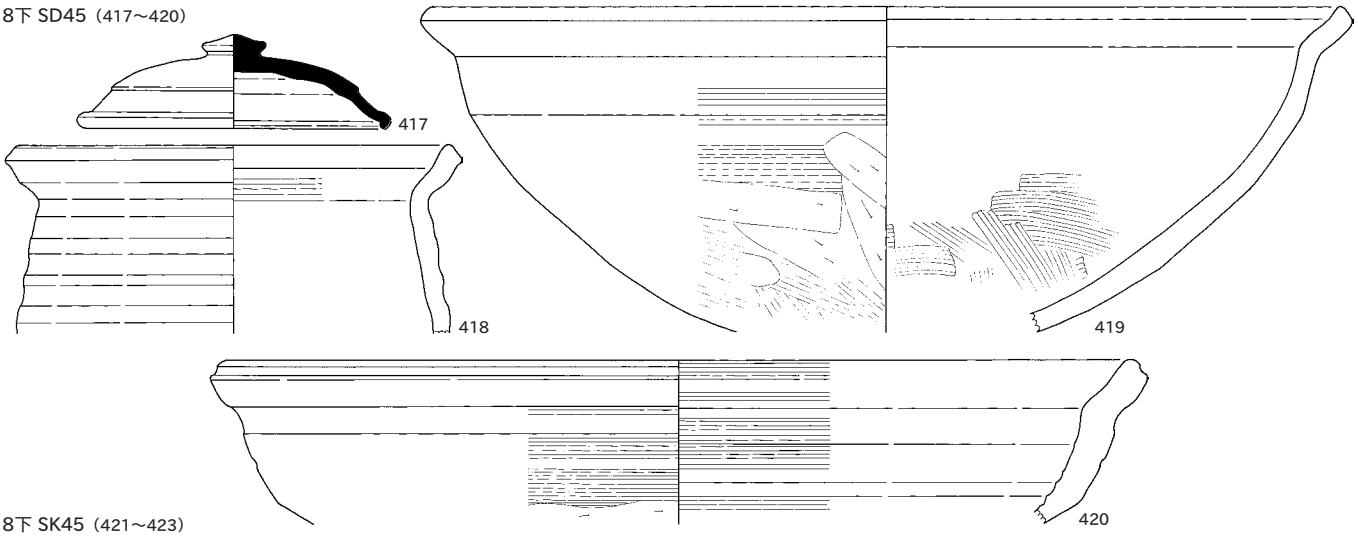


8下 SK100（371～383）

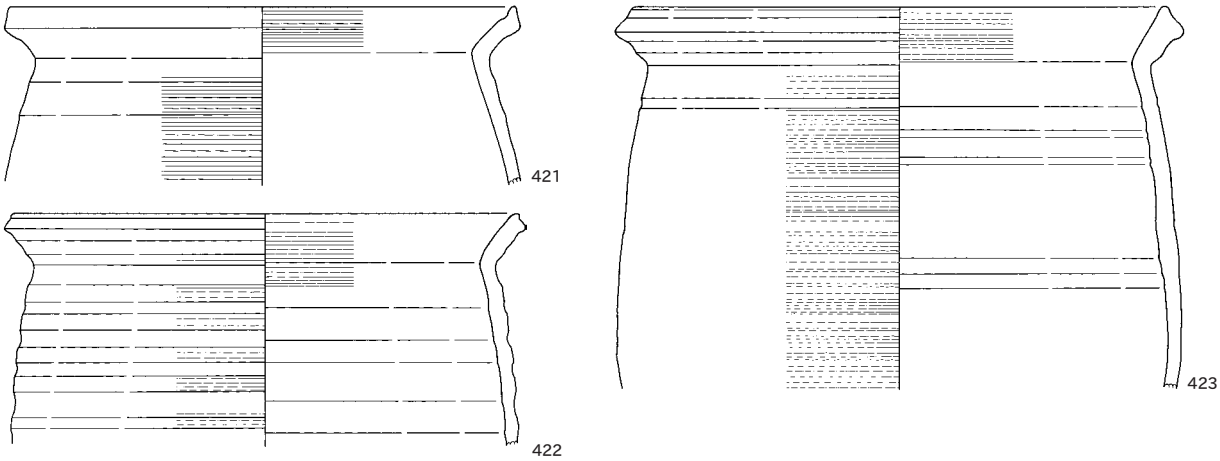



8下 SK14（384～404）
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
黒色処理
炭化物
8下 P20
（409･410）
409
410
8下 SK58（405～408）
405
406
407
408
8下 SD103（411～413）
411
412
413
8下 SD29（414～416）
414
415
416

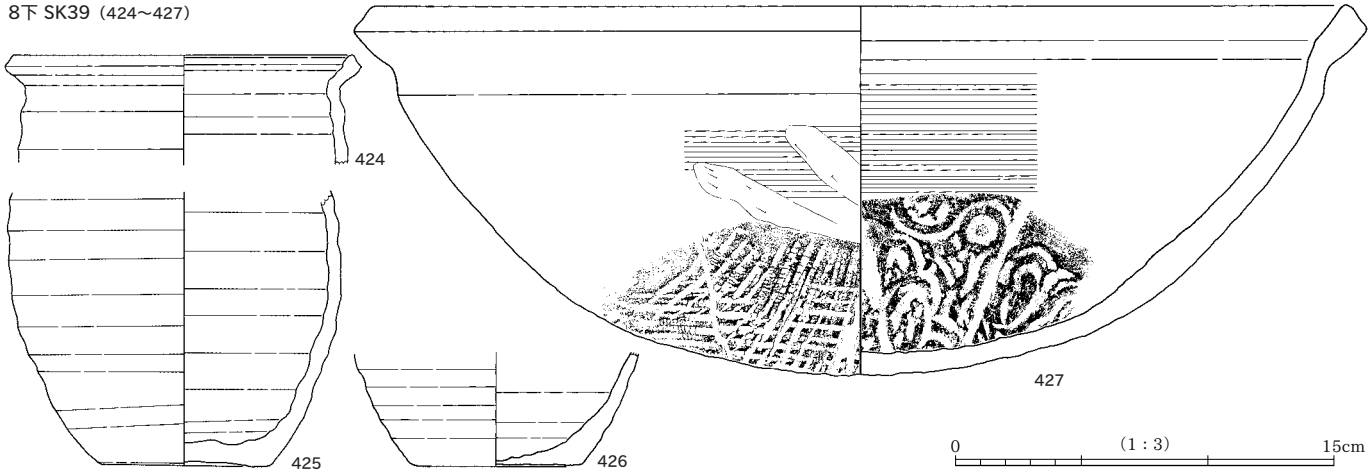
8下 SD45（417～420）



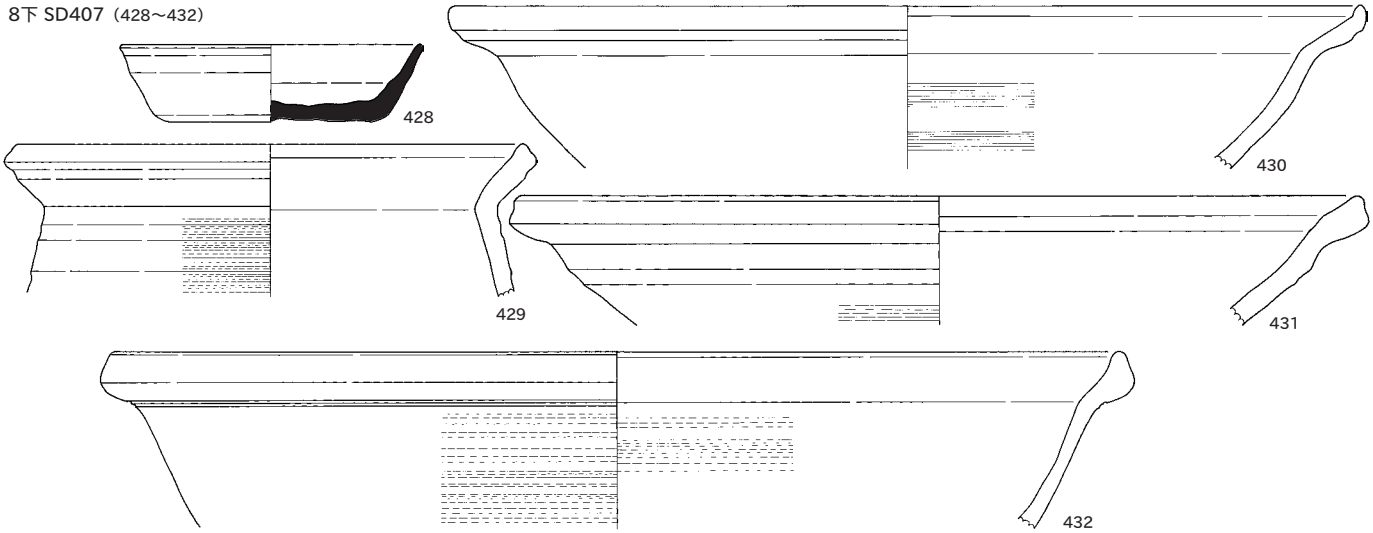
8下 SK45（421～423）



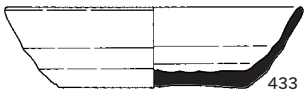
8下 SK39（424～427）

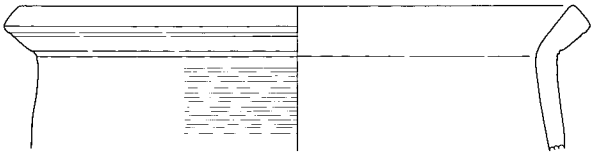


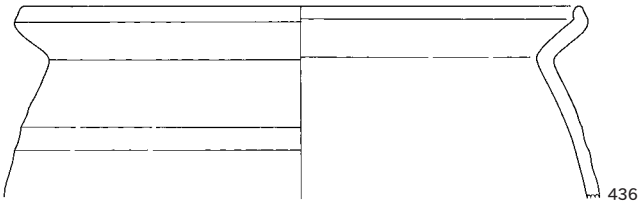
8下 SD407（428～432）



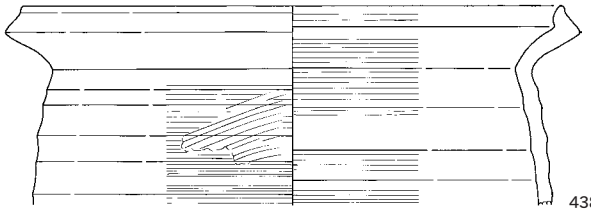
8下 SD114（433～436）

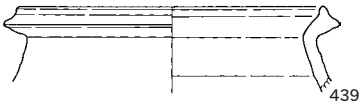




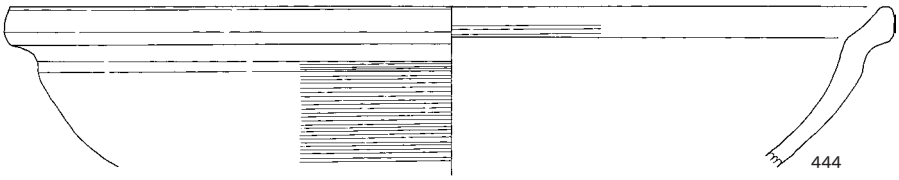


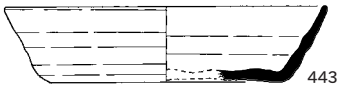
7下 SK79（437～440）

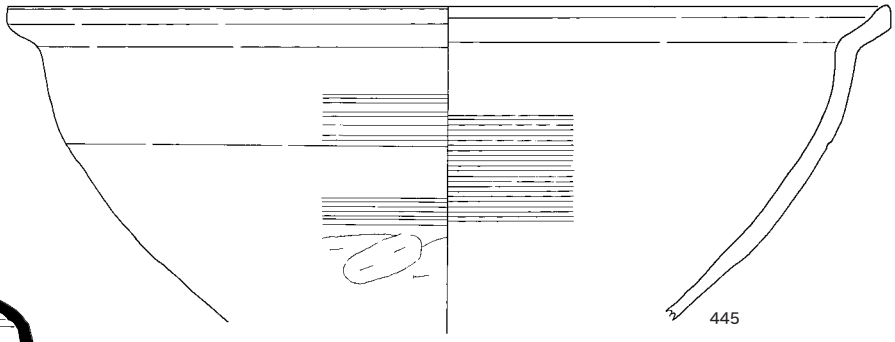




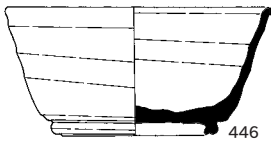
8下 SD30（441～445）

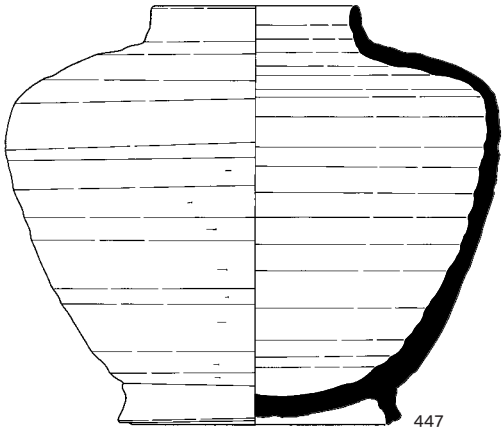




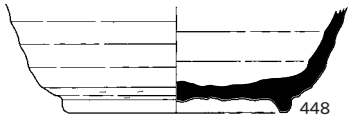


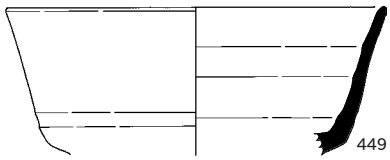
7下 SK60（446･447）



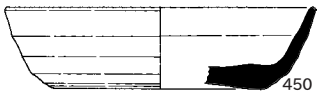


8下 SD180（448･449）

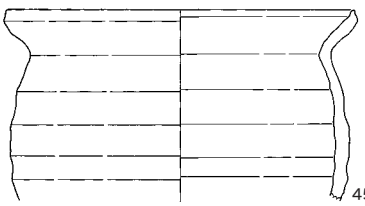


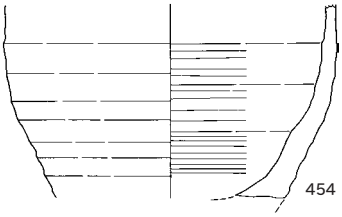


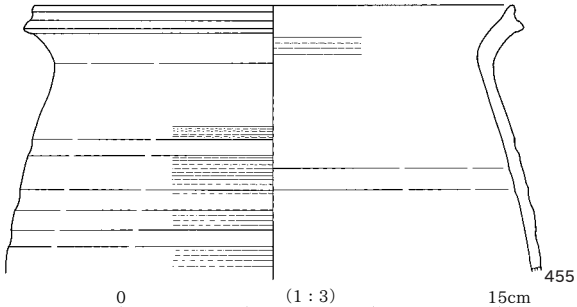
7下 SK3（450･451）



8下 SK34（452～455）

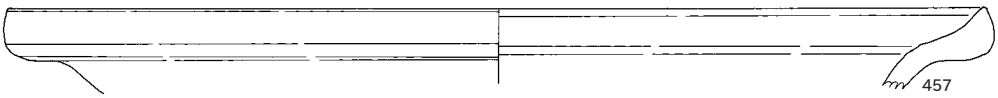




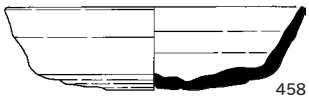


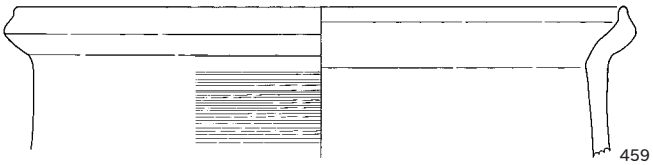
0　（1：3）　15cm

8下 SD54（456･457）

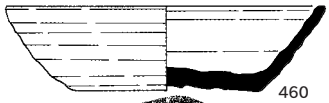


8下 SD118（458·459）

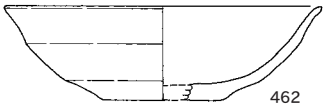


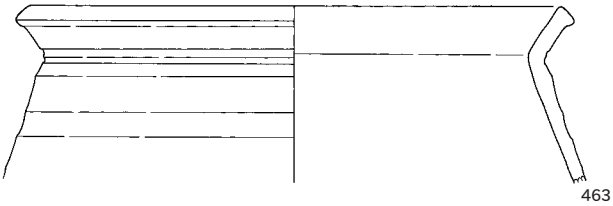


8下 SK33（460·461）

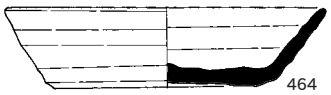


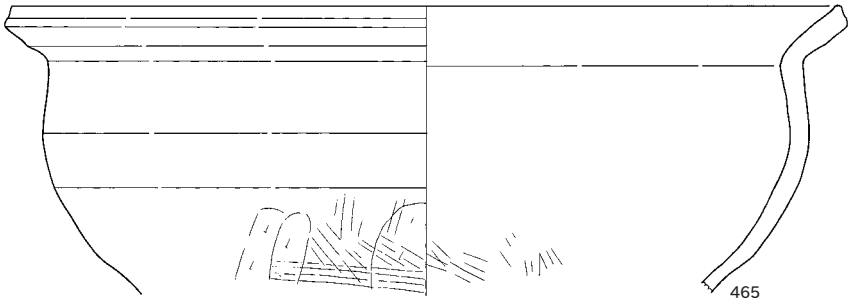
7下 SK63（462·463）

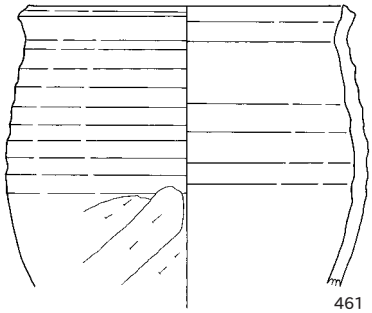


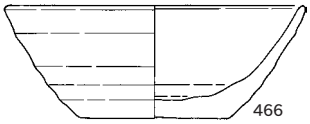


7下 SK2（464·465）

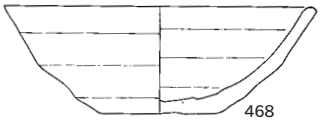


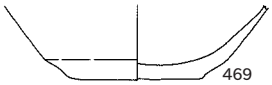




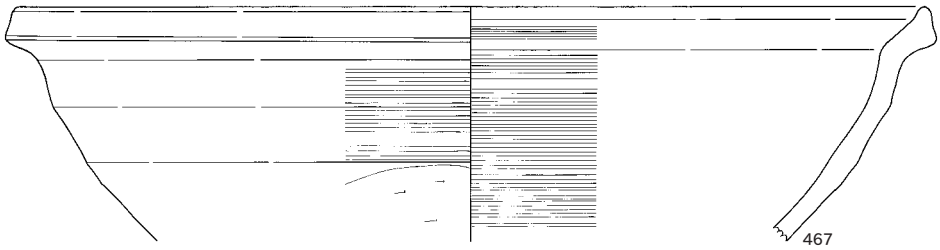


8F P14（468·469）

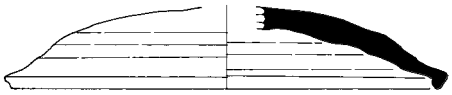


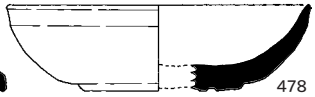


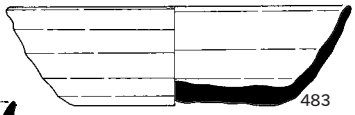
7下 SD144（466·467）

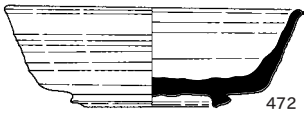


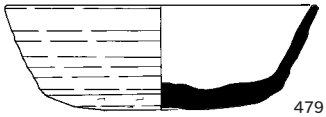
包含層・その他の遺構

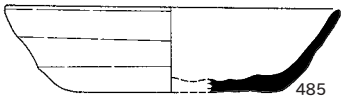


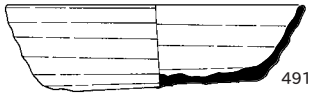


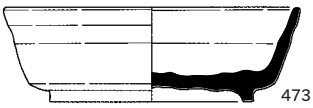


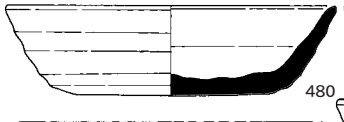


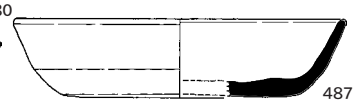


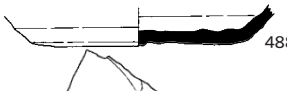


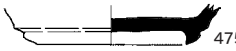


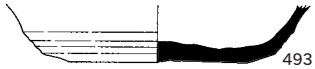


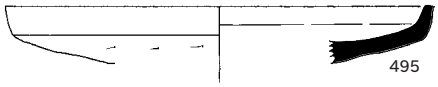


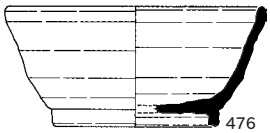


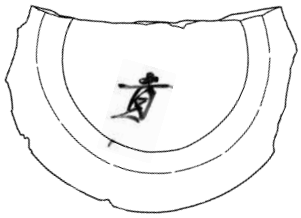


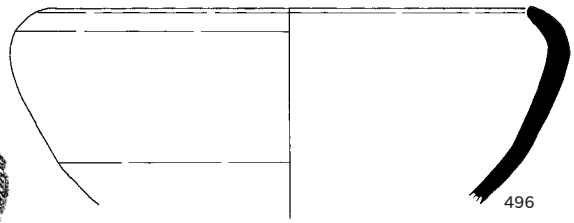


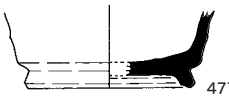


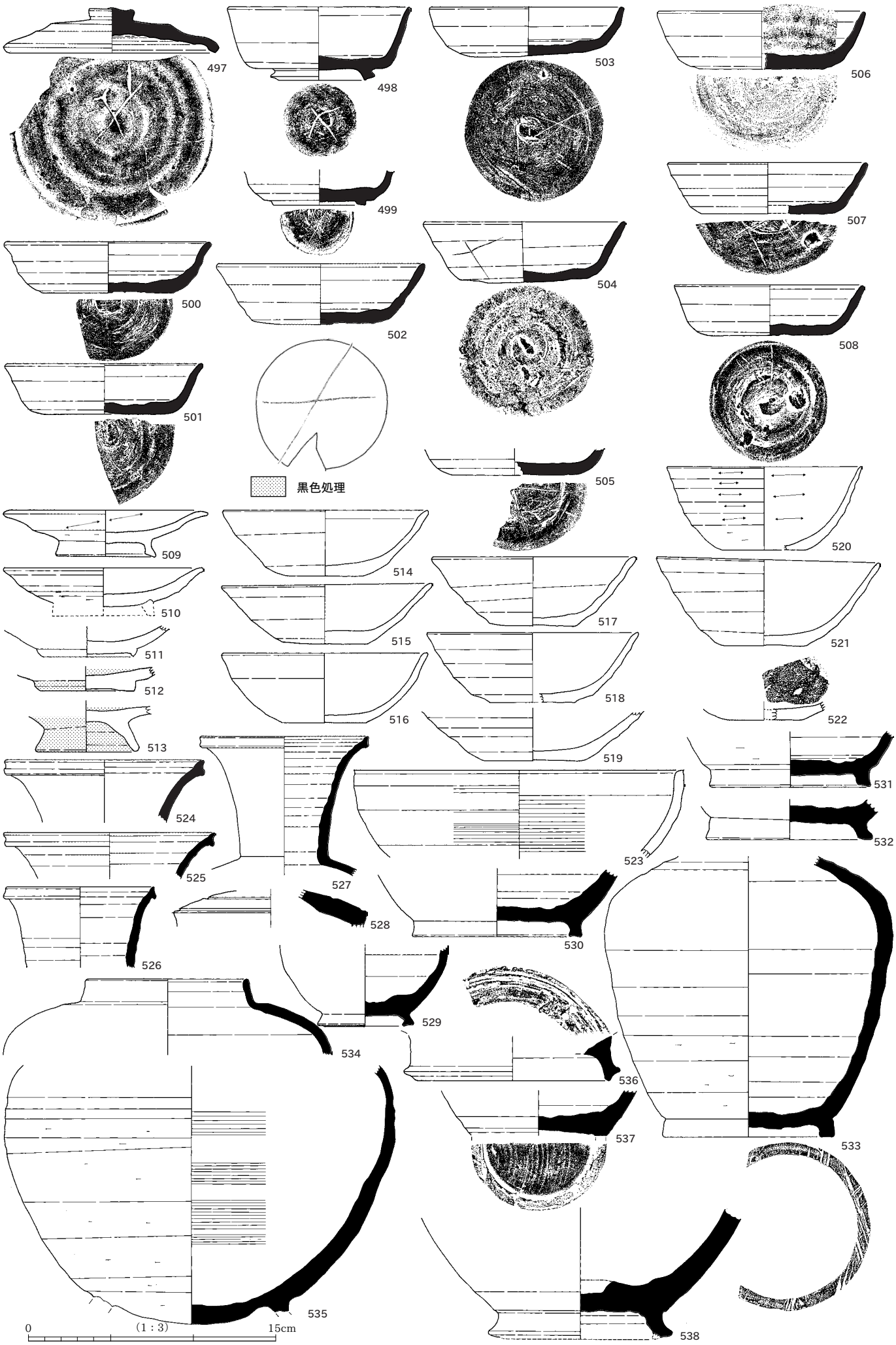


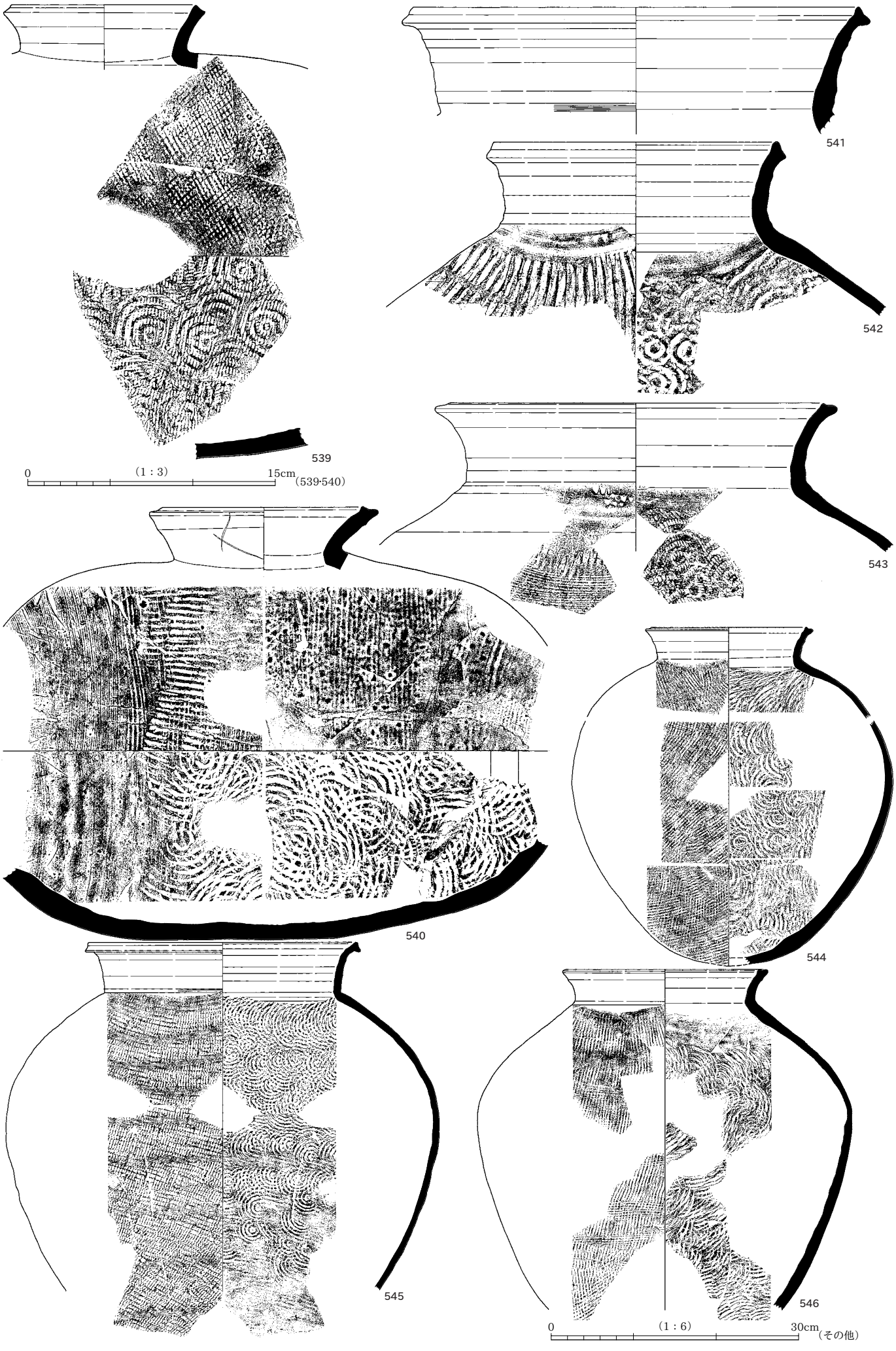


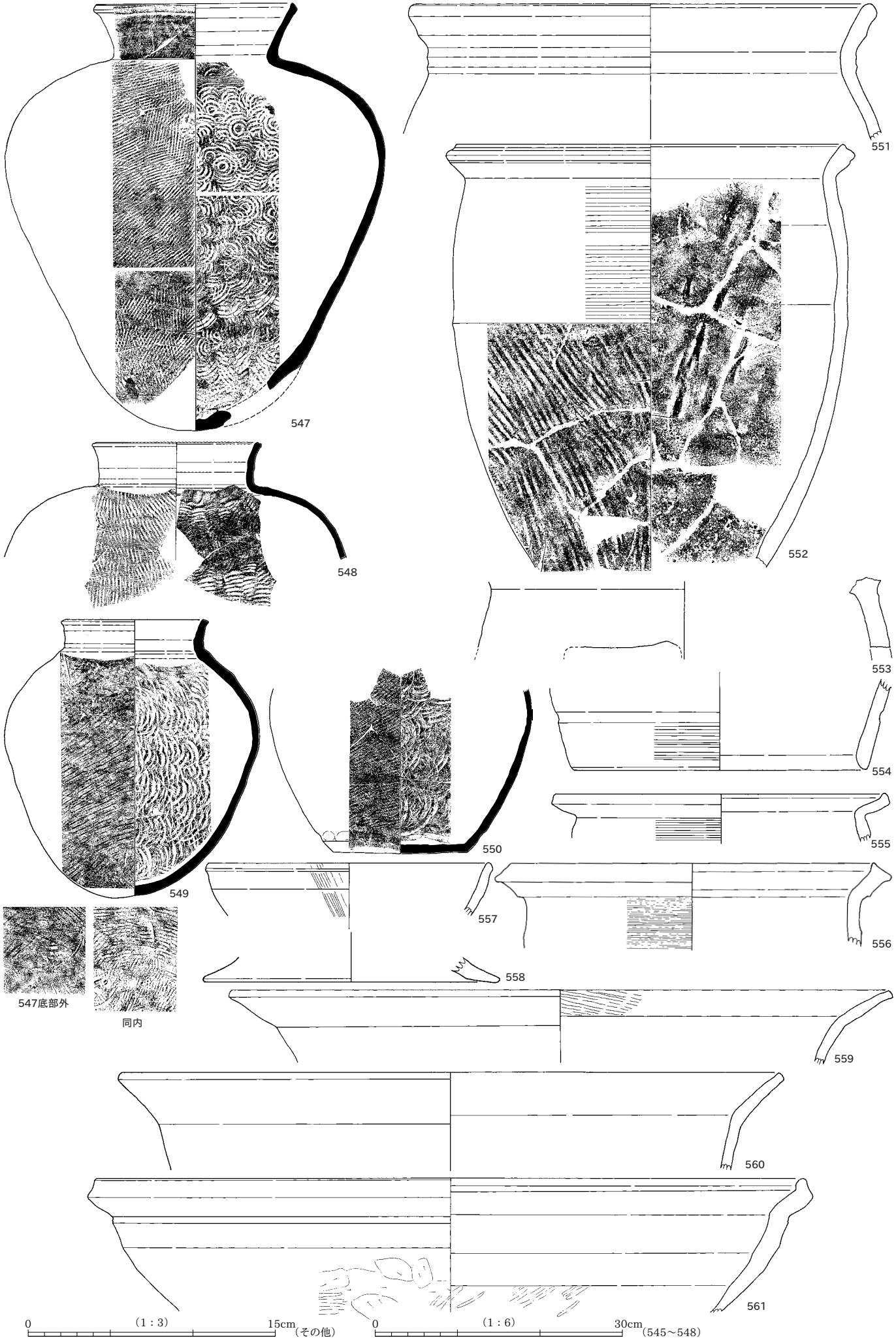


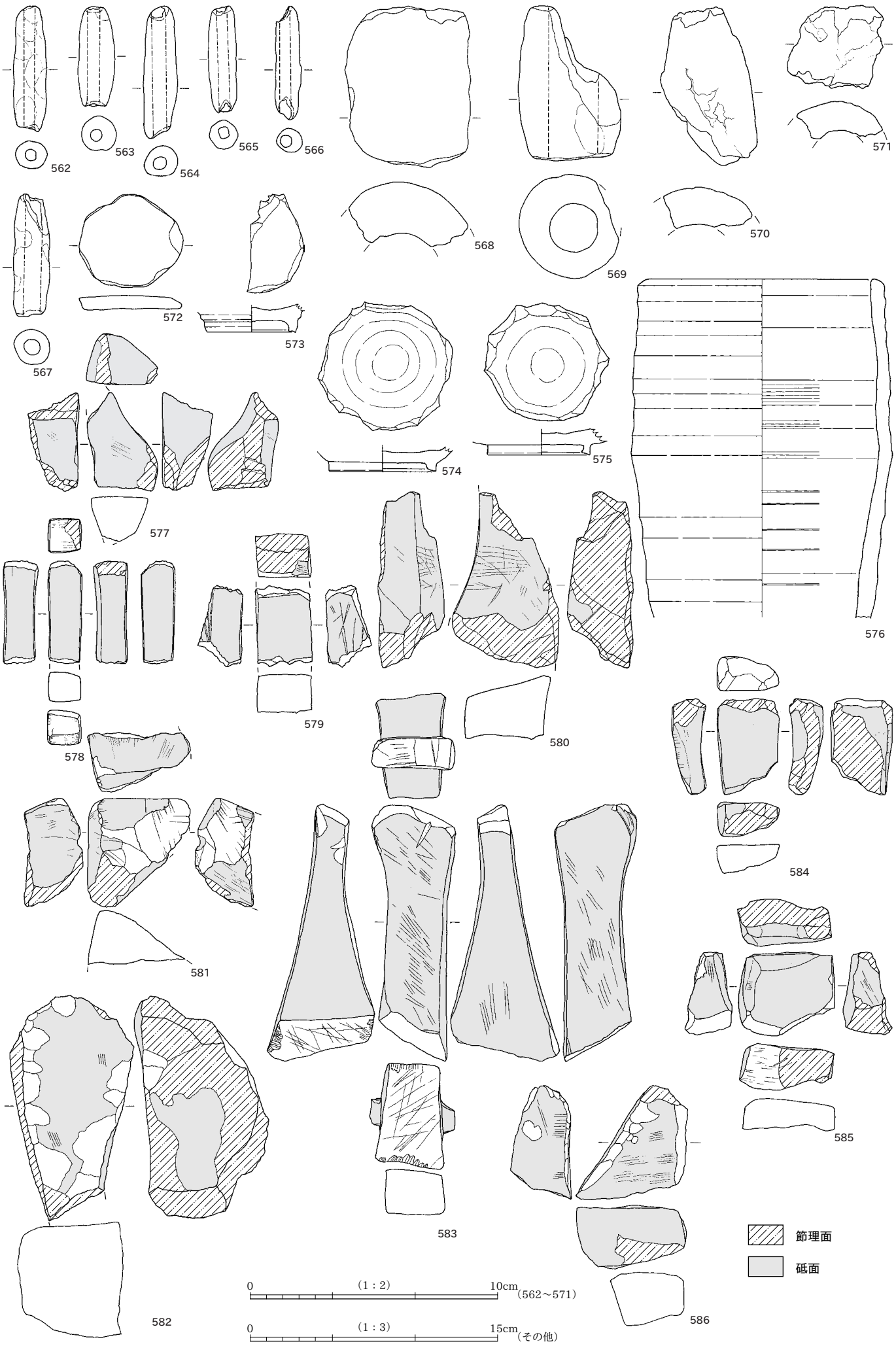


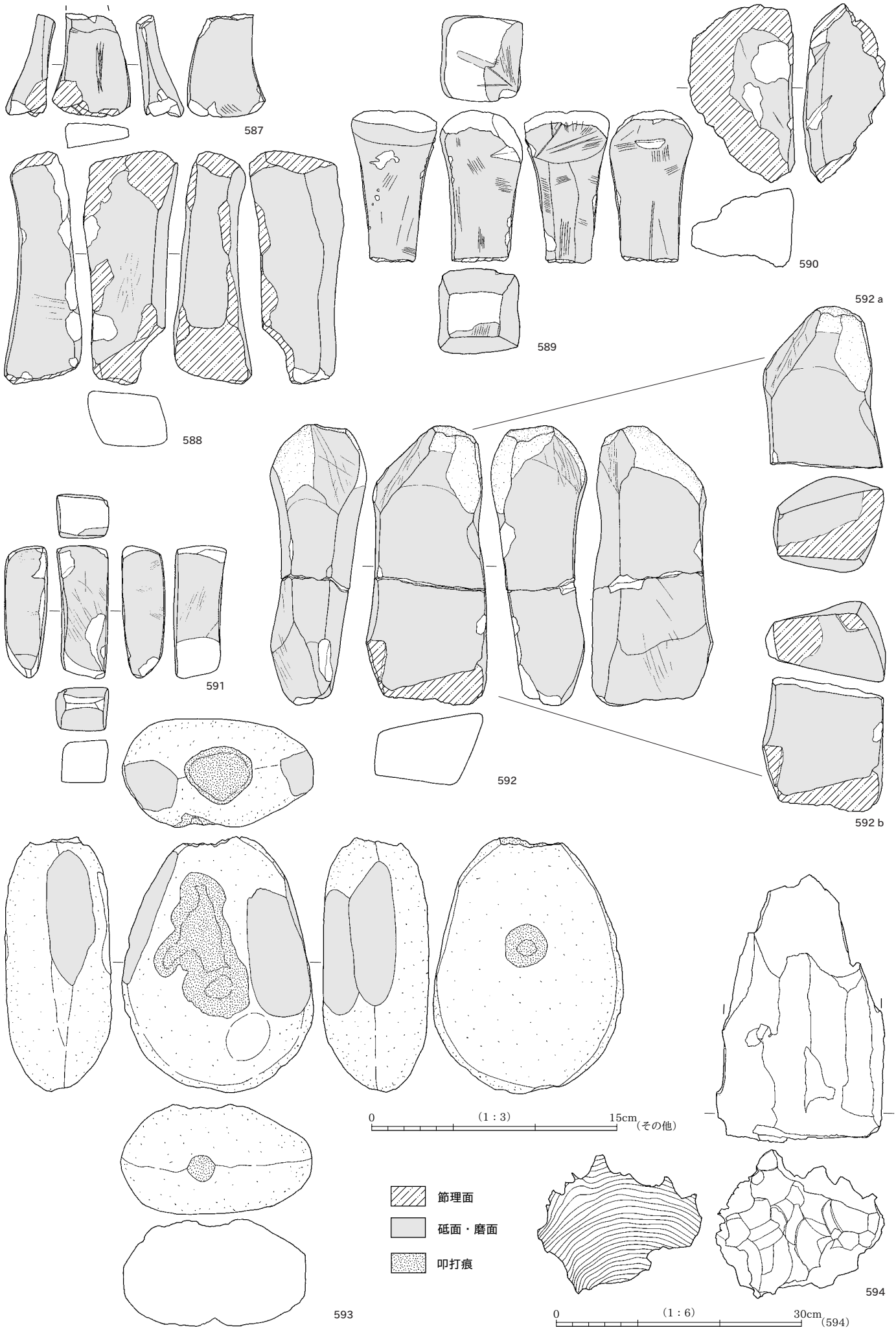



497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
黒色処理
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
0
(1：3)
15cm

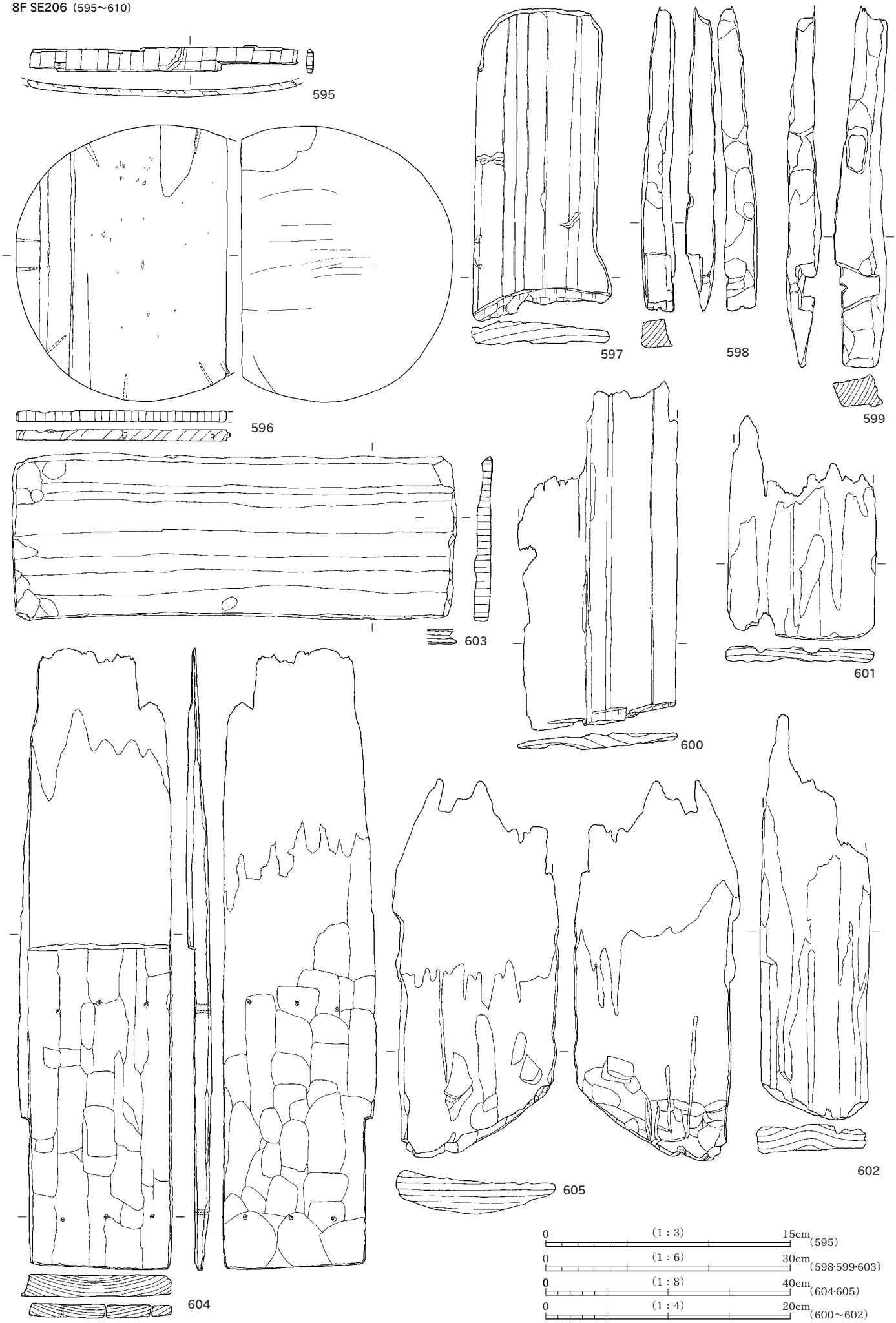

539
541
542
543
540
544
545
546
0
(1：3)
15cm
(539･540)
0
(1：6)
30cm
(その他)

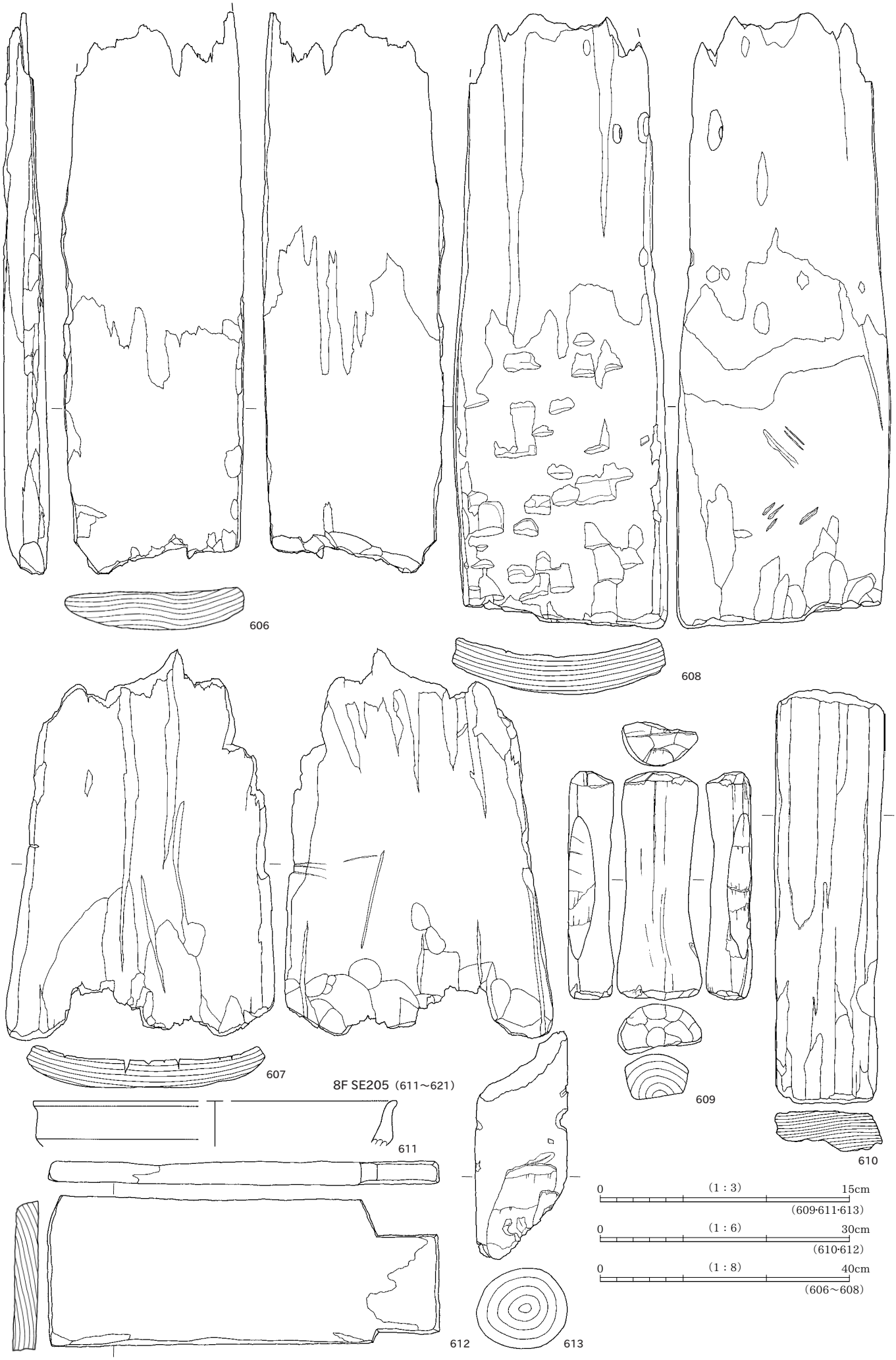

547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
547底部外
同内
0
（1：3）
15cm（その他）
0
（1：6）
30cm（545～548）

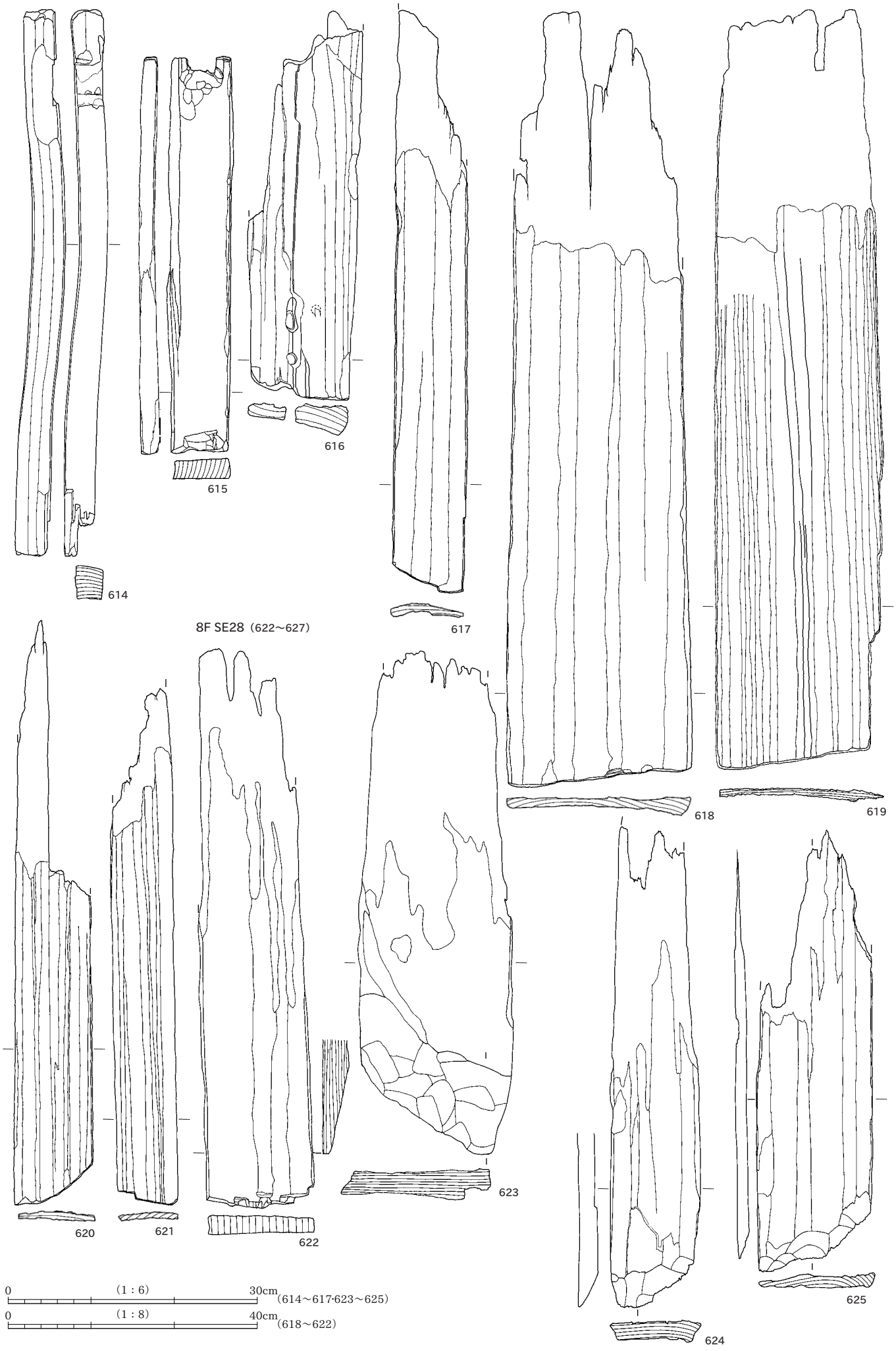

562
563
564
565
566
571
567
572
573
568
569
570
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
節理面
砥面
0
(1：2)
10cm
(562～571)
0
(1：3)
15cm
(その他)

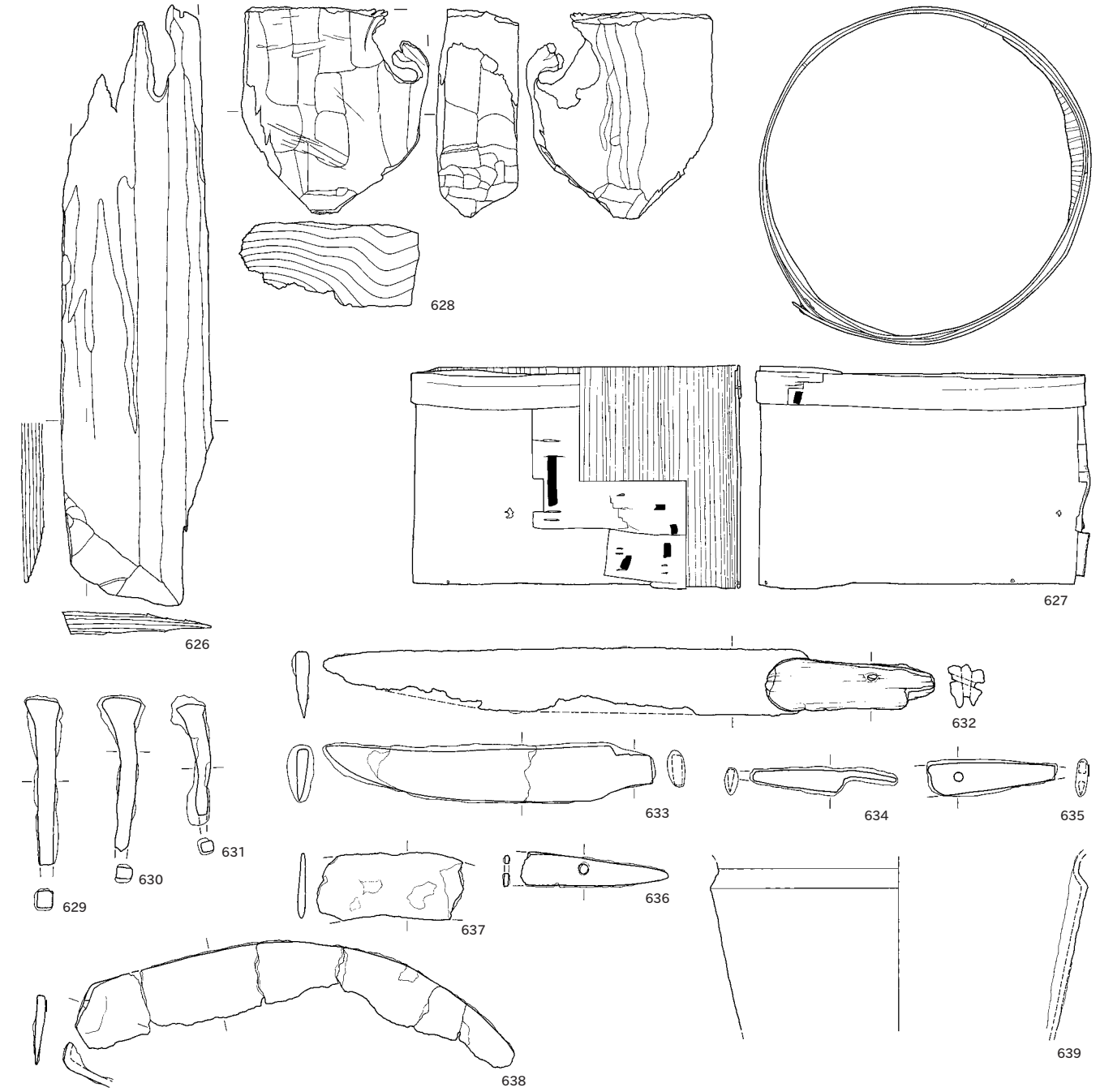

587
588
589
590
591
592
592 a
592 b
593
594
0
（1：3）
15cm（その他）
節理面
砥面・磨面
叩打痕
0
（1：6）
30cm（594）

8F SE206（595～610）



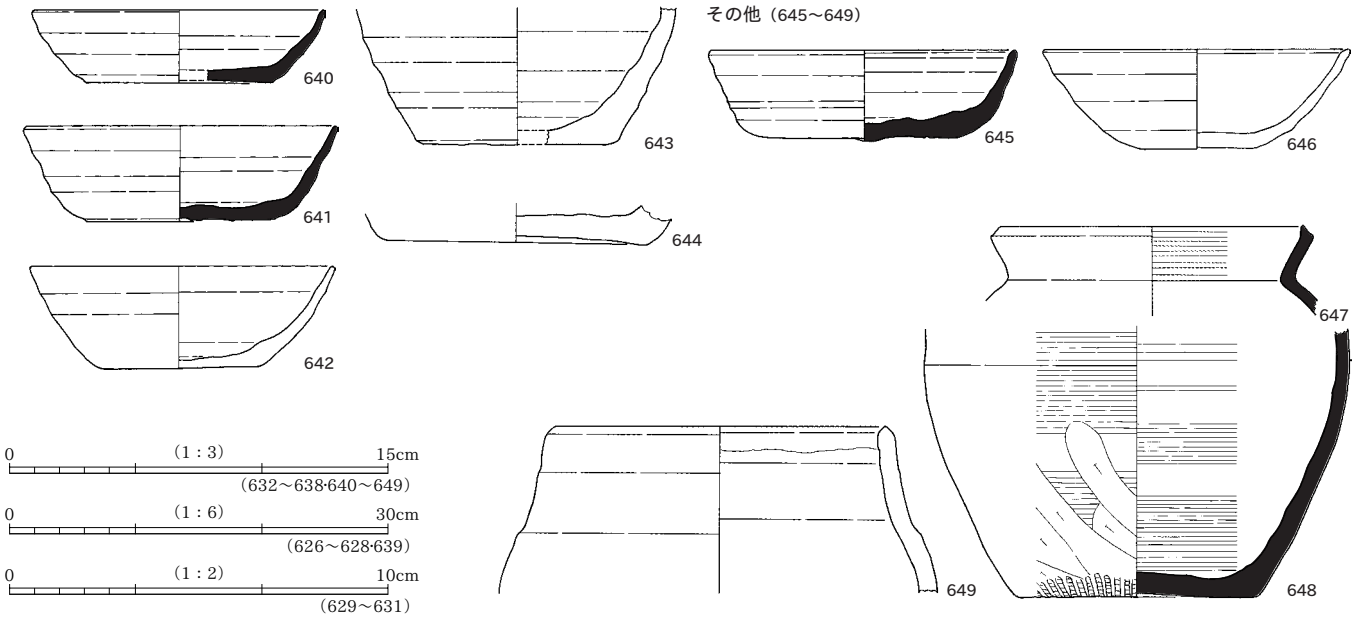

606
608
607
609
610
8F SE205（611～621）
611
612
613
0
（1：3）
15cm
（609·611·613）
0
（1：6）
30cm
（610·612）
0
（1：8）
40cm
（606～608）


614
615
616
617
8F SE28（622～627）
618
619
620
621
622
623
624
625
0　（1：6）　30cm（614～617·623～625）
0　（1：8）　40cm（618～622）

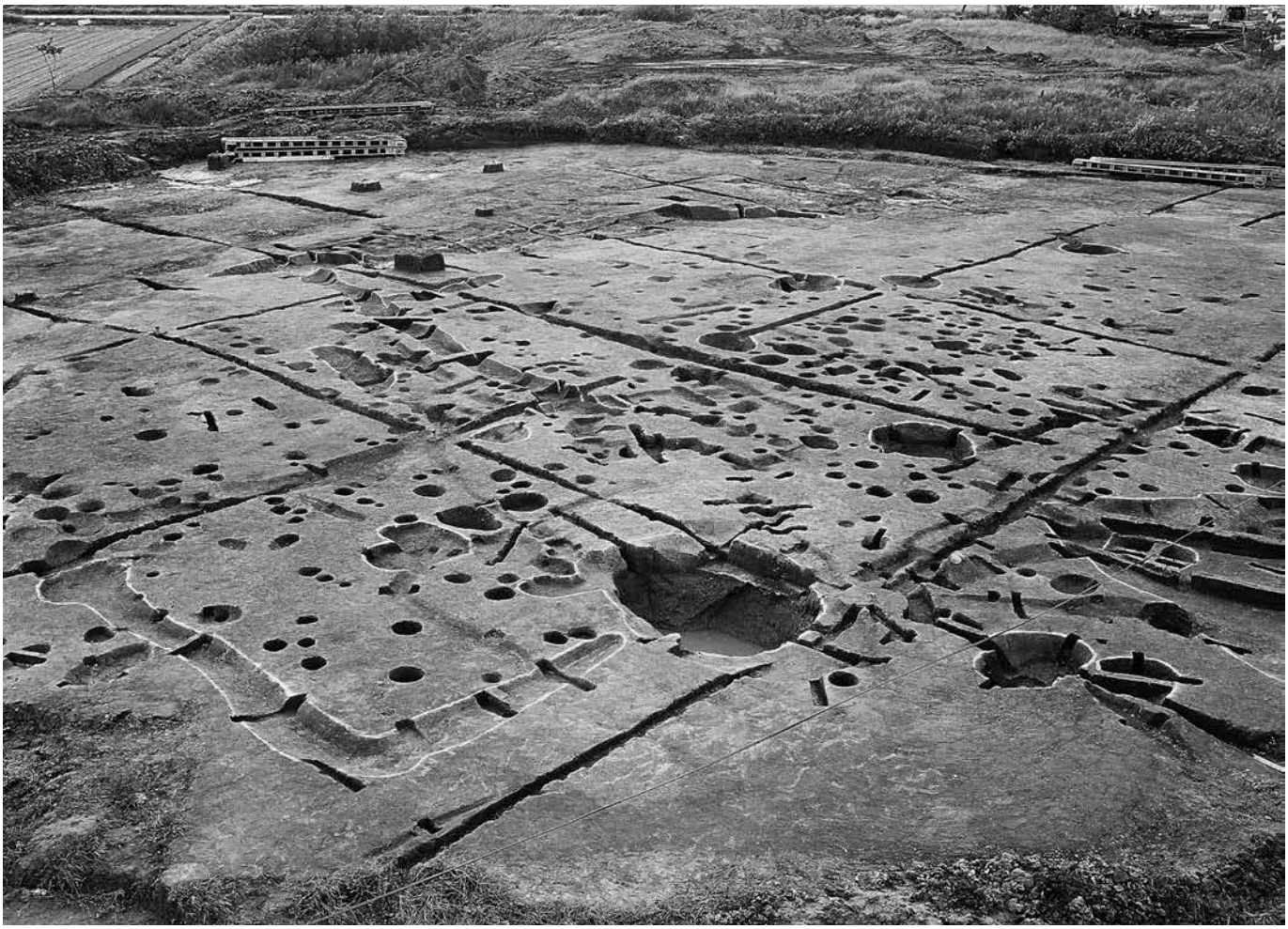


追加
8下SE205（640～643）

その他（645～649）



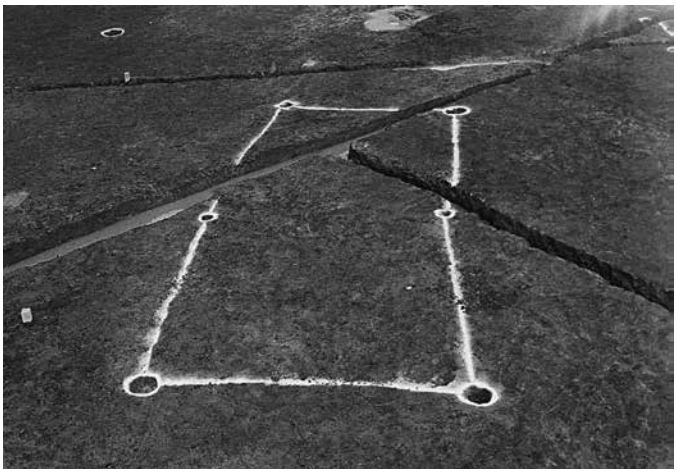
C地点７区上層完掘（西から）



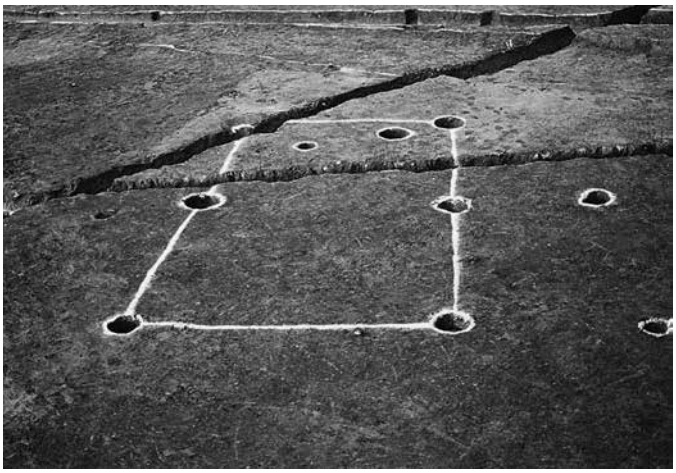
C地点８区上層完掘（東から）

SB3 完掘（東から）

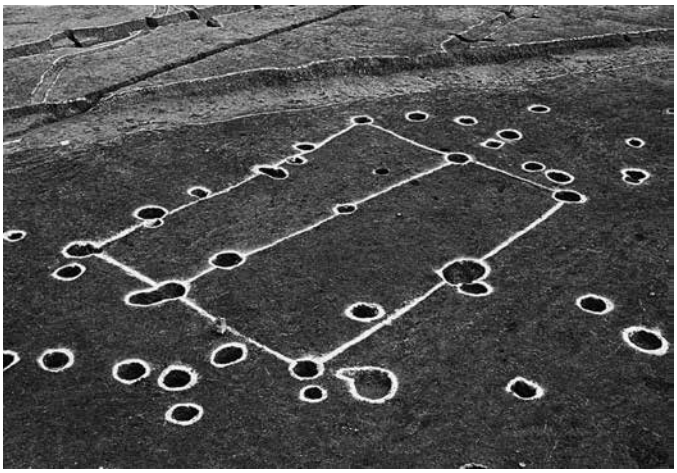
SB7 完掘（東から）



SB9 完掘（北から）

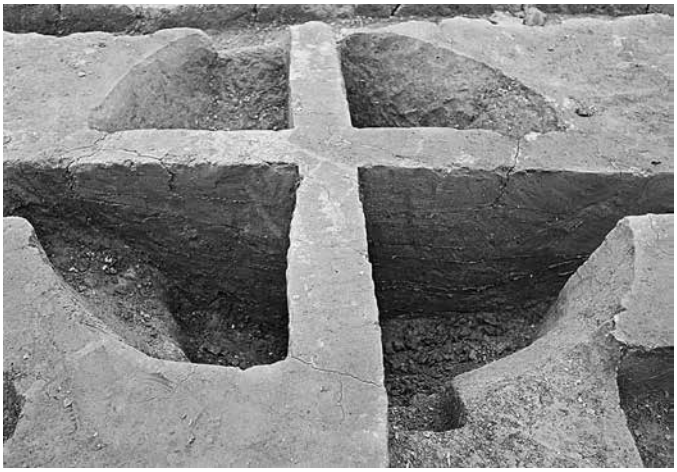


SB11 完掘（東から）



SB12 完掘（北から）

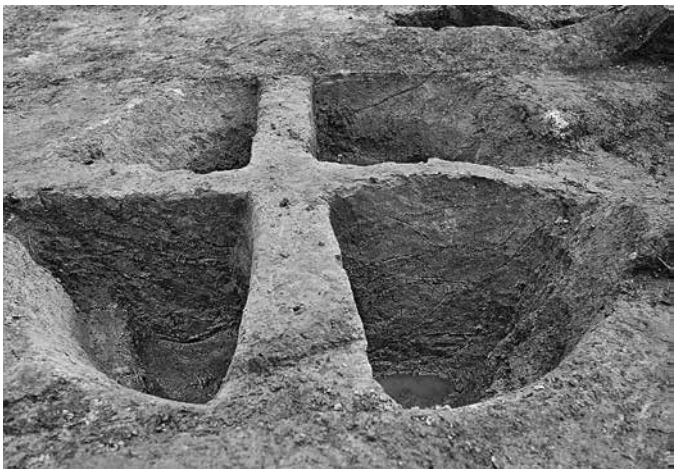
SB11 ・ 12 ・ 13 完掘（北西から）



8 上 SE48 断面（東から）

8 上 SE48 完掘（東から）

8上SE60断面（東から）



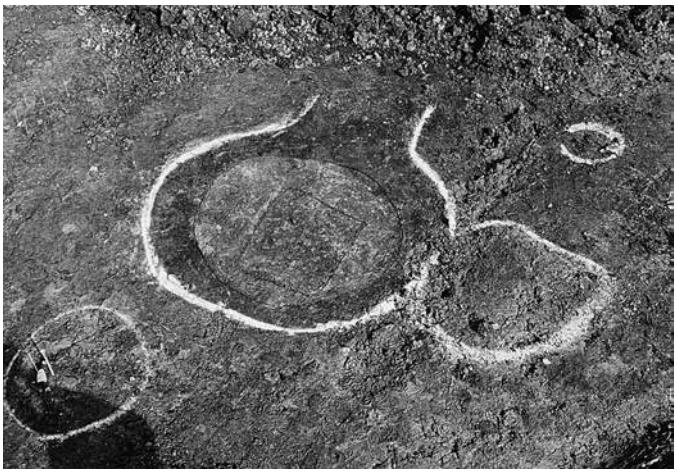
8上SE60断面（北から）

8上SE5断面（東から）

8上SE5・SK58完掘（東から）

8上SE59完掘（東から）

8上SE23・24完掘（西から）



8上SK1検出状況

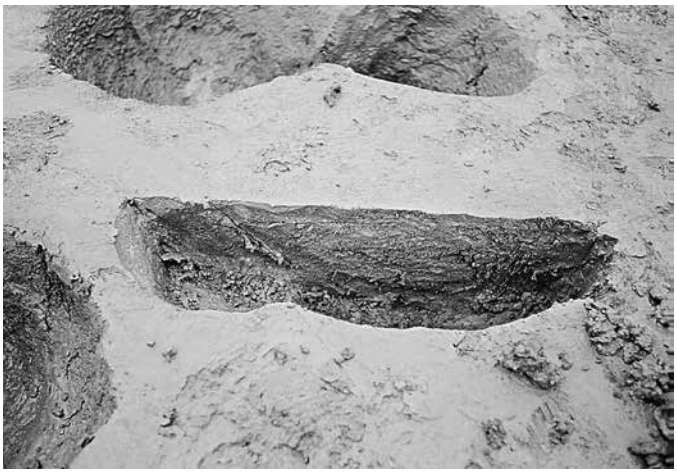
8上SK 1遺物出土状況

8上SK72（北から）

8上SK72（北から）

8上SK70・71断面（北から）

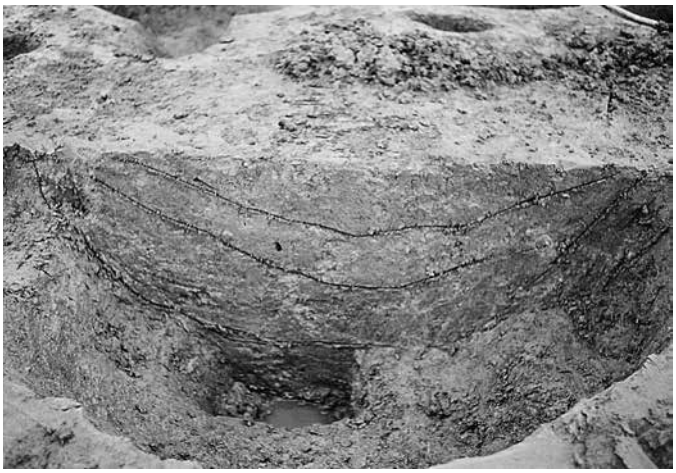
8上SK70・71完掘（北から）



8上P428断面（北東から）

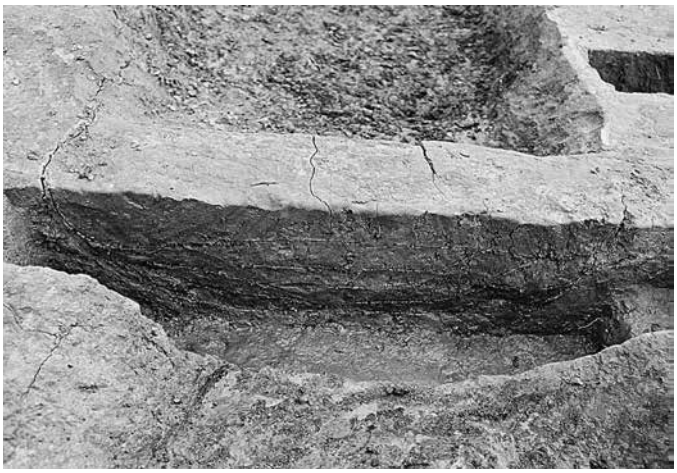
8上P422断面（東から）

8上P318断面（北から）



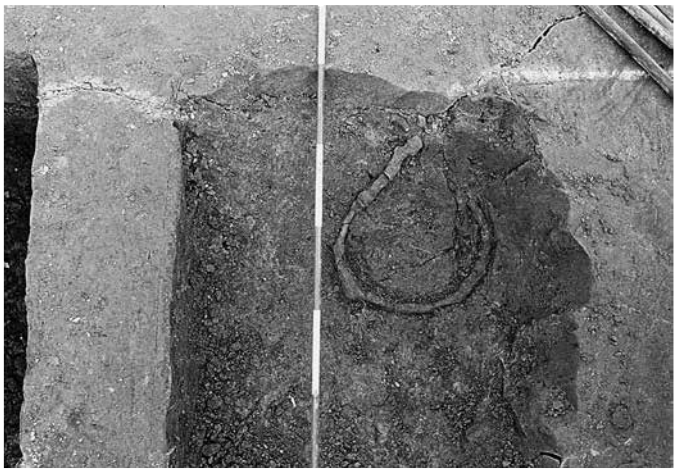
8上SK36断面（北から）

8上SK30断面（北から）

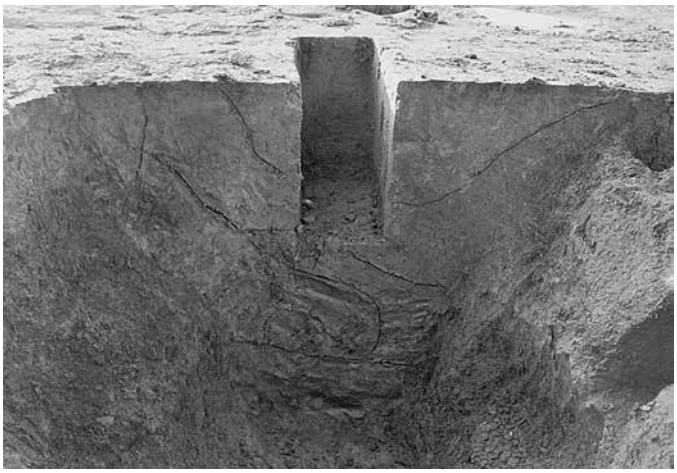

8上SK30断面（北から）

8上SK30断面（北から）

8上SK30炭層上面（東から）


8上SK30遺物出土状況（東から）

8上SK30完掘（東から）


8上SK3断面（東から）

8上SK3完掘（北から）

8上SK1 断面（北から）

8上SK1 遺物出土状況（北から）

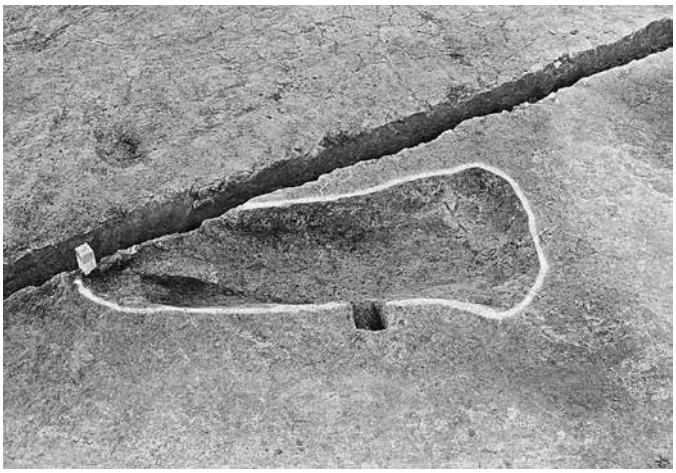
7上SK1 断面（北から）

7上SK 1 断面（北から）

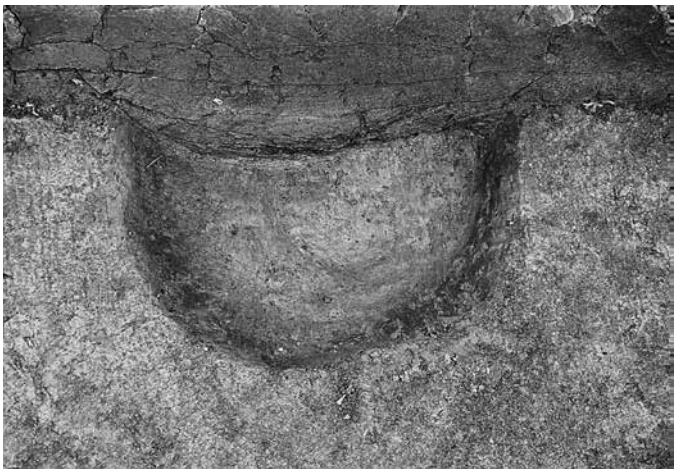
7上SK1 完掘（北から）

7上SK4 断面（北から）

7上SK4 断面（北から）


7上SK4 完掘（北から）

7上SK2断面（北西から）

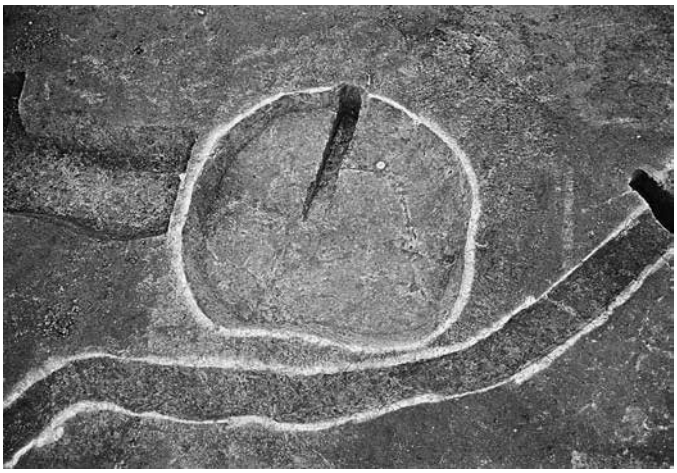

7上SK2完掘（北西から）

7上SK3断面（北から）

7上SK3完掘（北から）

7上SK5断面（東から）

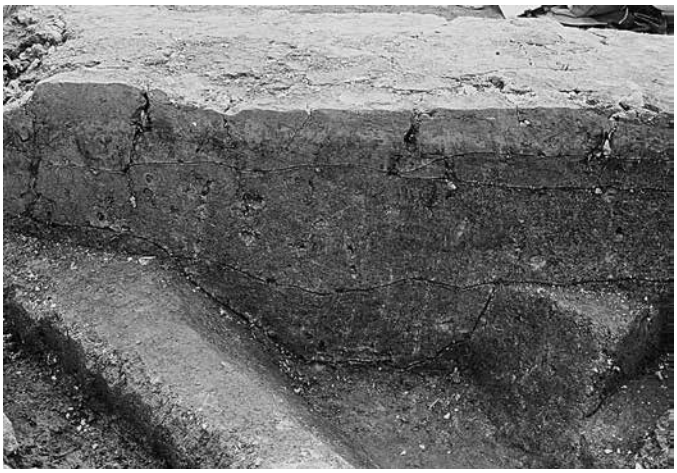
7上SK5断面（東から）


7上SK5完掘（南から）

8上SD34完掘（東から）

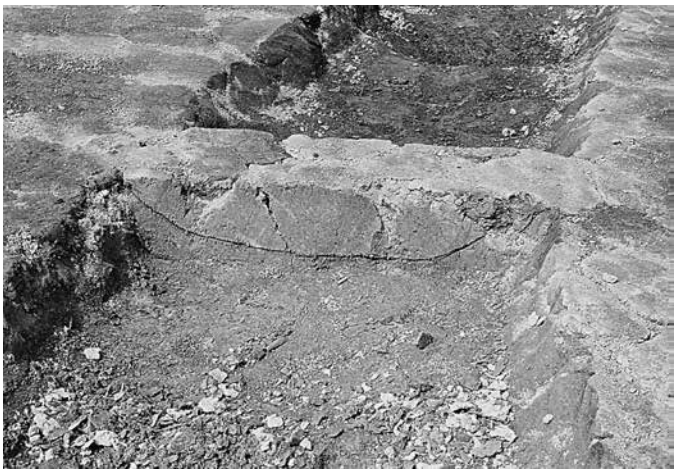
8上SD1断面（東から）

8上SD1遺物出土状況（東から）

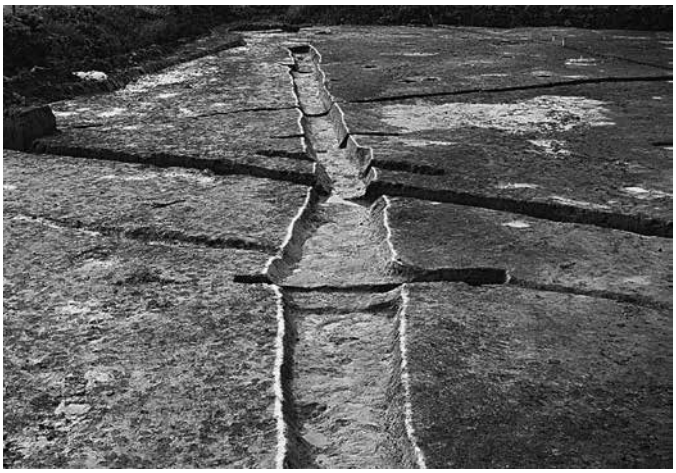


7上SD8断面（東から）

7上SD8完掘（東から）



7上SD2断面（東から）



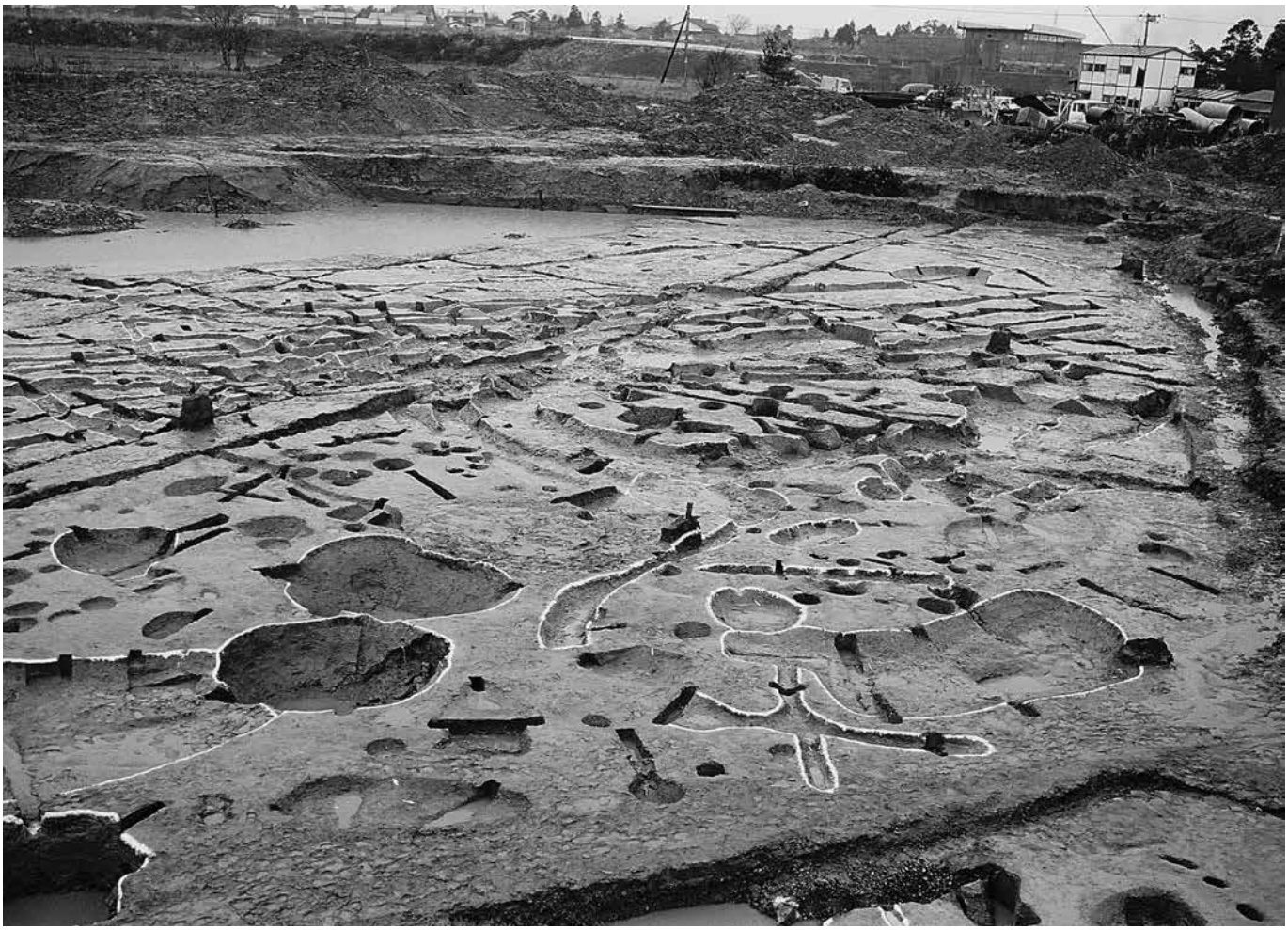
7上SD10完掘（東から）

7上SD11完掘（西から）

7上SD11完掘（東から）

C地点遠景（平成４年度　東から）

７区完掘（平成４年度　上空から）



８区完掘（東から）

７区完掘（平成３年度　西から）

8下SE18検出状況

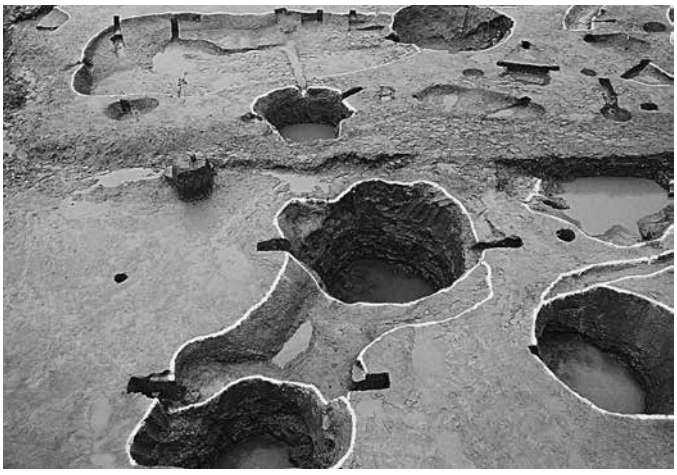
8下SE18断面（北西から）

8下SE205断面（西から）

8下SE205検出状況（西から）

8下SE206断面（南西から）

8下SE206検出状況（北東から）



8下SE201・205・206完掘（北東から）

8下SE201完掘（北東から）

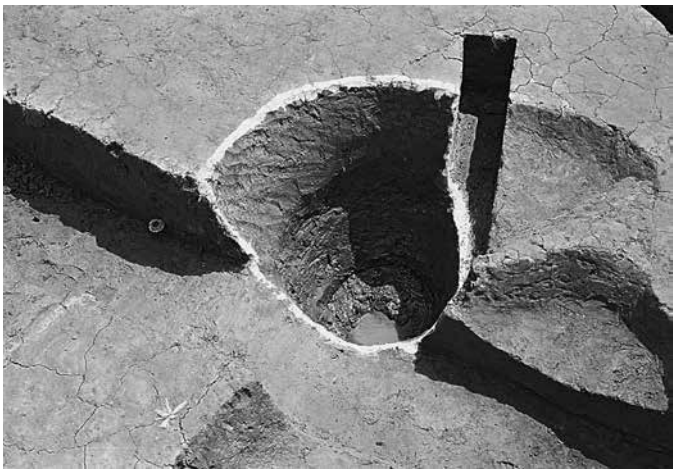
8下SE26断面（東から）

8下SE26完掘（東から）

8下SE27出土状況

8下SE27出土状況

8下SE27完掘（東から）



7下SE137完掘（西から）

7下SE145断面（東から）

7下SE145完掘（東から）

8下SK43断面（北西から）

8下SK43出土状況（北西から）

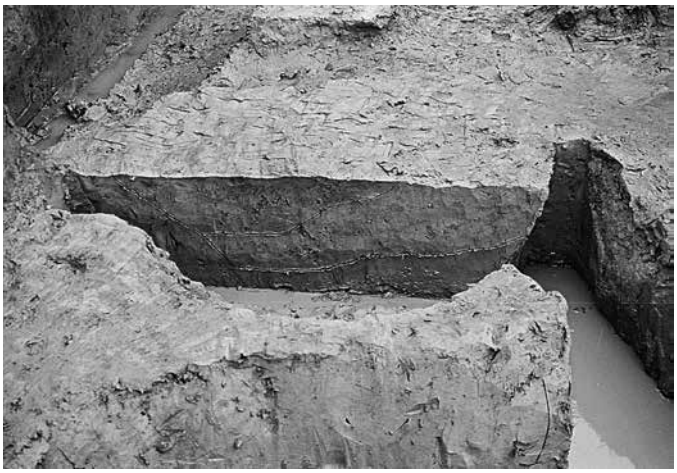
8下SK17断面（南東から）

8下SK13断面（南東から）

8下SK8断面（北東から）

8下SK14出土状況（北東から）

8下SK208断面（南東から）

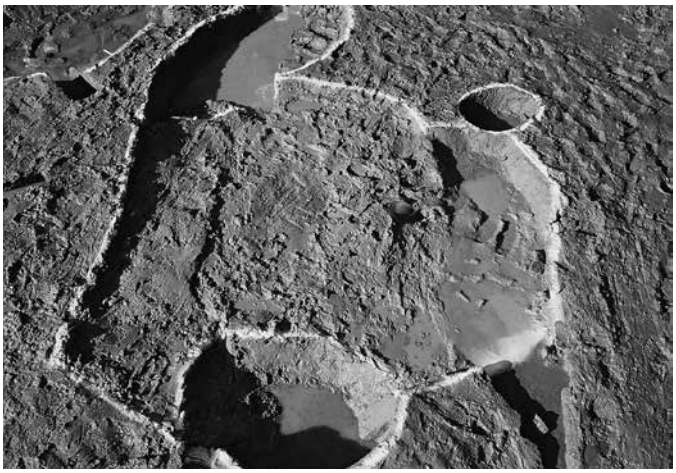


7下SK79断面（南東から）

7下SK57断面（北西から）

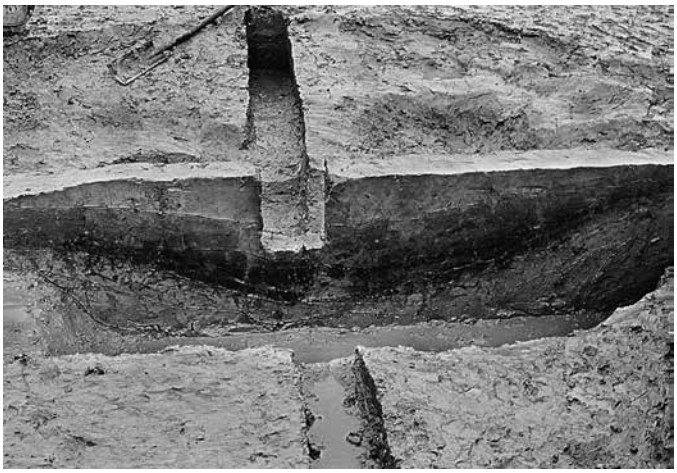
7下SK62断面（北西から）

7下SK54断面（南東から）

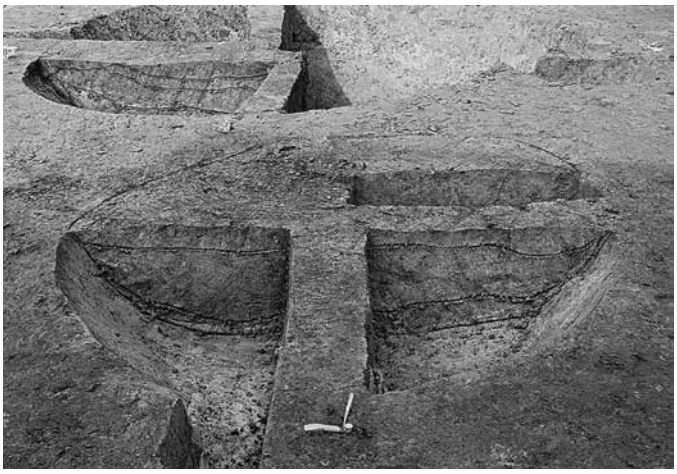

7下SK54完掘（南東から）

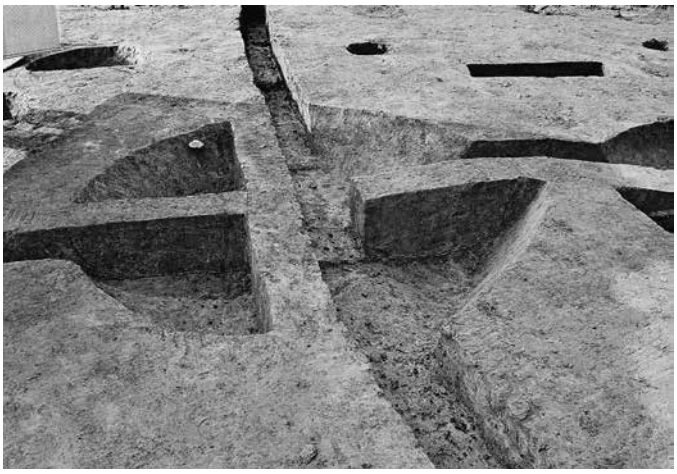
7下SK52断面（北東から）

7下SK51断面（南から）


7下SK80断面（北西から）

7下SK80（南から）

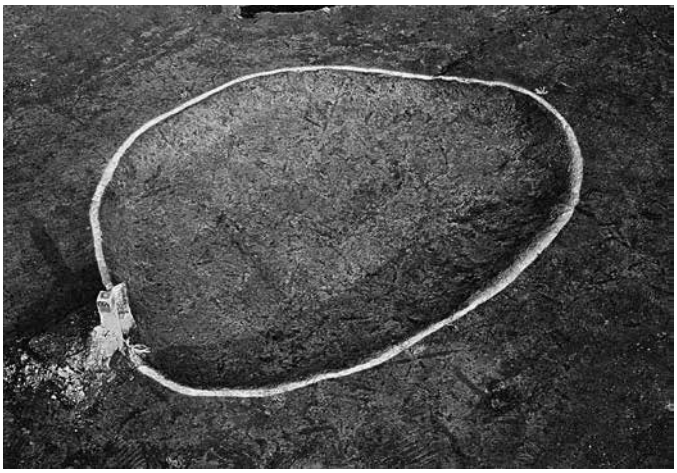

7下SK7断面（南東から）

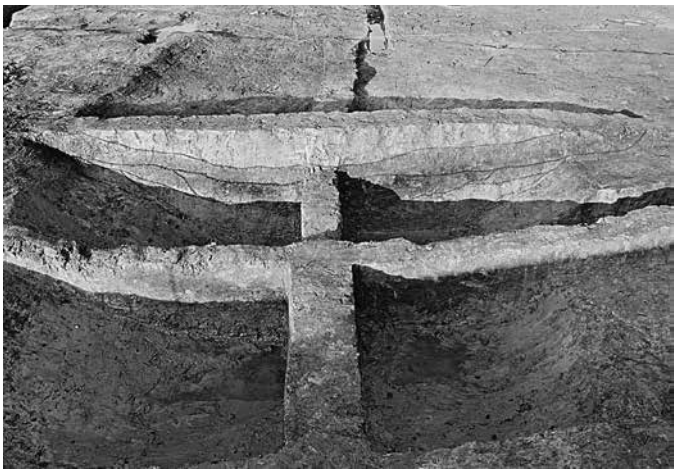

7下SK9断面（南東から）

7下SK8断面（東から）

7下SK104断面（北東から）

7下SK134完掘（南から）


7下SK3完掘（南西から）

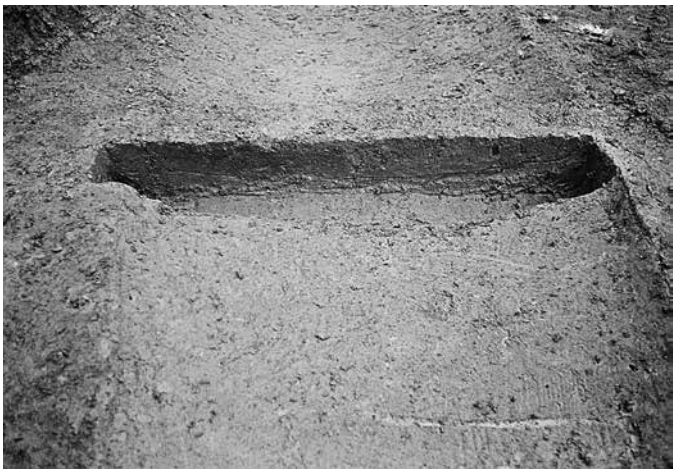

7下SK60断面（東から）

7下SK60完掘（東から）

7下SK102断面（南から）

7下SK102断面（南から）

7下SK102完掘（南から）



8下SD44断面（南東から）

8下SD115・116・117断面（南東から）

8下SD115・116・117完掘（南東から）

8下SD102・114・119・129完掘（南東から）

8下SD21断面（北から）

7下SD16・17・21他完掘（北西から）

7下SD4断面（南東から）

7下SD4断面（南東から）

7下SD1・4他完掘（南西から）

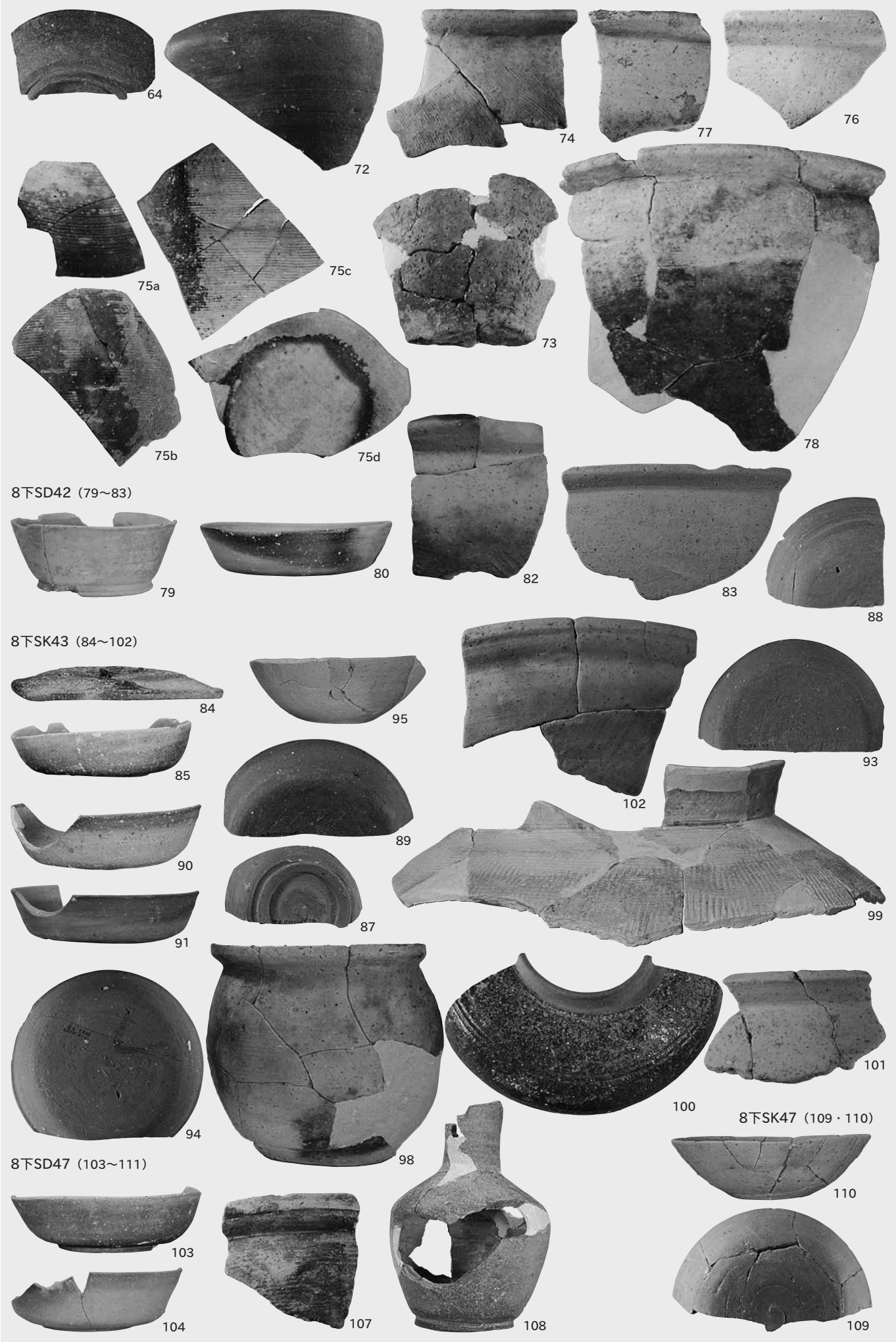
7下SD133・136完掘（南から）

7下SD136

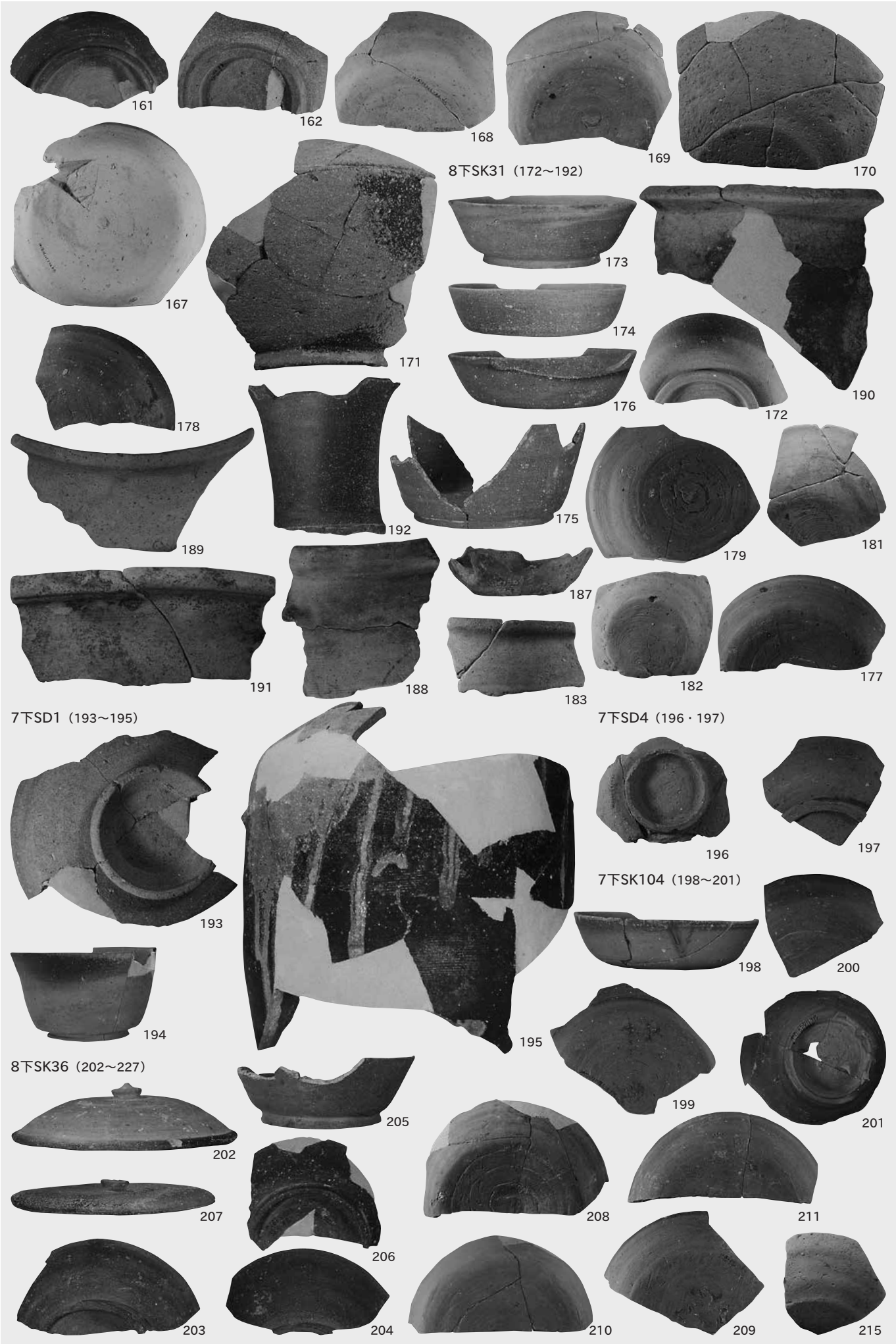
7下SD120完掘（南から）

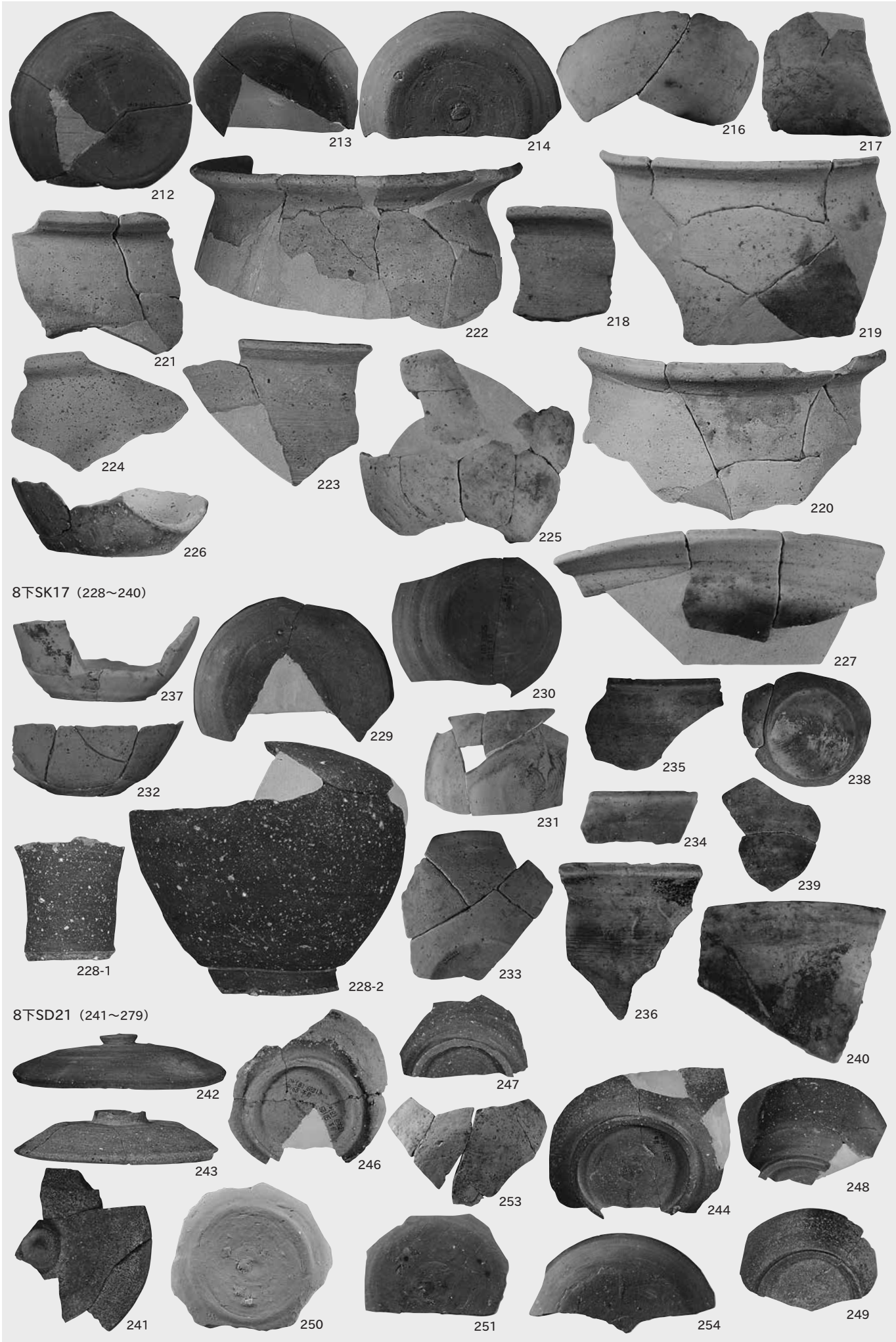
7下SD1断面（南東から）

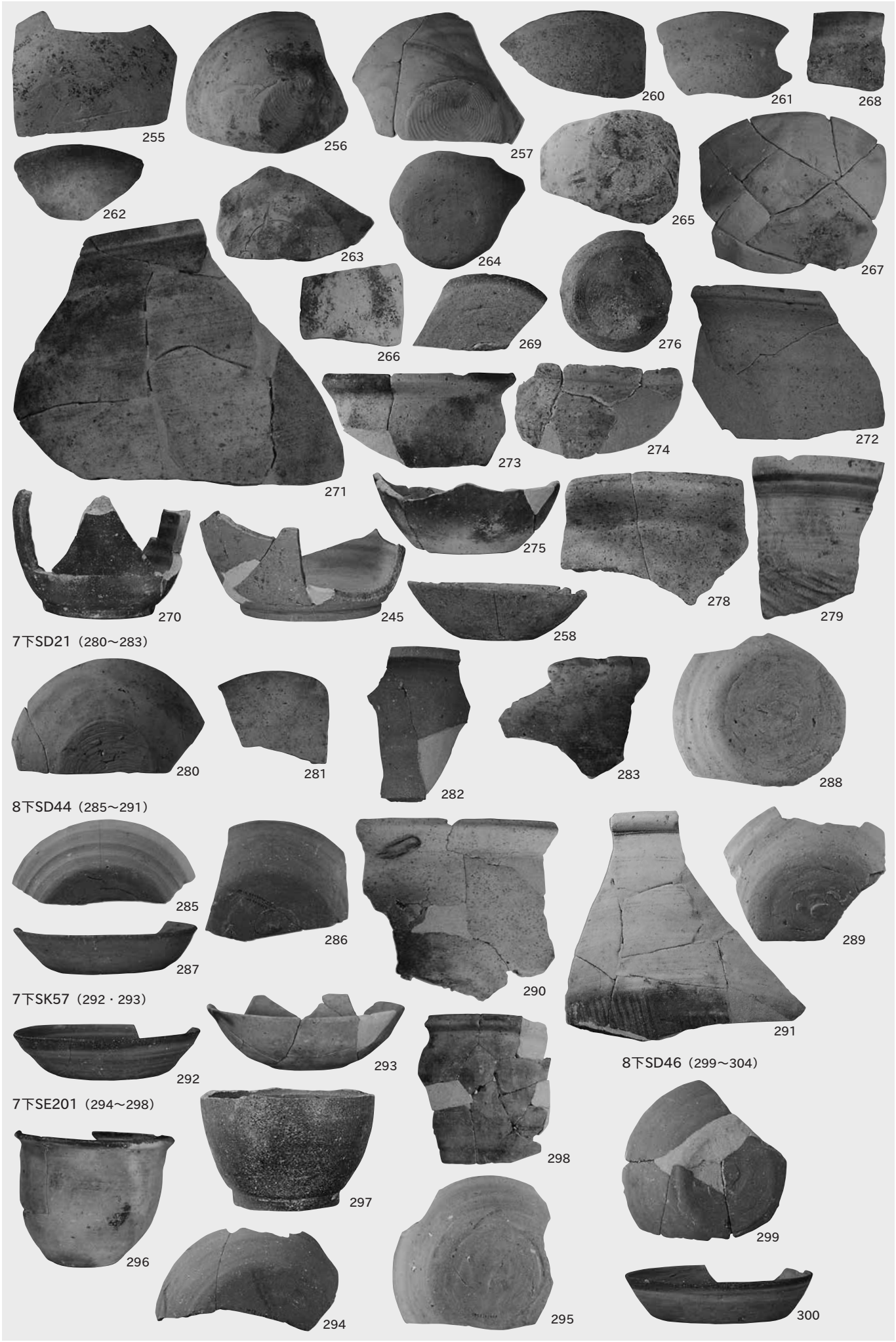
1
2
3
4
5
6
7
9
13
14
15
16
17
18
20
22
23
24
26
28
30
31
32
33
34
35
39
41
43
44
45
46
48
49
50
51
52
53
54
56
57
58
36
47
8
21
12
55
10
25
40
59
27
37
38
60
7下SK134（61～78）
61
65
70
67
62
68
71
63
69
66

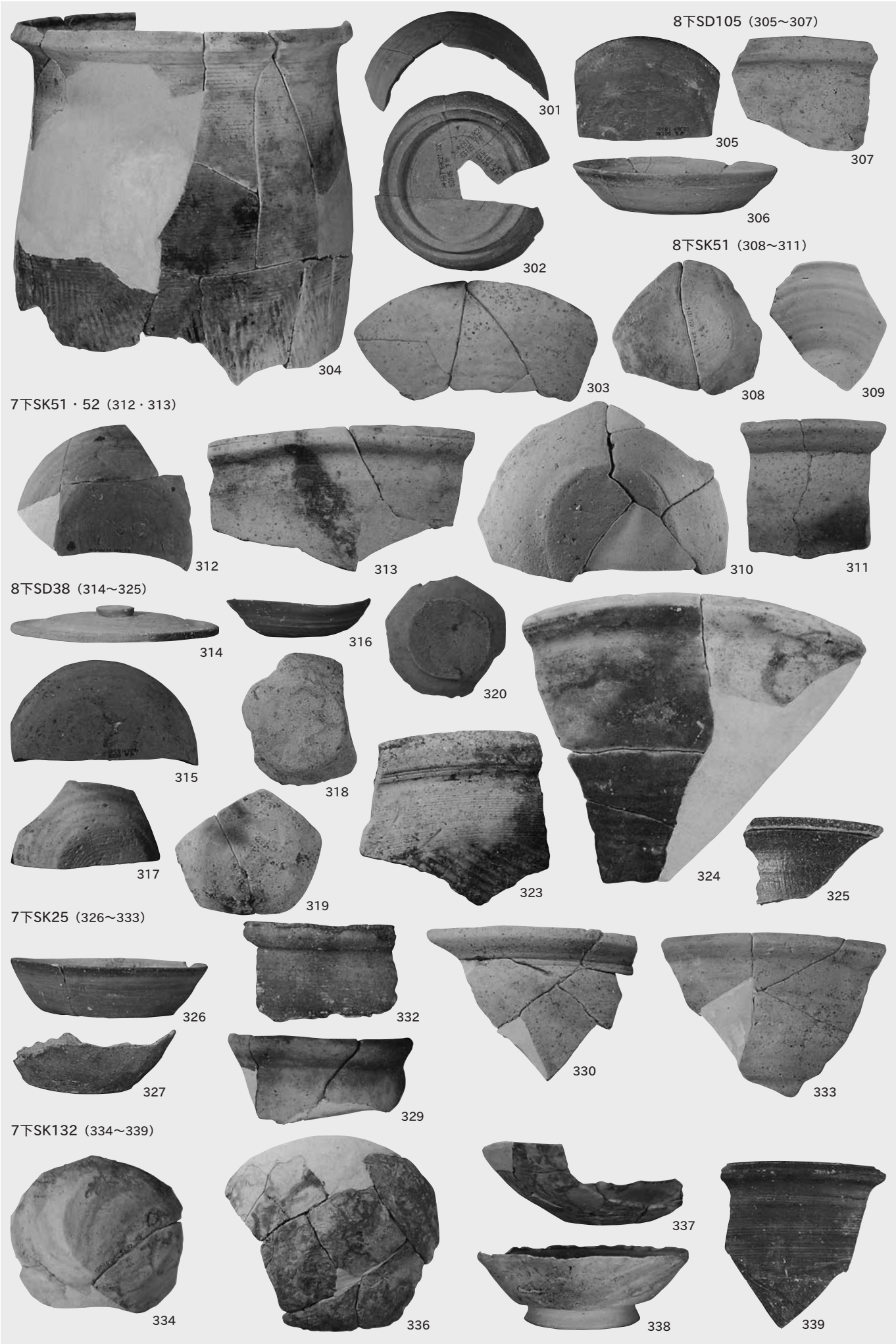

64
72
74
77
76
75a
75c
73
78
75b
75d
8下SD42（79～83）
79
80
82
83
88
8下SK43（84～102）
84
95
93
85
102
89
90
99
87
91
94
98
100
101
8下SK47（109・110）
8下SD47（103～111）
110
103
104
107
108
109

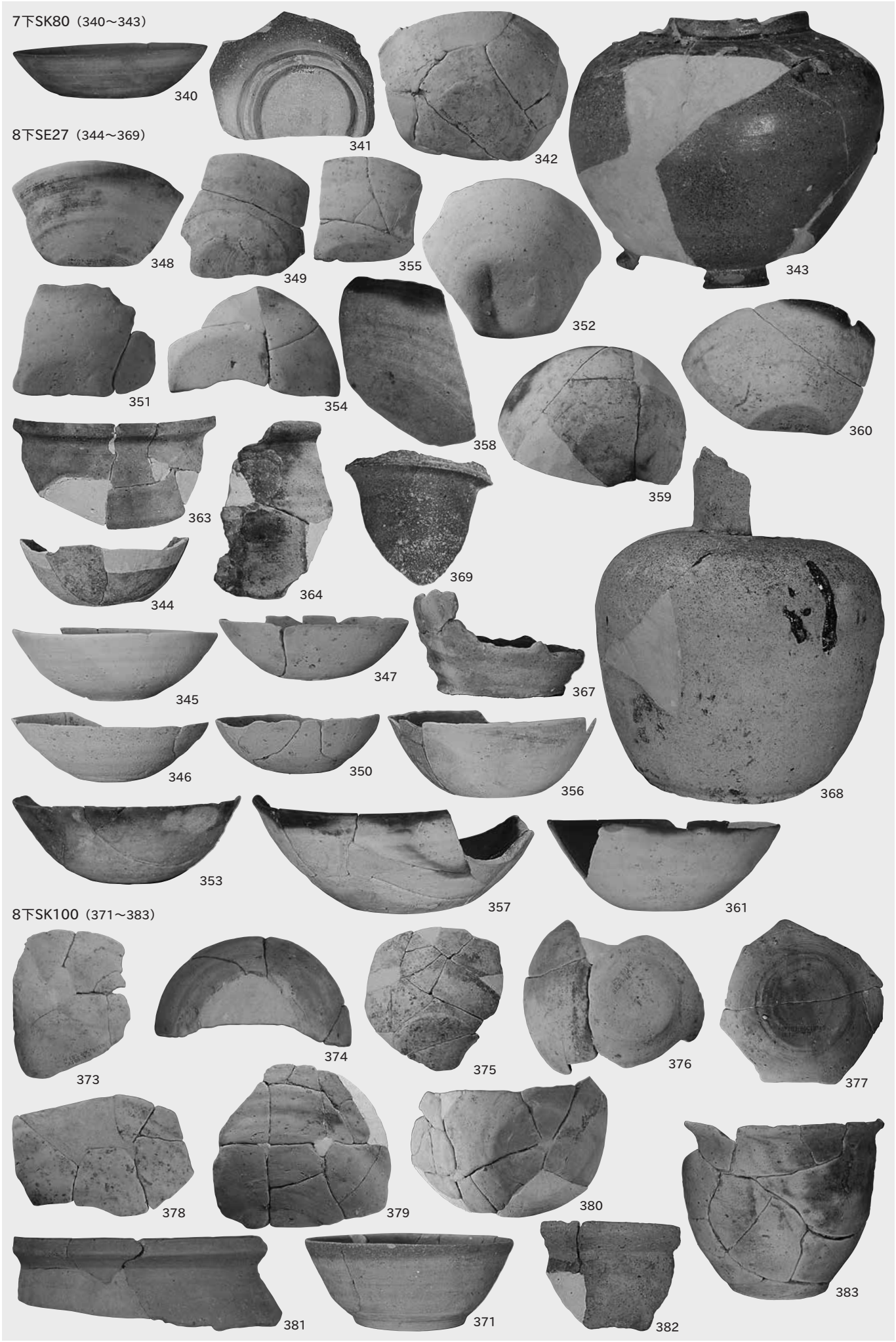
7下SK122（112～114）
7下SK109（116～118）
7下SK5（119～121）
8下SD40（123～158）
112
113
114
116
117
118
119
121
120
138
139
142
143
153
125
124
156
123
157
133
126
127
128
145
129
131
130
132
140
134
135
136
141
137
151
148
144
147
158
8下SE205（159～171）
149
160
163
165
152
155
159
164
166

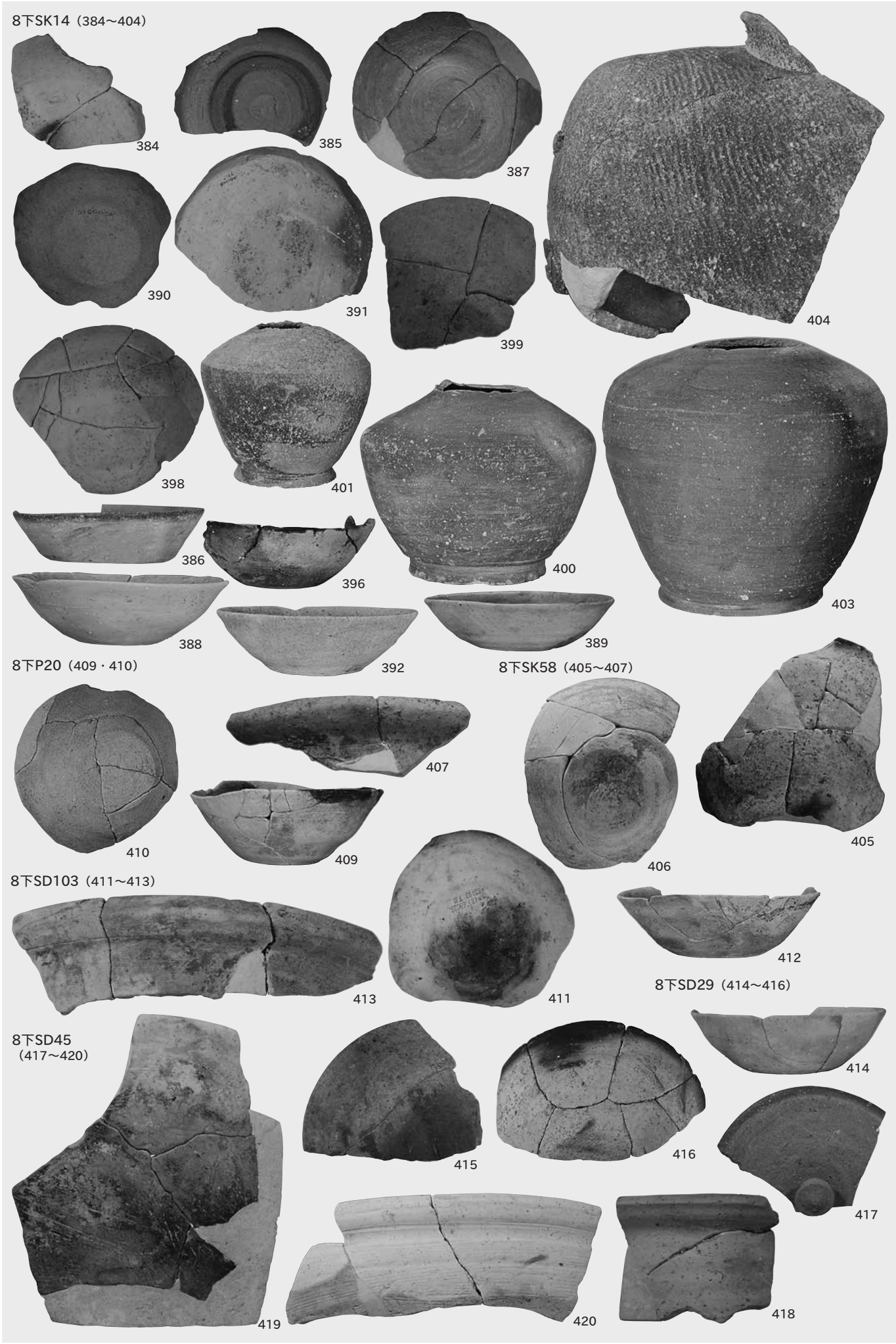

161
162
168
169
170
8下SK31（172～192）
167
171
173
174
176
172
190
178
189
192
175
179
181
187
191
188
183
182
177
7下SD1（193～195）
7下SD4（196・197）
193
195
196
197
7下SK104（198～201）
198
200
194
199
201
8下SK36（202～227）
205
202
207
206
208
211
203
204
210
209
215

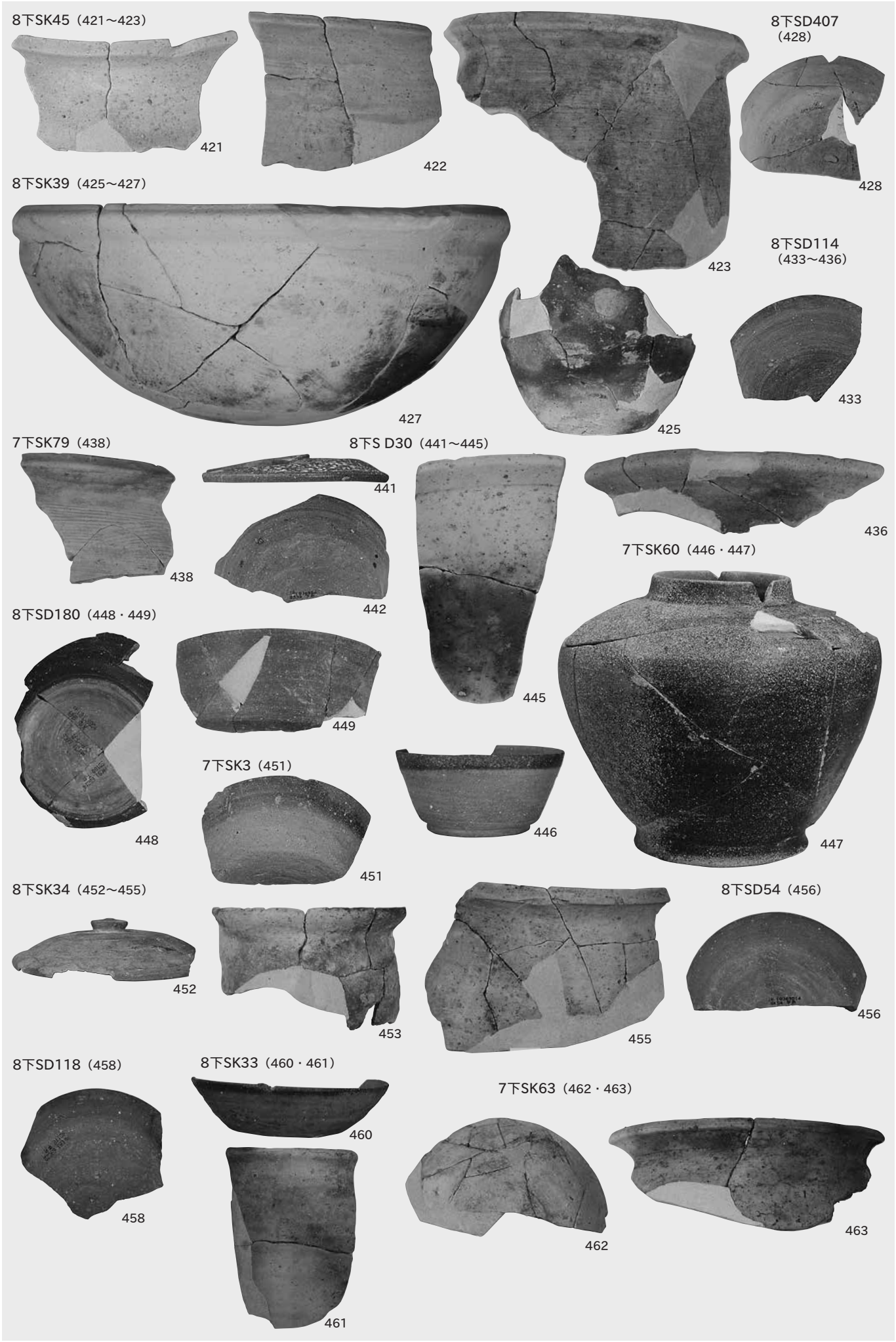

212
213
214
216
217
221
222
218
219
224
223
225
220
226
8下SK17（228～240）
237
229
230
227
232
231
235
238
234
239
228-1
228-2
233
236
240
8下SD21（241～279）
242
247
243
246
253
244
248
241
250
251
254
249

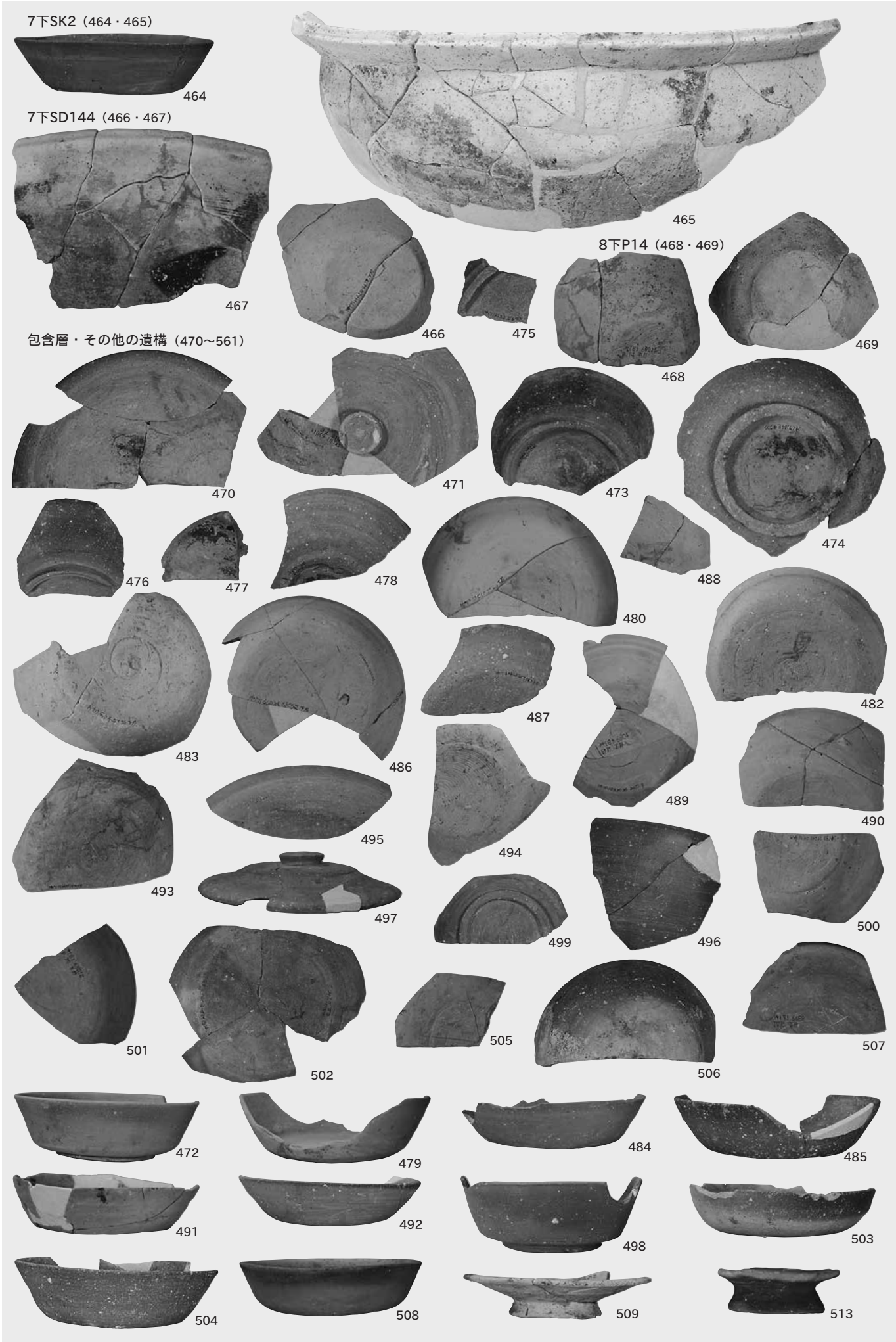

255
256
257
260
261
268
262
263
264
265
267
266
269
276
271
273
274
272
270
245
275
278
279
258
7下SD21（280～283）
280
281
282
283
288
8下SD44（285～291）
285
286
287
290
289
291
7下SK57（292・293）
292
293
8下SD46（299～304）
298
7下SE201（294～298）
297
296
299
294
295
300


8下SD105（305～307）
301
302
303
304
305
306
307
8下SK51（308～311）
308
309
310
311
7下SK51・52（312・313）
312
313
8下SD38（314～325）
314
315
316
317
318
319
320
323
324
325
7下SK25（326～333）
326
327
329
330
332
333
7下SK132（334～339）
334
336
337
338
339

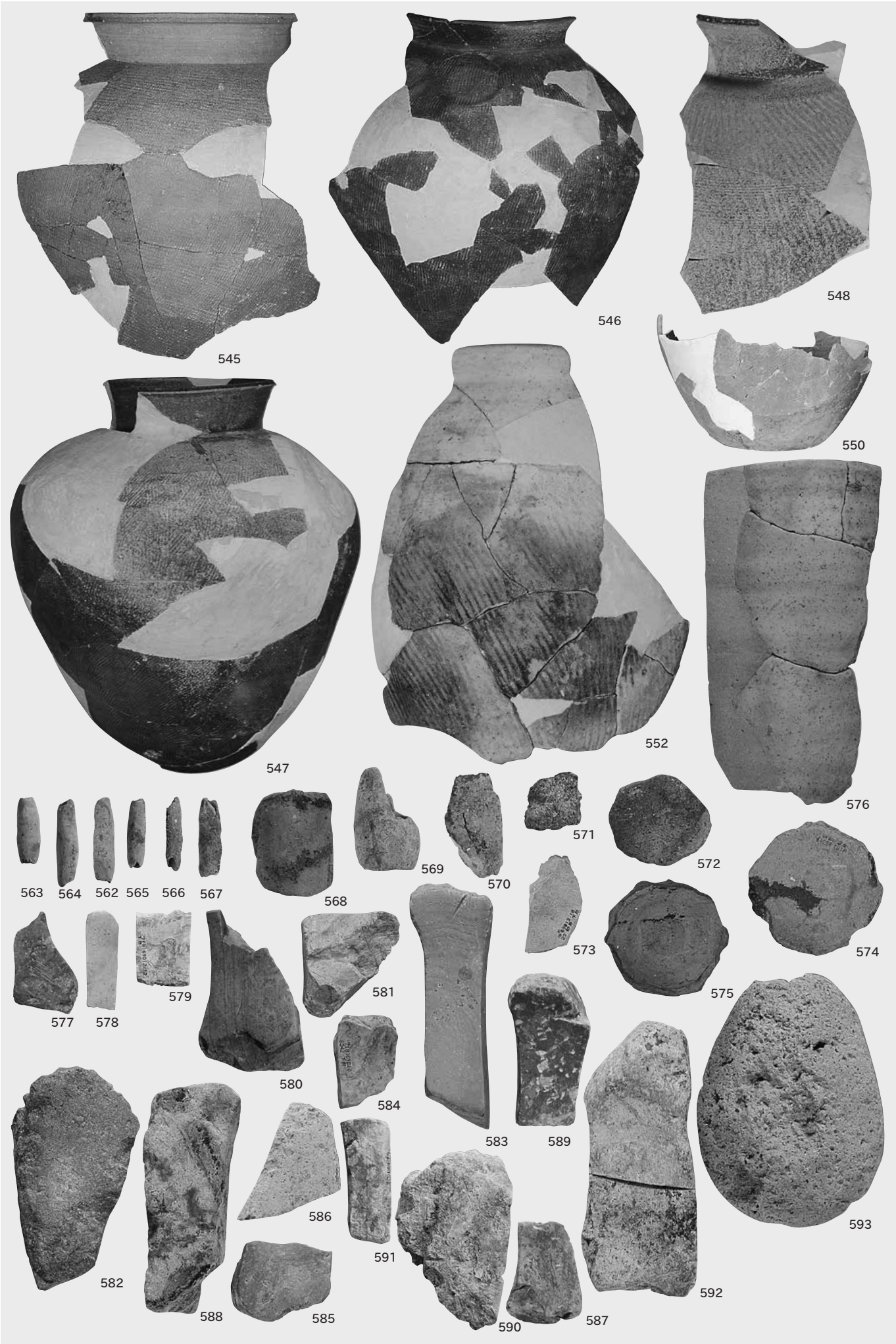

7下SK80（340～343）
340
341
342
343
8下SE27（344～369）
348
349
355
352
351
354
358
360
363
359
364
369
344
345
347
367
368
346
350
356
353
357
361
8下SK100（371～383）
373
374
375
376
377
378
379
380
383
381
371
382

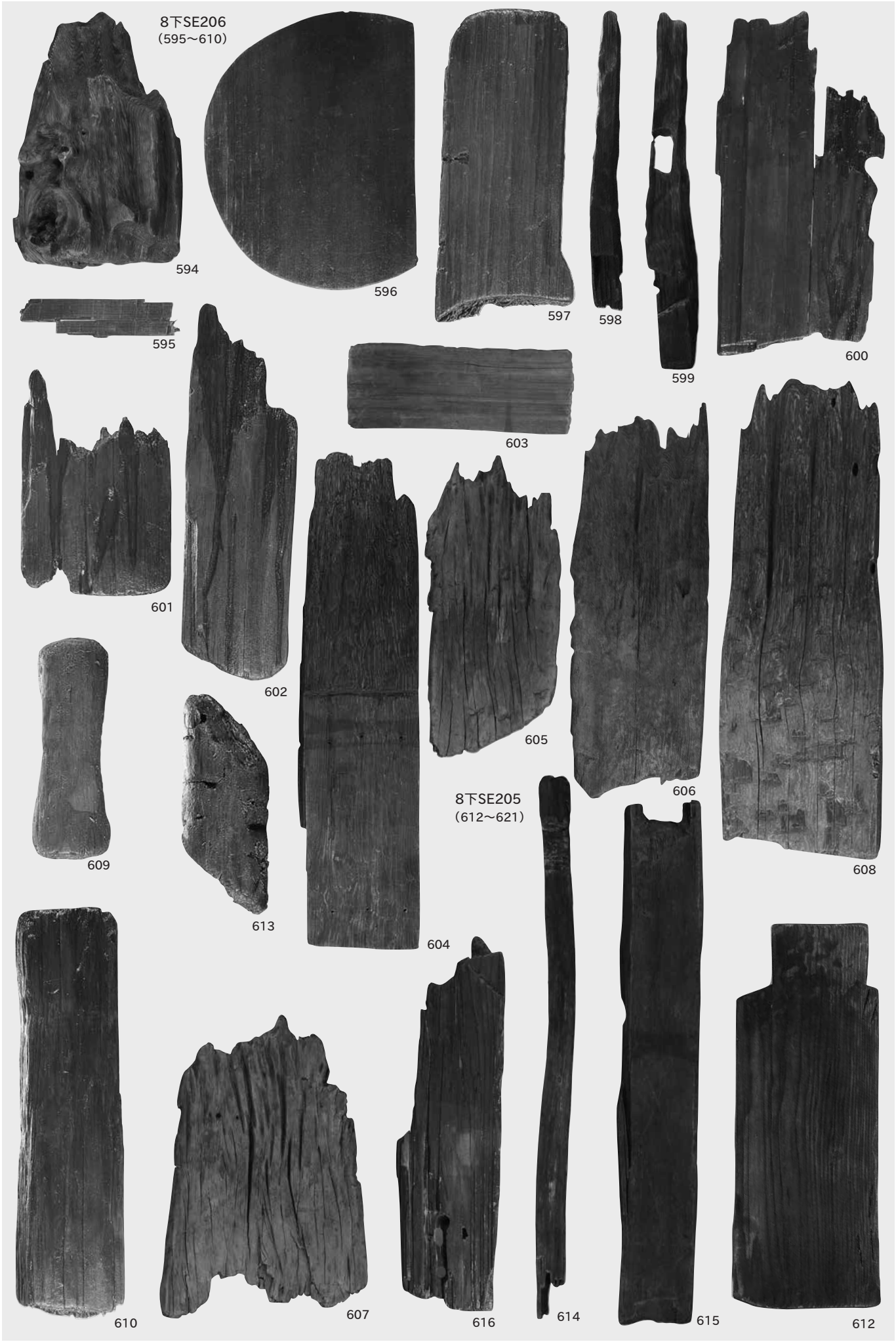

8下SK14（384～404）
384
385
387
404
390
391
399
398
401
400
403
386
396
388
392
389
8下P20（409・410）
8下SK58（405～407）
407
410
409
406
405
8下SD103（411～413）
413
411
412
8下SD29（414～416）
8下SD45
（417～420）
414
415
416
417
419
420
418


8下SK45（421～423）
421
422
423
8下SD407
（428）
428
8下SK39（425～427）
427
8下SD114
（433～436）
425
433
7下SK79（438）
438
8下S D30（441～445）
441
442
445
436
7下SK60（446・447）
447
8下SD180（448・449）
448
449
7下SK3（451）
451
446
8下SK34（452～455）
452
453
455
8下SD54（456）
456
8下SD118（458）
458
8下SK33（460・461）
460
461
7下SK63（462・463）
462
463


7下SK2（464・465）
464
465
7下SD144（466・467）
467
466
475
8下P14（468・469）
468
469
包含層・その他の遺構（470～561）
470
471
473
474
476
477
478
480
488
482
483
486
487
489
490
493
495
494
497
499
496
500
501
502
505
506
507
472
479
484
485
491
492
498
503
504
508
509
513

514
515
517
518
522
521
529
510
511
512
516
519
523
524
527
528
525
526
530
536
531
532
533
534
537
538
541
542
540
543
539
535
551
561
549
544


545
546
548
550
547
552
576
563
564
562
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593


8下SE206
(595～610)
594
596
597
598
599
600
595
601
602
603
605
606
608
609
613
604
8下SE205
(612～621)
610
607
616
614
615
612

8下SE28
(622～627)
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655

報告書抄録

ふりがな	おきのはいせきさん（しーちく）
書名	沖ノ羽遺跡Ⅲ（C地区）
副書名	磐越自動車道関係発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第123集
編著者名	春日　真実
編集機関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒956-0845　新潟県新津市大字金津93番地1　　TEL 0250（25）3981
発行年月日	西暦2003（平成15）年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
沖ノ羽遺跡（おきのはいせき）	新潟県新津市（にいがたけんにいつし） 大字七日町字（おおあざなのかまちあざ） 沖ノ羽（おきのは）3255ほか	15207	26	37度 49分 02秒 (旧座標)	139度 7分 29秒 (旧座標)	19900412 ～19900630 19910415 ～19911219 19920409 ～19921210	6,100×2層 （12,200m²）	道路（磐越自動車道いわき～新潟線）建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
沖ノ羽遺跡	集落・生産跡	中世 （12～14世紀）	掘立柱建物12、井戸6、土坑39、溝36、水田跡？	青磁・珠洲・珠洲系陶器・瓷器系陶器・土師器・砥石・刀子	特になし
	集落・生産跡	古代 （9世紀）	掘立柱建物4、井戸11、土坑79、畝状遺構、溝	土師器・黒色土器・須恵器・円筒形土製品・土錘・砥石・木器・鉄器	特になし

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第123集

磐越自動車道関係発掘調査報告書

沖ノ羽遺跡Ⅲ（C地区）

平成15年3月30日印刷
平成15年3月31日発行

編集・発行　新潟県教育委員会
〒950-8570　新潟市新光町4番地1
電話　025（285）5511

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845　新津市大字金津93番地1
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　北越印刷株式会社
〒940-0034　新潟県長岡市福住1丁目6番27号
電話　0258（33）0306

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第123集『沖ノ羽遺跡Ⅲ（Ｃ地区）』 正誤表追加

頁	位置	誤	正
抄録	北緯（旧座標）	３７度４９分０２秒	３７度４９分００秒
抄録	東経（旧座標）	１３９度０７分２９秒	１３９度０７分４０秒

新潟県埋蔵文化財調査報告書第123集　沖ノ羽遺跡Ⅲ（Ｃ地区）正誤表

頁	行ほか	誤	正
7	5行	理解される(註1)。	理解される。
24	第8表4段目	工具痕、指痕など。後述	工具痕、指痕など。
26	14行	壺広口壺・狭口壺	壺・広口壺・狭口壺
27	第41表3段目	須恵器Ｃ群（笹神）｜6（20%）　｜24（80%）	須恵器Ｃ群（笹神）｜24（80%）　｜6（20%）｜
30	第14表3段目1行	混入物の少ない精白な胎	混入物の少ない精良な胎
54	10行	古代の土器・陶磁器510点	古代の土器510点